

Tokyo Urban Tech

NICHE

工学院大学建築系学科同窓会誌

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwd1025/>





国土交通大臣 登録住宅性能評価機関
住宅金融支援機構 協定指定機関

国土交通大臣 指定確認検査機関
住宅瑕疵担保責任保険検査機関

株式会社 住宅性能評価センター

建築確認申請・性能評価申請…申請先に迷ったら、
OB・OGの私たちにご申請ください。
親切・丁寧かつ迅速に、対応させていただきます！

・代表取締役会長兼CEO	田野邊 幸裕	(建築学科 昭和44年卒) (建築系学科同窓会 会長) (校友会 副会長)
・代表取締役社長	杉山 正博	(建築学科 昭和45年卒)
・管理統括部 技術推進室	大島 奈津	(建築学修士 平成15年卒)
・建築確認部 / 建築基準適合判定資格者	石川 良男 蒂金 貞介 林 英雄 藤橋 修 赤池 正幸 平野 久雄 江成 武久 平野 剛 勝谷 尚武 中島 範義 漆間 幹	(建築学科 昭和37年卒) (建築学科 昭和38年卒) (建築学科 昭和38年卒) (建築学科 昭和38年卒) (建築学科 昭和40年卒) (建築学科 昭和41年卒) (建築学科 昭和41年卒) (建築学科 昭和43年卒) (建築学科 昭和45年卒) (建築学科 昭和47年卒) (建築学科 昭和47年卒)
・建築確認部・性能評価部	曹 政雄 中村 克宏 水野 広 並木 靖 門脇 貢治 佐山 弘枝 望陀 佐和子 須藤 光俊 西川 恵理 泉澤 恵子 船原 友子 松本 慶子	(建築学科 昭和44年卒) (建築学科 昭和44年卒) (建築学科 昭和57年卒) (建築学科 平成09年卒) (建築学修士 平成11年卒) (建築学科 平成12年卒) (建築学修士 平成13年卒) (建築学科 平成15年卒) (建築学科 平成15年卒) (建築学科 平成16年卒) (建築学科 平成16年卒) (建築学修士 平成17年卒)



本社 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-3-11 御苑前311ビル 5階
03-5367-8730(代) www.seinouhyouka.co.jp

出張所 北関東地区出張所・西関東地区出張所・山陰地区出張所・中部北陸地区出張所

住宅性能評価、【フラット35】適合証明、瑕疵担保責任保険：
日本全国

建築確認、現場検査：

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、山形県、群馬県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、石川県、富山県、新潟県、福島県、島根県、鳥取県、広島県及び宮城県の全域

NICHE 2009 Vol.32

CONTENTS

会長挨拶

田野邊 幸裕 NICHE 2009 Vol.32の発刊に寄せて 6

NICHE Topics

①「第1回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ」審査結果発表 8
工学院大学建築系学科 主催

②鈴木敏彦氏の新しい建築家具 -アジアインテリア学会で高く評価- 10
週間最多ビュー賞・トレンドたまご大賞・他受賞

③倉田直道教授が「美しいまちなみ優秀賞」を受賞 NICHE 編集部取材 11

④藤木隆明 World Architecture Festival に参加 11

⑤学術フロンティア(木質構造関係)公開講演会・公開実験2009 12
木造住宅の終局耐力と変形性能 -主催・建築学科宮澤研究室

宮澤健二 編集・制作 DVD版!
映像で見る建築構造と木造住宅の耐震性-実大振動実験と解析CG-

⑥木下庸子 「プリティッシュ・コロンビア大学と工学院大学のワークショップ」 13

⑦鈴木 宏 第4回ダイワハウス住宅設計コンペ 佳作受賞 13

⑧平井 充・川島一記・二本柳望・山口紗由
第10回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」 最優秀賞 14

⑨平井 充・梨子田勉・猪野俊幸
住宅セレクションvol.2「家の風景 風景の家」選定コンペティション 入賞 14

⑩高橋宏精・干田正浩
Ishikawa group住宅設計コンペ2008環境 優秀賞 15

⑪平井 充・山口紗由・二本柳望
第5回三井住空間デザインコンペ「親と子の新しい住まい」 選外佳作 15

⑫工学院大学院生 平井充君が
第6回「真の日本のすまい」提案競技で林野庁長官賞 16

⑬加藤直樹・鈴木暁子・杉本龍彦
「杉コレクション2008 in 日向」
思わず欲しくなる杉の大道具たち-杉でつくる幸せ空間- グランプリ 17

⑭加藤直樹・鈴木暁子・杉本龍彦
「九州温泉旅館客室コンペティション2008 in 大川」 入選 17

⑮国内最大手の総合防災メーカー
能美防災株式会社の社長に橋爪 育さん就任 18

⑯平井 充・加藤直樹・杉本龍彦・山口紗由・五川千晴
「窓山再生WS&デザイン会議」 18

⑰平川敏也 「ユニクロ主催 Tシャツデザインコンペ」 入賞 19

⑱卒業生(校友会会員)の求職・転職サポートします! 19

新刊書紹介(BOOK11冊) 20

特別企画

西川東吾 都市の新しい魅力ある顔づくりを目指して——ミューザ川崎 22

西林和夫 世界最大級のシャープ亀山工場 28

世界の建築家と工学院大学⑥

望月大介 都市計画家エドモンド・ペーコンとその遺産 32

Around the World

戸村英子 建築とランドスケープ・アーキテクチャに魅力を感じる 36

NICHE PASSPORT

矢澤美鳥 イタリアの建築・歴史・芸術 40

大石 秋 シカゴ建築の旅 43

小松春奈 ドイツ産業遺産都市を訪ねて 46

学校法人 工学院大学創立125周年 特別企画

浅羽英男 皇室建築と工手学校 48

蔡 龍保 飯田豊二と日本統治時代初期の臺灣鉄道 54

輝かしき先輩たち⑩

類洲環 友田 薫 江東楽天地は、今の東京ディズニーランドなのだ 58

特別企画

卒業生に聞くー上田卓司 株式会社 フジタ社長に就任 63

NICHE 座談会

最近の構造制度を振かえって／ピアチェック機関の1年 66

同窓生を訪ねて

河野 工 文京シビックセンター 70

塙田良仁 全日空東京新第2号格納庫 74

草間 真 知っていますか? PC圧着関節工法を!! 78

My Favorite Time

尾城雅一 押し花アート 82

同窓生からの便り

二川みづ来
ベトナム製の家具を用いた高級中華レストランの設計(越谷イオンレイクタウン「謝朋殿」) 84

津田正明 大田区における建築行政の推進と希望 86

NICHE PASSPORT

北村 圭 構造による美しさ 88

安島裕香 フランス・スイス近現代を巡る旅 91

川崎香織 「守る」デザイン—イギリスにおける防犯デザインを学ぶ旅— 94

足立理紗 都市の緑を感じる旅 96

NICHE GALLERY

山根秀明 地域性を求めて、美保関町役場庁舎 第16回しまね景観賞 優秀賞受賞 98

山村沢子 板壁の家「自然素材の家」として日本漆喰協会第3回作品賞を受賞 102

宮本 圭 THE KAWABUN NAGOYA 106

森本伸輝 児童養護施設さんあい 110

工学院大学建築系学科ホームページの紹介

NICHE Topics

⑯建築系学科同窓会の総会開催 115

2009年度 運営委員会名簿 115

学科便り

①長澤 泰 第1部建築学科の近況 116

②野澤 康 建築都市デザイン学科の近況 117

③大橋一正 第2部建築学科の近況 社会的役割と今後の展開 118

④谷口宗彦 大学院建築学専攻の近況 119

新しい風に聞く

新任の挨拶 山下哲郎 120

新任の挨拶 西森陸雄 120

新任の挨拶 田村雅紀 121

2008年度 研究室在籍者名簿

2007年度 卒業設計・卒業研究題目

表紙デザインのコンセプト、編集後記 130

正確で迅速な判定で
法改正による確認審査の長期化を打破します！

建築確認申請時の

構造計算適合性判定はぜひ当機関に

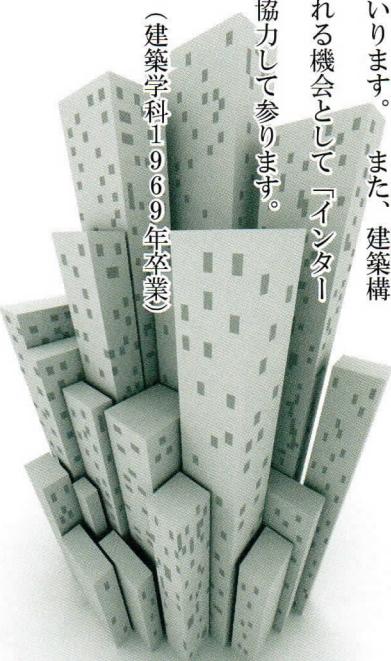
構造計算書偽装問題の再発防止のため、平成19年6月20日に改正

建築基準法が施行されました。それにより、高さ20mを超える鉄筋コンクリート造などで、一定の高さ以上等の建築物や高度な構造計算をした建築物については、指定構造計算適合性判定機関による構造計算適合性の判定（ピアチェック）が義務付けされました。

多くの工学院大学の先生方や卒業生の皆様にご協力を頂き、専門家知識を持つ第三者機関として、下記の13地域で判定業務を行っています。

私たちは、国民の建築業界に対する不安から信頼を取り戻し、業界の発展と安心な建築物造りに貢献してまいります。また、建築構造を学ぶ学生達に、生きた現場構造に触れる機会として「インサイドシップの場」を提供し、後進の育成に協力して参ります。

代表取締役社長 田野邊 幸裕（建築学科1969年卒業）



指定構造計算適合性判定機関
株式会社 建築構造センター

〒160-0022

東京都新宿区新宿5-11-4 龍生堂ビル6階

TEL: 03-6413-5777 FAX: 03-3350-1261

<http://www.kozocenter.co.jp>

事前にご連絡いただければOBが担当いたします。

加藤 隆弘 建築学科1977年卒業

五月女 元良 建築学科1976年卒業

有山 定男 建築学科1970年卒業

業務区域

- 東京都
- 福島県
- 埼玉県
- 青森県
- 神奈川県
- 岩手県
- 島根県
- 山形県
- 長崎県
- 秋田県
- 宮城県
- 栃木県
- 鹿児島県
- 鳥取県



次の世代の資産を創る。

わたしたちは、不動産流動化事業の

フロントランナーとして、時代と土地を凝視し、

その地にあるべき「建築の姿」を追求しています。

そしてそれは、レジデンス、オフィス、ショッピングモール

となって続々と誕生しています。

「ものづくり」の原点を見つめ、ひとつひとつ、丹精を込めて

建物を創り上げること、そして、人が真に心地よさを感じる

空間を創り続けること——。

わたしたちは、この基本姿勢を大切に守りながら、

未来を見据え、次の世代に引き継がれる、

優れた社会資産の創造に寄与して参ります。

www.retec-duplex.co.jp



DUPLEX

リテック・コンサルタント

宅地建物取引業者免許：国土交通大臣(2)第5847号
金融商品取引業登録：関東財務局長(金商)第1553号
(第二種金融商品取引業、投資助言・代理業)
一般不動産投資顧問業登録：国土交通大臣(一)第068号
(社)不動産流通研究協会会員 (社)全日本不動産協会会員
(社)首都圏不動産公正取引協議会会員
〒112-8885 東京都文京区自白台2-9-13 自白台デューブレックススター
TEL:03-5976-8888

トルテック都市建築設計事務所

一级建築士事務所 登録番号 東京都知事19172号
〒112-8684 東京都文京区自白台2-9-13 目白台デューブレックススター
TEL:03-5976-8881

デューブレックス・キャザリング

宅地建物取引業者免許：東京都知事(3)第76366号
〒112-8685 東京都文京区自白台2-9-13 目白台デューブレックススター
TEL:03-5976-8885

デューブレックス・アセット・マネジメント

宅地建物取引業者免許：東京都知事(1)第84422号
宅地建物取引業法上の取引一任代理等の認可
認可番号国土交通大臣登記第49号
金融商品取引業登録：関東財務局長(金商)第358号
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-8-10 秋葉原リーブレックスR's
TEL:03-5812-6730

想像を超える、創造力を。

“建設機能を基軸とする都市再生企業”

それは、フジタがめざすこれからの姿です。

建設業の枠にとどまらず、独自の高い技術力と提案力を駆使し、

お客様に新しい価値と満足をご提供——。

自然、社会、街、そして人の心の豊かさにつなげる

フジタの創造力にご期待ください。

“高”環境づくり フジタ

<http://www.fujita.co.jp> 151-8570 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 Tel.(03)3402-1911



人と人、ビジネスとビジネスをジョイントする



日本ジョイントソリューションズ 株式会社

www.jjss.co.jp

WEB サイト構築

お客様のさらに先にある、ユーザーやマーケットを見据えた総合的なプランニングを行います。
(企画・取材・ライティング・デザイン・コーディング・SEO対策・WEBシステム)

基幹系システム開発

業務（販売・在庫・財務・進捗管理）の効率化、使い易さ、コストパフォーマンスを最優先に考えます。

広告デザイン制作

SP（セールスプロモーション）専門のデザイナーによるインターネット広告・パンフレット・リーフレット・POPを制作いたします。

ITコンサルティング

他社大型システム導入の際、お客様に代わり、システムの適正判断・交渉など行ないます。

施工管理

原価管理・品質管理・工程管理・安全管理を行います。

■会社概要

社名 日本ジョイントソリューションズ株式会社 (JJS) Japan Joint Solutions Co.,Ltd.

所在地 〒107-0061 東京都港区北青山3-12-7 秋月ビル2F TEL: 03-5464-0113 (代) FAX: 020-4663-9836 MAIL: contact@jjss.co.jp

設立 2004年3月

資本金 2,000万円

役員 代表取締役社長 杉山敏美 (ふるさと山口法人ネットワーク会長)

取締役 薄井嘉宏 (建築学科 平成8年度卒 工学院大学ゴルフ部OB会会长)

特定労働者派遣事業 届出受理番号: 特13-306750



NICHE 2009

Vol.32の発刊に寄せて

工学院大学建築系学科同窓会 会長

田野邊 幸裕

昭和44年 工学院大学1部建築学科卒業
鹿児島県立鹿屋高等学校 出身

米サブプライムローンに端を発した金融危機で始まり、原油高・建築資材の高騰などの混乱から、世界経済は「100年に1度」と言わる大不況。外需に依存してきたわが国経済も次々と押し寄せる荒波に翻弄され、企業の収益や雇用情勢の悪化が加速している。各企業は、生き残りを掛け聖域の無い雇用調整を進めている。特に登録型派遣やパート社員の契約打ち切りが増加し、更に正社員の賃金の減額する企業も現れ始めた。この背景にあるのは「ものづくり」より「マネーゲーム」社会が行き過ぎた結果ではないでしょうか？

この時代こそが、我々技術者の活躍するチャンスが到来したと捕らえ、同窓会の「ネットワーク」を有効に活用し、創意工夫したアイデアで取組むことが、この逆境を乗り切る一つの方法だと思います。

私個人は、建築造りのサポート役である「建築確認・性能評価等の審査・検査」及び「構造計算適合性判定」「住宅ローン」を業務としていますが、全国で活躍されている「同窓会の皆様」や「母校の教授」の方々の、ご協力なしには実現しなかったと思います。昨年度は、栃木県の本澤宗夫先輩・平野剛氏、山形県の平吹和之先輩、長崎県の江口健先輩（電気）、島根の平野久雄・池田一先輩に、協力いただき事業を拡大することができ、工学院大学建築学科系同窓会の有難みを感じた年でした。

皆様方にも、この同窓会「ネットワーク」の財産を活用していただきたいです。その第一歩は、同窓会・校友会・学園のHPを覗く、総会・学園行事・仲間同窓会の集まりに参加してみると、機会はいくらでもあります。まず何かに参加することで、必ずヒントや仲間が見つかります。

今号のNICHE（Vol.32）は、125周年を意識して、工学校時代の輝かしき諸先輩の発掘に力を注ぎ、珠玉の記事を掲載することができました。「皇室建築と工学校」「飯田豊二と日本統治時代初期の台湾鉄道」「友田薰 江東樂天地は、今の東京ディズニーランドなのだ」等です。そして在校生や卒業生の活躍を、一枚々ページをめくりながら誇りに思い、心の中で小さな拍手をしてあげて下さい。

さて、2001年4月1日より前高木会長の後を引き継いでから、早くも8年の歳月が経過いたしました。同窓会会長の任期は、

連続して3期9年までとする内規があります。本年度は、会長職の最後の年になりました。年末までには、次期会長及び役員等の候補者を選んで頂く必要があります。5月の総会及びHP等でお知らせいたしますので、よろしくお願ひいたします。

■校友会 沖縄全国大会

校友会の第16回沖縄全国大会は、10月11日晴天に恵まれた那覇市で開催されました。

真夏を思わせる真っ青な空の下、来賓を含めて300名に届く多数の参加者で盛況のうちに終了いたしました。

学園からは、大橋理事長以下8名が来賓として参加され、また、沖縄県からは仲井眞知事、翁長那覇市長もご臨席いただき沖縄大会はおおいに盛り上りました。

10月12日は那覇市の名物であるメ那覇大綱挽モが行われる時期と重なり、多くの観光客が押し寄せましたが、この日のツアーは、共催イベントして「首里城、玉泉洞観光コース」、「エメラルドグリーンの海と美ら海水族館観光」、「沖縄県の代表的建物を主とした中北部視察コース」と分かれてそれぞれ思い思いのひと時を過ごしました。特に、建築出身の沖縄同窓会の皆様、大変お世話になりました。



沖縄全国大会会場



沖縄全国大会 舞台上の沖縄踊り

■創立125周年記念事業(2012年)の 建築系学科同窓会「募金実行委員会」の体制

委員長：加藤隆弘

副委員長：高木雅行、三好薰、齊藤敏博

委員：同窓会評議委員全員

前号NICHE(Vol.31)・同封の校友会誌や大学・校友会のホームページ等で、募金目的などの詳細については、ご紹介しておりますが、校友会全体として募金目標額を3億円と掲げ、校友会と6同窓会で分担することになり、2012年(平成24年)の記念事業までには、目標額に達成したいと思います。

建築系学科同窓会の目標額は5,260万円と決定し、昨年から募金活動を開始いたしました。2008年12月31日までに、募金していただいた金額は、4,508,000円となり、早速のご協力ありがとうございました。

同窓会の皆様には、125周年記念事業の趣旨ご賛同いただき、募金活動に格別のご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

■第43期 2008年度 工学院大学建築系学科 同窓会 総会

2008年5月25日(日)11時から 新宿キャンパス20階(第6会議室)にて、多数の会員の参加を得て開催致しました。

42期(2007年度)事業結果及び収支決算及び43期(2008年度)事業計画及び予算などの承認と125周年記念の実行委員選出し、変化の厳しい建築業界について有意義な意見交換の後、校友会の総会に参加いたしました。

■工学院大学建築系学科「現役学生&同窓会会員 対象」資格支援!

皆様既にご承知おきのとおり、最難関資格である1級建築士の合格者数が発表されました。工学院大学は、全国出身「大学別ランキング」で2006年度～2008年度に於いて連続第6位、昨年は82名の同窓の一級建築士が誕生致しました。これも、母校の伝統ある建築教育と難関資格にチャレンジ精神の高い、皆様の努力の賜物と言えましょう。

こうした実績をさらに発展させるべく、建築系同窓会ではOBや現役学生へ、様々な支援事業を実行しております。特に1級・2級建築士・宅地建物取引主任者の「資格支援Web講座」を特別価格(別途ご案内参照)にて、同窓会会員の皆様へ格安に提供させて頂けることが実現致し、受講者から多くの合格者が生まれています。

日本社会は、今や成果・実力を中心に評価するグローバルな雇用体系へと大きく移りつつあります。この機会に資格取得へチャレンジされることを、お薦め申し上げます。また、資格未

取得の同窓生をご存じであれば、是非このチャンスを知らせてあげて下さい。

■第8回ホームカミングデー

ホームカミングデーは、学園各学校の卒業生に、学園の現状を直接ご覧いただき、懐かしい恩師や学友との再会と交流・親睦を深めていただくために、平成13年から開催している行事です。8回目を迎えた今年は、11月3日(月・祝)に新宿キャンパスで開催されました。

当日は、招待年次の卒業生、現在全国各地の中学校・高等学校で教員をされている卒業生、校友会関係者、学園各学校を退職された元教員など、約250名の参加者を迎え、歓迎式典が盛大に執り行われました。歓迎式典後、学生プロジェクトBirdman Project Wendy顧問の共通課程・足立節子准教授とプロジェクトのメンバーによる記念講演「再び鳥人間コンテストに出場するまで」が行われました。

続いて行われた懇親会では、懐かしい同窓生や恩師との再会等、卒業生の楽しい歓談風景が随所に見られました。第一部文化会吹奏楽部の演奏とマジシャンズ・ソサエティによるマジックが懇親会場内を盛り上げていました。今回の招待者は、平成元年・昭和59年・昭和54年・昭和49年・昭和44年・昭和39年・昭和34年・昭和29年に卒業された方々が対象でした。

なお、本年度の第9回ホームカミングデーは、2009年11月3日(火・祝)開催予定です。詳細が決定次第、大学のホームページ等でご案内されますので、ご参加をお願いいたします。



第8回ホームカミングデー懇親会 新宿キャンパス

■年会費の納入お礼

我々建築の「同窓会活動」は、卒業生のみならず在校生への各種支援、及び本学を受験し、合格者を出した全国1800高校(昨年実績)にも「NICHE」を配布し、大きな母校躍進のイメージアップに貢献しています。こうした活動を発展・持続させるには、たゆまぬ努力と皆様のご協力が是非とも必要です。この意義をご理解いただき、会費を納入いただきました、卒業生の皆様ありがとうございました。この誌面をお借りしてお礼申し上げます。

「第1回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ」

審査結果発表

工学院大学建築系学科 主催

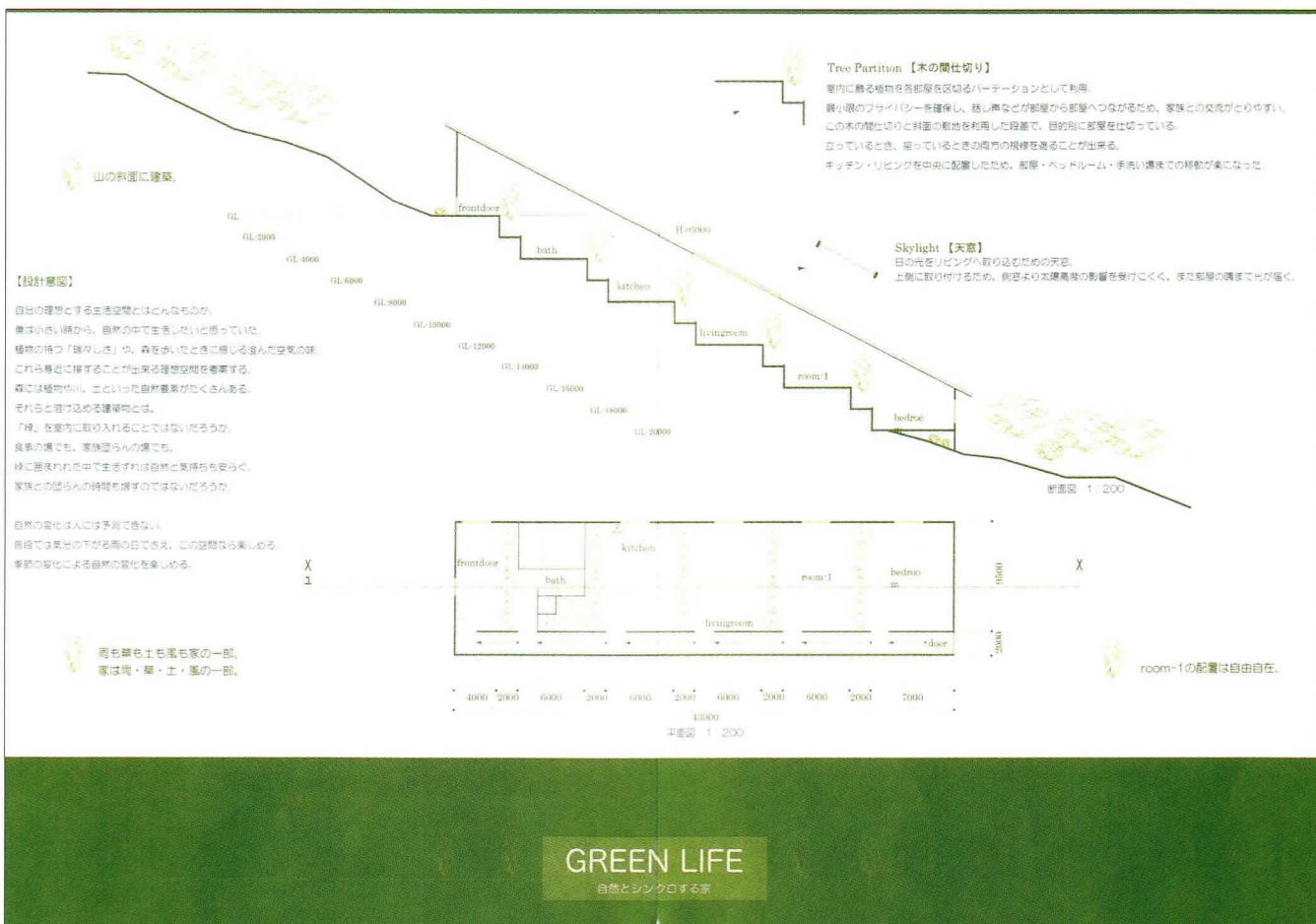
(NICHE 編集部取材)

工学院大学建築系学科では、2008年度より新たな試みとして「第1回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ」を開催、第1回目の開催にもかかわらず多数のご応募がありました。このコンペは、「家族の空間、自分の空間」をテーマに、高校生のフレッシュで斬新なアイデアを図面や写真、文章として募集したものです。厳しい選考の末、以下の受賞作品を選出いたしました。受賞者の皆様、おめでとうございます。本学新宿キャンパスで2008年10月13日(月・祝)・11月15日(土)に開催しました秋のオープンキャンパスの期間中に受賞全作品を展示。同じく11月15日(土)には審査員による受賞作品の講評も含めたトーク・イベントを開催しました。

審査結果

各同賞内は氏名の五十音順です。

部門	賞	タイトル	学校名	学年	氏名
絵の部門	最優秀賞	GREEN LIFE 自然とシンクロする家	国立豊田工業高等専門学校	3年	豊島浩太郎
	優秀賞	one room my booth	山梨県立甲府工業高等学校	3年	関口 宏海
	優秀賞	開放的な家 ~部屋にも人にも地域にも~	東京都立工芸高等学校	3年	堀江 優
	審査員特別賞	無題	埼玉県立朝霞西高等学校	3年	石田知佳子
	審査員特別賞	~私たちのライフスタイル~	埼玉県立熊谷工業高校	2年	江原 和希
	審査員特別賞	Space relations	群馬県立館林商工高等学校	3年	坂田 訓一
	審査員特別賞	無題	私立山手学院高等学校	1年	仲西 將
	審査員特別賞	Cooking My Life	山梨県立甲府工業高等学校	1年	宮崎 梓
文の部門	優秀賞	Cooking My Life ~私の空間・家族の空間~	山梨県立甲府工業高等学校	1年	宮崎 梓
	審査員特別賞	私が理想とする住まい	私立横浜国際女学院翠陵高等学校	3年	佐藤 芽衣
	審査員特別賞	私の空間+家族の空間	山梨県立甲府工業高等学校	2年	廣瀬 将泉

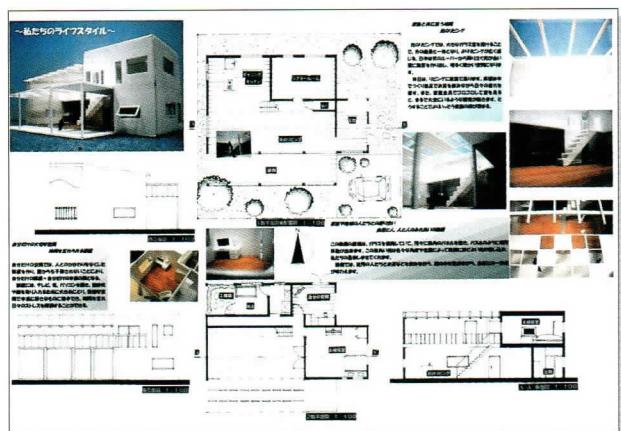


GREEN LIFE 自然とシンクロする家 最優秀賞

国立豊田工業高等専門学校 3年 豊島 浩太郎



one room my booth 優秀賞
山梨県立甲府工業高等学校 3年 関 口 宏 海



~私たちのライフスタイル~ 番査員特別賞
埼玉県立熊谷工業高校 2年 江 原 和 希



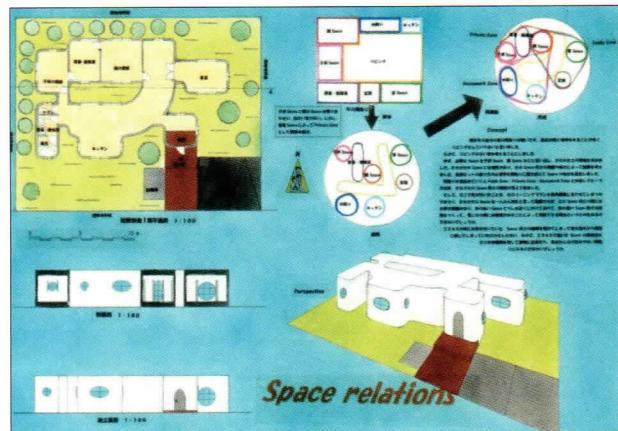
無題 番査員特別賞
私立山手学院高等学校 1年 仲 西 將



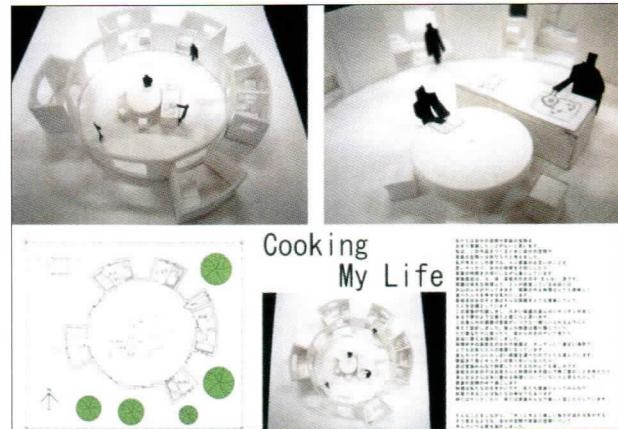
開放的な家～部屋にも人にも地域にも～ 優秀賞
東京都立工芸高等学校 3年 堀 江 優



無題 番査員特別賞 埼玉県立朝霞西高等学校 3年 石 田 知佳子



Space relations 番査員特別賞
群馬県立館林商工高等学校 3年 坂 田 訓 一



Cooking My Life 番査員特別賞
山梨県立甲府工業高等学校 1年 宮 崎 桢

鈴木敏彦氏の新しい建築家具 週間最多ビュー賞・トレンドたまご大賞・他受賞

2008年9月、インターネット上の動画サイトYouTubeに紹介され1ヶ月で6万件のレビュー数を記録。週間最多ビュー賞をはじめ11の栄誉を受賞。10ヶ国以上の新聞・雑誌にて紹介されている。

(NICHE 編集部取材)

鈴木敏彦氏が新作、「建築家具／建築の機能を併せもつ家具」を発表した。これは家具と建築の中間的な概念を定義・提案している。

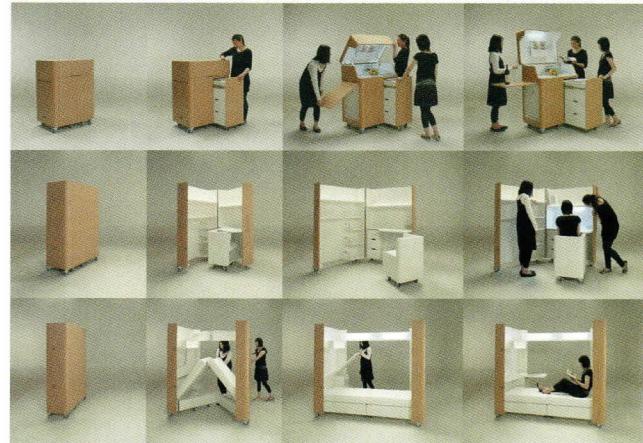
彼は、まず住環境に求められる就寝、食事、執務の基本的な行為に対応する以下の三つの建築家具を提案している。

「Foldaway Office」は、仕事や読書をしたい時にだけ、自由な場所に一時的に書斎をつくることができ、「Mobile Kitchen」は、パーティーや鍋をする時にだけ一時的にキッチンスペースをつくることができる。「Foldaway Guest Room」は、来客があった時にだけ、自由な場所に一時的に客間をつくることができる。これら建築家具の特徴は、家具のように機能を提供するのではなく、機能を持たせた空間を提供する点にある。



2008年9月、インターネット上の動画サイトであるYouTubeにムービーをアップしたところ、1ヶ月で6万件のビュー数を記録し、週間最多ビュー賞をはじめ、11の栄誉を受賞した。それにもない、海外のメディアからの問い合わせも殺到し、10ヶ国以上にのぼる新聞、雑誌に紹介された。

日本では、日経デザイン等の雑誌掲載に加え、テレビ東京の「ワールドサテライトニュース」のトレンドたまごのコーナーでも紹介され、年末には、トレンドたまご大賞、審査委員長 特別賞を受賞。



上から、Mobile Kitchen、Foldaway Office、Foldaway Guest Room

また、昨年10月に中国・鄭州にて開催されたアジアインテリア学会でも日本代表として建築家具について基調講演を行い、高い評価を得た。2009年1月現在、ムービーの視聴数は7万4千件を越えている。

一連の反響から、彼は家具と建築の中間的な概念に対する、本質的なニーズが世界中にあると感じ、既に「建築家具」の商標を取得している。今後、「従来の「建築」および「家具」という概念に加え、「建築家具」ということばが定着し、住空間の持続可能性に貢献する新しい解決策の一つとなるように研究を進めて行きたい」と抱負を語っている。

www.kenchikukagu.com



鈴木 敏彦

1978年 東京工業大学工学部
附属工業高等学校 卒業
1982年 工学院大学建築学科 卒業
1984年 工学院大学大学院修士課程 修了
波多江研究室
suzuki@atelier-opa.com

【略歴】
建築家・デザイナー
1984-1990 黒川紀章建築都市設計事務所
1985-1986 フランス新都市開発公社EPA marne
1992-1993 文化庁芸術家インターン
1995-1999 早稲田大学建築学専攻博士課程
1999-2007 東北芸術工科大学生産デザイン
学科助教授
2007- 首都大学東京システムデザイン
学科准教授

倉田直道教授が「美しいまちなみ優秀賞」を受賞

(NICHE 編集部取材)

都市景観の日実行委員会主催、国土交通省後援の都市景観大賞「美しいまちなみ賞」は、我が国における活力ある潤い豊かなまちなみづくりの推進のために、特に優れた地区についてその関係者を顕彰する賞です。2008年の優秀賞の1地区として静岡県島田市中央第三地区プロジェクトの発注者である島田市と管理・運営者である(株)まちづくり島田とともに計画・設計者として倉田教授が表彰されました。

表彰理由「地区のシンボル軸である「おび通り」の空間デザインは、自然素材を多用し、燻色、黒、白を基調とした色彩計画に好感が持てる。株立ちの樹木の使い方も良く、和風の広場というコンセプトも成功している。また地区計画によって沿道建物の壁面位置をセットバックして揃えるなど、建築物と道路とが一体となった空間誘導され、市民生活に溶け込む形で進められており、さほどの歴史的資産が残されていない地区での新しいまちなみ形成のケースとして評価に値する。」



倉田教授の受賞コメント

「他の受賞地区が、歴史的まちなみ等の地域資産を保全・活用した実績が評価された中で、唯一、新規に計画・設計されたプロジェクトとして選定されたことが嬉しい。今後の我が国のまちなみ整備の一つのモデルとして参考されることを期待したい。」



倉田 直道
(建築都市デザイン
(学科教授)

kurata@cc.kogakuin.ac.jp
(大学)

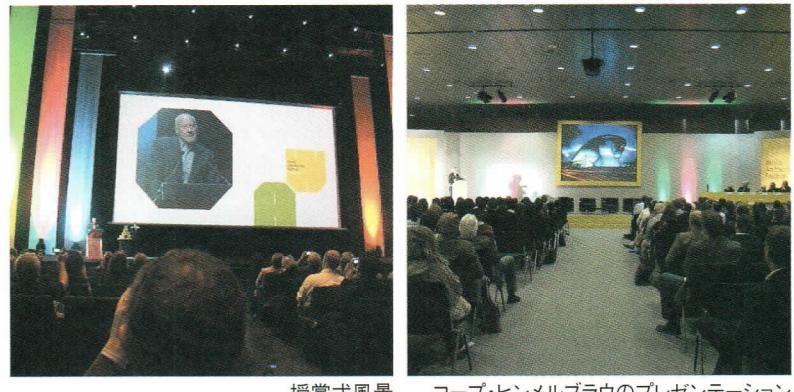
World Architecture Festival に参加

昨年10月にバルセロナで開催されたWorld Architecture Festivalに参加してきました。これは、文化施設、教育施設、プライベートハウスなど17の部門ごとに10程度の作品をノミネートし、審査員の前で生プレゼンを行なって各部門のWinnerを決め、最終日には、17部門のWinnerが一同に介してSuper-Juryと呼ばれる審査員の前で再度プレゼンし、その年の一番を選出するという建築界のアカデミー賞のような建築イベントで、昨年が第1回目でした。わたしたちの事務所は、商業施設部門にノミネートされ、プレゼンに臨みました。各部門のWinnerは、ノーマン・フォスター、ザハ・ハディド、コープ・ヒンメリブラウ、スノヘッタなど、どれが一番に選ばれてもおかしくないような作品ばかりで、とてもレベルの高いコンペティションだったと思います。



ノミネートされた作品パネルの前にて

会場となったCCIB



授賞式風景

コープ・ヒンメリブラウのプレゼンテーション



藤木 隆明
(建築学科教授)
fujiki@kyj.biglobe.ne.jp

学術フロンティア(木質構造関係)公開講演会・公開実験2009 木造住宅の終局耐力と変形性能 —— 主催・建築学科宮澤研究室

2009年1月31日八王子校舎で講演会と実験が開催されました。参加者は学外約140名、学内約30名で盛況でした。木材の力学挙動、建物はどう壊れるか等興味深く見てもらいました。

公開講演会(10:30~12:30)

開会挨拶(教授(本学OB)・宮澤健二)、DVD版!映像で見る「建築構造と木造住宅の耐震性」の紹介(宮澤健二)、木造住宅の倒壊限界に関するこれまでの研究(兼任講師(本学OB)・津田千尋)、倒壊実験(職業能力開発大学校東京校講師(本学OB)・大西健司)、木材の材料実験等(大学院生・迫俊介他)、低降伏点鋼による制振壁(大学院生・吉岡圭介他)

公開実験(13:30~17:00)

サイディング外装材と筋かい耐力壁2階供試体の倒壊実験

木材の材料実験、合板釘打ち接合部実験、低降伏点鋼による制振壁加力実験



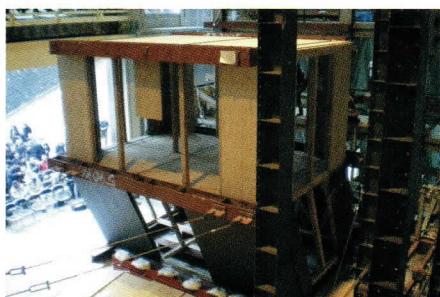
講演会



倒壊実験準備



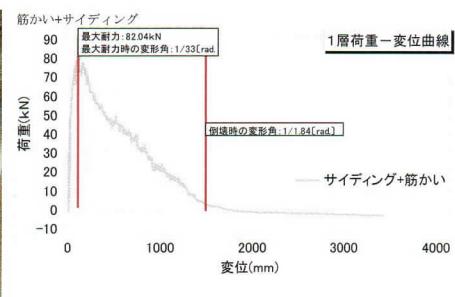
梁の曲げ実験に見る参加者



倒壊直前



倒壊後



自然倒壊は1/1.84ラジアン

宮澤健二 編集・制作 DVD版! 映像で見る 建築構造と木造住宅の耐震性-実大振動実験と解析CG-

名 称:DVD版! 映像で見る建築構造と木質住宅の耐震性

体 裁:DVD1枚+CD1枚 セット

定 価: 本体9000円+税

発行所: 東洋書店

発行日: 2008.12.15

制作関係

制作: 宮澤健二(1部建築学科・建築コース、望月洵研究室、1967年卒業、1969年修士修了)

制作協力(以下本学関係分)

後藤治(建築都市デザイン学科教授)、小野里憲一(建築都市デザイン学科准教授、本学OB)、山下哲郎(建築学科准教授)、赤木徹也(建築学科准教授)、大塚毅(建築学科准教授、本学OB)、西村彰敏(兼任講師、本学OB)、津田千尋(兼任講師、本学OB)
その他

内容

Disk 1 [ビデオ映像編・60分]

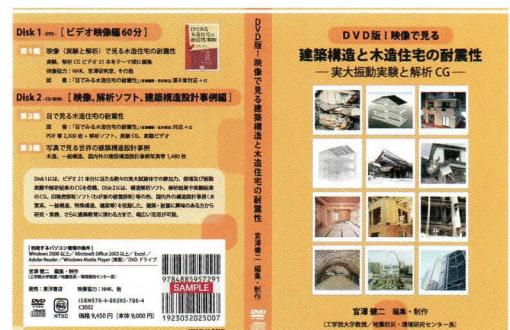
第1編 映像(実験と解析)で見る木造住宅の耐震性実験、解析CGビデオ21本をテーマ順に編集
映像協力: NHK、宮澤研究室、その他

Disk 2 [映像、解析ソフト、構造設計事例編]

第2編 目で見る木造住宅の耐震性PDF等2,300枚+解析ソフト、実験CG、実験ビデオ

第3編 写真で見る世界の建築構造設計事例木造、一般構造、

国内外の構造設計事例写真等1,480枚



「ブリティッシュ・コロンビア大学と工学院大学のワークショップ」

去る2008年10月27日(月)から11月6日(木)までの約2週間の期間で、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学(以下UBC)と工学院大学建築系学科との間でエクスチエンジ・プログラム(ワークショップ)が開催された。参加メンバーはUBC東京プログラム2009の参加者の大学院生15名と、工学院大学建築系学科の大学院生と4年生の有志15名の、計30名だった。本プログラムの拠点には、UBC東京プログラム2009の開催場所であった、廃校となった中野区立桃丘小学校の家庭科室などの教室2室が使用された。

George Wagner UBC教授と木下庸子工学院大学教授の下、藤村龍至さん(藤村龍至建築設計事務所主宰)、会場淳さん(APE一級建築士事務所主宰)が講師を担当、「ランドマークの抽出による'ASAKUSANESS'の追求」と題する短期課題が出題され、日本文化を様々な視点から捉えることが意図された。講評会にはゲストとして今村創平さん(アトリエ・イマム一級建築士事務所主宰)と松本文夫さん(プラネット・アーキテクチャーズ主宰)も参加、大変盛況なイベントに終った。工学院の学生たちは自主参加であったが、かなりの時間を作業スペースの中野区立桃丘小学校で過ごし、建築を学ぶと共に異文化交流を図る大変有意義な体験となった。

建築学科教授 木下 庸子



廃校になった小学校の教室を利用しての作業、エスキースチェック風景



ワークショップ最終日のプレゼンテーションとクリエイティブ風景

第4回ダイワハウス 住宅設計コンペ 佳作受賞

ダイワハウス住宅設計コンペにて佳作を受賞いたしました。審査員は山本理顕氏、藤森照信氏、千葉学氏、西村達志氏の4名。「住宅のリストラクチャリングⅡ」というテーマで“特定のあるエリアから3軒を選定し、同時に建て替える”という課題でした。応募総数467作品(応募登録1,347件)の中から上位9作品に選ばれ、10月28日に行われた公開2次審査会にてプレゼンテーションをさせて戴きました。



鈴木 宏

建築学専攻 木下庸子研究室
川崎市立川崎総合科学高等学校 2004年3月卒業
工学院大学第二部建築学科 2008年3月卒業
工学院大学大学院修士課程 2010年3月修了見込

プレゼンテーションでは酷評をいただき非常に悔しい思いを致しましたが、貴重な経験であったと思いますし、なにより自分自身成長することができたと感じております。このような舞台に立てた事を大変嬉しく思います。しかし、この受賞に満足することなく、今後も取り組んでいきたいと思います。最後になりますが指導して下さった木下庸子先生、中山繁信先生には深く感謝申し上げます。



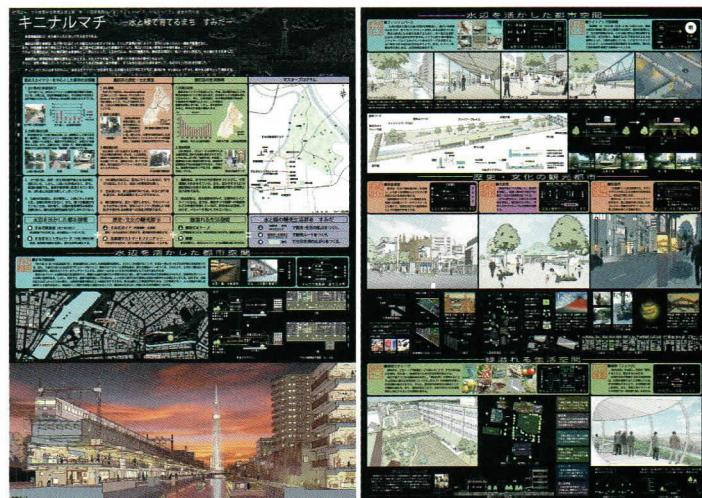
第10回提案競技 「美しくまちをつくる、むらをつくる」 最優秀賞 「キニナルマチ 一水と緑で育てるまち すみだー」

平井 充・川島一記・二本柳望・山口紗由

今回で10回目を迎えるこのコンペは、都市デザイナー、建築家、建築士、学生を対象として、墨田区の魅力を引き出しながら、デザインの持つ力、重要性を社会に対して示すことを目的として建築学会関東支部が主催しているものです。テーマは「住んでみたい、行ってみたい、まちづくり」であり、現在建設が進んでいる新東京タワーが建つ、墨田区を対象地としています。

昨年、東京商工会議所の主催による、墨田区のまちづくりコンペにおいて、初田研では東京商工会議所支部会長賞を受賞しております、その経験をベースとして今回のコンペに臨みました。今回は、都市デザインのコンセプトを、歴史的背景から考えた建築的な視点で提案をしています。

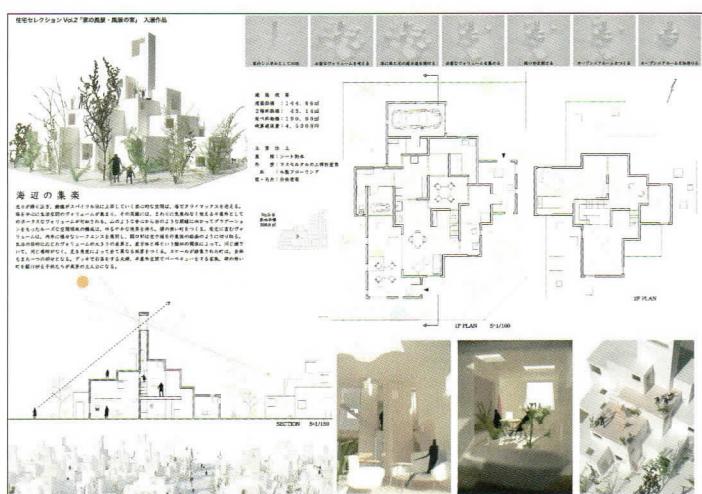
新東京タワーを背景の中心に据えた、新しい盛り場の提案が評価を決定的なものにしたとの講評をいただきました。これからの墨田区の都市計画において、実現されると楽しみです。



住宅セレクションvol.2 「家の風景 風景の家」選定コンペティション 入賞 「海辺の集楽」

平井 充・梨子田勉・猪野俊幸

住宅セレクションは、全国の建築士会正会員を対象にした分譲リゾート開発の実施コンペで、入選作品の中から実施案が検討されます。審査員はアトリエ・ワンの塚本由晴氏と貝島桃代氏、浅井政道氏の3人。入選案の中には、難波和彦氏、小川次郎氏、城戸崎和佐氏、山中新太郎氏などの活躍している建築家も選ばれています。4月には、東京パークタワーギャラリーにて展示会も催されました。デザインは、必要なボリュームを組み合わせた周囲に、半屋外空間のポーラスなボリュームを纏う構成で、人々が集い住もう集落をイメージした作品です。



平井 充



川島 一記



二本柳 望



山口 紗由

北海道立函館稜北高等学校 1992年卒業
工学院大学2部建築学科初田研究室 2004年卒業
2004年～東京工科専門学校講師
工学院大学修士課程初田研究室 2006年修了
工学院大学院博士後期課程初田研究室在籍
一級建築士 dns_01@mac.com

東京都立小金井北高等学校 2002年卒業
工学院大学建築学科初田研究室
2007年卒業
工学院大学修士課程初田研究室
2009年3月卒業見込み

国立鉄路工業高等専門学校建築学科
2005年卒業
国立室蘭工業大学建築システム工学科黒澤研究室
2008年卒業
工学院大学大学院修士課程初田研究室
2009年3月卒業見込み

日本女子大学附属高等学校 2004年卒業
日本女子大学家政学部住居学科篠原研究室
2008年卒業
日本女子大学大学院家政学研究科住居学専攻
小谷部研究室在籍

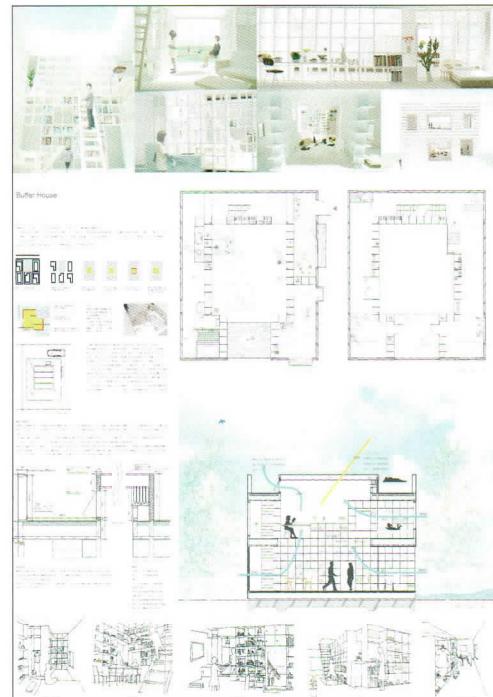
Ishikawa group 住宅設計コンペ2008環境 優秀賞 「Buffer House」

高橋宏精・千田正浩

このコンペは、実際の敷地を与えられ、最優秀作品は実際に建設される実施前提の住宅コンペでテーマが「環境」という大きく漠然としたものでした。自由な発想が可能であった反面、実施コンペであるために、建設可能なものでなくてはならないという制約もありました。

「環境」がテーマの今回のコンペで私たちがまず考えたのは、「つながり」という最小単位の「環境」でした。家族全員のための場所をできるだけ大きくとり、その周りに個人の場所や生活のための機能を最小限の大きさで入れる。そして、家族と個人、または家族と機能との境目を壁ではなく、450mm幅の棚“buffer”（緩衝、緩衝材の意）にしました。それによって、風、光、視線、だけではなく、家族の興味、気配、状態を“buffer”をとじたり、ひらいたりすることで一人ひとりが生活しやすい「環境」をつくることができるのではないかという提案をしました。

最優秀賞と作品の実施は叶いませんでしたが、600組を超える参加者のなかから2次審査に進み優秀賞に選ばれたうえに、新潟のおいしい食べ物やお酒を楽しめたことなど、思い出深いコンペになりました。



第5回三井住空間デザインコンペ 「親と子の新しい住まい」 選外佳作 「MATRIX HOUSE」

平井 充・山口紗由・二本柳望

このコンペは、設計・デザイン活動をおこなっている者を対象として、新築マンションの1住戸の実施設計するものです。審査員には、建築家の内藤廣氏、光井純氏、渡辺真理氏などがおり、応募総数788点の中から9位に選ばれました。1次審査通過は上位8位まででしたが、審査委員長の内藤廣氏から高い評価をいただきました。

テーマは、「親と子の新しい住まい」であり、段階的な奥行きをもった空間構成によって、小さな住まいの中の距離感を操作しています。その距離感によって、親と子は、それぞれの居場所を見出し、ゆるやかに連続した自分の居場所を見つけることができる提案です。



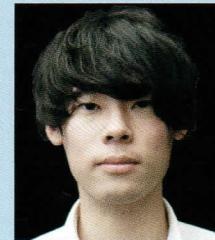
梨子田 勉



猪野 俊幸



高橋 宏精



千田 正浩

長野県立長野県田川高等学校 2001年卒業
工学院大学建築学科初田研究室 2006年卒業
工学院大学院修士課程初田研究室
2008年修了
2008年～ヤマウラ一級建築士事務所

都立駒場高等学校 2002年卒業
工学院大学建築学科初田研究室 2006年卒業
工学院大学院修士課程初田研究室
2008年修了
2008年～株式会社建設設計

1983年 熊本県生まれ
2007年九州産業大学工学部建築学科卒業
工学院大学工学研究科建築学専攻修士2年
初田研究室在籍

1983年 東京都生まれ
2007年工学院大学工学部建築学科卒業
工学院大学工学研究科建築学専攻修士2年
藤木研究室在籍

工学院大学大学院生 平井充君が 第6回「真の日本のすまい」提案競技で林野庁長官賞

昨年度の「新・木造の家」設計コンペ最優秀賞、佐賀県知事賞に続き木造伝統構法の賞を獲得

(NICHE 編集部取材)

大学院博士後期課程の平井充君が、第6回「真の日本のすまい」提案競技において、全国の設計事務所から応募された210点の提案の中から、林野庁長官賞を受賞した。この提案競技は、(財)住宅産業研修財団が主催、(財)住宅保証機構、(財)生涯学習開発財団、(社)日本建築士会連合会の3者が共催し、日本の気候風土と調和しながら、理想的な循環型社会を形成し、地域で培われた知恵と伝統文化の役割の再評価を趣旨としている。今回は、「和室」がテーマであり、伝統構法の住まいによる生活文化の継承を目的としている。審査は、1月末から2月にかけて、浅野平八、藤本昌也、三井所清典など7人の審査員により行なわれた。そして、2009年2月26日に、住宅金融支援機構すまいのホールにて表彰式と祝賀パーティが行われた。

「地域に開かれた奥行きのある家」は、伝統的な民家の間取りプランをもとに、内と外の間をどのように取るかということが、作品のテーマになっている。境界は、現代の間取りのように、扉や壁で部屋とその周囲の関係が、ON/OFFという二極化したものではない、ルーズでかつ安心できるものでなければならないと考えている。外から迎え入れてくれる庭から、土庇、土間、縁側、障子、和室、フスマ、居間という順に、最奥部の居間まで、ゆるやかに関係づけられている。これは、「二つ以上のものの間に、両者を関係づける可変性のある要素を挿入することで、空間のスケールを変質させて距離感覚を操作し、社会から家族が孤立化してしまわないような配慮」だと言う。

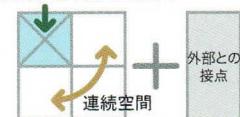
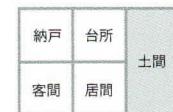
「これからこの提案とは別に、伝統構法の展示住宅の実施設計をするので、伝統構法でしかできない、しかも伝統構法や和のイメージに縛られない、新しい空間をそこで実現したい」と次の作品について語っている。昨年度から今年度にかけて、新・木造の家設計コンペ最優秀賞／佐賀県知事賞、(社)日本建築学会関東支部「美しくまちをつくる むらをつくる」最優秀賞を始めとし、建築から都市デザイン、インテリアデザインなど幅広い分野で11つの賞を獲得しており、今後の活躍が期待される。



「地域に開かれた奥行きのある家」内観 平井充・山口紗由

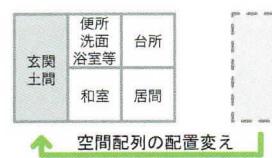
伝統的な民家の空間構成からの展開

用途が固定化され閉じた空間

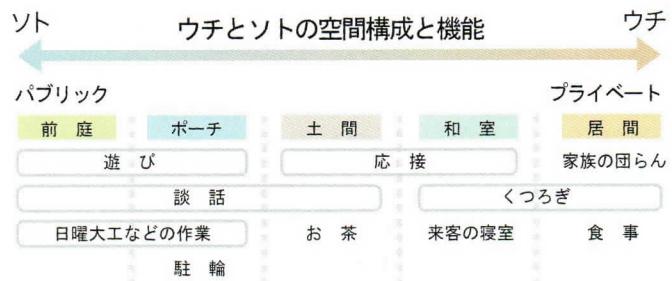


1. 農村型民家の平面構成である田の字型
プランに土間が附属したもの。

2. 空間構成を読み取り性格ごとに分離。
納戸の影響でL型の連続空間が構成。



3. 現代の住まい方に合わせた機能を、
各空間に与え、家族が集う奥行きを持たせるために土間を配置変えする。

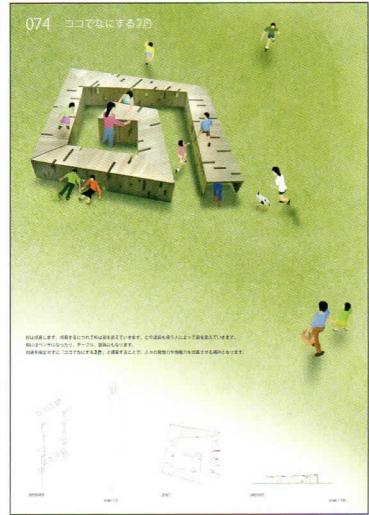


「杉コレクション2008 in 日向 思わず欲しくなる杉の大道具たち —杉でつくる幸せ空間—」 グランプリ

「ココでなにする?」

加藤直樹・杉本龍彦・鈴木暁子

杉コレクションは、宮崎県の林業活性化のために、杉の間伐材などを利用して建築、家具、遊具など、様々な分野からプロ・アマの提案がされるコンペです。昨年は、初田研のチームが入選を果たしています。今回のテーマは「杉でつくる幸せ空間」であり、今回は特別審査員で映画監督の山田洋次氏が招待されました。最終審査は、主催者側で制作された实物をもとにプレゼンテーションを行い、審査員の内藤廣氏、山田洋次氏、南雲勝志氏から高い評価をいただき、最優秀賞に選ばれました。審査員からは、単一な部材を単純な構成によって組み合わせていくデザインであったこと、くつろぐ大人と木漏れ日が落ちる洞窟で遊ぶ子供たちの風景が印象的であったことなどが評価されました。

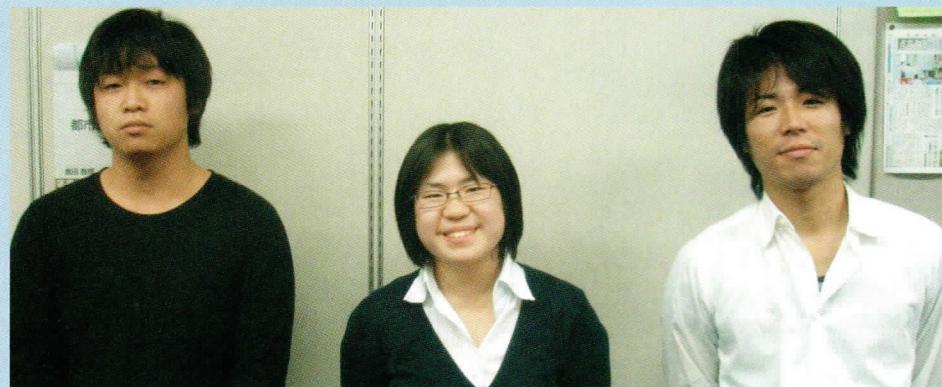


「九州温泉旅館客室 コンペティション2008 in 大川」 入選

「風の招待場」

加藤直樹・杉本龍彦・鈴木暁子

福岡県大川市は、国内でも家具生産量がトップであり、さらに温泉地も多いことから、この両者の強みを活かして、旅館客室のインテリアデザインを実施するにあたり、コンペティションが行なわれた。プロ、アマ問わずのコンペであり、本作品は上位33位(入賞23席)に選ばれました。大川市は、障子の組子の技術の高さでも知られているため、風を視覚化できる新しい障子のデザインをしています。中軸を通して曲面を構成する障子ユニットによって、仕切られた、気持ちのよい客室空間を提案しました。



加藤 直樹(左)

栃木県立黒磯高等学校 2005年3月卒業
東京工科専門学校 2008年3月卒業
現在、工学院大学2部建築学科学部2年
Toropicanal10002000@yahoo.co.jp

杉本 龍彦(右)

東京都立戸越前工業高等学校 2008年3月卒業
現在、工学院大学2部建築学科学部1年
Sugimoto-86@nifty.com

鈴木 暁子(中)

東京工科専門学校 2008年3月卒業
Ak1754@yahoo.co.jp

国内最大手の総合防災メーカー 能美防災株式会社の社長に橋爪 賀さん就任

能美防災株式会社 代表取締役社長 橋爪 賀



【経歴】

- ・1967年3月 工学院大学 生産機械工学科 卒業
- ・1967年4月 能美防災株式会社 入社 企画部門・営業部門 他を担当
- ・2008年6月 代表取締役社長に就任

会社概要

本 社：東京都千代田区
創 剥：1924年（大正13年）
資本金：133億228万円
従業員：2,068名（連結）
売上高：849億円（連結）
事業所：全国59ヶ所、海外3ヶ所
グループ会社：日信防災他 全31社

私が工学院大学に在学しておりました昭和38年から42年の4年間は、東京オリンピックの開催を問にはさんで、建物や都市が機能面でもデザイン面でも大きく進化と変貌をとげた時期でした。

一方で新潟大地震や航空機事故等が起き、防災工学・安全工学の重要性を肌で感じた時期もありました。

この様な背景も動機の一つとなりまして能美防災で仕事をする道を選びました。都市再開発・プラント・長大トンネル・空港から住宅迄、多彩な防災に取り組んでおります。

便利な生活や、やすらぎを求める為の建物や都市の進化、そして生活様式の進化が新たな災害を生ずる面もございますが、これからも社会の安全を守る為にお役に立ちたいと考えております。



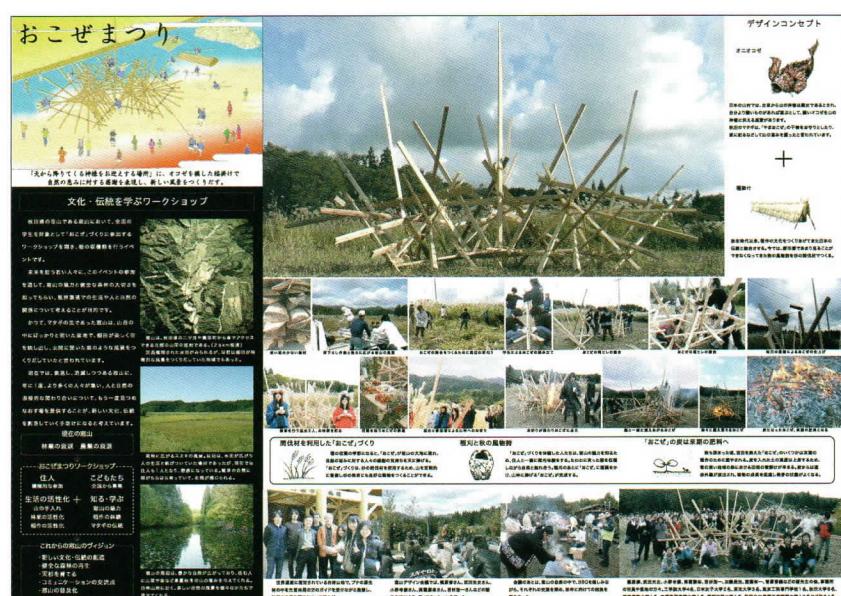
横浜「みなとみらい21」中心地区の都市再開発

「窓山再生WS&デザイン会議」

ニッチ2008に掲載されたデザインコンテスト特別賞「おこぜまつり」が実施されました。

平井 充・加藤直樹・杉本龍彦・山口紗由・五川千晴

昨年に行われた、窓山デザインコンテストでランドスケープ部門特別賞をいただいた「おこぜまつり」が、10月に実施されました。限界集落を越えた窓山の地をこれからどのように考えていくか、そしてそれが日本全国に広がる同じ問題を抱えている地域に対して何か示唆することができないか、ということを問題に、政策研究大学院教授の篠原修氏を中心として「窓山デザイン会議」が併せて開催されました。窓山に3日間滞在しながら、全国から集まった建築家、都市デザイナー、学生、地域住民が、一つの問題について考えていくという内容で、そのメインイベントとして「おこぜまつり」を催しました。土木設計家の篠原修氏、建築家の武田光史氏、都市設計家の小野寺康氏、都市からプロダクトまで幅広いデザイナーの南雲勝志氏など幅広い分野の先生方も参加しました。このイベントは、今後もこの場所で続いている予定です。様々な分野の人々が集いながら交流し、現代の抱える集落の問題を共有していける場所になっていけることを目的としています。本学からは、提案者である平井充（初田研）、山口紗由（日本女子大大学院）と玉川千晴（東研）、加藤直樹（学部2年）、杉本龍彦（学部1年）が参加しました。



「ユニクロ主催 Tシャツデザインコンペ」 入賞



株式会社ユニクロが主催した国際的なコンペティション、UTグランプリ2008において、平川敏也君（大学院建築学専攻・野部研究室所属）のデザインしたTシャツが入賞し、全世界のユニクロの店舗にて販売されました。UTグランプリの審査員は、安藤忠雄氏、草間彌生氏、佐藤可士和氏と各界の著名人が揃い、その中で平川君のデザインは63カ国から公募された13,206作品から選抜されました。

「建築環境設備系の研究室に所属している私が、デザインコンペでこのような賞を頂けたことに意義を感じる。ちなみに比内地鶏の偽装表示事件や鳥インフルエンザの猛威等はデザイン上のコンセプトとは一切関係がない。」



平川 敏也

(工学院大学大学院修士課程1年 野部研究室)

神奈川県立小田原高等学校 2003年卒業

工学院大学 建築学科 2007年卒業

工学院大学大学院修士課程 野部研究室 2010年3月卒業見込

卒業生(校友会会員)の求職・転職サポートします！

校友会では、2007年から建設・土木・不動産を中心とした、日建学院グループ職業紹介専門企業「ニッケン・キャリア・ステーション」とタイアップし、会員の皆様の求職・転職をサポートするシステムを整えています。充実のキャリアプランの実現へ、本システムをご活用下さい。

■ニッケン・キャリア・ステーション（厚生労働省大臣許可13-ユ-090149）
日建学院グループ、業界特化職業紹介のエキスパート企業です。若手からシニア層まで可能性を広げる前向きな就職・転職のお手伝いを行っています。

社員数：145名（社員35名／派遣社員110名）

拠点：本社（池袋）・横浜・大阪・名古屋・福岡

顧客企業：4,500社／登録人数12,500名

工学院大学卒業生登録者数：250名

■日建学院(建築資料研究社)/ニッケン・キャリア・ステーション親会社
全国133校、建築系国家資格取得教育業務を主体に、建築関連専門誌の発行なども手掛ける企業。建築系資格取得では今年40周年を迎え、毎年約10万人の講座終了実績があります。

■登録希望のお申し込みは…直接「ニッケン・キャリア・ステーション」へご連絡下さい。

求職登録は「ニッケン・キャリア・ステーション」へ電話やメールで連絡。窓口担当から今後の流れをご説明します。

*登録から仕事の紹介まですべて無料です。

*個人情報など厳守されます。

お仕事ご紹介システムのご案内



【求職登録申込連絡先】

0120-810-298

TEL 03-3980-5181

FAX 03-3980-5552

info@nikken.cs.co.jp



1

北京の四合院



後藤 治他

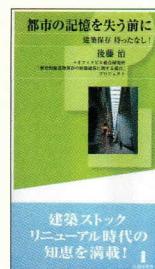
工学院大学
建築都市デザイン学科
教授

中央公論美術出版社
03-3561-5993
208ページ
定価4,300円(+税)
2008年2月
B5版

オリンピックをひかえ、開発が進む北京において、伝統的住居形態=四合院(しごういん)からなる街区の歴史的な価値と住環境の現状の問題点を再確認するとともに、年保存制作の有効性と限界、日本や韓国の現状にも言及した国際的研究の報告書(帯封より)

2

都市の記憶を失う前に 建築保存待ったなし 白揚社新書



後藤 治他

工学院大学
建築都市デザイン学科
教授

白揚社
03-5281-9772
230ページ
定価900円(+税)
2008年3月
新書版

わが国の歴史的建造物の保存と継承はうまく行われているのだ?世界遺産に登録された法隆寺や姫路城を想像して、結構世界に誇れるではないか、と答える人もいるだろう。しかし、都市に目を転じると、歴史に包まれた美しいヨーロッパの町並みに比較して、「日本はヒドイ」と眉をひそめる方も多いはずだ。どうしてこうなってしまったのか?この状況は、どうすれば?

3

クイズでわかる 日本建築100の知識



後藤 治他

工学院大学
建築都市デザイン学科
教授

彰国社
03-3359-3231
222ページ
定価1,800円(+税)
2009年1月
新書版

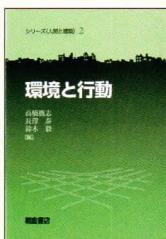
頭のめぐりは血のめぐり、能を鍛えるクイズ100問、知の迷路によくこそ。家屋文鏡にある浮き彫りで「高床式」はどれ?。法隆寺西院の配置図で誤りはどこ?。高校古文で習った「蘿」、現在の用途に近いのは?。金閣と銀閣、本来の用途は?。「江戸八百八町」の「町」って何のこと?

新刊書紹介

BOOK 11冊

4

シリーズ〈人間と建築〉2 環境と行動



長澤 泰
高橋鷹志
鈴木 育編

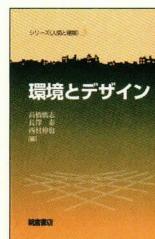
朝倉書店
03-3260-0141
175ページ
定価3,200円(+税)
2007年2月
A5版

この図書はシリーズ〈人間と建築〉の三部作で、最初の「環境と空間」が出版されてから、数年を経てようやく完成したものである。もともと建築・街・地域という物理的構築環境を、より人間的な視点から見直そうという意図のもとに企画されたものであるので、建築系の学科のみならず環境学や心理学の分野に興味を持つ読者にとっては、新しい視点を得るために手ごろなものといえよう。

長澤 泰 工学院大学工学部建築学科教授
donya@pop13.odn.ne.jp

5

シリーズ〈人間と建築〉3 環境とデザイン



長澤 泰
高橋鷹志
西村伸也編

朝倉書店
03-3260-0141
174ページ
定価3,400円(+税)
2008年2月
A5版

この図書はシリーズ〈人間と建築〉の三部作で、最初の「環境と空間」が出版されてから、数年を経てようやく完成したものである。もともと建築・街・地域という物理的構築環境を、より人間的な視点から見直そうという意図のもとに企画されたものであるので、建築系の学科のみならず環境学や心理学の分野に興味を持つ読者にとっては、新しい視点を得るために手ごろなものといえよう。

長澤 泰 工学院大学工学部建築学科教授
donya@pop13.odn.ne.jp

6

110のキーワードで学ぶ 世界で一番やさしい木造住宅



関谷真一

結設計室主宰
工学院大学大学院
非常勤講師

株式会社エクスナレッジ
03-3404-1321
240ページ
定価2,800円(+税)
2008年10月
B5版

「建築知識」創刊50周年記念出版。木造住宅のプラン・構造・仕上げ・設備・外構の基礎知識を網羅した解説です。これだけ読めば、すべてが分かる!見開き2頁でひとつの事項を説明、図解入りで大変わかりやすく、ポイントの整理や用語解説なども豊富。もくじ、プランと調査、地盤と基礎、ほねぐみ、屋根と外壁、内装と仕上げ、住宅の設備、住宅の外構。

7

建築設計実務のチェックシート



東京建築士会編集

谷口宗彦他

工学院大学教授

彰国社

03-3359-3231

174ページ

定価3,500円(税込)

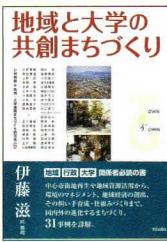
2008年11月

A4版

情報化社会における設計業務は、膨大な量の情報管理・整理が大切です。本書は建物の企画から工事管理まで。設計業務に関わるさまざまなチェック項目や、確認事項、必要手続きなどを時系列に沿って整理し、チェック漏れや確認ミスを減らすことに役立つようにまとめられたものです。

8

地域と大学の共創まちづくり



共著:倉田直道 他

工学院大学建築都市デザイン学科 教授

学芸出版社

075-343-0811

191ページ

定価3,990円(税込)

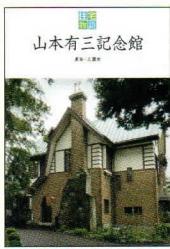
2008年11月

26cm

地域と大学が連携し協働することで進化していく、まちづくり31事例を詳解。中心市街地再生や地域資源活用から、環境のマネジメント、地域経済の創出、その担い手育成・仕組みづくりなど、国内外の事例を掲載。研究室から全学的取り組みまで、都市から地方まで対象・エリアも幅広く、多様なアプローチと視点を盛り込んだ。伊藤滋氏推薦!!

9

住宅物語 山本有三記念館



初田 亨 他

工学院大学建築学科 教授

バナナブックス

03-5367-6838

56ページ

1,333円(税込)

2008年10月

A5版

東京郊外の緑生い茂る三鷹に、瀟洒な洋館が建っています。この洋館は現在、記念館として公開されている旧山本有三邸で、建築的にも評価が高く、大正期の洋風住宅を知る上で、価値ある貴重な建物です。(説明文より)
山本有三邸の歴史、建物の概要、中流住宅へ拡がっていく洋風化の流れ、大きく展開した昭和戦前の建物、椅子式の生活と住宅の変化、三鷹市山本有三記念館の紹介、山本有三の住んだ家など。

10

建築大百科辞典



長澤 泰

工学院大学建築学科教授

朝倉書店

03-3260-0141

720ページ

定価28,000円(税込)

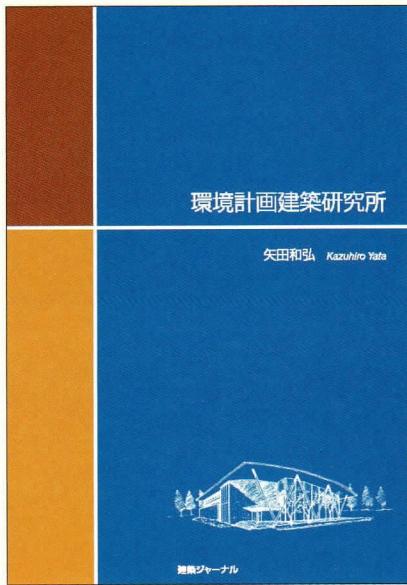
2008年11月

B5版

本書では、「都市再生」をキーワードにして、建築学全般を扱っている。「安全・防災・震災」など9つのセクションに分け、見開き形式でまとめている。また、それぞれのキーワードに対応するタイトルも魅力的で、象徴的な写真や図版を満載した「読む総合事典」である。小生以外に工学院大学からは、遠藤和義・後藤治・澤岡清秀・中島智章・初田亨・山下てつろうの各先生方が筆者として名を連ねている。本書の帯には、建築家隈研吾が、『建築は今大きく変わりつつある。正確にいえば変わらなければ、このジャンル自体が存続しないほどに危機的状況にある。都市再生と環境再生、その二つをキーワードにいかにジャンルの変革が可能かを、各項目が熱く深く語りかけている。』と推薦文を載せている。皆様のご一読をお願いする次第である。

11

建築ジャーナル別冊



矢田和弘

環境計画建築研究所(工学院大学建築学科卒、波多江研究室)

●学歴・職歴

1944年 島根県生まれ

1966年 工学院大学建築学科卒業(波多江研究室)

1976年 環境計画建築研究所設立

水に浮かぶ睡蓮のような美しいまち「湖都松江」の宍道湖畔のアトリエで、

良きスタッフと共に設計活動

●受賞等

島根県建築賞 大賞・旭硝子全国住宅作品

最優秀賞・松江賞・しまね景観賞 複数受賞・しまね建築文化賞 他

その他コンペ・プロポーザル最優秀実施多数

建築ジャーナル Tel.06-4707-1385

68ページ 定価2,200円(税込) 2008年12月20日発行 A4版

事務所創立以来、約30年間にわたる矢田和弘の建築作品を集めた作品集。代表作を、「I.和への試み」、「II.地方で建築家をするということ」、「III.松江の風土と建築」、「IV.故郷と向き合い、文化を育む」の4テーマに分け、カラーで紹介。作品以外に、松江の建築について語った座談会や、松平直壽氏(旧松江藩主松平家15代当主)、宮本忠長氏(建築家)、東孝光氏(建築家)、長谷川堯氏(建築評論家)、谷口宗彦氏(工学院大学大学院教授)の寄稿文も掲載しています。

有環境計画建築研究所 矢田和弘 〒690-0855 島根県松江市浜佐田町982-1
TEL 0852-36-8266 FAX 0852-36-9133
kankyou@ceres.ocn.ne.jp



都市の新しい魅力ある顔づくりを目指して——ミューザ川崎



にしかわ とう ゆ
西川 東吾

1978年 長野県立岩村田高等学校 卒業
 1982年 工学院大学建築学科 卒業(山下研究室)
 1984年 工学院大学大学院 修士課程2年終了(山下研究室)
 (株)松田平田坂本設計事務所入社(現(株)松田平田設計)
 現 在 同社 総合設計室 企画戦略部長



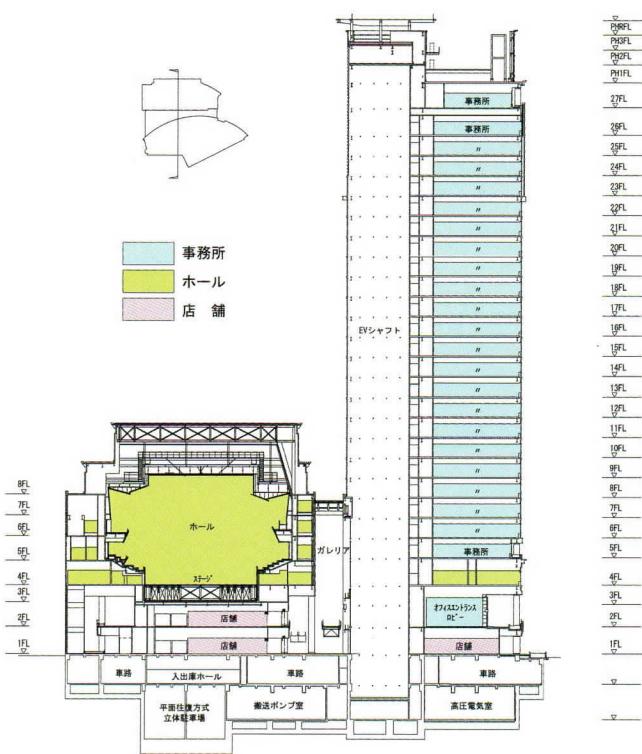
■航空写真：業務核都市として変貌を遂げつつある川崎駅周辺地区



■遠景



■配置図



■断面図

|計画概要

ミューザ川崎は、川崎駅西口地区における面的開発のリーディングプロジェクトとしての役割を担い、駅前の顔にふさわしい賑わいのある「業務と生活文化の核の創造」をテーマに、シティーゲートとしてのシンボル性と川崎市の芸術文化の発信拠点としての存在の創出を目的とした市街地再開発事業である。

建物は、オフィス・コンサートホール・商業施設・駐車場が集積する都市型複合施設であり、27階建てのオフィス棟、2000席のホールを内包するホール棟、7階吹抜のガレリアから構成される。



■JR川崎駅からの全景：都市のランドマークとなるオフィス棟と川崎の芸術文化の発信拠点となるホール棟から構成される

市街地再開発事業における3つの視点

都市における建築は主張するのみではなく様々な配慮が必要となる。再開発事業の計画・設計にあたっては下記の3つの視点が大切である。

- 1)まちづくりの視点
- 2)環境との調和の視点
- 3)地域への貢献の視点

1)まちづくりの視点

●川崎の新しいシンボルの創出

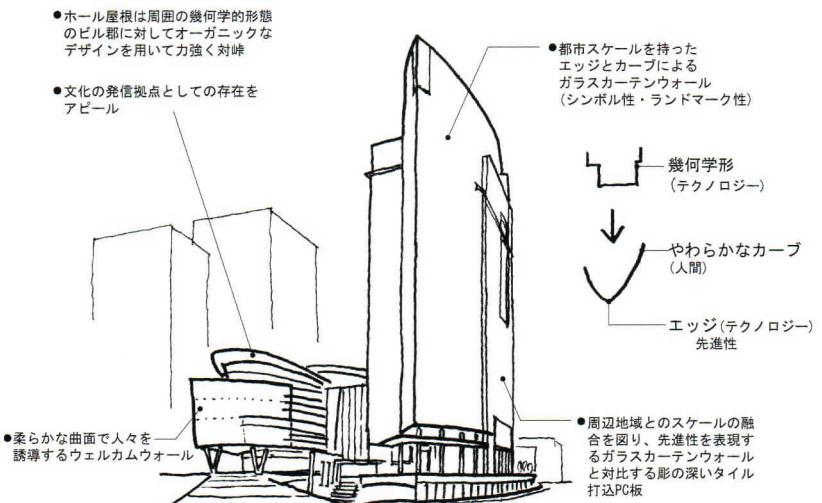
インテリジェントビルとしての先進性を表現する緩やかな曲線を描く横基調のシャープなアルミカーテンウォールと、タイル打込のPC版により構成された高さ約130mの業務棟が川崎のシティーゲートとして地域のランドマークの役割を果たしている。

また柔らかな曲面形状で構成された外壁や周囲の幾何学的形状のビル群に対して、有機的なデザインを用いて力強く対峙させた屋根をもつホール棟が、川崎市の芸術文化の発信拠点としての存在をアピールし、この2棟により川崎の新しいシンボルを創出している。

2)環境との調和の視点

●周辺環境との調和

建物は、既存商店街との連続性を考慮し店舗を配置した基壇部、周辺中・高層住宅とのスケールの適合を図り街並みにリズム感を与えるため凹凸を持った柱型・梁型による彫りの深いファサードで構成した中間部、シンボル性・ランドマーク性を有する都市スケールを持った頂部の3層で構成し、周辺地域との景観の調和を図っている。



■川崎市の芸術文化のシンボルとなるホール棟



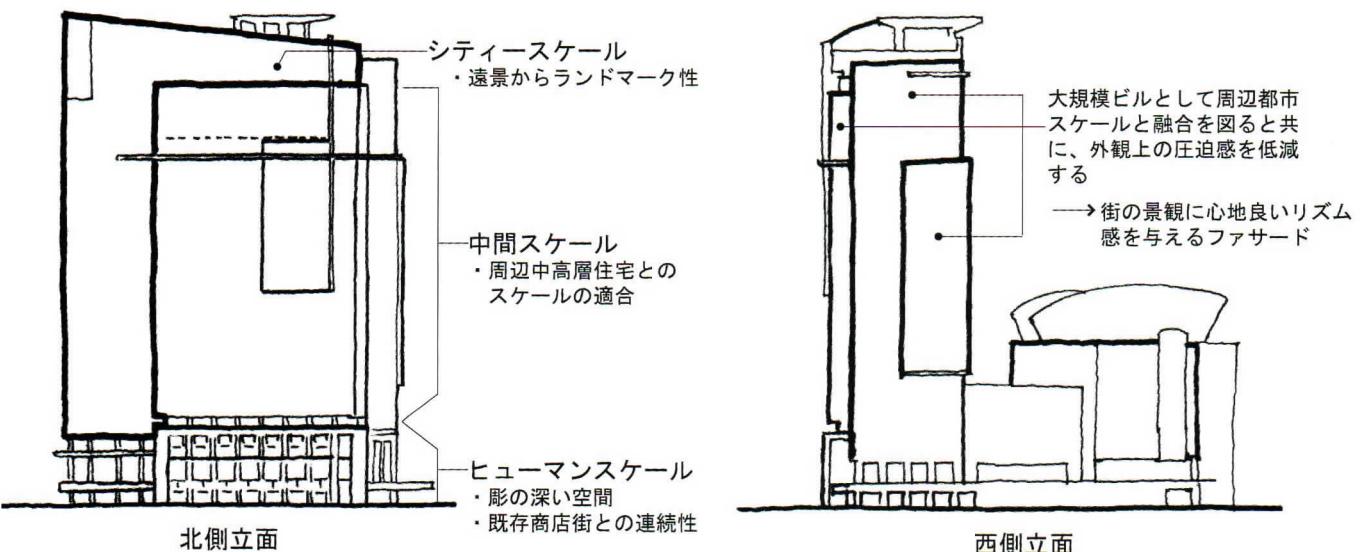
■川崎のランドマークとなるオフィス棟

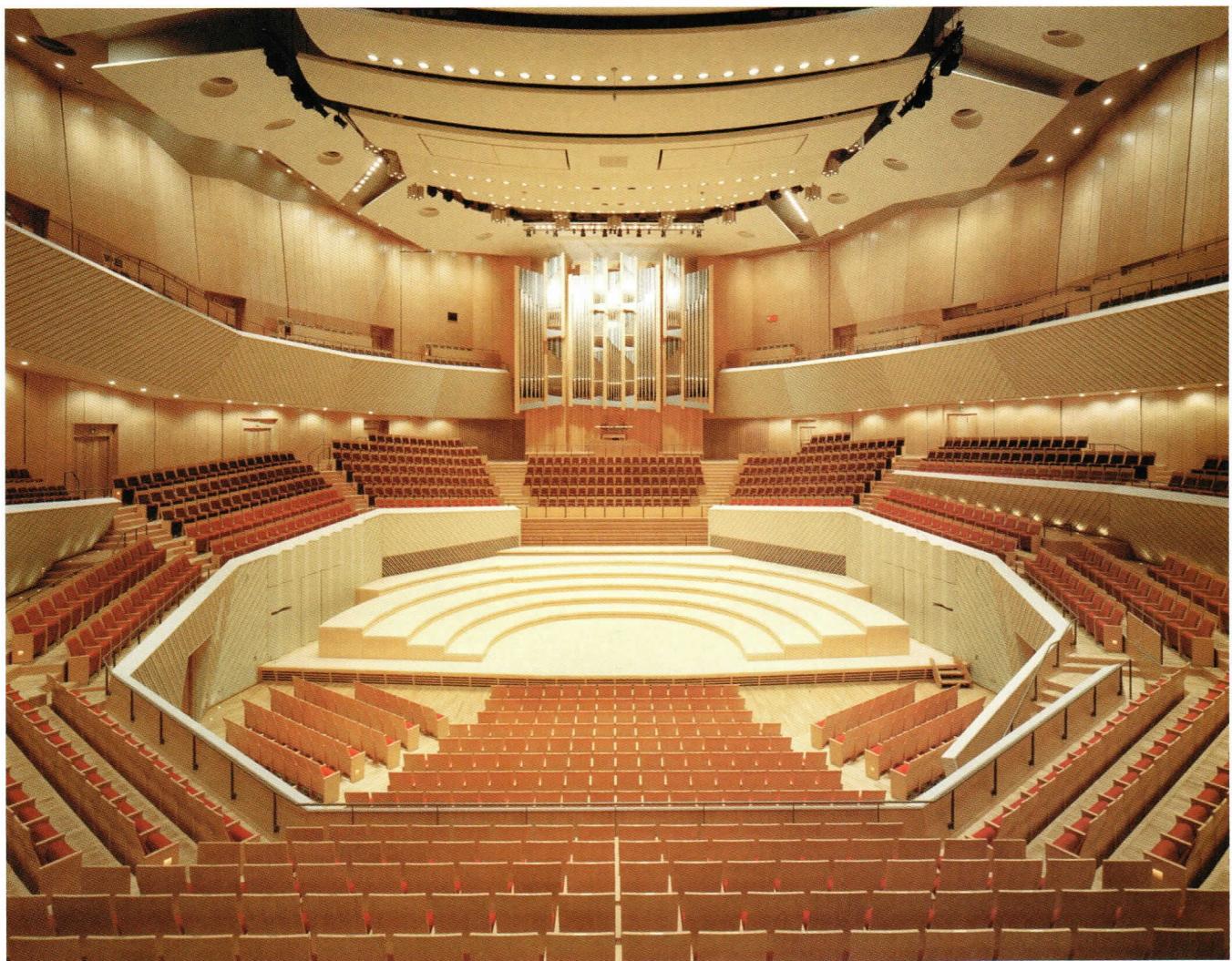


■オフィス棟外観



■西側外観

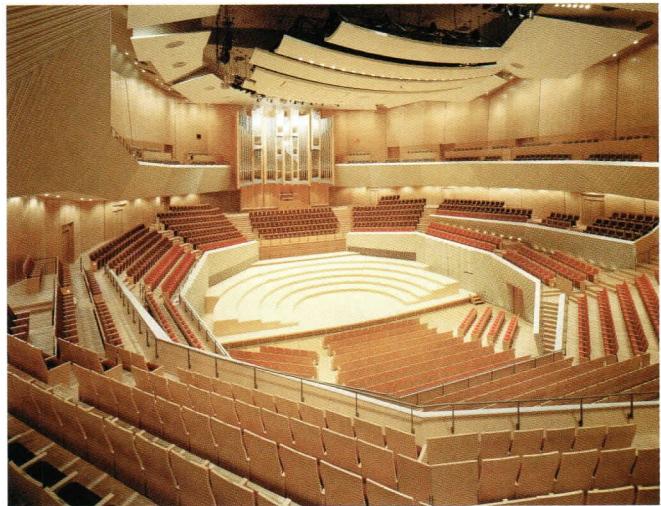




■ダイナミックで臨場感あふれるコンサートホール



■スパイラル状に連続する客席構成



■演奏者と聴衆の一体感を生むホール構成

●まちのイメージを変えた文化拠点プロジェクト

約2,000席のワールドクラスの性能を持つシンフォニーホールは、臨場感あふれるワインヤード型のコンサートホールであり、クラシック音楽を中心としながらも多彩な音楽ジャンルの上演にも対応でき、併設された音楽文化施設と共に市民の文化交流・交歓・創造のための場としている。このホールは「工業のまち川崎」から「音楽のまち川崎」という新しい都市イメージの象徴となっている。



■客席CG

3) 地域への貢献の視点

● 街の記憶の継承

従前の川崎駅西口の強い景観要素となっていたレンガ倉庫（旧国鉄変電施設）のイメージを、基壇部のレンガ調タイル貼の外壁、ガレリア内のレンガ壁及びアートワーク等に形を変えて継承している。また、権利者店舗により構成された1階南側の店舗街（40番地）は、再開発により街が大きく変わっていくなかで、新・旧建物の融合を図り、街の記憶を継承している。



■従前のレンガ倉庫（旧国鉄変電施設）



■ゲートプラザ



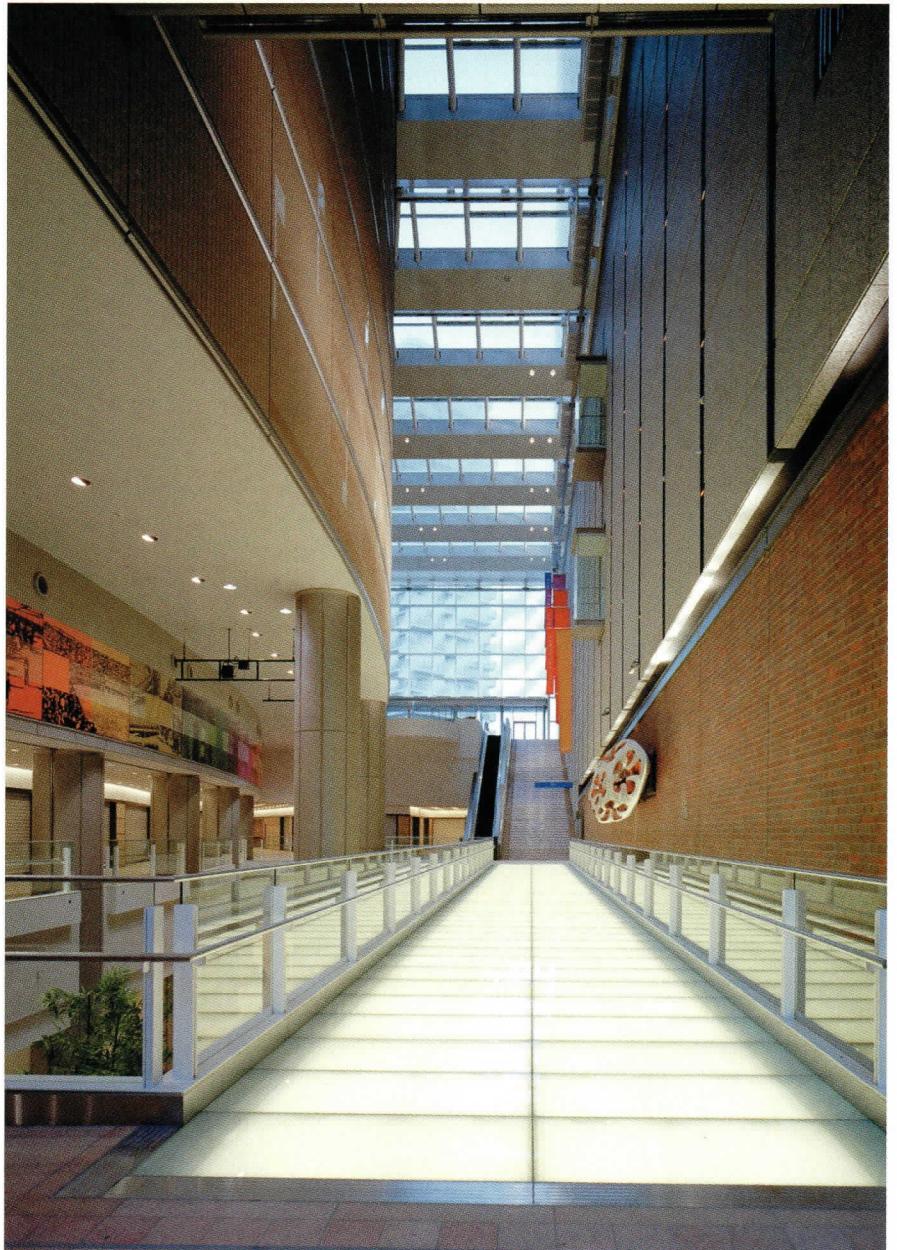
■周辺道路と一体的に整備した歩道状空地



■「まちの記憶」を継承する地権者店舗により構成された40番地



■駅と後背住宅地をつなぐ2階コリドール



■都市の街路となるガレリア

● 地区の活性化

外部空間の延長として駅からアプローチする大勢の人々を後背地の再開発地区へとスムーズにつなぐ機能をもつ都市の街路であるガレリア、周辺道路と一体的に整備した歩道状空地、2階レベルの歩行者デッキ・広場等を設置し、スムーズで快適なアクセスと豊かなオープンスペースを確保し、川崎駅西口の玄関口に相応しい景観を形成している。



■夜景



■ペデストリアンデッキから望む



■2階オフィスロビー

おわりに

ミューザ川崎が竣工し4年が経ちました。その間、海外著名オーケストラ及び演奏者らの来日上演が相次ぎ高い評価を得ています。業務、商業、文化的機能が集積したミューザ川崎は、さまざまな施設が相乗効果を生み、都市の賑わいと活力にあふれた「川崎の魅力ある顔」の実現に寄与できたと思います。再開発事業はとかく時間のかかるものです。20歳後半から30歳前半に担当した「ポルテ金沢」は竣工まで約8年(再開発

事業ではとても早い方)、ミューザ川崎は約15年、現在進行中の「カフーナ旭橋(那覇市)」は竣工まで約12年の予定です。長い期間、実に多くの人々の膨大なエネルギーによってプロジェクトが結実します。様々な人々とのコラボレーションにより、段階的に絶えることなく志向が繰り返されてきた結果として質の高い建物や都市環境が創造できたと思っています。人とのつながりや地方の風土、文化との交流などさまざまな経験が今の自分の財産となっています。



■ポルテ金沢
竣工:平成6年 所在地:石川県金沢市



■カフーナ旭橋
竣工:平成24年(予定) 所在地:沖縄県那覇市

世界最大級のシャープ亀山工場



1973年卒業 東京都立田無工業高校 建築科
 1980年卒業(伊藤鄭爾研究室) 工学院大学建築学科(2部)
 1982年修了(武藤 章研究室) 工学院大学大学院 修士課程
略歴 1982 清水建設株式会社(設計本部)入社
 現在 清水建設株式会社 九州支店 設計部 部長
 1988~1992 愛知工業大学 建築工学科 非常勤講師
 1981 UIA 国際建築家協会主催国際学生設計競技
 最優秀 「フランス賞」受賞
メールアドレス k.nishibayashi@shimz.co.jp



正面 太陽光発電パネル

| 日本のものづくりを代表する最新鋭工場

液晶テレビの代名詞となったシャープの「アクオス」。シャープが目指す「日本のものづくり」の具体的策として、世界で初の液晶パネルから液晶テレビまで一貫生産する最新鋭工場である亀山工場(第一工場)の設計・工事監理を担当しました。現在その最新鋭工場から市場に供給される液晶テレビは「亀山ブランド」と呼ばれ、「ファクトリーブランド」が新たな概念として広く社会に認知され、また高品質の代名詞ともなりました。最新鋭工場という施設の性格上、極秘内容の塊のような施設であり、全てをご紹介できないのですが、予めお客様のご了解をいただいている範囲でご紹介いたします。

*シャープのホームページから亀山工場の概要などを見ることのできるサイトがあります。

他に、業界最大級の工場排水リサイクルシステムや燃料電池システム、日本最大級のコ・ジェネレーションシステムなどの環境保全技術が展開された「スーパーグリーンファクトリー」となりました。これらの取り組みが評価されて、第1回「日経ものづくり大賞」を受賞されました。施設の設計・施工に携わったものとしてたいへん光栄な事となりました。

巨大な工場と超微小の制御

液晶テレビや半導体は繰り返し工程を経て製品となるため、製造プロセスの効率化が製品の低価格化を実現する大きな

「スーパーグリーンファクトリー」

亀山工場は、環境負荷を極限まで低減した「スーパーグリーンファクトリー」第一号となりました。

シャープの「創エネ」と「省エネ」の象徴として、工場正面にアクオスのデザインを模したイメージの太陽光発電パネルを設置しています。正面のTV画面部を模した部分には太陽光発電セルを合わせガラス内部に挟み込み、間隔を空けてセルを配置することにより、内部に光を取り込めるように工夫しました。



正面 外観(手前は守衛所)

鍵となります。また、液晶テレビでは大画面化の流れが加速しつつある中で、効率化をはかるための策として材料となる基盤の大きさを大きくすることにより、同じプロセス時間(タクトタイム)でより大きく、また数多くの製品を生産することが可能となります。その大型化する基盤とは液晶で言えばガラス基盤(マザーガラス)であり、半導体で言えばウエハーとなります。

ガラス基盤の大きさは「世代」で表現され、世代の数字が大きいほど大きなガラス基盤となります。亀山第一工場のガラス基盤は第6世代の1500×1800ミリメートルの大きさで、「タタミ」と呼ばれていました。つまり畳の意味なのですが実際は畳より大きいサイズとなっています。この大きさで32型のテレビ用パネルが8枚、37型なら6枚のパネルが効率的に取れるサイズとなっています。第一工場に続いて増築し既に稼動中の亀山第二工場のガラス基盤は更に大きく、第8世代と呼ばれ、その大きさは2.160×2460ミリメートルもの大きさです。

更に、現在工事中の大阪堺の最新工場では第10世代となり、2850×3050ミリメートルもの大きさで、57型のテレビ用パネルが8枚取れます。以上のように、効率化の追求とテレビ画面の大型化により、パネルの大きさは際限なく大きくなっている状況です。

巨大なガラス基盤は到底人間では運べないために自動搬送装置が各プロセス間をつなぎ、全自動化されています。つまり、ガラス基盤が投入されると自動的に各プロ



ガラス基盤 第6世代1500×1800
(シャープホームページより)

すべてが巨大な亀山工場。
そのスケールをお伝えします。



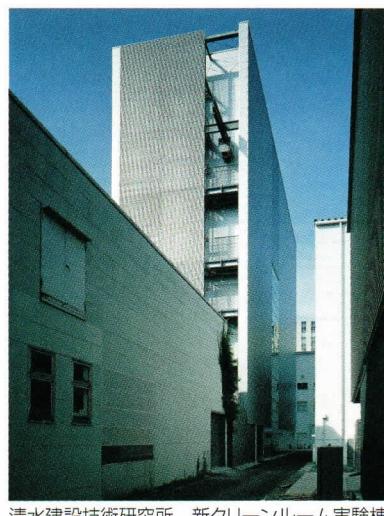
工事中の第一工場(シャープ ホームページより)

セスにて加工され、テレビパネルが出来上がるという次第です。亀山第一工場はテレビパネルの製造からテレビ組み立てまで一貫生産する世界で始めての工場となりました。

この巨大なガラス基盤をほとんどのプロセスで水平にして加工するため、その各プロセスの装置は巨大な装置となります。また、その巨大さ故に装置重量も重くなり、製造施設としてはかつてないほどのスペースと高さが必要となります。重量だけではなく高さ31mの重層工場である為、構造架構もとんでもないことになります。

加えて、液晶パネルも半導体も超微小なミクロン(1/1000ミリ)単位の回路を写真製版のように基盤へ光学的に転写するため、装置直近を人が歩行することによる僅かな振動でも製品欠陥となってしまいます。その対策として微振動解析やシミュレーションなど、様々なノウハウを駆使すると共に、当社技術研究所の分野別専門家と協同しながら設計しました。

各製造プロセスでは超微小回路の加工を行なうため、目に見えないミクロン単位の塵が基盤に付着して回路欠陥となってしまいます。従って、工場内は超清浄環境(クリーンルーム)が要求されます。クリーン度のレベルをわかり易く表現すると、甲子園球場の空間に花粉が数個というレ



清水建設技術研究所 新クリーンルーム実験棟

ペルです。また、単に空気中の塵だけでなく温湿度、静電気、各建材から出る化学物質の量や、先に説明した微振動許容値など、厳しい値が示され、それらを満足するために様々なノウハウを駆使して設計を行うこととなるのです。これらの目に見えない超微小なものを制御するノウハウは、これまでの様々な類似施設の設計および施工による経験と、それによって蓄積された膨大なデータ。また、当社技術研究所内にある業界屈指の規模の新クリーンルーム実験棟で実証実験をおこない蓄積してきたものです。

(最新のクリーンルーム実験棟も筆者の設計によります)

超短工期

液晶パネルや半導体は、ライバル企業より少しでも早く高品質の製品を市場に出すことで、市場占有率や価格支配率が高まるため、その製造施設は超短工期での完成が求められます。品質を確保しながら短工期化を実現する為には、あらゆる技術を駆使して設計・施工することが必須となります。亀山工場では以下のスケジュールで進捗しました。

2002年2月	建設計画発表
2002年4月	立地協定締結・造成工事開始
2002年9月	起工式
2002年10月中	鉄骨建て方開始(12月末まで)
2003年6月	官庁検査
2004年4月	竣工式
2004年8月	生産稼動

清水建設史上、この規模の超精密製造施設をこれまでに類を見ない超短工期にて建設することは始めてであり、当社

の総合力を結集して設計・施工にあたりました。無事に完成引渡しができたことが貴重な経験となりました。超短工期も不可能ではなくやれるんだという自信につながったことで、続く第二工場、そして現在工事中の更に巨大な堺工場の建設が可能になったと考えています。

時間との戦い

私が亀山工場の設計責任者として会社から命を受け、現地に赴任したのが2002年の4月初旬です。先行メンバーが既に企画設計を始めており、基本・実施設計を開始しました。この種の超精密製造施設の建設にあたっては、現場内に常駐設計室を設け設計監理をおこないます。なぜならば、製造装置のレイアウトや装置そのものの大きさ、仕様(諸元)が頻繁に変わるため、ほとんど毎日お客様と打ち合わせを行い、設計内容の変更修正が必要となります。またその内容により設計変更を伴うため、関係官庁との協議をタイムリーにおこなう必要があります。まさにクイックレスポンスでないと超短工期で施工しているスピードと合わないからです。亀山工場第一期工事では意匠・構造・設備の各担当者24名の大設計室を設置しました。

レイアウト打ち合わせ時には、製造装置があまりにも大きいために必ず搬送業者も加わり、搬入および搬送ルートの設定が適正かどうかを検討しながら設計が行なわれました。その打合せは時に深夜に及ぶこともしばしばで、日付が変わって設

計室を出た後にお客様からの呼び出しにより、再度深夜の打ち合わせを行なうなど、9月の着工に向けまさに「地獄の毎日」でした。

設計段階から短工期化を実現する工法の検討をおこない、ALCパネルのフレーム先張りによる大型パネルユニット化や、クリーン空調方式の簡素化などいくつかの特許も取得しました。まさに「窮すれば通ず」とはこのことをさすのではないかと考えています。

NHKの「プロジェクトX」は有名な番組でしたが、NHKが取材に来ているという噂が当時あり、ナレーターの語り口をイメージしながら設計者として何を言おうかと真剣に考えていました。工事の途中に番組が無くなってしまって、たいへんガッカリしたことを今でも鮮明に記憶しています。私達は、重圧感、逼迫感に押しつぶされそうになりながらの作業でしたから、竣工したときの達成感は何物にも代え難いものがありました。

完成後、第二期工場の増築計画などを一年に渡り現地でおこなった後、本社に転勤し、その後九州支店勤務となり、現在に至っています。常駐設計室のメンバーの多くが現地に残って引き続き二期工場の増築を担当し、さらに堺工場の担当として現在もまだ奮闘中です。

最後に、亀山工場(第一期)は、当社の最優秀社長賞をいたたくことができ、私だけでなく担当した設計室メンバー全員の大きな誇りとなっています。



全景(左:第一工場 右:第二工場)
(シャープホームページより)

シャープ亀山工場(第一工場)の概要

敷地面積	33万平方メートル(甲子園球場8個分)
工場大きさ	間口 約280メートル、奥行き 約320メートル
延べ面積	大型液晶パネル棟 約13万平方メートル 大型液晶テレビ棟 約7万8千平方メートル



写真-1：市庁舎を見る（設計：ジョン・マッカーサー 1880）

都市計画家 エドモンド・ベーコンと その遺産

世界の建築家と工学院大学⑥



もちづき
望月 大介

1940年 静岡市に生まれる
1964年 工学院大学建築学科卒業
1981年 ペンシルヴァニア大学美術学部大学院修士課程修了
1995年 大学院大学助手、講師、助教授をへて工学院大学教授
2008年 工学院大学名誉教授
現在、日本建築家协会会员
1970年アトリエ開設、住宅、集合住宅を中心に設計活動



都市計画家 E.ベーコン教授



写真-2：市庁舎より東マーケット通を見る



写真-3：北側ボード通を見る

はじめに：E,ベーコンとその著作

日本でのEdmund N.Baconの名前はその名著「Design of Cities」の著者（渡辺定夫訳）として広く知られたと思われます。

この本が出版された1960年代は建築から新たなる都市への提案がメディアに登場した時で、中でも黒川紀章を旗手とするメタボリズムの運動、丹下健三研究室による東京計画1960、菊竹請訓の海上都市案、あるいは磯崎新の空中都市案など建築家たちが盛んに未来の都市を夢想した時代でした。

また、伊藤ていじ先生を中心に「日本の都市空間：建築文化特集号1963年」が出版され、それまでの行政中心の画一的で硬直した都市計画に対する新たな視点がありました。

これまでの日本の都市（町並み）を歴史的、地形的、あるいは文化的因子など総合的視点から都市を見直そうとする動きがジャーナリズムを騒がせはじめました。

時系列ではE,ベーコン著書「都市のデザイン」は1967年に初版本として出版され、その翌年1968年に丹下研究室の渡辺定夫先生によって翻訳出版されています。

翻訳のきっかけについて渡辺先生は「ハーバード大学で都市デザインを研究中、F.モルト教授の仲立ちです」と当時を話されました。

さて、少々うがった見方をすれば、E,ベーコンは「建築文化特集：日本の都市空間」に気づいていたでしょうか。当時工事中（1963年）の代々木オリンピック競技場を渡辺先生の案内で観察されていますが、この著書では法隆寺、代々木室内競技場などを事例に、伝統と現代の両面から都市空間の構成を解説しています。

このような時代背景から都市計画に対する関心とその視点の変化に伴い、建築の集合化から生まれる都市空間を「都市のデザイン」として地形的、歴史的で捉えようとする潮流があったことも、この著書の人気を高めた理由でしょうか。（図-1）

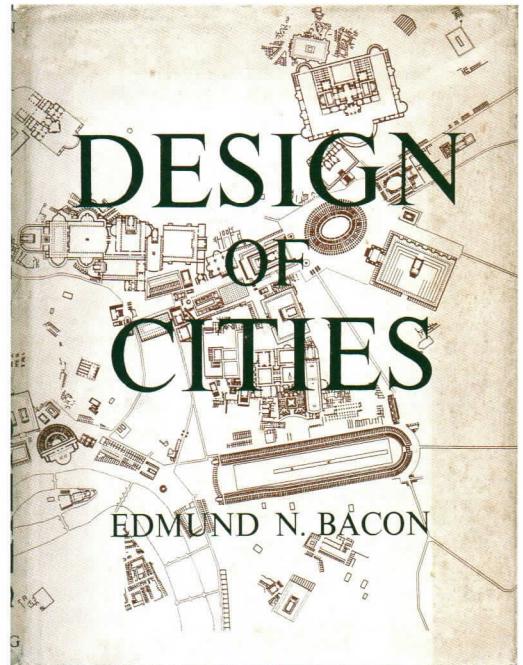


図-1：都市のデザイン表紙

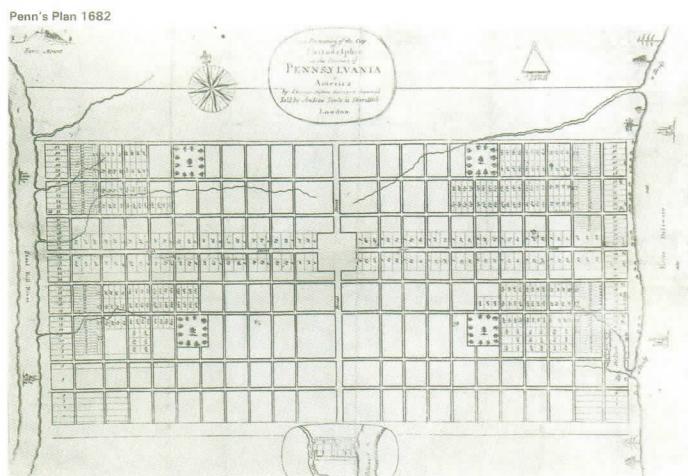


図-2：W.ペンの都市計画（1682年）中央広場が現在の市庁舎

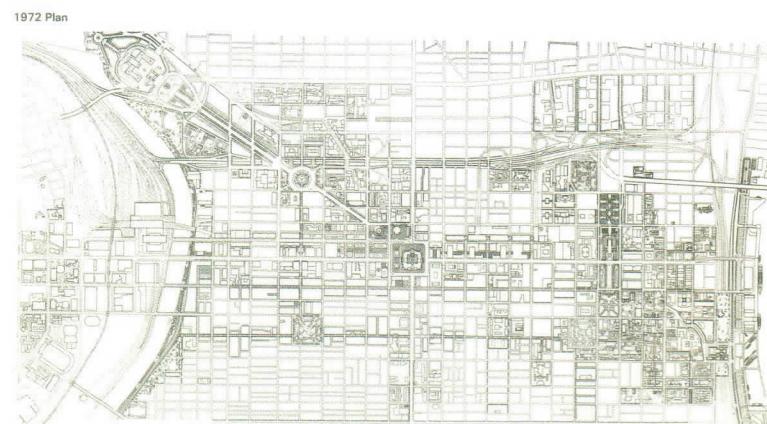


図-3：1972年のフィラデルフィア都市計画（300周年）

E,ベーコンとフィラデルフィアの都市デザイン

アメリカ東部フィラデルフィア市はご承知のようにアメリカ建国の地であり、古くはウイリアム・ペン（1680年代）がロンドンをイメージし、市庁舎を中心に4つの広場からなる都市計画から始まりました。その後、幾多の再開発を繰り返し、古都であると同時に商業都市として発展し、その都市構成はボストンと並ぶ東部らしい静的で格調の高い都市空間を築いてきました。（図-2,3）

戦後1950年以降、市の中心都市庁舎西側ベン・センターから東のソサイティ・ヒル、西はスキルスキー川岸ペンシルヴァニア駅（幹線）周辺など、東西軸（マーケット通）に力点を置いた改造計画が提案され、様々なプレゼンテーションが展開されました。この時、これら全体のコンダクターとして采配をふるったのが市の都市計画局長であったE,ベーコンです。彼は3代の市長のもとで、市内の各地域で再開発計画を実践的な都市デザインとして進めワシントン・スクエア、インデペンデンス・モール、ソサイティー・ヒル、マーケットストリート、B、フランクリンパークウェーなどフィラデルフィア市の代表的都市空間を経年ごとに整備してきました。

（写真-1,2,3）

とくに市庁舎とローガン広場、市美術館を対角線に結ぶB、
フランクリン通は、古都を象徴する都市デザインの事例を見る
思いがします。(写真一4)

E、ベーコンとペンシルヴァニア大学芸術学部

E、ベーコンは1910年生まれ、コーネル大学で建築、さらにクルンブリック・アカデミー（エリール、サーリネンが校長）で建築とプランニングを学び、彼にとってE、サーリネンは偉大な師であり、ここでの体験がその後、様々な影響をもたらしたことは著書「都市のデザイン」からも読み取れます。

ペン大とE、ベーコンとの関係は長く、教授として1949-1989年まで40年余、市都市計画局長として実践と平行しながら、現実的アーバンデザイン教育に精力的に係わってきました。(写真一6) ペン大美術学部100年誌によれば「彼は1939年にフィラデルフィアに戻り、市のハウジング協会(1949)、さらに市都市計画委員会デレクターとして21年間その職責にあった。1960年ペン大のパーキンス学部長の招きで「History and Theories of Civic Design」の講座をE、ベーコンが中心となり、建築家、ランドスケープアーキテクト、アーバンデザイナーなど多数の協力により開設された。その後、さらに総合化され現在のプログラムになった。また、彼は世界的に知られた都市プランナーで、フィラデルフィアの中心地ペンセンター計画(1963)をはじめ、多数の再開発計画を実践してきた。さらには著書「Design of Cities」は5ヶ国語に訳され、また多くの講演、映像を通してその名声が知られ、フィラデルフィア名誉賞をはじめ多数の受賞がある。」

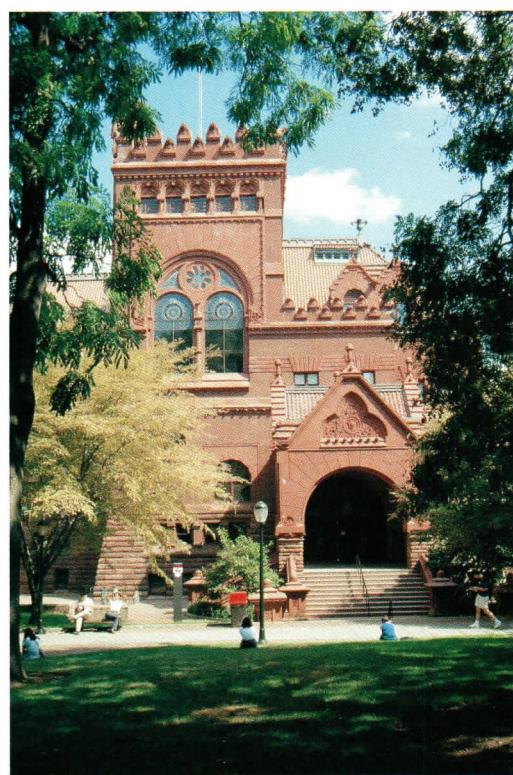
またペン大のHonorary Degrees,(1875-1990)(名誉教授?)にL.I.カーン(1971)、L.ハルプリン(1990)と共にE、ベーコン(1984)が推挙されています。



写真一4：対角線上のB、フランクリン通(突き当たりが市美術館)



写真一5：ペン大美術学部校舎(スタジオ、講義室、オフィス他)



写真一6：美術学部図書館(F、ファーネス1888)
R、ヴェンチューリーにより改修

ペンシルヴァニア大学でのアーバンデザイン講義

1970~80年代の ペンシルヴァニア大学芸術学部は建築、シティ&リージョナル・プランニング、ランドスケープアーキテクチャー、アーバンデザインそれにファイン・アートの 5 学科であり、アーバンデザイン学科はH.パーキンス教授によって1954年設置され、その後、絶え曲折して1968年ごろ基本的カリキュラムが定着したようです。

当時、私は建築の必修設計科目の他に、選択学科の講義科目のひとつとしてE.ベーコンの講義「U.D.715-History and Theory of Urban Design」を受けたのです。あれから30年近くなり、講義に係わる記憶も薄れていますが、そのきわめてユニークな講義の内容とその方法は今も覚えています。

はじめに科目ガイダンスの中で「ハードカバー付き専用ノートを準備し、講義内容、フィールドワーク、中間テストなど全てをもれなく記録すること。さらに講義タイトル、テーマのレイアウトから受講者の自己紹介、経験などを整理しプレゼンテーションしなさい」と言った微細なものでした。(写真一6)

講義方法とそのプログラム

講義プログラム(14週)は前後に分かれて、前半は講義とそのフィールドワーク、後半は受講生の各グループ毎に歴史的、また現代都市の事例研究のプレゼンテーションを要求されます。

講義方法も独特で色々と工夫され、一例として大教室(約200名)に先生が

現れる直前にクラシック音楽が流れると(音楽に疎く曲名は思い出せないのですがバッハ、モーツアルト、ディヴアルディ他?)長身のベーコン先生の登場となります。これら大学院の講義は平常昼間などですが、ここでは午後6時~9時です。

講義がはじまると2台のスライドが交互に画像をオーバーラップさせながら、黒板では特性の色チョーク(1インチ角長さ3インチ)を用いて、例えばイタリア古代広場の概略平面図、断面図などをフリー手で描き憎らしいほどの見事な講義でした。

むろんTA(助手)があれこれと準備するのでしょうか、その演出効果は講義を一層もり立てます。はじめに「都市は美しく、力強くなくてはならない」との一言は実に感動しました。また、講義が終わると大半の学生が立ち上がり、先生が教室から消えるまで拍手で送ると言った具合で、千両役者ベーコン先生には恐れ入りました。

これは余談ですが休憩中、先生との雑談のとき「私は英語が苦手ですが…」と言いますと、笑顔で「心配無用、君にはドローイングというインターナショナル・ランゲージがあるでしょう」と励まされ、先生のヒューマンなお人柄が印象的でした。(図-4)

グループによるプレゼンテーション

このユニークな講義の後半は各グループ(各国留学生を含め)毎に「歴史的あるいは現代都市を考察し、その特性のプレゼンテーション」が行われ、この時はH、T、Mの3君それに私の4名で、テーマを何にするか決めかねていました。(京都、奈良の社寺と町

並、清水寺界隈、桂離宮、修学院離宮など素敵な外部空間+建築事例は先輩たちにより発表済でした)

そこであるパーティーの席で、それとなくベーコン先生に探りを入れたところ「安芸の宮島」は知らないとのこと「海+建築+山(ご神体)」で、テーマは宮島としました。直接的都市ではないが、歴史的建築と海、それに環境のすばらしさが決め手でした。

年長の私が全体のシナリオを書き、H、T両君が英文本体、主たる進行はM君、模型は全員で作り、中でもH君は折紙手法で精度の高い模型($S=1/300$)を披露しました。発表当日(夜6:00~9:00)は「紅葉と厳島神社鳥居のスライド」を背景に「春の海:宮城道雄作曲」を流して、日本の雰囲気の演出が大成功して、ベーコン先生「今日は素晴らしいJapan Day」と喜んでくれました。

このプレゼンテーション(3時間)のためスライド200枚、約3m²の模型を作りました。とくにスライドは私が50枚余、H君が日建設計大阪支店の後輩に依頼し、宮島の現地撮影100枚、それに谷口先生に数十枚お借りして発表した労作でした。結果は大変好評で、改めて歴史ある国に生まれて良かったと皆さんで実感しました。



写真-7: 安芸の厳島神社課題模型

まとめとして

今回のレポートは古い話の掘り起こしになりますが、このように回想してみると時間が凝縮して、つい最近のような錯覚に陥ります。また、東部ペンシルヴァニア大学のキャンパスの雰囲気とその教育システムは多様で、私学の素晴らしい校風があります。

最後に、このレポート作成にあたり「Design of Cities」翻訳者の渡邊定夫先生、建築家の松下一之、志水英樹両先生から貴重な情報をいただき、ここに厚くお礼申し上げます。

(工学院大学名誉教授)

■参考文献

都市のデザイン:E.ベーコン著(渡邊定夫訳)鹿島研究所出版会

建築文化ー特集・日本の都市空間・彰国社

The book of The School /100 Years : Graduate School of Fine Arts , University of Pennsylvania.

Man-Made Philadelphian: R, S, Wurman & J,A, Gallery, The MIT Press

University of Pennsylvania Bulletin, 1979, G, S, F, A

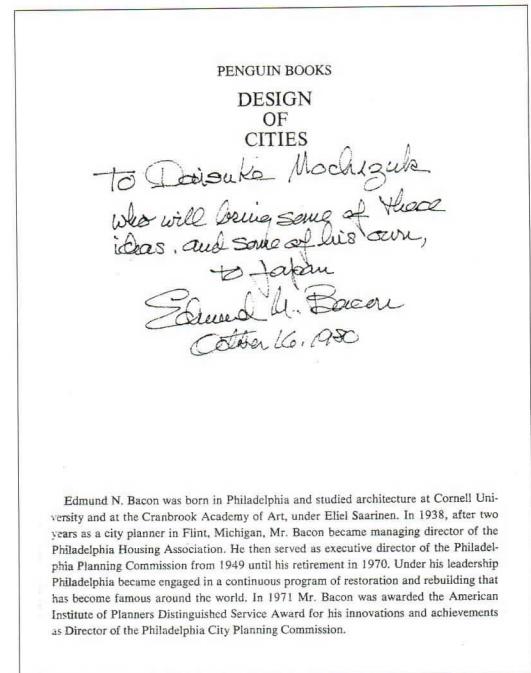


図-4:E.ベーコン教授から頂いたサイン



戸村 英子 Eiko Tomura

東京都東京農業大学第一高等学校(私立)
1997年卒業

工学院大学工学部建築学科都市建築デザイン
コース 2002年卒業(澤岡研究室)

University of Pennsylvania — Philadelphia,
Pennsylvania, USA
*Master of Landscape Architecture—Major in
Landscape Architecture, 2005–2007*

Wallace Roberts & Todd — Philadelphia,
Pennsylvania, USA
Landscape Designer 2007

Mosbach Paysagistes — Paris, France
Paysagiste 2007—現在



建築と ランドスケープ? アーキテクチャに 魅力を感じる



WRT - Happy Hour

Mosbach Paysagistes - Jardin Botanique de Bordeaux





WRT - NJ Capital Park AERIAL

現在わたしはフランスの、ランドスケープ・アーキテクチャのデザインの現場で働かせてもらっています。フランスに来てから、もうすでに一年半が経ちました。そもそも、私がなぜランドスケープ・アーキテクチャに強い関心をいただくようになったかと申しますと、それは工学院大学で受けた興味深い授業の数々と、多くの先生方に親身なアドバイスをしていただいたことが、そのきっかけであったと思っています。その後、ランドスケープ・アーキテクチャを米国で学んでみたいと思う気持ちが次第に強くなってきました。

しかし、いま考えると、その当時の私はランドスケープ・アーキテクチャというものが、一体どのようなものなのかということを正確に把握していなかったと思います。ひとくちにランドスケープ・アーキテクチャといっても、その領域は多岐にわたっています。ペンシルベニア大学のランドスケープ・アーキテクチャ学科では、その幅広い分野をカバーするため、多様なカリキュラムが組まれていました。それまで建築のことしか知らなかった私にとっては、とても驚きで、全てが新鮮でした。特に印象的だったのは、



WRT - NJ Capital Park PLAN

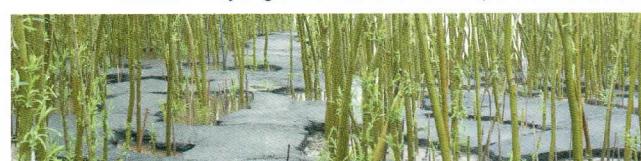
入学してから正式な授業が始まるまでの2週間、毎日何時間もかけて山や湿地帯をバスで移動し、そこで実際の自然に触れながら、様々な植物に関する授業を受けたことでした。そのクラスの担当教授もとてもユニークな方で、土をつかむなり口に含んだりして皆を驚かせたりしていたのを覚えています。他にも特異な授業の進め方をする教授がたくさんおられました。

PENN大の授業の進め方の一端を申し上げますと、メインのスタジオの授業においては、まずサイトまで実際に足を運び、デザインプロットや問題点などを探し出す作業から始まります。サイトは米国内に限らず、世界各地に設定されているので、インド、フランス、中国、イタリアなど、海外にも実際に足を運びます。それからは、三ヶ月後のファイナル・プレゼンテーションに向けてスタジオにこもる日々が続くのですが、他のクラスの課題なども同時進行でこなさなければならないので、常に時間に追われ、体力的にも精神的にもとてもつらい毎日になります。

スタジオ授業における主な特徴は、ただデザインを勉強するのではなくサイエンス技術などを織り交ぜながら、提示されたMethodologyに当てはめスタディーを繰り返しました。特に2セメスター目のスタジオにおいては、前半の2ヶ月はランドスケ



Mosbach Paysagistes - Jardin Botanique de Bordeaux



Mosbach Paysagistes - Quebec Exhibition Garden



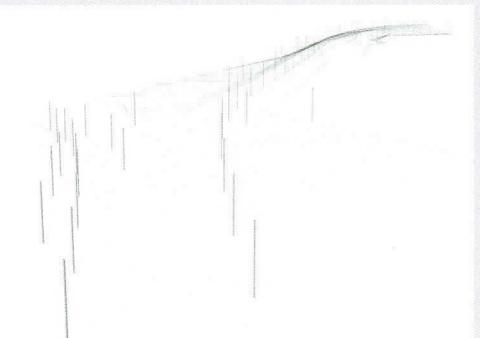
Mosbach Paysagistes - Louvre Perspective



Mosbach Paysagistes - Louvre Perspective



Mosbach Paysagistes - Louvre Plan



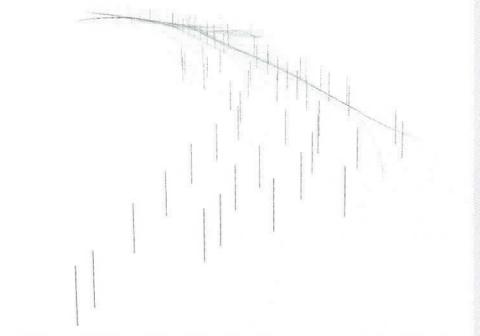
Mosbach Paysagistes - Louvre 3D Section



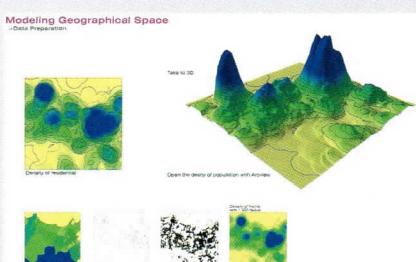
Mosbach Paysagistes - Louvre Sections



Mosbach Paysagistes - Louvre Perspective



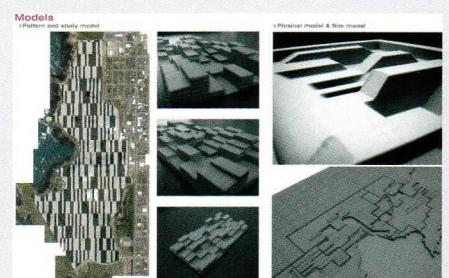
Mosbach Paysagistes - Louvre 3D Section



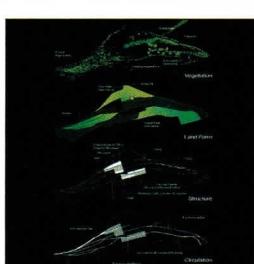
University of Pennsylvania - Class of Modeling Geographical Space



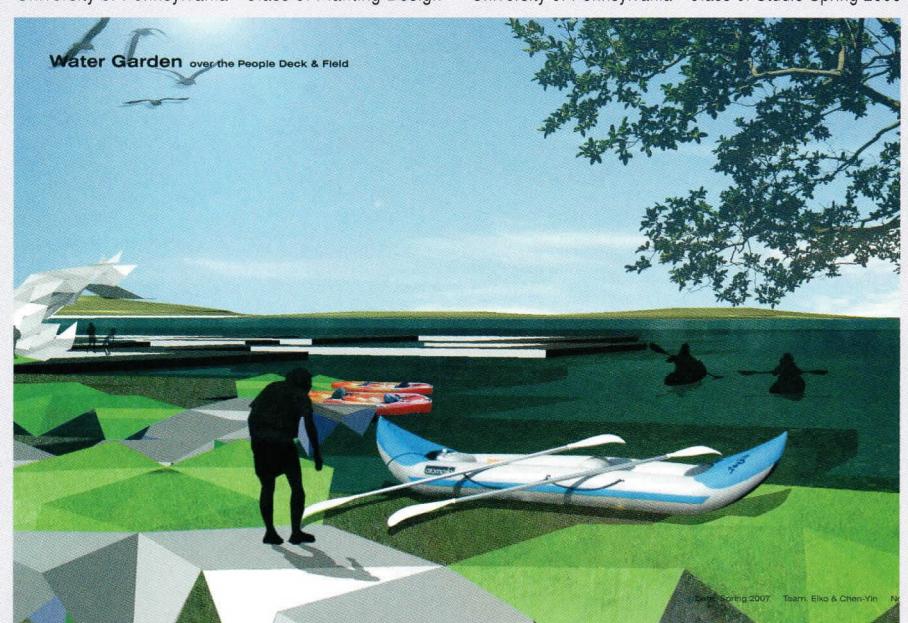
University of Pennsylvania - Class of Planting Design



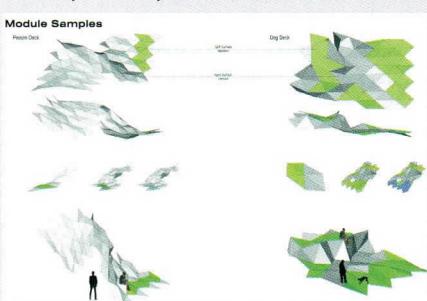
University of Pennsylvania - Class of Studio Spring 2006



University of Pennsylvania - Class of Studio Fall 2007



University of Pennsylvania - Class of Studio Spring 2007



University of Pennsylvania - Class of Studio Spring 2007

のデザインから離れ、図書館でRemediation(ファイリメイエーション・バイオリメイエーションなど)=土壤と地下水の修復技術について徹底的に調べることになります。そして残りの2ヶ月で、デザインプロットを技術と連動させ、形にしていくという作業に移っていくことになります。そんな日々を二年間、私はPENN大で過ごしました。

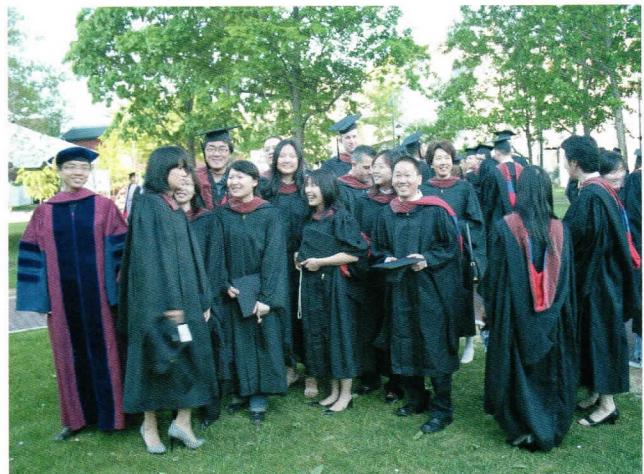
ペンシルベニア大学を卒業後、私はフィラデルフィアにあるWRT(Wallace & Robert & Todd)というランドスケープ・デザインの会社に入社しました。この会社は、シティープランニング、アーバンデザイン、ランドスケープ・アーキテクチャ、建築などの垣根を超えたものづくりをしている会社でした。いろいろな分野の人達とひとつのチームで一緒にデザインをする作業は、私にはとても新鮮でした。残念ながら4ヶ月間ほどしか働くことは出来なかったのですが、その間にNew Jersey Capital Parkなどのプロジェクトに携わることができました。WRTは、社員の1/3くらいが外国人で構成されており、会社の雰囲気も開放的で私としてもとても働きやすい職場であったのですが、スタジオで熱心に教えていただいた教授がSANA AとLOUVRE LENSのプロジェクトをやっていることもあります。そちらに移ることを決意いたしました。短い期間ではありますが、アイデアと活気で溢れていたWRTという会社で、アメリカのランドスケープ・アーキテクチャに接する機会を得られたということは本当に幸運であったと今でも思っています。

WRT退社後、フランスへ移った私は、現在の職場であるMosbach Pysagistes というCatherine Mosbachの個人事務所で働くことになりました。先ほども述べましたが、Catherine Mosbachは大学院時代のスタジオの先生だった方です。こちらの事務所はアメリカ時代とは全く異なり、少人数の小さなアトリエですが、いろいろな国のプロジェクトを行っています。過去の作品としてはフランス・ボルドーのボタニックガーデンやカナダ・ケベックのエキスピジョンガーデン等があり、現在の主なプロジェクトとしては、私がフランスに来るきっかけになったLOUVRE LENSの設計があります。

フランスにいながら日本のSANA Aさんと一緒に仕事を出来るということや、建築とランドスケープ・アーキテクチャが共に一つの作品をつくるというやり方に、すごく魅力を感じています。このプロジェクトに参加しなければともお会いできなかつたような方たちと、お話しできる機会が持てたことなども、とても刺激になっています。また、このような機会を与えてくれたMosbach教授には、たいへん感謝しています。

こうして振りかえって見ると現在の私があるのは、最初の工学院時代から支えてくれた多くの先生方、チャンスを与えて続けてくれた周りの人達、それらすべての人たちのお陰だと改めて実感させられます。このような素晴らしい方々と出会えることができたことは、本当に幸運だったと心から思っています。

これからも人との出会いを大切にしながら、日々精進していくたいと思っています。



University of Pennsylvania - Graduation Day



University of Pennsylvania - Class of 2007



University of Pennsylvania - Happy Hour



University of Pennsylvania - Class of Summer Field Trip

イタリアの建築・歴史・芸術

やさわ
矢澤みどり
美鳥

出身高校 埼玉県立川越女子高等学校
 大学 工学院大学建築学科建築コース
 2007年卒業(山本理顕研究室)
 大学院 工学院大学大学院建築学専攻
 (渡航時)修士2年(中島智章研究室)

はじめに

日本でも、近年建築の長寿命化などに伴い、既存ストックが増加してきています。戦後の不足をどんどん埋めるという時代に比べ、現代では、必要に迫られた新築の需要は少なくなりました。将来の人口減少や環境問題のことを考えると、これからますます既存ストックができるだけなく、よく使っていくというサステナブルな建築物・環境づくりが求められていくでしょう。

建築再生に関する、ある資料によると、建築工事費用全体に占める改修工事費用の割合は年々増加し、日本では現在約20%ですが、ヨーロッパでは約50～70%にまでなっているそうです。ここから世界的に見ても新築の需要が減り、建築を再生するための工事が進められていることがわかります。イタリアには世界遺産や文化遺産もたくさんあります。古い建築に手を加えている例を街中で自然と目にすることができますので、人と建築との距離の取り方を参考にしたいと思い、イタリアを訪れました。イタリアではミラノ、ヴェネツィア、フィレンツエ、ローマの4都市をまわり、それぞれのもの雰囲気を比較することができました。



溜息の橋(ヴェネツィア)



音楽公園Auditorium Parco della Musica(ローマ)
 今にも動き出しそうな迫力のある大中小の3つのホールを備えている。
 Renzo Piano設計(2002)

建築と歴史

イタリアで初めてミラノのドゥオモに入ったとき、その大きく重厚で荘厳な内部に感動しました。無宗教の私ですが、ここはなんだかとても神聖な場所なんだということを肌で感じました。そして、しばらく何を見るわけでもなく、そのまま

そこに立ちつくしていたのを覚えていました。どこに建築の価値があるか、いろいろあるけれど、中に足を踏み入れるだけで気付く価値もあることをそのとき私は、経験しました。

街中には部分的に工事中の建築物も多く、歩いていると仮囲いをよく見かけました。新築の工事現場を目にする



高台から見下ろしたフィレンツェ市内 同じ色の瓦が続く美しい景色



コロッセオ（ローマ）
新線となる3番目のメトロの地下工事中



ドウオモからみたガッレリアのファサード（ミラノ）
工事中の仮囲いにはもとのファサードが印刷されている。

ことはほとんどなく、改修なり、補修なりしながら使っていることがわかります。そんな中で私が気になったのは、仮囲いに描かれた、建物のファサードです。一見すると工事中であることに気付か

ないようにファサードが囲いの上にも延長されています。観光地であるからなのか、こんな気遣いがユニークだと感じました。

ホテルは古い住宅などを改装したもの



サン・マルコ寺院（ヴェネツィア）

のが多く、設備は最新というわけではありませんでしたが、雰囲気があり、新築でつくるのとは異なるセンスの見せ所があるのだと思いました。

ローマではレンゾ・ピアノ設計の音楽公園Auditorium Parco della Musicaを見学したのですが、歴史あるローマの街に現代的なオーディトリアムがふさわしくないと反対する声もあったそうです。歴史を守ることと近代化のバランスをとることは簡単ではないようです。

建築と芸術

イタリア各都市では、建築だけでなく、(建築を芸術と分けて考えるとするならば)多くの芸術作品に触れる機会が多く、たくさんの絵画や、彫刻などを見学しました。

美術館や宮殿、教会の内には建築と芸術の境界線をひけないほど素晴らしい装飾が施されているものがあり、そういう場所で、非日常の時間を過ごしました。

特にフィレンツェでは建築と芸術の結びつきを強く感じました。ミケランジェロやダヴィンチ、ラファエロといったルネッサンスの巨匠の作品を間近で観ることができたのは私にとって素晴らしい出来事でした。そして、彼らの残した建築作品も絵画や彫刻とともに観ることができました。芸術家による建築作品を見学したときに、この場合の「建築」は絵画や彫刻の延長線上にあることを感じ、本当に広い学問であることを再認識しました。

ちなみにふらっと立ち寄った本屋では建築関連書籍は工学ではなく、芸術のカテゴリーに分けられていました。



ドゥオモ [サンタ・マリア・デル・フィオーレ] とジョットの鐘楼 (フィレンツェ)

おわりに

私が日本に帰ってから、日本人観光客のフィレンツェのドゥオモにした落書きが問題になりました。これにはとても驚きました。「落書きするなんて信じられない!」というよりは、現地で既にたくさんのお客様が落書きを目にしていました。

ドゥオモの通路やテラスは多くの観光客が訪れる場所らしく、各国の様々な文字による落書き(というよりはたくさんの彼らのサイン)で埋め尽くされました。思いもよらず、最近訪れた場所が、ニュースになったので、ひとごととは思えませんでした。もちろん、私は思い出を残すために、サインをするという方法はとりました。出発前に、幸運にもミケーレ・ファネッリ氏、ジョバンニ・ファネッリ氏によるブルネレスキのクーポラに関する講演を聴けたので、そのお話を現地で反芻できたことが贅沢な思い出になりました。

どの都市も、歴史の上に現代の生活があり、とても魅力的で、今回の滞在日数(8泊10日)ではまだ足りないほどでした。イタリアは、是非再び足を運び、滞在したいと思うステキな国でした。初めてひとりで海外渡航をしたのですが、ほかの国にも行ってみたくなりました。

今回の旅に関わる方々や現地で出会い助けていただいた方々には大変感謝しています。大きなアクシデントもなく無事に旅ができたのはたくさんの方のおかげだと思います。今回の経験をこれから活かしたいとおもいます。学生生活最後の年に、充実した印象深い時間をありがとうございました。



クーポラ内通路Santa Maria Del Fiore (フィレンツェ)
通路内のいたるところにびっしりと落書きがあつて壁の模様のようになっている

シカゴ 建築の旅

おお いし
大石あきの
秋

出身高校 神奈川県 川崎総合科学高等学校(公立)
建設工学科 都市工学コース
2005年卒業

大 学 工学院大学 建築学科 環境建築コース
2009年卒業予定 遠藤研究室

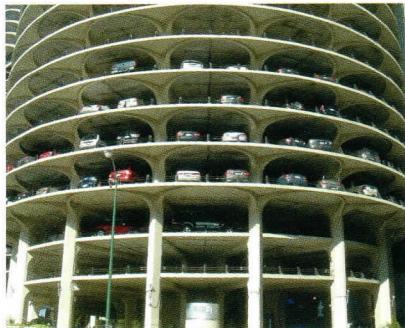
メールアドレス d305010@ns.kogakuin.ac.jp

シカゴ

9月の初め。日本を発つ時は30度近い蒸し暑さだったのに比べ、シカゴでは肌寒い日々だった。電車がたくさん通っている街なので交通手段には困らなかつたが、切符の買い方が分からず、最初は駅員さんに買ってもらった。ここは日本ではないことを改めて感じた時だった。

2 本のトウモロコシ

シカゴでまず見てみたかったのが、マリナシティ。写真などによく目にする、トウモロコシの愛称で呼ばれるユニークな形の双子のビル。下部18階がらせん形の駐車場、その上がランドリーと居住者用の収納室、そしてその上の40階分がアパートとなっている。らせん型駐車場を間近で見ると、駐車が下手な人だと車が落ちてしまうのではと不安に感じる。アパート部は半円形のバルコニーが突き出して、この独特なデザインになっている。設計者はミースの生徒だったバートランド・ゴールドバーグ。ミース派の“鉄とガラス”的建築が多いシカゴで、まったく異なるコンクリート構法を利用している。



らせん形の駐車場

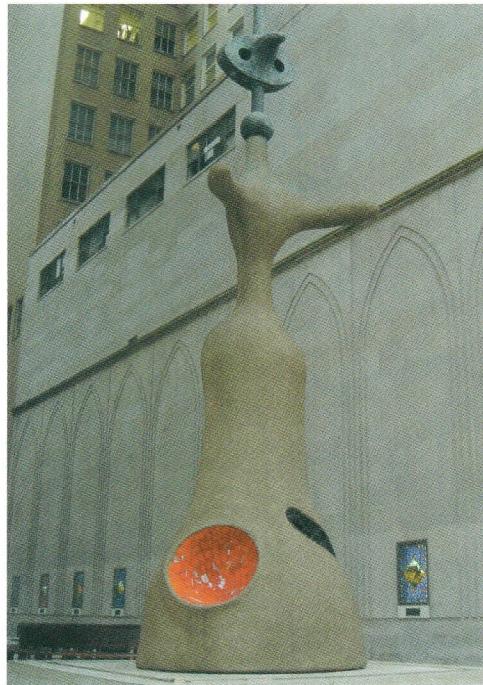


マリナシティ

街 中ギャラリー



ピカソ



ミロ作「シカゴ」

ピロティ

超高層のビルが密集するシカゴだが、ビルによる圧迫感はあまり感じられなかった。湖と川に囲まれた地形と、適度に存在する広場、そしてビルのピロティによる効果だと思う。このピロティはシカゴのビルに多く見られ、ビル1階の外側部分を一周

ぐるっと存在し、中心の室内空間がガラス張りとなっているものが多い。かなりの高さがあり、道路ギリギリまで建っているビルでは歩道として機能している。



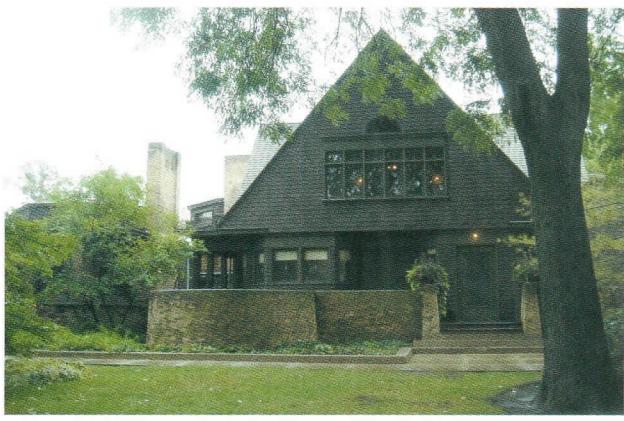
シカゴ・フェデラル・センター(ミース・ファン・デル・ローエ)

オーク・パーク

オーク・パークは、シカゴの中心街から少し離れた郊外にある閑静な住宅街。この町は、フランク・ロイド・ライトが住み、彼が設計した住宅が数多く残っている町として有名。町を歩くとライトの作品

も多くあるが、それ以外の住宅も可愛い外観の住宅ばかりである。

ライト邸とスタジオの内部を見学した。家族構成の変化に合わせて何度も増改築を行ったが、それを感じさせない絶妙な空間のセッティングや細部までのかだわりを見て、彼の素晴らしい才能を感じることができた。



フランク・ロイド・ライト邸



ムーア邸(ライト作)



オークパークにある住宅

アーサー・B・ヒュートレイ邸(ライト作)

成長

シカゴにはまだ建設中のビルも多く見ることが出来た。この街はまだ成長途中だ。私もこの旅で異文化に触れ、日本では見ることのできない建築に触れ、少し成長した。今後も

多くのものを吸収して成長し、数年後、同じく成長したこの街を訪れたいと思う。きっと、今とは違う色のシカゴを見ることができる。



シアースタワーから見たシカゴの夜景

この海外視察には、工学院大学建築系学科学生・大学院生海外渡航奨励金が支援されています。詳しくはNICHE HP <http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku>をご覧下さい。

ドイツ 産業遺産都市を 訪ねて

こまつ
小松はるな
春奈

出身高校 埼玉県立本庄高等学校 2004年卒業
 大学 工学院大学建築系学科
 建築学科建築学コース 2008年卒業
 大学院 工学院大学大学院
 工学研究科建築学専攻
 修士課程 東研究室

はじめに

今回の渡航では、ドイツを中心として回ることを選択した。今回一番の目的は、ドイツのルール地方エッセン郊外に位置する、ツォルフェライン(Zollverein)炭坑群を視察することであったからである。この、ユネスコにも登録された産業遺産が、現在どのような形で保存・再活用されているのかを学びたいと考えた。

歴史の追体験

ツォルフェライン炭坑群の観光拠点となっている「第12坑」には、全体のマスター・プランも手掛けているOMAによって改修されたビジター・センターがある。そのほかの建物には、炭坑ボイラー施設を改装した商業デザインを展示するレッド・ドット・デザイン・ミュージアムや、ギャラリー、レストラン、カフェ、ピアガーデンなどが入っている。ビジター・センターでは、コンサートの案内や、工場内部見学ツアーの受付などを行い、一般訪問者の玄関口となっている。

OMAによる改修は、既存の炭坑建築独特のものと同様の意匠を持つ、新築部分を部分的に加えることで、その



ツォルフェライン炭坑:世界一美しい炭坑であると評価されている。

利用性を高めながら、炭坑独特の空間体験をいっそう強調する方法でなされている。具体的に言うと、石炭運搬の通路と同じような通路を既存の建物に付加したのである。それが、地上からビジター・センターのある4階部分へと直通するエスカレーターだ。斜めに突き刺さるビビットな色をしたエスカレーターは、世界遺産である周囲の建物

全体を見渡せるようガラスで覆われており、来場者は、まるで石炭になったかのように空中を運ばれ、石炭が行き來していた工業的なスケールを追体験するのである。到着したフロアの半分は、当時の製炭機械がそのままに保存され展示しており、解説パネルとともに来場者が無料で自由に見学できるものとなっている。



かつての石炭運搬路を改修した遊歩道によって、敷地内を行き来できるようになっている。

機能喪失による美

また、産業敷地内の端には、おそらく唯一の完全な新築物であるSANAA設計のツォルフェライン・スクール（2006）がある。レンガ色の廃墟群や廃線とはまるで関係のないコンクリートの外観をしており、不揃いで不均一なスケールレスの窓を持つ。その開口部ゆえ不確かな抽象性を持ち、この地区のなかで何か気になる、浮いた存在となっている。炭坑地区とも市街地とも一定の距離を持ち、それらのノードに存在し、どちらにも属していないその建物があることによって、炭坑地区の終わりに、そして市街地の始まりに来たことが分かる。それはまるで、ささやかに時の経過を示す信号のようである。この信号は、公害という過去の過ちを「負の遺産」として保存し続け、それに一種の美德と背徳を同時に感じているのであろう地元住民を、何か精神的に解放している存在であるのではないか。

炭坑群は、その「機能」により成立してきた建築物である。この地で行われていた炭坑群の再活用では、機能喪失や機能のズレによる美があることを引き出し、発現させるものであった。そして、このSANAAのツォルフェライン・スクールも、開き直っているかのように



ツォルフェライン炭坑ビジター・センター：他フロアはルール美術館として改裝中であった。

明るく、それはもう思いっきり地域の中で、ズレている。それゆえに美しく、そして優しい。「まったく関係ないものをつくる」という、この地域にとって画期的な、しかし必要な操作を行ったのではないか。それもまた、産業遺産群に対する立派な答えなのだと感じた。

おわりに

私は今回の渡航で、ドイツ北東部のベルリン、西部のデュッセルドルフ、そし

てドイツ・フランスとの国境付近にあるイスのバーゼルを拠点とし、2週間をかけて巡った。宿泊先にはユースホステルを利用したので、時には世界各国の旅行者と相部屋になり、交流を重ねることができた。一人で安全に旅を続けることができたということや、異國の人々とコミュニケーションができたことは、自分にとってとても貴重な経験であり、自信にもなった。

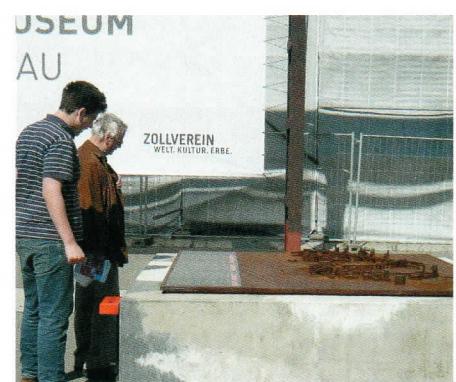
今回の海外渡航を支援していただいた建築学科の先生方、同窓会の皆様、そして応募を進め、何かと配慮をしてくださった東教授には、心から感謝をしています。今回の経験を活かし、今後の研究活動をより充実したものにしていきたいと考えております。本当にどうもありがとうございました。



Bauhausの機能主義を体現する炭坑建築群（1932年）



ツォルフェライン・スクール（2006年）



鋳鉄製のジオラマを眺める

学校法人 工学院大学創立125周年 特別企画

皇室建築と工手学校

浅羽 英男

博物館造営課博交會

昭和二十年十一月



臨時帝室博物館造営課 博交會 昭和11年12月14日

前列 左より3人目 市石英三郎 5人目 久保福太郎 7人目 山本常雄 右端 永井孝直

2列目 右端 前田辰男

3列目 左端○内 川口英太郎 ○内を除く左より8人目(和服)田巻正光 9人目 芹澤重雄

4列目 右端 田中辰次郎 右より2人目 柳下武雄

はじめに

工学院大学の前身であります工手学校・工学院の造家学科（後に建築学科）から数多くの卒業生が明治中期から昭和前期にかけて宮内省内匠寮（たくみりょう）の技師等として皇室建築の造営に参加し、その人数は現在解っているだけで68名にのぼり各大学、専門学校から宮内省に入省した中で、一番多い卒業生を数えます。

入省した技師達の造営した建物等を見ると工手学校造家学科設置以後の歴史と明治中期以降から昭和前期に至る皇室建築造営の歴史は軌を一に歩んできたことが解ります。

技師達の関わった建物は、木造の明治宮殿と明治期洋風建築の集大成といわれる東宮御所（現迎賓館・赤坂離宮）を頂点とし、現在国的重要文化財建造物となっている東京・京都・奈良の各国立博物館や東京都有形文化財指定の朝香宮邸（現東京都庭園美術館）など多種・多様です。戦後最初の国家的プロジェクトであった現宮殿造営に卒業生が中枢技師として名をつらねる栄誉も得ています。

卒業生の宮内省内匠寮技師達と関った皇室建築を紹介します。

内匠寮（たくみりょう） 概要

工手学校・工学院卒業の技師達が勤務した宮内省内匠寮は、皇室に関わる施設の造営や管理を受け持った部局で、現在の宮内庁管理部の前身として1885（明治18）年から1945（昭和20）年まで存在していました。

かつて造営に関わった部局は時代によって様々でしたが、その歴史は連綿と受け継がれ、現在の管理部に至っています。内匠寮もそのひとつで728（神亀5）年にさかのぼります。宮中の造営に関わる部局の歴史は古く（701—704）大宝年間より以前に既に「造営官」という官職が置かれていました。以後、時代により造宮職（ぞうぐうしき）、木工寮（もくりょう）、内匠寮、修理職（すりしき）が置かれました。このうちで修理職は幕末まで存在したことが判明しています。江戸期には、京都御所の火災による再建等の大造営は幕府により行われ、修理職はその配下に属しました。

内匠寮の存続は江戸期の中頃から不詳です。

明治期に復活した内匠寮は宮殿、御所、御用邸、宮邸、御陵、御料牧場等、広範の皇室建築・土木・庭園の造営と管理をしてきました。現在の管理部も同様です。



大正元(1912)年 渡欧の際、船上にて撮影 後列中央が設楽貞雄



江戸橋 郵便電信局 庁舎 片山東熊

また、歴代天皇の御代替わりの「大喪の礼」と「即位の礼」での儀式用布設も内匠寮から現在の管理部に引き継がれ、今日に続く布設形態は歴史の証左になっています。

技師紹介

■設楽貞雄(しだら さだお)

1864(文久4)年—1943(昭和18)年

福島 二本松藩生まれ

1889(明治22)年7月に工手学校造家学科第1回を優秀な成績で卒業しました。1891(同24)年に完成した江戸橋郵便電信局庁舎請負の日本土木会社出張所に勤務。1892(同25)年、帝国京都博物館(現京都国立博物館)請負の日本土木会社出張所に勤務、工事半ばに会社の発展的分社により、同工事は宮内省内匠寮の直営として行われました。設楽貞雄は内匠寮の場所付雇となり引き続き同現場に勤務。(注2)1895(同28)年、同博物館完成に伴い、東京に戻り皇居内の宮内省庁舎の耐震補修工事に1896(同29)年まで場所付雇として勤務。同年11月、山口半六が建築部長として在職する大阪市の桑原工業事務所に勤務。(注3)1899(同32)年同事務所の閉鎖に伴い、山口半六設立の事務所に参加し事務所支配人・所長代理となります。1900(同33)年、山口半六の死去を契機に山陽鉄道株式会社に転身。(注4)1907(同40)年、神戸建築工務所を設立。1913(大正2)年、設楽建築工務所と改称します。1932(昭和7)年まで所長として活躍。大阪の新名所である新世界に初代通天閣を設計し建築界に名を知らしめました。工手学校卒業生で最も活躍した建築家の一人です。

なお、東京橋郵便電話局と帝国京都博物館は当時、宮内省内匠寮技師でした片山東熊の作品(東京橋郵便電話局は当初片山東熊の工部大学校の同級生、佐立七次郎設計の予定でしたが欧米出張と重なったため片山に委嘱された)です。

また、工手学校造家学科第1回卒業の同期生に東宮御所(現迎賓館・赤坂離宮)に先立ち1902(明治35)年竣工した日本で最初の本格的な鉄骨煉瓦造の三井本館設計チームの一人でした近藤磯五郎(1911(同44)年 内匠寮技師に任官)や日本銀行本店(明治29年竣工 国重文)の造営に参加した下条禎一郎(学習院女学部臨時建築部)も皇室建築造営に貢献しました。

■小林福太郎(こばやし ふくたろう)

1882(明治15)年—1938(昭和13)年

東京生まれ。1899(明治32)年

工手学校第20回を首席で卒業。

初め内務省社寺局保存会に勤務。

1908(明治41)年 宮内省内匠寮工務課に入省。1919(大正8)年まで勤務。



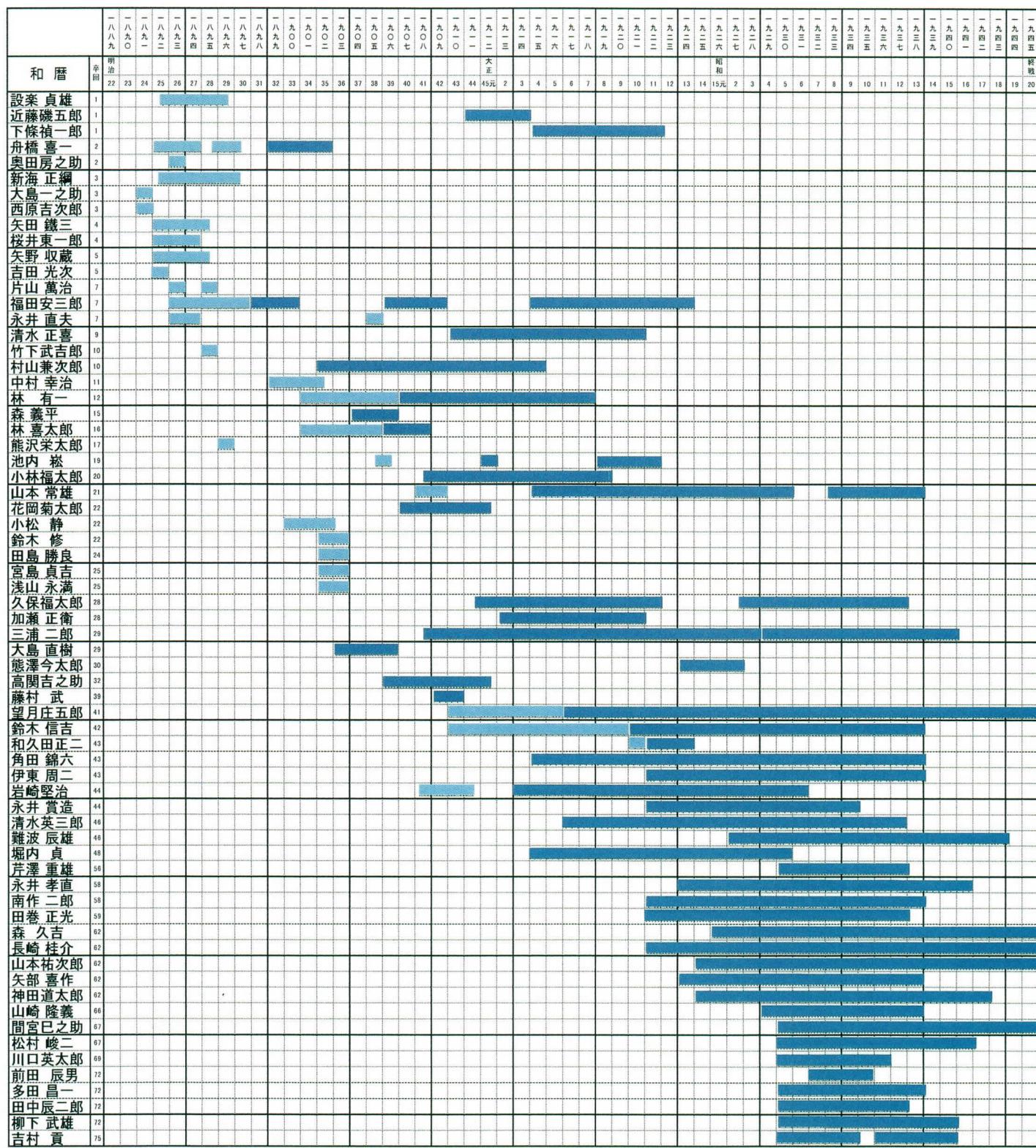
退官後、日光社寺修理事務所主任技師を経て、社寺専門の設計事務所を開設し没年まで現役でした。

内匠寮時代は御代がわりにおける「明治天皇大喪の礼」及び「大正天皇大礼」での布設に貢献。建築学会発行の略歴によれば、「宮内省在職中、大正大典御料車並賢所移御車内部装飾製図担当、また桂、修学院、二条、名古屋の各離宮の御殿修復を担当」とあります。同略歴では内務省時代を含め修復等に関った社寺は61を数え範囲は26府道県に及ぶ外、樺太、台湾、中華民国、朝鮮、南洋の9社もあります。

内務省技師大江新太郎の下での日光廟修復では第三期修理工事監督主任技師としての多大な功績は特筆されます。(日光廟は先年、世界遺産になりました)

大正・昭和初期の日本を代表する社寺建築家の一人です。一方、各種の設計コンペにも優秀な成績を収めるなど社寺建築以外でも広範に才能を發揮しました。

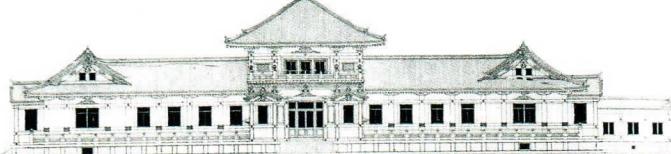
工手学校・工学院 卒業生「宮内省内匠寮」技師の在籍期間と作品



場所付属

技師·技手·囑託·技手補·匠生

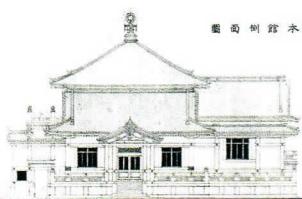
四庫正統本



时局馆立西面



卷一百一十五



明治神宮宝物殿競技設計 正面立図 宮内省内匠寮技手 小林福太郎

工手学校・工学院卒業生の設計に関わった主な皇室建築・その他

京都帝国博物館(現京都国立博物館)、宮内省庁舎耐震修繕、東京逓便電信局、山陽鐵道施設全般、初代通天閣
明治天皇大喪の礼布設、大正天皇大礼布設、旧三井本館、小川一真写真館、九州電灯鉄道社屋
学習院女学部校舎、日本銀行本店、日本銀行大阪支店、台湾總督府施設全般
奈良帝国博物館、宮内省庁舎耐震修繕、東宮御所(赤坂離宮・現 退賓館)、華族女学校災害修繕
沼津御用邸本邸、長野駅改築全般、設計事務所自営
京都帝国博物館(現京都国立博物館)、宮内省庁舎耐震修繕、東京逓便電信局、大阪市北洋銀行
明治官廳、伏見宮邸
伏見宮邸、日本奉十字社福岡支部
京都帝国博物館(現京都国立博物館)
奈良帝国博物館(現奈良國立博物館)
京都帝国博物館(現京都國立博物館)
奈良帝国博物館(現奈良國立博物館)
官ノ下御用邸(現畠倉富士屋ホテル菊華荘)、麻布市兵衛町御用邸(皇后和宮・靜宜院宮の旧宅)、芝離宮洋館
京都帝国博物館(現京都國立博物館)、宮内省庁舎耐震修繕、東宮御所(赤坂離宮・現 退賓館)、(伊勢)神宮御古館
荒山御用邸本邸、賀所御三殿修繕、青山御所改築、明治天皇大喪の礼布設
皇室施設全般、函崎草創行、大藏省營繕局財務局施設全般
青山御所改築
埼玉鶴鳴御所、埼玉鶴鳴御所、明治天皇大喪の礼布設、大正天皇大礼布設、沼津御用邸
東宮御所(現退賓館赤坂離宮)、日本銀行新潟支店 施設全般
東宮御所(現退賓館赤坂離宮)、大日山木造地盤所、明治天皇大喪の礼布設、大正天皇大礼布設、沼津御用邸
(上野)表慶館、埼玉縣行及び施設全般
東宮御所(現退賓館赤坂離宮)、昭和天皇大礼布設、大藏省營繕局財務局 施設全般
國院宮邸、自立製作所笠戸工場、長崎銀行各店舗
沼津御用邸西付臨廬、明治天皇大喪の礼布設、警視庁 施設全般
明治天皇大喪の礼布設、大正天皇大礼布設、林・修学院・二条離宮修復、日正神修復、浅草寺本堂昭和大修理
(伊勢)神宮御古館、東京帝室博物館(現東京國立博物館)、昭和天皇大礼布設
帝室林野局庁舎
東宮御所(現退賓館赤坂離宮)、日本銀行新潟支店(済水組)
東宮御所(現退賓館赤坂離宮)
東宮御所(現退賓館赤坂離宮)
高輪御用邸学問所、山陽鐵道会社施設全般、朝鮮總督府行
東宮御所(現退賓館赤坂離宮)、日英捕獲金事務所勤務
武庫御宮、東京帝室博物館(現東京國立博物館)、多摩駒場御所、大正天皇大喪の礼布設、昭和天皇大礼布設
皇室施設全般、内務省御神宮使行施設全般、海軍省施設全般
大正天皇大喪の礼布設、昭和天皇大礼布設、那須御用邸付臨廬、同本館増改築
(上野)表慶館、京都大丸裏店
皇室施設全般
埼玉鶴鳴御食堂、北白川宮邸、當南坂官舎、警視庁 施設全般
皇室施設全般、農商務省施設全般
大正天皇大礼布設、昭和天皇大礼布設、頃香宮邸(東京都庭園美術館)、田江戸城富士見櫓修復
皇室施設全般
皇室施設全般、東京府行 施設全般、設計事務所自営
大正天皇大喪の礼布設、昭和天皇大礼布設、学習院施設全般
昭和天皇大礼布設、東京帝室博物館(現東京國立博物館)
北白川宮邸、昭和天皇太廟の礼布設、昭和天皇大礼布設、(昭明皇后)大宮御所
東伏見宮邸、昭和天皇大礼布設、二代目宮内省庁舎、旧高松宮邸、旧江戸城辰巳橋修復
東京帝室博物館(現東京國立博物館)、新宿御苑旧門衛所、学習院中等科教室棟、広島県物産陳列館(原爆ドーム)
昭和天皇大礼布設、明治神宮外苑施設全般
昭和天皇大礼布設、東京帝室博物館(現東京國立博物館)、設計事務所自営
東京帝室博物館(現東京國立博物館)、竹中工務店勤務
東京帝室博物館(現東京國立博物館)、学習院昭和寮(現 日立自白クラブ)、東京市施設全般、工学院角筈校舎コンペー等
皇室施設全般
昭和天皇大礼布設、東京帝室博物館(現東京國立博物館)、学習院昭和寮(現 日立自白クラブ)、女子学習院家政科特別教室
皇室施設全般
昭和天皇大礼布設、赤坂離宮改修、那須御用邸本邸、(貞明皇后)大宮御所
二代目宮内省庁舎
赤坂離宮改修
東伏見宮邸、朝香宮邸、皇居内斎館(柔劍道場)、二代目宮内省庁舎、旧高松宮邸、旧江戸城辰巳橋修復
東伏見宮邸
朝香宮邸(東京都庭園美術館)、現宮殿、東京帝室博物館(現東京國立博物館)
朝香宮邸(東京都庭園美術館)、三井基山施設全般
東京帝室博物館(現東京國立博物館)、皇居内斎館(柔劍道場)模様替え
東京帝室博物館(現東京國立博物館)
皇室施設全般
朝香宮邸(東京都庭園美術館)、東京帝室博物館(現東京國立博物館)、大林組勤務
李王室京都(グランドプリンスホテル赤坂)、東京帝室博物館(現東京國立博物館)、朝香宮邸(東京都庭園美術館)
二代目宮内省庁舎



京都国立博物館(旧帝国京都博物館)

なお、佳作に明治40年 工手学校第35回卒業の竹田米吉がいる。

1916(同5)年 日清生命保険株式会社社屋設計競技 2等

■市石英三郎(いちいし えいさぶろう) 旧姓清水

1889(明治22)年生~没年不詳

1912(明治45)年 工手学校第46回卒業

1911(明治44)年から1915(大正4)年までヤン・レツル建築事務所に助手として勤務。事務所時代の1915(同4)年竣工の広島物産陳列館:現世界遺産 広島平和記念碑(原爆ドーム)の設計に携わる。1917(同6)年 宮内省内匠寮(たくしょう)として入省。1922(同11)年内匠寮工務課技手、1931(昭和6)年内匠寮臨時帝室博物館造営課に配置換え。1937(同12)年12月18日 技師に任、当日退官。戦後、建設会社勤務の後、設計事務所設立。内匠寮時代には学習院中等科教室(現学習院西一号館)の仕様書作成の外、現存している新宿御苑の旧新宿門及び旧大木戸門の各門衛所を設計した。



市石英三郎が設計担当した広島県物産陳列館(原爆ドーム)
大正3年(1914)竣工

■永井孝直(ながい たかなお) 生没年不詳

1918(大正7)年 工手学校第58回卒業

東京市役所建築課勤務の後、1924(大正13)年に宮内省内匠寮工務課に技手補で入省。昭和天皇即位の大礼では京都に常駐して施設造営に関わった。

コンペ入賞作品

●宮内省内匠寮工務課技手時代

1907(明治40)年 建築学会機関誌 建築雑誌の表紙図案

2等及び3等

次点に1903(明治36)年 工手学校第28回卒業の加瀬正衛(内匠寮勤務)がいる

1911(同44)年 日本大博覧会工事計画 3等

1915(大正4)年 明治神宮宝物殿設計競技 2等



東京国立博物館本館(旧東京帝室博物館)



東京国立博物館構内・表慶館

1932(昭和7)年内匠寮臨時帝室博物館造営課に技手として配置換え。博物館完成により1937(同12)年造営課が廃止され工務課に戻る。1943(同18)年、再び東京市建築部建築課に転任した。

数多くの設計コンペに入賞し、「コンペの内匠寮」の名を高めた一人。

設計コンペ入賞作品

●宮内省内匠寮工務課 技手補時代

1925(大正14)年 淀橋工手学校校舎建築設計図案 一等 実施設計は別

新校舎は1928(昭和3)年4月完成 校名が「工学院」となる

1926(同15)年 神奈川県庁舎 佳作三席

1930(昭和5)年 帝国馬匹協会主催 共同厩舎 佳作
宮内省内匠寮臨時帝室博物館造営課 技手時代

1932(昭和7)年 朝鮮貯蓄銀行本店 佳作

1934(同9)年 静岡県庁舎建築設計競技 佳作

1936(同11)年 満州國皇帝訪日記念建造物設計競技
佳作

1937(同12)年 日本万国博覧会建国記念館設計競技 三等三席

(注1) 64名の内、5名は他学校も卒業しています。別に建築学会蔵の住所録に工手学校卒業と記載されている内の5名は宮内省職員録には在籍とありますが、校友会の卒業名簿に記載がないので割愛しました。

(注2) 江戸橋郵便電信局と帝国京都博物館造営には工手学校第2回卒業の新海正綱(にいみ まさつな)も日本土木会社出張所に勤務し、帝国京都博物館造営では設楽貞雄と同じ宮内省内匠寮の場所付雇として勤務しました。

(注3) 1896(明治29)年の第12回を首席で卒業した飯田徳三郎も桑原工業事務所に入所しています。

(注4) 山陽鉄道会社には1895(明治28)年に第4回卒業の中村鉄五郎、1899(同32)年に第8回卒業の桜井吾一、1901(同34)年に第8回卒業の中村了輔、1903(同36)年に第24回卒業の稻葉九馬三、1904(同37)年に第25回卒業の宮島貞吉、1906(同39)年に第25回卒業の平野三郎もそれぞれ一時期勤務しています。

工手学校と宮内省のつながり

工手学校造家学科第1回卒業から昭和前期まで相当数の卒業生が宮内省に入省し、皇室建築造営に参加した理由として学校創設時に内匠寮技師が教官として在籍したことがあげられます。

明治工業史によれば、「明治二十二年…造家学科の教務主理は片山東熊、藤本寿吉の二名なりき…明治四十五年において…建築学科教務主理は曾禰達藏、新家孝正の二名なりき…」と片山と藤本の名が記載されています。

工学院五十年史 附録「工学院の現状創立以来の役員及び教務主理」によれば、宮内省内匠寮からは工部大学校一期生で東宮御所(現迎賓館赤坂離宮)設計者の片山東熊と同大学校二期生で箱根塔ケ島離宮の設計者であった藤本寿吉が教務主理として在籍しました。ほかに東宮御所御造営局技師の朝倉清一、大正期に宮内省で工務課長を務めた東京美術学校教授の大澤三之助も在籍しました。

片山東熊は東宮御所御造局の技監や内匠頭の役職多忙等による途中辞任も含め21年闊与しました。

藤本寿吉は1890(明治23)年に死去したことから2年の在籍でした。

片山東熊は藤本寿吉の弟で第2回卒業の舟橋喜一を、大澤三之助は第23回卒業の伊東保廣と平澤儀平をそれぞれ自宅に寄宿させ面倒を見ていました。

また、片山東熊の講演の記録は極めて少ないですが1889(明治22)年9月発行の建築雑誌第33号によれば、工手学校で開かれた造家学会の例会で下記の講演を行っています。(内容の記録なし)

明治二十二年九月四日 京橋区築地南小田原町四丁目八番地工手学校教場ニ於テ午後六時三十分ヨリ例会ヲ開キタリ出席員ハ正員三名賛成員一名準員ハ三拾七名ナリ演題ハ左(ママ)ノ如シ 現今ノ室内装飾法 正員 片山東熊君



迎賓館赤坂離宮(旧東宮御所)

1896(明治29)年2月9日 工手学校第14回卒業式が行われた当夜中、火災に見舞われ全校焼失しました。

明治天皇紀 明治29年4月10日の条によれば「工手学校(京橋区南小田原町)に金五百円を賜ひ、校舎再建の資に充てしめらる、同校は明治二十一年二月開校し、土木・機械・電工等各科の技師の補助たるべき工手を養成するを目的とす、卒業生千三百余名に及び、校運益々隆盛なりしが、是の二月火災に罹り、校舎及び学用器具悉く焼失す、是の日校舎再築の挙を聞召され、此の賜あり、」と記しています。

学校再建費が賜われたことは工手学校の存続と発展の意義を皇室が理解していた証といえましょう。

また、校舎再建に造家学会も機関誌 建築雑誌同年3月号で援助を訴えるなど建築界総意の再建協力でした。

おわりに

皇室建築は、東宮御所(現迎賓館・赤坂離宮)はじめ数多く現存し、「由緒物」として大切に扱われ御使用されております。この建物群に工手学校・工学院の卒業生が造営に参加しました。今回は誌面の都合上、技師の紹介は4名にとどめておりますが、全ての技師、技手がその当時の建築界で重要な役目を担っておりました。次号で彼らの事蹟を紹介したいと思います。

参考資料

■片山東熊(かたやま とうくま)

1853(嘉永6)年-1917(大正6)年
現在の山口県萩市生まれ。1879(明治12)年 工部大学校造家学科第1回卒業生として工部省技手になる。工部省から外務省を経て1886(同19)年、皇居御造営事務局へ出向し宮殿室内装飾及び家具の取調べに欧州に出張。1897(同30)年東宮御所御造営に関する調査に



写真の出展:建雑第371号
大正6年11月

欧米各国へ出張。内匠頭兼東宮御所御造営局技監として「東宮御所」を完成させた。作品に皇太子御成婚記念である上野表慶館(国重文)、奈良及び京都国立博物館(どちらも国重文)、神宮御古館ほか多数。

1886(同19)年創設の造家学会(後の建築学会)に20年にわたり青木周蔵、渡辺洪基、辰野金吾の三代の会長を幹事、副会長として支えた。

片山東熊は藤本寿吉の弟で工手学校第2回卒業生である舟橋喜一を1990(明治23)年に寄宿させている。その縁からか、舟橋喜一は片山東熊設計の帝国奈良博物館では場所付雇として、東宮御所では嘱託としてその造営に参加した。

■藤本寿吉(ふじもと じゅきち)

1855(安政2)年-1890(明治23)年

豊前国中津に生まれる。1869(明治2)年東京に出て慶應義塾で普通科卒。1880(同13)年、第二回工部大学校造家学科卒。工部省営繕局を経て1884(同17)年宮内省に入り1886(同19)年、宮内匠師(後の技師)となる。同年完成の箱根塔ケ島離宮の洋館を設計している。

1881(同14)年の東京一つ橋の文部省庁舎の設計や師に当たるジョサイア・コンドル設計の岩崎邸洋館など多数施工監督している。なお、慶應義塾創設者の福沢諭吉の親類にあたる。

参考文献

- ・工学院五十年史 昭和十九年二月 工学院発行
- ・工手学校 旧幕臣たちの技術者教育
- 著者 茅原 健 2007年6月1日 中央公論新社 発行
- ・NICHE 工学院大学建築系学科同窓会誌 2003Vol.27
- ・建築雑誌 各号 建築学会発行
- ・建築知識 昭和十一年十月
- ・関西の近代建築 著者 石田潤一郎 中央公論社美術出版
- ・工学会編「明治工業史 建築篇」工学会 昭和二年
建築設計競技 コンペティションの系譜と展望
昭和六十一年十二月二十五日 近江栄 鹿島出版会
- ・皇室建築 内匠寮の人と作品
鈴木博之 監修 株式会社 建築画報社 2005年12月22日発行
- ・郵政建築 通信からの軌跡 監修 日本郵政株式会社
株式会社 建築画報社2008年12月5日発行
- ・写真提供 有限会社 小川泰祐写真事務所
迎賓館赤坂離宮 表慶館 東京国立博物館
京都国立博物館
- ・掲載写真説明 設楽貞雄 設楽貞樹氏提供
東京郵便電信局庁舎 建築雑誌 第372号
臨時帝室博物館造営課 博交会 個人蔵
- ・図面 明治神宮宝物殿設計競技 明治神宮叢書 第二十巻 図録編



現在、工学院大学客員研究員 皇室建築史を研究。
昭和43年名城大学第二理工学部建築科卒業、建設省中部及び関東地方建設局勤務を経て同60年宮内庁管理部に出向、平成18年退官。
同14年「旧日光田母澤御用邸修復」の業績により日本建築学会賞を共同受賞。

学校法人工学院大学創立125周年 特別企画

飯田豊二と日本統治時代初期の臺灣鉄道

蔡 龍 保



Tsai Lung-pao
蔡 龍 保

國立臺北大學歴史學系助理教授
工学院大学客員研究員

学歴

1998年 国立台湾師範大学歴史学系学士
2001年 国立台湾師範大学歴史学系修士
2006年 国立台湾師範大学歴史学系博士

略歴

『台灣歷史辭典』執筆
『台湾総督府文書目録』編纂
2003.7-2003.9 財団法人交流協会日台交流センター歴史研究者招聘
2004.7-2005.6 中央研究院台湾史研究所訪問学員
2005.7-2006.6 中央研究院人文社会科学博士候選人培育計画
2006.6 中華民国斐陶斐榮譽學會榮譽會員
2008.7-2008.9 財団法人交流協会日台交流センター専門家長期招聘
2008.7-2008.9 東京大学文学部外国人研究員
2008.9 卓銀永建築事務所顧問兼計畫講師
2008.12- 工学院大学客員研究員

専門 植民地時代の台湾交通史、土木史

メールアドレス henrytsai8@hotmail.com

|工手学校と戦前日本の台湾経営

工学院大学の前身である「工手学校」は、渡邊洪基が掲げた「工業立国」「技術立国」の思想と使命のもとに、1887年に創立され、土木、機械、電工、造家、造船、採鉱、冶金、製造舎密の8学科が設置された。1895年日本は、最初の植民地として台湾を獲得し、積極的に植民地経営に乗り出した。技術者たちの思想や理念は「技術立国」から「技術植民」へと変わり、多くの技術要員たちが台湾のインフラ工事に投入され、工手学校の卒業生も少なからず台湾へと向かった。1905年までに少なくとも94名の卒業生が台湾総督府鉄道部、土木部、土地調査局等の官庁、及び鉱山、製糖会社、土木請負会社等の民間業界に身を置き活躍した。飯田豊二是こうした台湾へ出向いた卒業生の中で、鉄道事業で活躍した技術者である。



図1 飯田豊二技師

1893年7月、飯田豊二是工手学校土木科を第9期生として卒業し、1897年雇員の身分で台湾へ向かい、台湾総督府に着任したのである。

|飯田豊二の台湾における働き

(一) 縦貫鉄道の調査

1895年8月、初代台湾総督樺山資紀が国防と統治の側面から、縦貫鉄道を建設することは一大急務であると日本政府に述べ、同時に参謀本部でも陸軍省に対して同様の要求を出した。1896年3月、日本政府は7万7千円(現在の約2億8千万円)余りの経費をかけて台湾総督府に縦貫線の調査を命じ、台湾総督府はこの調査作業を通信省鉄道技師増田礼作に委託した。しかし増田の調査結果は山に近い所に線路を敷くといった、軍事の需要に重きを置いたもので、経済効果の側面からはかけ離れていたため、再度の調査が必要となった。

1898年、台湾総督府は縦貫線調査を本格的に進めるために、技術者を積極的に募集したところ、同年3月、台湾総督府民政局通信課雇員として採用されたのが飯田豊二であった。1899年、民政長官後藤新平の招聘で台湾へ赴き、臨時台湾鉄道敷設部技師長に就任した長谷川謹介は、元からある路線は産業開発にあまりに不向きであるため、鉄道本来の使命を追求すべく経済的側面から新たに検討をしなおすことにした。

1899年5月、長谷川謹介は飯田豊二等27名の雇員、臨時雇員を迎え入れ、縦貫線の調査作業に投入した。飯田は臨時台湾鉄道敷設部の技手になり、南部線打狗—台南間の路線調査を担当。5月22日吉山仙介、大江三次郎とともに打狗—阿公店の区間を調査し、7月24日打狗—台南間の測量が終わると、藤井策郎、小竹信敏と台南付近の比較線の測量に着手した。



図2 臨時台湾鉄道敷設部技師長 長谷川謹介

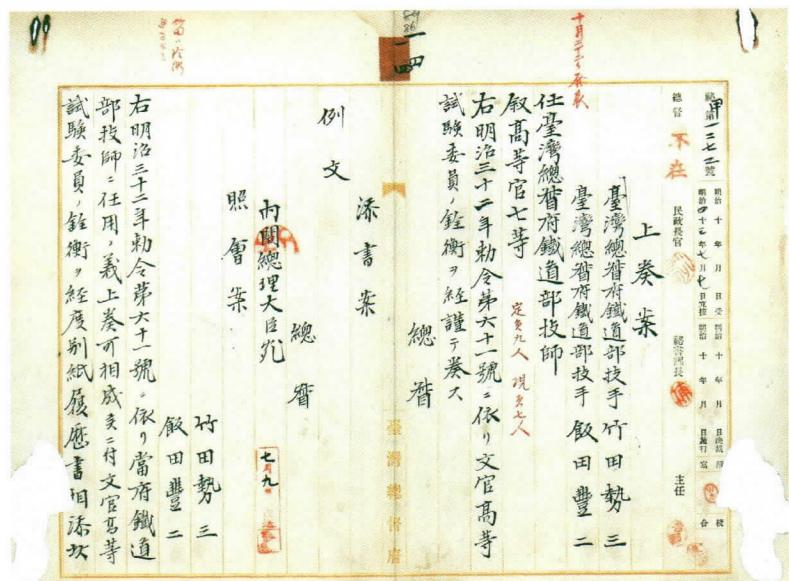


図3 鉄道部技師昇格の文書

(二) 阿里山森林運搬調査

1899年、台南県技手小池三九郎は台湾南部の森林の探査を命じられ、林圮埔から清水渓へ廻り、阿里山地域に入ると、まだ開発されていない広大なヒノキ林を発見した。その位置、地形、林の状況や樹の種類等を詳しく報告したが、それこそ阿里山森林を経営する上での端緒となった。時まさに鉄道部が縦貫線を敷設し、台湾本島で必要な木材が採れず、日本から大量輸入しなければならないという問題を抱えていた最中で、鉄道部技師長の長谷川謹介はこの知らせを受け、阿里山の木材に期待をかけ、飯田技手をさっそく派遣し、木材搬出の難易を調査させた。

1900年3月、飯田は林圮埔を出発し、清水渓に沿って上り、石鼓盤社を経て阿里山の飯包服までたどり着いた。更に、分水嶺を越え、曾文渓に出て、達邦社の公田庄を経て嘉義に着いた。飯田は調査を通して、森林には豊富で使える木材があることを確認したものの、搬出がかなり困難であることも知った。清水渓の両岸には絶壁が多く、渓流にはあちこちに大きな滝があり、足場も悪い上に、曾文渓の上流には巨岩が多く、下流の大埔辺りには抗日分子たちが横行しているので通行できない。この問題については、専門家を派遣して再調査することにしたものの、飯田のこのたびの調査は、阿里山森林の運搬ルートを探り、後に大倉土木組の岸本順吉らが更に進んだ調査をする足がかりとなった。

(三) 縦貫鉄道の建設

縦貫鉄道工事は1899年5月に始まり、1908年4月に竣工した。この9年の間に鉄道建設と改良費の予算総額^①は2758万5千円(現在の約1002億円)にのぼり、線路の距離は271マイル(434km)(縦貫本線は247マイル(396km)、支線は24マイル(38km))となった。飯田豊二が参与した路線は打狗—濁水渓間の南部線で、1899年11月から1904年12月にかけて、彼は打狗出張所の主任に就任した後、阿公店—台南間、台南—新市街間、新市街—湾裡間、湾裡—新營庄間、新營庄

—嘉義間、嘉義—大莆林間、大莆林—他里霧間、他里霧—斗六間、斗六—林仔頭間といった区間の工事を監督し、縦貫鉄道南部線の建設に大いに貢献したのだった。

(四) 阿緱線と下淡水渓鉄橋の建設

1910年10月、飯田は技師に昇格し、高等官7等を叙され、8級俸(本俸は1年に1200円、加俸600円、合計1800円(現在の654万円))を受けることになった。これに伴い、阿緱線工事を任せられ、また縦貫線の鳳山支線を九曲堂から屏東まで伸ばして産業発展を刺激し、屏東地方を開発することとなった。しかし下淡水渓は九曲堂から対岸までの川幅が1里(4km)余りあり、鉄橋を架けるのは困難であった。台湾製糖会社はかつて総督府の補助下、軽便鉄道を敷設し、橋梁を架設したのだが、下淡水渓は毎年豊水期になると川床が橋梁よりも高くなり、交通を断絶してしまうことがよくあった。そこで台湾総督府は鳳山支線を屏東まで伸ばし、新たに橋梁を架けることを決定したのである。



図4 阿緱停車場

この工事は飯田豊二技師、小山三郎技師と島崎次郎技手、正木喜三郎技手が担うこととなった。鉄道部打狗出張所の渡部英太郎所長の指揮下、飯田技師が九曲堂派出所主任に



図5 当時日本一長い橋と言われた下淡水溪鉄橋



図6 打狗保線事務所長 小山三郎技師

就任し、工事計画と監督を担当。小山技師がそれを補助した。鉄道部は製糖会社の軽便鉄道を先に購入しており、それを運搬線として使用していた。1911年10月に工事が始まり、鹿島組がこれを請け負った。1911年—1913年の年度経費はそれぞれ40万円、95万円、95万円（現在の約34.5億円）であった。1年目にまず材料を買い入れ、基礎工事をし、2年目に全部のスパンを完成させ、3年目に線路の延長工事を完了した。この膨大な工事に使用されたコンクリートは20万トン余り、レンガは450万個、人夫は約1千人だった。

中でも最も困難だったのが下淡水溪の鉄橋工事で、合計130万2千円かかっており、これは総経費の57%にあたる。川底の深さは約20呎（約6m）あり、砂利層で構成されており、その下は粘土質となっている。川の水が溢れた時には、この砂利が流れ出しが、粘土質の部分はめったに流れ出すことがな

かった。洪水からスパンを守るよう、スパンの川底下を40~50呎（12~15m）掘り、7千呎（2.1km）の堤防を築造した。下淡水溪鉄橋は最新式の設計が施され、全長は5007呎（1.5km）、200呎（60m）のガーダー24スパンから構成された。大安渓の13スパン、濁水渓の15スパンと比べても、はるかに大きいことがわかる。また、かつて日本第一と称せられた京釜鐵道の鴨綠江鐵橋でも4,600呎（1.38km）なので、それよりも400呎（120m）も長いということになる。正に日本一大橋となった。

工事の過程は決して容易なものではなかった。1911年、台湾製糖会社の軽便鉄道が洪水により壊れた。このため運搬が困難になり、2本の手押し軽便鉄道を新たに敷設し、昼夜運搬をし、物資を輸送せざるを得なくなった。作業の手も運搬用人夫も不足する中、中南部から人手を引き集め、さらに水牛を使って重い物を運搬することでのいた。財政面から言えば、230万円（現在の約84億円）の総予算が1912年の時点ですでに135万円（現在の約49億円）支出された。更に、この頃ちょうど総督府の行政改革と時期が重なり、工事は延長せざるを得なくなった。1913年7月は豪雨にまわれ、下淡水溪鉄橋の南岸の堤防が決壊。修復工事は10月に暴風雨が過ぎてから再開し、工事は更に延期してしまった。更に恐ろしいこともあった。九曲堂派出所付近でマラリアが蔓延し、当局が衛生安全に尽力したのもむなしく、この工事期間に16名もの死者を出してしまった。この橋の建設に力の全てを尽くしていた飯田技師も、とうとうマラリアに感染してしまい、1913年6月10日台南病院にて息を引き取った。1914年2月、大事業となったこの工事がついに終了した。打狗保線事務所長の小山三郎技師は飯田を偲び、「今日の成功を見せてやりたい」とこぼしたという。

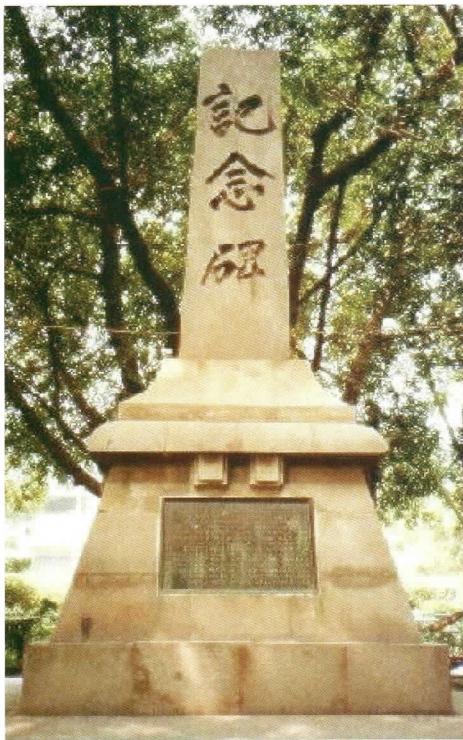


図7 飯田豊二記念碑



図8 飯田豊二記念碑の碑文

引用文献

- 『工学院大学学園百年史』(工学院大学学園史編纂委員会／1993年)
- 『工手学校同窓会会員名簿』(工手学校／1902年)
- 『二十五年記念工手学校一覧』(鈴木清四郎／工手学校／1913年)
- 『飯田豊二記念碑碑文』
- 「長谷川謹介與日治時期臺灣鐵路的發展」『國史館學術集刊:第6期』(蔡龍保／國史館／2005年)
- 「臨時臺灣鐵道敷設部技手飯田豊二外雇等二十人府事務ヲ嘱託ス」『臺灣總督府公文類纂:第7卷_第457冊_第1號』(臺灣總督府／1899年5月1日)
- 『臺灣鐵道史:中卷』(臺灣總督府鐵道部／近藤商店活版部／1911年)
- 『阿里山鐵道』(新元鹿之助／臺灣總督府阿里山作業所／1913年)
- 「鐵道部技手飯田豊二總督府鐵道部技師任命ノ件」『臺灣總督府公文類纂:第10卷·第1716冊·第14號』(臺灣總督府／1910年10月1日)
- 『推動時代的巨輪:日治中期的臺灣國有鐵路(1910-1936)』(蔡龍保／臺灣書房／2007年)
- 「下淡水溪の架橋」『臺灣日日新報:2859號・2版』(1907年11月12日)
- 「阿緱線開通式」『臺灣日日新報:4915號・5版』(1914年2月16日)
- 「下淡水溪の架橋」『臺灣日日新報:4494號・7版』(1912年12月6日)
- 「本日開通式を舉行する阿緱線」『臺灣日日新報:4914號・7版』(1914年2月15日)
- 「下淡水溪の架橋」『臺灣日日新報:4494號・7版』(1912年12月6日)
- 「飯田技師の葬儀」『臺灣日日新報:4680號・7版』(1913年6月15日)
- 「記念碑除幕式の記」『臺灣鐵道:第37號』(臺灣鐵道會／1914年)

註① 1899(明治32)年 台湾財政歳入17,426,618円
歳出16,323,548円

註② 物価資料 1897(明治30)年、白米10kg 1円20銭
2009年1月米コシヒカリ10kg 平均價4,360円。
物價比較4,360/1.2=3,633倍

写真を提供してくださった李方宸氏、蔡旺洲氏に感謝の意を表したい。

盛大な葬儀と記念碑の建立

1913年6月13日、打狗本願寺にて飯田技師の葬儀が盛大に営まれた。飯田の子女である英三、隆子が亡き父に手を合わせ、夫人は悄然とその場にいたという。鉄道部技師の朝倉政次郎が営業課長の新元鹿之助技師の代理で弔辞を述べた後、工務課長の渡部英太郎技師、小山三郎技師、軌友会総代の矢崎計佐吉、塩水港製糖会社の社員が順番に弔辞を述べ、次に弔問電報が読まれた。近親者はもちろん一般の弔問客が多数訪れ、当日は生花や弔旗も多数贈られた。葬儀の参列者は500名にのぼり、当時にしては大変珍しい大規模な葬儀となつた。

鉄道部技師の小山三郎、元鉄道部技師新見喜三、元鉄道部技手吉田鶴次郎、矢崎計佐吉らは故人の功績を後世に伝えようと、九曲堂駅から約100メートル離れた丘に記念碑を建てることにした。そして1915年6月6日、飯田技師の三回忌の際、九曲堂にて除幕式が行われた。午前10時、吉田鶴次郎が娘に伴なされて除幕すると、新元鹿之助による「記念碑」という大きな三文字が鮮やかに白日の下に披露された。

このセレモニーに参加したのは、鉄道部打狗工場、打狗運輸事務所、打狗保線事務所、打狗保線派出所、台南保線派出所、嘉義保線派出所、打狗駅他の駅長、鉄道部出張員の同僚たち、製糖会社、土木請け負い業者、阿公店輕鉄、滋養亭主、医師といった業界・民間の大勢の人々であった。飯田の台湾鉄道における貢献は、小山技師が記念碑に書いたとおり、正に「為職忘軀、貽利於後、厥功厥名、庶幾不朽。(職のために身を忘れ、後世に貢献を残し、彼の働きと名は、不朽である)」であったといえよう。

友田 薫

江東樂天地は、
今の東京ディズニーランドなのだ

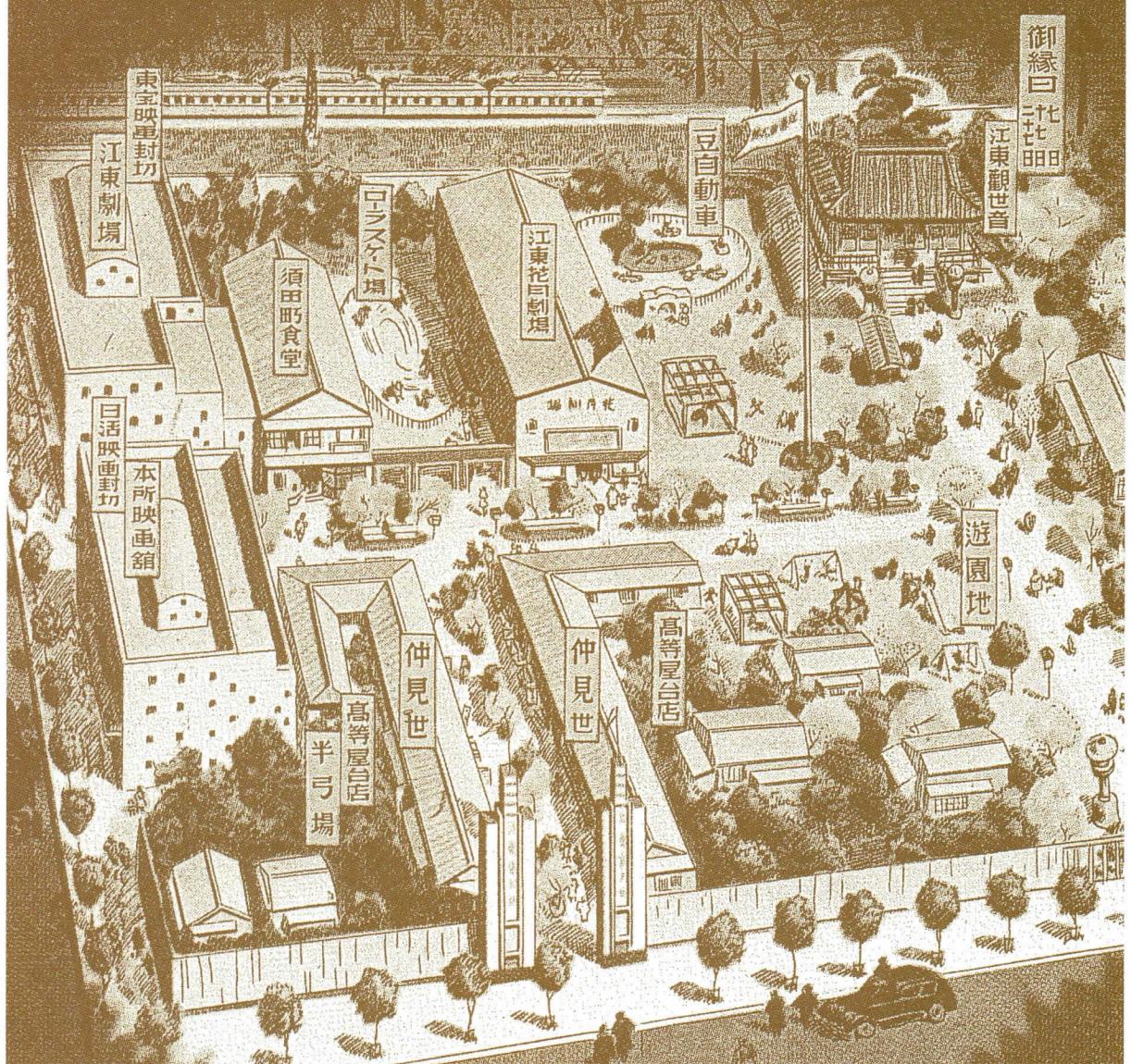


江東樂天地は、それが今から十五年あまり前、東寶の企画でそこにつくられたばかりの頃、私はよく遊びに行ったものである。私の戀人の、淺草の踊り子が、私との戀愛のため、所謂「エンコ」にいづらくなつて、當時、江東樂天地の映畫館で映畫と合はせてやつていたショウに出ることになつたのが、私の樂天地通ひの原因であつた。

(高見順『都に夜のある如く』／文藝春秋新社／1955年)

江東樂天地

車下りホシンキ電市線省



江東樂天地



江東花月劇場

通信省営繕課の建築史上での位置付けは?

友田 薫は、1894年(明治27年)1月、鹿児島県出水郡米ノ津町に生まれた。現在の出水市米ノ津町である。出水市は「鹿児島県の北西部に位置し、北は熊本県水俣市、東は大口市、南は薩摩郡宮之城町・鶴田町、西は出水郡高尾野町に接し、北西は八代海に面する」(『鹿児島県の地名:日本歴史地名大系47』／平凡社／1998年)。

1908年(明治41年)3月に長崎県南高来郡島原高等学校を卒業し、1910年(明治43年)4月に朝鮮京城善隣商業学校を修業する。鹿児島に生まれた薰が、北に遠く離れた長崎の小学校に通ったのは何故か。高校にいたっては、さらに北上し、朝鮮の京城である。生地からますます隔たって、今の韓国ソウルにある私立の商業学校に通ったのは、どんな事情からなのか。謎が解明されないまま物語は進行するが、次の件も、謎である。

1912年(明治45年)3月、通信省大臣官房経理局営繕課の雇員を拝命し、製図設計に従事する。何故、商業学校出身の薰が、通信省の営繕課に入れたのだろう。それも事務系ではない、“製図設計”である。もっとも、善隣商業学校の卒業から通信省営繕課の入省までは2年あるから、その2年間で建築の勉強をしたのだろう。では、その勉強をしたのが工手学校かというと、そうでもない。なぜなら、薰が工手学校を卒業する

のは、まだまだ先のことである。

薰が勤務した通信省営繕課とは、どんなところだったのだろう。通信省——戦前まで、郵便・電信・電話などの事業を管轄していた内閣各省の一つである。営繕課は、当然、通信省関係の諸施設を設計していたわけだが、これが凄い。近代建築史上で、燐然とした輝きを放っている。何が光っているかといえば、役所なのに個人が光っていたのだ。個人が際立っているのだから、その作品も強烈である。現存するものを挙げてみる。

岩元禄の「西陣電話局」(1922年)、吉田鉄郎の「京都中央電話局上分局(現・カーニバルタイムス)」(1923年)・「京都中央郵便局」(1926年)・「東京中央郵便局」(1931年)、山田守の「門司電話局」(1924年)……。山田守などは独立してから「東京厚生年金病院」(1953年)・「日本武道館」(1963年)・「京都タワー」(1964年)を設計しているのだから脱帽である。

あと前田健二郎、田上義也、渡辺仁、山口文象なども通信省営繕課の出身だが、“通信省営繕課ここにあり”と建築界の話題を摂るのは、残念ながら薰が通信省を去ってからずいぶん後のことである。

小刻みで性急に歩みすぎた人生に思えてならない

薰は1915年(大正4年)2月、工手学校建築学科を卒業する。第51回生で、42人が卒業した。この年の5月、薰は通信省を退く。新しい辞令が下りたのだ。朝鮮総督府通信局経理課工手——である。運命のいたずらか、本人が希望したのか判らないけれども、高校時代を過ごした異国に、5年を経て、今度は仕事で赴任するということに、薰はどんな想いを抱いたのだろうか。

一緒に赴いたかどうかは判らないけれども、薰と同じその年に、ある男が朝鮮総督府に入府している。——後藤慶二である。“大正”的浪漫を最も切なく表現した建築家である。1909年(明治42年)に東京帝国大学建築学科を卒業して司法省に入省。そこでの処女作にして代表作「豊多摩監獄(現・中野刑務所)」



阪急百貨店（1929年）

は今でも近代建築史上に異彩を放っている。「豊多摩監獄」の竣工が1915年であった。話題作をひっさげて、後藤は朝鮮にやってきたわけだ。薫は1918年（大正7年）5月に朝鮮総督府を辞め、辰野・片岡建築事務所に入所する。通信省時代か、朝鮮総督府時代かは何とも言えないが、どちらかの時代に同事務所と接点があったのだろう。辰野・片岡とは、辰野金吾と片岡安である。辰野・片岡建築事務所は辰野金吾の大坂事務所として1905年（明治38年）に開設された。辰野は、もうこの欄で毎回のように登場してくる、明治建築界のドンである。そんな恐ろしい事務所に、薫はよくぞ入る気になったものである。それにしても、薫と辰野・片岡建築事務所との接点は、どこにあったのだろうか。いくら明治建築界を牛耳ったとはいえ、辰野の経歴には通信省も朝鮮総督府も出てこない。片岡にも、ない。いずれにしろ、この大手設計事務所へ入ったものの、薫は腕を振るう間がなかったように思われる。何故なら、入所した翌年の1919年（大正8年）に辰野はこの世を去ってしまうし、片岡は早々とその年に片岡・松井建築事務所を東京に開設してしまう。

薫は1924年（大正13年）2月に辰野・片岡建築事務所を辞めるのだが、ボスのいない5年間も、何をしていたのだろう。さぞかし悶々としていたのではないかと思うのだが、“捨てる神あれば、拾う神あり”、鬱屈した想いを一気に爆発させてくれる事務所が現れた。阿部事務所である。所長の名を、阿部美樹

志という。いろいろな職場を体験して、それぞれに薰陶を受けた先輩たちがいたに違いないが、薫にとって真の師となるのは阿部美樹志であった。まさに“神”であった。通信省に3年、朝鮮総督府に3年、辰野・片岡建築事務所に6年と、3年を1スパンにしてきた薫が、阿部事務所に12年という最長スパンを勤め上げたことからも判る。

では、阿部美樹志とは、どんな人物なのだろうか。経歴が全てを物語っている。この経歴の行間に、薫の人生も見え隠れしているので、ぜひ紹介しておきたい。。

※ 阿部美樹志（あべ・みきし）

- 1883年（明治16年） 5月4日、岩手県一関に生まれる
- 1905年（明治38年） 札幌農業学校土木工学科卒業、通信省鉄筋作業局入局
- 1911年（明治44年） 農商務省海外練習生・鉄道海外研究生としてイリノイ大学大学院に留学
- 1914年（大正3年） イリノイ大学大学院修了後ハノーファー工科大学に転学するが、第一次大戦勃発により帰国
- 1916年（大正5年） 鉄道院技師（1920年まで）
- 1920年（大正9年） 阿部事務所開設。以後、鉄筋コンクリートの研究と実験を行なう
- 1946年（昭和21年） 戦災復興院総裁
- 1948年（昭和23年） 建設院総務長官
- 1960年（昭和35年） 全国住宅協会公社会長
- 1961年（昭和36年） 首都圏不燃建築公社会長
- 1965年（昭和40年） 2月20日、逝去（82歳）

阿部と薫の経歴のなかでダブルフレーズが“通信省”だから、二人の繋がりは通信省だと思っていたら、薫の入省する前年に阿部はアメリカに留学してしまっていた。では、二人の接点は、いつ・どこだったのだろうか。

薫は阿部事務所に入所してから2年後の1926年（大正15年）11月、イリノイ大学に留学している。これは、自身も同校に学んだ阿部の推薦ないしバックアップがあったに違いない。留学といつてもわずか1年で、しかも日本への帰り道にヨーロッパの主要国を巡っているから、アメリカにはどのくらいいたのだろうか。

1936年(昭和11年)、薰は阿部事務所を退職し、独立する。それから7年、1943年(昭和18年)4月2日、わずか49歳で、薰は逝去する。何か、駆け足の人生だったような気がする。

娯楽施設なら、彼に任せて下さい

友田薰は、建築家である。作品に触れなければ、彼を語ったことにはならない。

まず「江東樂天地」。複合娯楽施設である。1937年(昭和12年)にオープンした。

江東樂天地とは何か?と、問われたなら私は一口に云えば「人工盛り場」だと答えたい。

我国の盛り場をその構成上より見た場合、全国的に最も多いのは門前町形式であり、この代表的なものが浅草観音に対する六区興行街である。此の種の神社仏閣を中心として栄えた昔からの盛り場に対し、今は故人となられた東宝の小林一三翁が、丸の内に新構想の盛り場としてアミューズメント・センターを創られ、之が逐次、新宿、渋谷、池袋等に波及し又、全国的に駅前等の交通の要衝に盛り場が移動する形をとるに至った。

然し、江東樂天地の如く門前町形式でもなく又、交通の要点と云う程のものでもない場所に十の劇場が軒を並べて、全く人工的に盛り場を造り上げ、之に成功したもの我が江東樂天地を以て唯一無二のものと思われる所以である。

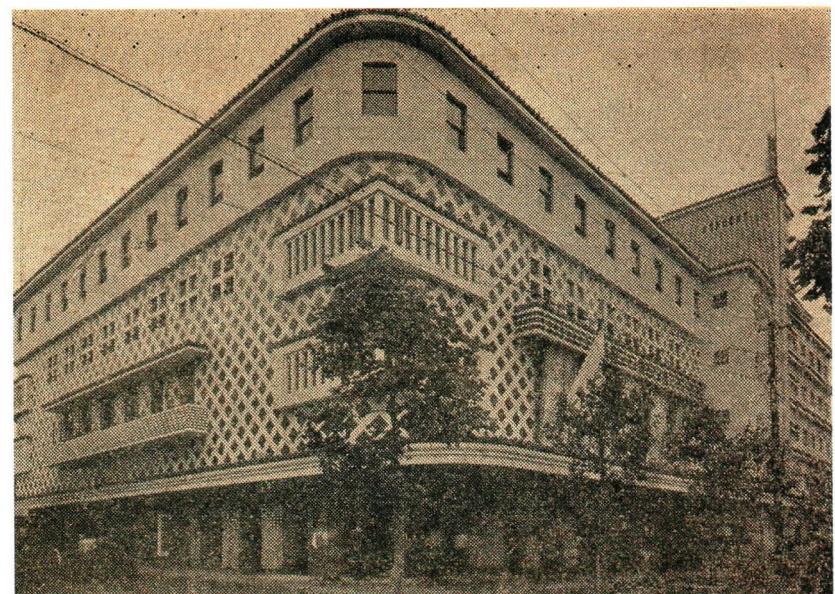
江東樂天地はその昔、東宝を母胎として生まれた会社である関係上、私は創立当初から役員の一員として、名前をつらねていたのであるが、その創立の構想は、全く世人の意表に出たものであった。即ち、中央のビジネスセンターに有樂街を建設すべく、着々その効を奏しつつあった一三翁が、全くその逆の

構想を以て、江東の工場街にアミューズメント・センター建設を創案された。

東宝、東電と御多忙の身であり乍ら、自ら屢々足を江東地区に運ばれ、錦糸町に着目されて五千坪の現在の土地を選び、ここに千五百人を入れる、当時としては都心にも余り見られぬ、大劇場「江東劇場」「本所映画館」と中劇場「吉本花月劇場」とを中心として、江東観世音、食堂、仲見世、スポーツ・ランド等を建設、他に土地柄を考慮し、隨時サーカスや仮説見世物等の興行をも折込んで、発足したのである。

(江東樂天地創立二十周年に際して:那波光正/
『江東樂天地20年史:1938—1957/江東樂天地二十年史編纂委員会/1957年』

江東樂天地を設立した小林一三は、ご存知、“今太閣”と巷間で囁かれた阪急グループの創業者である。その小林が、東京の東の外れ、まさに人里離れた錦糸町の駅前に一大歓楽街をつくると聞いて、世間は“暴挙”として冷笑した。今の感覚でいうと、千葉県の浦安に「東京ディズニーランド」を開園したようなものか。あんな“田舎”にと誰もが蔑んだのを尻目に、その後の隆盛は眼を瞪るばかりだが、「江東樂天地」も凄まじいセンセーションを巻き起こし、連日、人も切らさぬ大人気を



有樂座(1935年)

誇った。破格のアイディアマン・小林一三の勲章がまた増えた。

それにしても「江東楽天地」とは、上手いネーミングではないか。“樂天地”が字面も言葉の響きも最高だが、“江東”もいい。所在地は墨田区なのだ。「東京ディズニーランド」が千葉県なのに“東京”と冠したのと同じだ。小林一三は、マーケティングの天才だった。

「江東楽天地」がオープンした時、小林は64歳、薫は43歳。二人が施主と建築家として関わるのは、阿部美樹志建築事務所である。阿部事務所時代、薫は「阪急百貨店」(1929年)、「日比谷映画劇場」(1934年)、「有楽座」(1935年)を担当していた。この3つの建築は、もちろん阿部美樹志の代表作であるけれども、薫も自分の作品譜に胸を張って載せている。小林一三が、薫の腕を信用していたのは確かだ。でなければ、阪急グループが社運を賭けたともいべき「江東楽天地」の諸施設を、薫に任せることははずがない。そして、薫は小林の期待に見事に応えた。

娯楽施設の友田薫——の尊は、尊を呼んだ。薫の仕事のなかで、娯楽施設は圧倒的に多い。

■1937年(昭和12年)：「熱海宝塚劇場」「銀座ニュース劇場」「浜松劇場」「横須賀映画館」「花月園映画館(鶴見)」

■1938年(昭和13年)：「熱海回転食堂」「熱海ホテル」「熱海宝塚温泉」「後楽園スコアタワー」「銀映座(清水)」

最後に、余りに有名すぎてこの「輝かしき先輩たち」欄には登場しない輝かしき先輩である松本輿作が薫の訃報に寄せた「追憶文」を紹介する。

友田薫君を偲びて：松本輿作

我が同窓の一人であつた友田薫君は去る4月2日遂に逝去せられた。誠に痛惜の極みである。

君は大正14年に米国イリノイ大學に學び、其後独逸に赴き種々の研究を重ね帰朝せられ、阿部美樹志博士の元に於て建築設計監督に従事せられたのである。君は本會にあつて曾て理事に推され、又建築士法其

他の委員に舉げられ、共に謀り共に談じ合ひ又時には同志相集りて笑談に夜を更かした事もあつた。然るに今は其の何れをも為す能はず實に寂寞を痛切に感ずる次第である。

君は常に喘息に悩まされしも病魔に負けじと静養されつゝ、實努に携はれゝ世人のよく知る日比谷映画劇場、有楽座を初め其他幾多の建築設計及監督に従事せられ、其責任感と真剣なる努力には常に吾人の敬服する所であつた。而して其性格温厚にして友情厚き事之れ又吾人のよく識る處であつた。

現下南方共栄圏確立を目指して遂行されつゝある大東亜戦争の真只中なるも、君は既に昭和16年1月の頃南洋に渡られ建築的立場より種々研究を積まれ将来相当の抱負を持つて居られたのであつた。建築界としても益々君の如き南方研究家を必須とすべき折柄、突如として君を失ふ、實に士會々員一同の痛惜は勿論、國家的にも遺憾千萬なる極みである。

斯る友田薫君、然も40有餘の若さにも不拘病魔の手によつて失ひたる事は返す返すも痛恨に堪へず茲に悲しみの涙を呑んで君と永遠の別れを告げる。君の靈冀くば安らかなれよ。

(『日本建築士』第33巻・第1号／1943年／日本建築士会)

(レポート：類洲 環)



日比谷映画劇場(1934年)

卒業生に聞く——上田卓司さん(昭和48年卒業)

株式会社 フジタ社長に就任

インタビュー：田野邊幸裕(建築系・学科同窓会会长)、記録：加藤隆弘・浅野賢一
2008年10月21日 フジタ本社会議室にて取材



大学入学時(八王子校舎) 1964年(昭和44年) 前列左から6人目

学生時代

田野邊 社長就任おめでとうございます。最初に、学生時代の記憶に残っていることをお聞かせください。

上田 学生時代は学業では、自慢するところはありませんでしたが、クラス委員の任命を受け、各種の催物などの幹事役を行っていました。このことにより多くの人と知り合うことができました。部活動では詩吟部に入り学業よりも積極的に活動していました。



大学4年生時代

田野邊 詩吟部を選ばれた理由をお聞かせください。

上田 私は九州の佐世保出身ですが、地元では詩吟を行っている人が親族も含め結構多くいましたので、身近に感じ入部しました。練習は、現在の高校の裏山(墓地の中腹)で发声練習をよくやりましたね。

田野邊 研究室は、どんな理由でどこに決められましたか。

上田 卒業後は、建設会社で施工現場に出たいという強い希望がありました。当時は施工を教える授業・研究室などほと

んど無かったので、現場で役立つのは構造と考え、正木研究室を選びました。

田野邊 卒業設計、論文のテーマなどはいかがでしたか。

上田 卒業設計は模型などを駆使した「住宅の設計」、論文は「軽量コンクリート」をテーマにしました。

社会人になって

田野邊 入社に際しフジタ(当時フジタ工業)を選ばれたきっかけは何ですか。

上田 父が大手建設会社にいて独立していました。兄や親族が就職していた建設会社を除くと大手では2社くらいしか残りませんでした。その2社のうち1社は土木中心であり、フジタは当時80%近く建築を行っていましたので、建築のフジタに決めました。当時は藤田組からフジタ工業へ社名変更して2年目で、新しい領域を目指そうという社風が強く感じられ、魅力がありました。

田野邊 フジタに入ってやろうと思っていたことは何でしょうか。

上田 作業所長に早くなって、自分で仕切って仕事を行い



インタビュー風景



上田 卓司さん

いという希望がありましたね。意気の世界、男の世界にあこがれていたところがありました。

田野邊 入社して最初に配属された現場はどこでしたか。

上田 最初は五反田の共同住宅でした。当時(昭和48年)はオイルショックの時期で、鉄・コンクリートなど資材や職人の手配もつかず大変な思いをしました。最初は現場内の片付けから始まり、作業員からの出発でした。朝7時に現場に入り、夜は9時過ぎまで毎日仕事をしていました。

その後配属された現場は、中野の警察学校の中にある宿舎でした。この現場がとても思い出の深い工事となっています。内外ともRC打放し一部モザイクタイル打込みという技術的にも高度で、とてもやりがいのある仕事で当時社長賞をいただくことができ、かなり自信が付きました。

その現場の所長は山崎巖さん(昭和31年卒)という工学院大学のOBの方でした。当時の会社には90~100人くらいの卒業生がいましたね。

|巨大プロジェクト

田野邊 地方への転勤は無かったのですか。

上田 その後、栃木の奥日光にホテルの現場に行きました。国立公園の中での工事で近くに宿舎は造れず、毎日ふもとの宿舎からいろいろ坂を登り通いました。栃木では2つホテルの現場を担当し、入社10年目で名古屋支店に赴任しました。名古屋では3つの現場を担当しました。その後、会社では新規として「開発事業」を立ち上げようとしていました。この事業はこれから私がやりたいことだと思い、自ら進んで手を上げ、本社の開発事業本部に異動しました。仕事の内容からすると現場監督から開発営業へまるで転職するくらいの変化でした。

再開発での担当は、西新宿第3地区と呼ばれていた場所です。事務所・共同住宅・商業の複合施設で、総事業費680億円。工事費は、フジタ単独で450億円ほどのプロジェクトです。

田野邊 事業の内容や苦労話はありますか。

上田 再開発ですから始まって完成するまで10年かかりました。私は当初都市計画の分野など分かりませんでした。まず事業推進の基本となる権利者を、まとめることから手をつけました。最初に権利者で構成する協議会を作り、その後準備組合をへて組合を組織しました。これは権利者の賛同を得るための

組織です。

当時敷地にはマンションが4棟あり、権利者350人は様々な方で、居住地も北海道から沖縄まで点在するなど複雑なものでした。この内300人ほどを私がリーダーとして担当しました。当時、私は「北海道から沖縄まで」「あらゆる職業」の地権者に対応し、社内ではギネスに載るほどの速さで権利調整を行う判取りの名人がいると評判になったほどでした。

担当した10年間は34歳から44歳のときでした。権利者との関係では、何も無い状態から一つの形にしていく作業は、大変でしたがやりがいがあり、はまったというか、向いている仕事であったと思います。

ただ、権利調整の仕事は建設会社の営業プロパーと違い、土日も無く、夜中でも打ち合わせがあることや、知識がないと交



再開発コーディネーター協会 第21回通常総会・20周年記念講演会
社団法人 再開発コーディネーター協会

再開発コーディネーター協会(伊藤滋義会長)	再開発コーディネーター協会(伊藤滋義会長代理)	再開発コーディネーター協会(伊藤滋義会長代理)	再開発コーディネーター協会(伊藤滋義会長代理)	再開発コーディネーター協会(伊藤滋義会長代理)	再開発コーディネーター協会(伊藤滋義会長代理)	再開発コーディネーター協会(伊藤滋義会長代理)
第21回通常総会・20周年記念講演会						
社団法人 再開発コーディネーター協会						
開会式						
表彰式						
セミナー						
懇親会						
閉会式						
記念撮影						
記念講演						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						
記念祝賀会						
記念式典						
記念セレモニー						
記念会						



中野の警察学校宿舎現場時代の作業員と共に 前列左端

涉に当たれないことも有り、民法・税務・相続・不動産権利・宅建などを猛勉強しました。

田野邊 権利者を説得する奥義を、教えてください。

上田 我々の計画を説明しながら、権利者の話しを聞き理解し、その思いを計画の中に反映して、解りやすく説明することです。権利者の不安を解消するために相手の話をとことん聞くことです。

田野邊 その後、取組まれた仕事は何でしょうか。

上田 再開発の責任者を49歳くらいまで担当しました。その後、不動産証券化に対応すべく「都市再生本部」と部の名称が変わり、副本部長、本部長などを担当しました。

開発事業のやり方、関わり方は、権利者の思いをしっかりと計画の中に入れることです。資産、財産に対し、しっかりと計画の説明を行い、建物の形を提案し、一気通貫で建物を造る。そしてこれだけで終わるのではなく、当社関連の管理会社で、最後の最後まで責任を持つべく仕組みを作っていく。これら権利を置き換える調整から始まる総合的なコンサルタントを行うことにより、社会変化に強い体制作りを行うことができました。

フジタが伝えること

田野邊 後輩や学生に向かってフジタが伝えたいことは何でしょうか。

上田 フジタには仕事のメニューがたくさんあります。それは我社の強みであり、社員はいろいろな事が経験でき、挑戦できる機会があります。建設事業であれ開発事業であれ環境事業であれ、いろいろな分野を持っています。

超ゼネコン

田野邊 再開発でコーディネイト的な仕事をされたことが、社長になるに当たって基礎になっているように思えますがいかがですか。

上田 そうかもしれません。昨年「フジタSTEP-UP計画」を3ヵ年計画で策定しました。この計画では、従来会社が持っている領域の強みにさらに付加価値をつけ広げ、事業力を強く持つ事であり、その中でキャッチフレーズを「超ゼネコン」としました。このコンセプトは、私の思いとまさに一体です。

田野邊 会社の現状と、これから目標はいかがでしょうか。

上田 営業利益率は業界2位につけています。業績としては良い状態にあり、順調に伸びていると認識しています。

「超ゼネコン」へ付加価値を出すために、川の流れにたとえるならば、川上や川下にさらに領域を広げ事業を展開していくたい。

たとえば、CRCセミナーを開催し、土地の有効活用の提案を積極的に行っていく。土壤汚染など環境問題も含め、土地の価値創造の提案、権利調整など、ありとあらゆる手段を考えて事業を提案する。ただ示された土地に建物の計画をするだけに終わらせない独自な提案を行うところに価値があります。権利者の目線に沿って提案することが「超ゼネコン」の目指すところでもあります。

会社の社会貢献

田野邊 意識的に社会貢献されていることはありますか。

上田 環境への取り組みなどいろいろおこなっています。たとえば排気ガスを土壤を使って浄化する。あるいは汚れた河川を浄化するために浮島をつくり、水生植物を増やして、生態系を修復する。ヘドロを砂状に変えて再利用できる材料などを提案しています。環境対策の対応は「自然を使って環境を整える」事であり当社独特の考え方だと思っています。

他に取り組んでいる活動で「築育」があります。トンネル、ダム、建物などの現場を見学してもらい、小学生・中学生には建設業に興味を持ってもらう。高校生・大学生には建設業を目指してもらう。息の長いことですが、ものづくりの楽しさ、まちづくりの大切さを知ってもらうことを考えています。

田野邊 「築育」は大学が行っている「理科教室」と同じで、理工学好きの子供が増えることを期待しましょう。最後に2点ほどお聞きしますが、社長の趣味と、学生にメッセージをお願いします。

上田 実益を兼ねて、ゴルフをやっています。学生の皆さんには「知識だけでなく、考えて行動に移すことです。失敗、失敗の繰り返しを、愚直に行うことによりおのずと力がつき成長し、夢をつかむことができる」ということです。

田野邊 上田社長のご活躍でフジタが「超ゼネコン」になれる事を、楽しみに、期待しています。本日はありがとうございました。

うえ だ
上田 卓司

出身地 長崎県

生年月日 1951年1月17日

出身高校 長崎県立北松南高等学校
(現清峰高等学校)

工学院大学1973年卒業 建築学科(正木研究室)

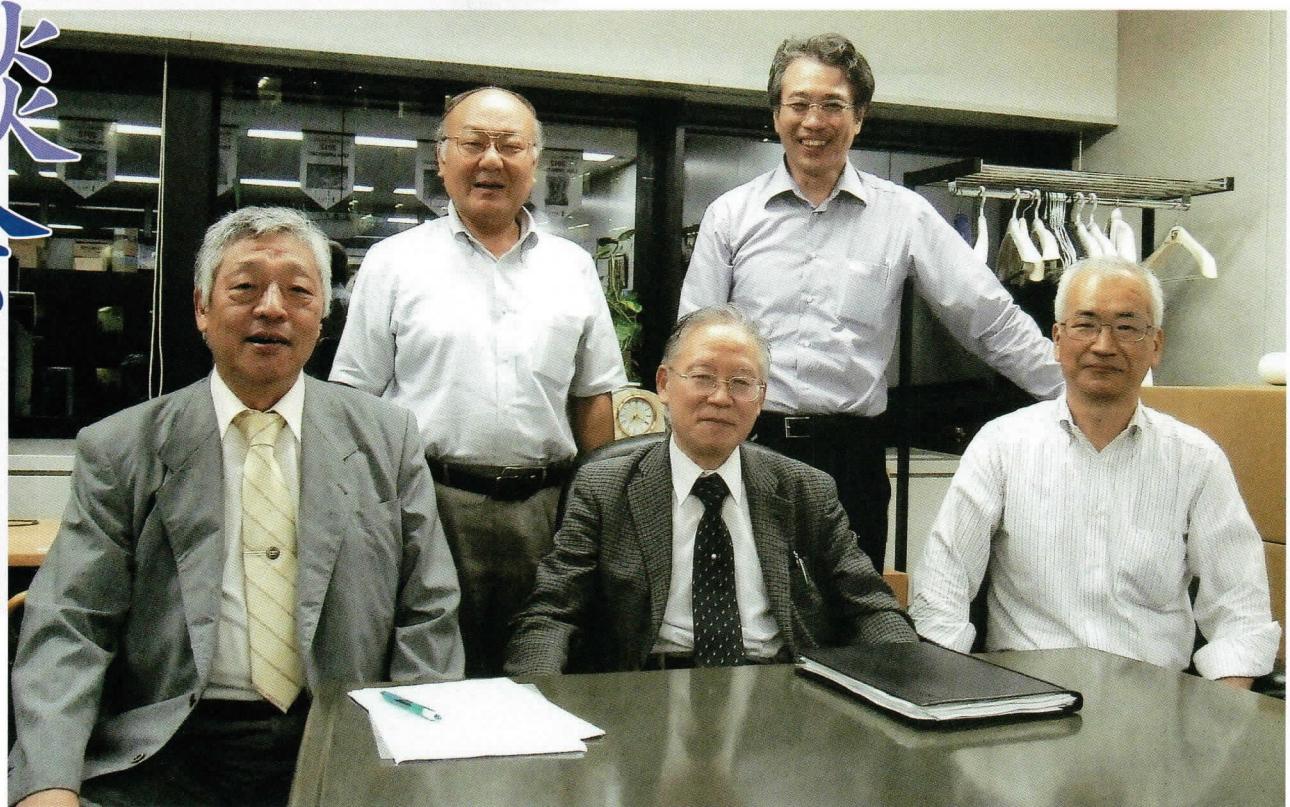
1973年4月 フジタ工業入社

2004年 都市再生推進本部長

2005年 執行役員

2008年 代表取締役社長

最近の構造制度を振かえって/ピアチェック機関の1年



前列左から寺田 正堯さん、宮澤 健二先生、五月女 元良さん 後列左から有山 定男さん、加藤 隆弘さん

日 時 平成20年8月28日 午後5時30分～7時 場 所 工学院大学校友会 談話室(取材/NICHE編集部)
 出席者 ①加藤 隆弘(司会) 株式会社建築構造センター 取締役 kato@kozocenter.co.jp (山下研究室、昭和52年大学卒)
 ②宮澤 健二 工学院大学建築学科 教授 (望月研究室、昭和44年大学院修了)
 ③有山 定男 社団法人 日本建築構造技術者協会 JSCE 東京幹事 (望月研究室、昭和45年大学卒)
 ④五月女 元良 株式会社 建築構造センター 構造計算適合性判定部 構造計算適合性判定員 soutome@kozocenter.co.jp (十代田研究室、昭和51年大学卒)
 ⑤寺田 正堯 株式会社 テラダ設計 代表取締役 LDB02273@nifty.ne.jp (望月研究室、昭和45年大学卒)

加藤隆弘/司会

お忙しい中ご出席戴きましてありがとうございます。姉歯事件等が発覚して構造設計に対して社会の目が厳しくなり、国土交通省が構造計算適合性判定機関(適判)を発足させて早くも1年が経過しました。ご承知の通り適判業務は緊急に立ち上げられたりして、いろいろな問題がみられるようです。工学院大学建築学科出身の関係者として4名の方から忌憚のないご意見を戴きたいと思います。法改正に向けて活躍されたJSCE(日本建築構造技術者協会)の担当者(有山定男氏)、構造研究者(宮澤健二先生)、実務の構造設計者(寺田正堯氏)、適判担当者(五月女元良氏)の方々です。それでは宜しくお願ひ致します。

1. 宮澤健二/構造適合性判定機関(適判)

アンケート調査報告

この座談会があるので、適判に関する簡単なアンケート調査を関係者の方々15名に、先日依頼してみました。(巻末註1参照/回答者職種、業務、制度の賛否)

①回答者の特徴

仕事は超高層から小さいものまで、大・中小事務所、ゼネコンなど。設計事務所の人は適判を兼ねている人もおり、約半数の人が適判の関係者で、耐震診断に関わっている人もいます。弁護士さんも1名。計15名です。

②適判制度について

建築士法では、建築士は国民の生命と財産を保護すると謳っています。その観点から当然の措置で、中でも構造は最も

重要です。建築士の役割、倫理観と建築士が独占的な職業(特権と責任も)であると忘れていたところに起こったのが姉歯問題です。建築士の質や倫理観から、ある程度予見されていたことも事実です。消費者に与えた影響の回復のため、適判制度について大半の方は仕方がないと答え、積極的な賛成ではありません。設計者の質を上げる意義があるとの回答もありますが。

③適判制度の良い点

審査機関の立場

- ・審査そのものがかなり真剣になっている。その結果、消費者や事業主への信頼性の回復がなされる。
- ・構造設計者の技術面や倫理面のレベルアップができる。
- ・設計者の能力が千差万別であり問題が起こって当然。設計レベルが低いものがあり、それを正すという点では良い制度で、構造設計者の自覚を促した。
- ・今迄は人と対話したり、議論を交わす事が少なかったが、その機会が多くなり、ものを考える力、人格や設計能力の向上に繋がる。

判定機関の立場

- ・設計ミスを発見し修正でき、技術面の問題が明らかになる。
- ・一人の構造設計では気がつかない問題が明らかになり、良い設計ができる。
- ・意外だったのは、統一された見方で構造設計を見る仕組みが出来てきたので、いい構造設計ができているのではないか。
- ・構造設計者の直接的な責任が軽減されるかもしれないが、これは責任を曖昧にするという面もあり、いい面だけとは限らない。



加藤 隆弘さん



宮澤 健二先生

④適判制度の問題点

- ・設計の自由度が拘束され、構造規定や細則に縛られる。あるいは、適判で必要以上に細かい指摘がなされて困る。
- ・今は少し解決しているかもしれないが、地方では判定員が少なく時間もかかる。
- ・適判員のレベルが低くて困る。逆に、構造設計者のレベルも低い。両方ともレベルが高いなんて事はあり得ない。サービスに欠けたり、「私が判定員だ」と主張する人も多少います。
- ・同僚のやった設計をお互い対等の立場に立って見ていくのが本来のあり方で、専任でない人がかなり働いていて、審査報酬が低く、審査員として協力しにくい。
- ・審査機関、適判機関により、適判員により指摘事項が異なる。
- ・姉歯問題のようなことを適判制度だけで対応するのは無理があり、社会制度全体として建築士や設計制度そのものを変えていかなければ無理でしょう。
- ・設計・施工の責任範囲の明確化、構造設計者の地位向上、技術、倫理観など全体的な事をやらなければいけない。
- ・一番の問題は設計給与に関わる問題が暗に隠されている。
- ・悪い点は『出してしまえば勝ちだ』というような事が少しあるようで、構造設計者自体の責任が曖昧になり勉強しなくなる。そして、地位が低下するのではないか。
- ・弁護士の意見、「この制度自体は問題点を多く含み、本来あるべき姿にもう一つ別な制度を上乗せしただけ。本来の姿は、構造設計者が自分の責任で、自分の技術でやるべきだった」と、悪い結果になりはしないかと危惧。

⑤具体的な対案

- ・簡単にできる事として、建築図面の受付け・審査を先攻させる。
- ・ある程度適判物件を絞り込んでもいいのではないか。マンションとか個人、一般消費者が対象の建物は必要だろうが、かなり規模の大きな事業主の場合は、必要があるのだろうか?
- ・大臣認定制度みたいなものを復活し、気楽に早くできる制度にして、適判数を減少させてはどうか。
- ・もう一つは、やはり構造設計者の地位向上で、これは声を大にして言いたい。
- ・実績と倫理観のある人は本来は優遇されてもいいが、線引きが難しい。
- ・建築主事のレベルが低いから姉歯事件のようのが起つた。建築主事がレベルアップすれば問題は解決し、時間と費用が節約できたのではないか。
- ・全部を調査するのではなく、抜き取り審査することにより、罰則を強化し効率化を図る。
- ・構造設計1級建築士制度が始まりつつあり、適判制度は簡素化していくのではないか。

・若い研究者からの意見、根拠となる構造理論、実験や研究がまだ足りない。

2. 有山定男/適判制度の成り立ち

法改正に向けてJSCAですこし関わってきました。法改正の目的は、姉歯元建築士のような構造設計者を排除するだけではなく、事件直後、国土交通省が無作為抽出で全国約400カ所のマンション耐震性調査で約1割に問題点が発覚。これが契機となり、解決する為の技術的改善が、今回の技術基準解説書に盛り込まれています。

どこに原因があって国がどう対策をとったのかは、国交省のホームページに出ています。つまり…

「1.建築確認・検査の厳格化」は、国は適合性判定機関を置く事と、「指定確認検査機関の業務の適正化」で、監査基準を厳しくする事、審査機関の担当者のレベルアップは図られていません。「2.建築士等の業務の適正化及び罰則の強化」は、罰則を強化して設計者の問題を解決しようとしました。設計者のレベルアップを図ったものでない。

補償責任については、当初、構造設計者に補償義務を負わせようとしたが、社会的には中小企業の集まりですから、補償能力がないのであれば、造る側に責任を持たせる事で出来たのが「瑕疵担保責任」という制度です。私が問題と思うのは、審査機関の構造の担当者が、どんな状態で審査しているのか、どんな資格を持っているのかが問われているのですが、国交省は判定機関がサポートをするからいいのだと応えています。

設計した物件を自ら誰かにチェックをお願いしてというのは、JSCAが元々いっていた「ピュアレビュー」というシステムです。「民」-「民」のダブルチェックは駄目で、どちらか一方は「官」にしなければならない。それが適判なのです。「民」の方が自らチェックして提出する。それを「官」側の機関として適合性判定機関があるのですと説明しています。単純な意味でのダブルチェックではないということが理解できると思います。

3. 寺田正堯/実務設計者の意見

人間のやることだから単純ミスもあり、誰かがチェックしてくれるのはいい制度です。昨年、某市役所の確認申請の際、意匠図面と構造図の整合性の面から確認がおりる迄10ヶ月もかかってしまいました、大変困りました。しかし、役所によっては高いレベルのチェック能力をお持ちの方がおられることも、良く理解できました。

4. 五月女元良/適判員の立場から

適判作業は構造上の厳格化が基本です。1年間担当して



左から有山 定男さん、五月女 元良さん、加藤 隆弘さん、宮澤 健二先生、寺田 正堯さん



寺田 正堯さん

の感想ですが、他の判定員が担当した時はどうなのか。所属組織が違うと判定員のレベル差とか、法律に明示していない部分まで判定を求められるという問題点があり、これからも出てくるのかと思います。最初の頃は、判定員を先ず決めて、判定員は何をするのか、法律の適合性とかを行っていて、確認の審査基準が後からできたり、講習会も研修会もなく判定作業が始まってきたなど、大変に苦労しました。

5. 倫理教育について

有山/倫理観と責任感

事業主が安いのでいいといった場合と、構造設計者が構造上安全性を求める場合では、建物を建てる時の温度差があります。事業主が構造的にしっかりと希望する時は、事業主はそれなりに信頼できる構造設計者を見つけると思います。構造設計者は単純に安い建物をたてるからというだけでなく、倫理観と責任感できちっとしたものを建てて活動している人が多くいるはずです。

元々建築設計というのは、自分の信頼できる人に設計を委託するという事であったのが、何時の頃からか設計料が安いところに依頼するという観念に入り込んで問題の原因となる場合がある。元に戻さないと駄目ですが、多分なくならない。コストを安くする設計集団と、それに対抗する集団に二分します。最低限、問題のないという倫理観を持っていて欲しいのですが、その一線をこえてしまったのが現実です。

宮澤/実務を大学の中に取り込む

昨年、倫理に関するシンポジウムに参加して話をしました。倫理は建築だけじゃなく、食品とかあらゆる分野で起こっています。技術や知識が高度化し、作業手順や制度が複雑になると、技術だけでなく、誘惑に負けるとか、少し位変な事をしても建物が壊れないという事があるので中々難しいのです。

本学でも今年から技術者倫理教育が始まります。社会に出て倫理観を持って仕事ができるよう、倫理の単なる知識だけではなくて、技術が及ぼす影響を具体的に示す必要があります。大学の中で構造の設計をやりながら、教育している人が非常に少なくなっています。これが一番大きな問題です。私も設計をやったのは遠い昔で、今関連するのは、せいぜい木質構造(免震も含む)、審査や認定です。本当に設計をやった人が、その経験を伝えるから説得力があります。我々も努力していますが、中々出来にくくなっています。実は実務を経験したOBの方たちに、大学の教育に積極的に参加してもらなが、実務を大学の中に取り込まないと長い目でみて技術者が育たなくなります。実践と倫理教育はますます必要になります。建築士制度の面からも、OBの協力が欲しいところです。

6. 力学演習は、設計の演習

宮澤/感覚的に分かるのが本来の構造

かつては、建築学科の学生の1/3位が構造系だったと思います。しかし、建築の分野が複雑になってきて、構造が見えにくくなっています。

私が学生の頃、「構造力学演習」という本がありました。梅村魁先生、武藤清先生などの構造の大家が、若い時に大学で教えながら時間の合間に、必死になってまとめた本です。「構造設計は力学の演習だ」といっています。感覚的に分かるのが本来の構造であって、今の適判も法律の細かいところをチェックするのが目的ではなく、安全な建物を早くチェックできるのが本来の狙いです。

有山/直感力を働かせる

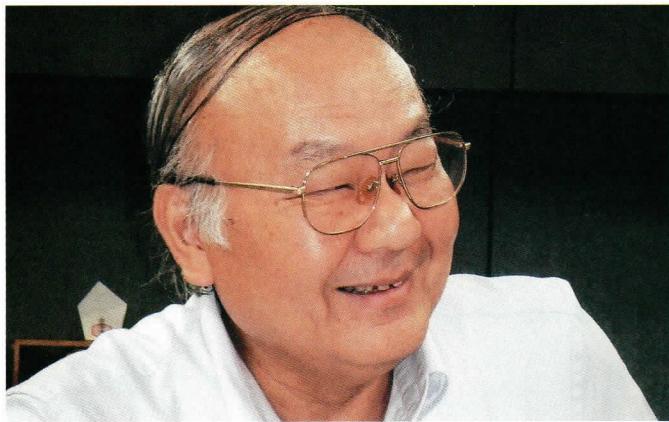
先日、構造設計1級建築士講習会の講師の方の話の中に、「経験に基づく直感を大事にしましょう」という発言がありました。私も構造の仕事を長年やってきて、少なくとも構造の仕事は50%が経験です。理論・知識を習得することがあったとしても、それだけで構造設計ができる訳じゃない。自分の経験に基づいた直感力を働かせながら、最新の技術知識を使って、設計を明確にしていく。研究者の方々が頑張っていても世の中の自然現象のどの程度分かっているかどうか。その分かっていることを使って、100%のものを要求されているのが構造設計者の立場のような観があります。非常に苦しい立場にあり責任を負わされているのが実情です。

7. 構造設計者の名前を出すことの意義

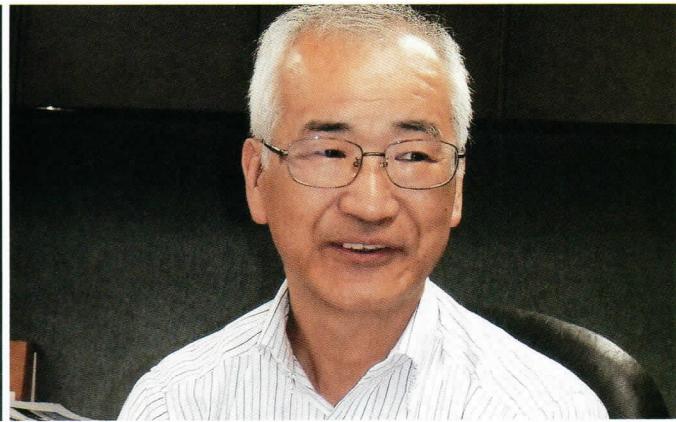
有山/毎日覚悟して仕事

今回、構造設計者の名前は無条件で書きなさいとなりました。自分の責任において設計図書を作っている訳ですから、名前を出すのは当たり前の世界です。しかし、今迄は最終責任は、建築設計者もしくは建設会社にいってしまい、構造設計者の名前を出さなくていい状況で済んでいました。これからは構造設計者が責任を持てと、国はいっているのであり、それに設計者としてきちんと応えなければならない。自分の名前を堂々と書く勇気を持って欲しいし、やらなくてはいけない。その為には自分の力をつけて欲しいといけない。具体的に問題が起きた時は、構造設計者を対象に訴えられることもあり、当然賠償責任の対象にもなります。

今迄は建築確認申請が通れば、安全性が証明されたという認識があった。しかし、今回関係ないとわかった。何か事故が起これば構造設計者の責任になります。自分の職を代償にするぐらいの覚悟で、毎日仕事をしているかどうか、それが実は倫理観だと思います。



有山 定男さん



五月女 元良さん

8. 判定員として1年経って

五月女/意識の違い

最初の頃は、適判制度が分からず。それ以前の計算書なりから、適判の指摘を受けて設計者としても変わらざるを得ない。申請者側は間違いもしますが、それをあえて見てももらう事も大事な事ですが、意識の違いが二つに分かれるようです。適判機関が「見てくれるから、それだけでもいいよ」という方と、「自分は一生懸命やって何かで間違ったらまた見てもらっている」という意識の人に分かれます。

有山/責任の転嫁

ちゃんとした構造設計者は一発で通るように設計図書をまとめて提出します。もう一方は、通ればいいというギリギリの状態でつくり、指摘されるのを頼りにしていて、訂正すればいいというレベル。つまり「責任の転嫁」が見られる。判定していく分かります。

寺田/技術者の教育部隊

環境によって技術者もいろんな育ち方をしている。適判はある意味で構造技術者の教育部隊もある。しょうがない。相手と顔を合わせながらやるのが理想です。

有山/細分化された専門家

構造そのものが細分化されてそれぞれの専門家はいる。全般レベルで一定以上の知識を持った人となるといなくなってしまう。だからといって細分化された専門家も構造設計者ではないとはいえない。

宮澤/共通なのは力学

私は適判業務を直接担当していませんが、木造でも超高層でも、ベースや共通なのは力学や耐震理論です。そして責任感が重要です。

9. 卒業生・在校生へのアドバイス

寺田/誇りある職種に携わる

私の在学中は、他の大学に負けないパワーとエネルギーがありました。都心にも近く、いい学生が沢山、優秀な先生も多いので心配はしていません。倫理観の話で、木造在来工法は平成12年に耐震基準が整備されました。某企業では8年間で全国の営業所に診断業務を展開しました。企業の倫理が今問われています。釣り合いの訓練をするのが力学で、大学で学ぶ構造の基本です。構造に関わることは大変ですが、誇りある職種に携わることになります。荒野のような厳しい状況の中を突き進むような人々を、沢山輩出してもらいたいものです。

有山/三つの意見

①構造の分野が専門化していますので、力学はもとより、自分の専門とする分野を是非身につけて下さい。例えば「鉄骨

は誰にも負けない」という技術者に育って欲しい。

- ②社会的に高いレベルの内容が要求されています。一人前の構造設計者として認められるには、大学卒業後、業界に飛び込んで最低10年は覚悟し、是非克服するだけの精神力を持って下さい。
- ③世の中にきちっとした建物を提供するという意味で、自分の意志を文章や、発言なりで、相手に伝えるテクニックを身につけて下さい。

宮澤/技術者に贈る言葉（「技術者の倫理」コロナ社、宮澤ほか

- ①失敗のなかった設計は安全である証明にはならない。
- ②成功に浸ると、なにかおかしいかも知れないという警告に敏感でなくなる。
- ③本来学ぶことは、法律や人間が作った理論ではない。構造設計者が学ぶのは自然という摂理です。

本学は歴史があり卒業生も在学生も人数が多く、幸い場所も新宿なので、これからも在学生と構造設計者のOB、あるいはOB同士の交流の場になることが大切です。OBの方々には宜しくお願い致します。

10. 最後に、大学へお願い

有山/もう一度勉強したい

大学にもお願いがあります。学生時代には研究テーマを見つけるのはそれほど意識していない。ところが社会に出て30代位になった時やりたい事に気がつきます。その際、新宿に大学があるので、大学内に社会人が学ぶ場を提供して欲しい。地理的状況からみて最適です。学生の時には、社会人になってからの教育は別ものと思っているところがある。世の中に出ではじめてあの事をやっておけば良かったとか、もう一度勉強したいと新たに思うようになる時がある。例えばRCを仕事として長年やってきて、ある時に木造設計を依頼された時、その分野の最先端の知識や技術を、研究者の方々にサポートして戴けると助かります。そういう場が大学にあれば、卒業生であれば尚更そこで学びたいのです。

（以上）

注1) 適判アンケート調査（平成20年8月 工学院大学建築学科 宮澤研究室）/回答者（大規模事務所4、中規模事務所1、個人事務所1、適判7、その他2）。担当関連物件（中高層6、低層大規模3、その他6）。適判制度（大反対2、反対1、仕方ない7、良い制度1、どれにも当たらない1、計12）

同窓生を訪ねて

河野 工



河野 工 略歴

横浜市生まれ
神奈川県立横浜平沼高等学校 卒業

1974年 工学院大学工学部建築学科望月洵
研究室卒業

1974年 清水建設(株)入社

検見川 住友不動産検見川ハウス新築工事
(BCS賞受賞)

田 無 シチズン時計新南2号精密機械工場
新築工事

シンガポール HDB(ニュータウン)建設工事

羽 田 東京国際空港、空港庁舎建築工事

江 東 あそか病院第一期新築工事

西新宿 新宿アイランドウイング建築工事

(株日本設計)

有 明 東京ファッショントウン建築工事

(丹下健三)

上 野 国立西洋美術館震災レトロフィット工事

(前川國男)

後楽園 文京シビックホール建築工事

(株日建設計)

西永福 高千穂大学100年記念CS館新築工事

(株三菱地所設計)

文京シビックセンター

我々の学生時代

我々の学生の頃、工学院大学の建築学科は華やいでいました。

意匠に波多江健郎教授(ホセ・ルイ・セルト)、武藤章教授(アルヴァ・アルト)山下司教授(ポール・ルドルフ)、構造は横田道夫教授、十代田昭二教授、シェル構造の望月 淳教授、設備に中島康孝教授と揃い、そして伊藤鄭爾教授を教授陣に迎えて、我々も建築について仲間同士熱く語り合ったものでした。

文京シビックホールの施工を担当して

建築家は交響曲の譜面のように図面を描き、スケッチを渡す。我々は適切な職人を選び出して、まとまり良く一つ一つ奏でていく。まるで音合わせのリハーサルもなしで「凍れる音楽」を熱演する指揮者に似ていると思います。

文京シビックセンター・ホールは音響の良さと交通至便な立地条件の文京公会堂と区役所の老朽化に伴い、礫泉公園と講道館の間に文京区のランドマークとして計画されました。



文京シビックセンター全景



文京シビックホール

1,802人収容のコンサートホールとしては、四方を地下鉄（丸の内線・三田線・南北線・大江戸線）に囲まれた音響的には最悪の条件下です。

建設所長は安田 栄、新横浜プリンス・宮崎のオーシャン45を手掛けてこられた京大卒の元サッカー選手、今は大のゴルフ好き。写真も好きで建築についても酒を飲みながら大いに語り合える上司で、この現場で工務・現業を携わることになる私にとっては有明の東京ファッションタウン以来の顔合わせでした。

躯体工事での段取り

躯体工事は当時脚光を浴び始めていた先行床工法。まず1階の床を高強度のコンクリートで先行して造り、地下を掘り下げていく、逆打ち工法です。都会の中心地にダンプを手際よく配車するのが腕の見せ所で、生コン打設もプラントで混練してから荷卸までを90分以内で搬入しなければ廃棄処分になるのでこれも一苦労でした。

人々、ここは江戸の中心地でもあり古井戸が出てくれば牛天神北野神社の女宮司さんのお祓いを受けての作業になるところです。勿論遺構が出れば区の文化部の登場となります。



接続棟

丸の内線側の狭い区道に面して地下に楽屋、地上は諸設備機械が納まる付属棟は、大道具等の搬入口・荷捌場があり、ホール棟と別に工事ができるように小型のクレーンを屋上に架設する計画を立て、限られた工期で有効に作業を実行していくのも現場の能力です。



ホワイエ

ホール棟での工夫

ホール棟は曲くりの付いた鉄骨を地組してから建方をする、これも一つ一つ形状が変わるので屏風建てにならないように気遣い、天気予報を睨みながらの建方には苦労の連続でした。

床面は客席なので水平ではなく、大空間の上は吸音材を敷詰めぶどう棚と称する鉄骨棚を組立、照明・音響などの設備を配置、後の点検歩廊を造りました。これら上部の作業用の仮設構台は空調の埋設された床工事と進行をずらして計画し実施させていきました。



接続棟吹抜とトラス屋根

接続棟での激闘

1期工事で建設された高層棟と入り組んで建つ接続棟は複雑な形状のEXP-Jで繋がりますが、どの断面も3次元の最大層間変位に耐えるこの納まりには、一切の妥協も許さず感情的になることもなくNGを出し続けて、正解を見つけ出すまでには、監理の西口勝臣さんとの2ヶ月以上の夜を徹しての激闘の末でした。

接続棟はガラスのトラス構造で、トラスを反転させその上に勾配の緩いガラスの屋根を架けるというものです。地下鉄南北線と大江戸線の乗換ホールを兼ねている吹抜けの大空間なので、竣工後に雨漏れやガラスのひび割れによる補修工事が発生しないように何ヶ月も掛けて入念に検討した結果試作品が完成、確認試験を経て製作組立てました。

もう一つ大きな問題はメンテナンス用のラダー（はしご）をどのように納めるかということでした。ホワイエに露出させず、周囲の意匠に溶け込むように、またガラス清掃等の作業性も熟考して格納庫との絡みまでミリ単位の施工図を描上げ施工しました。

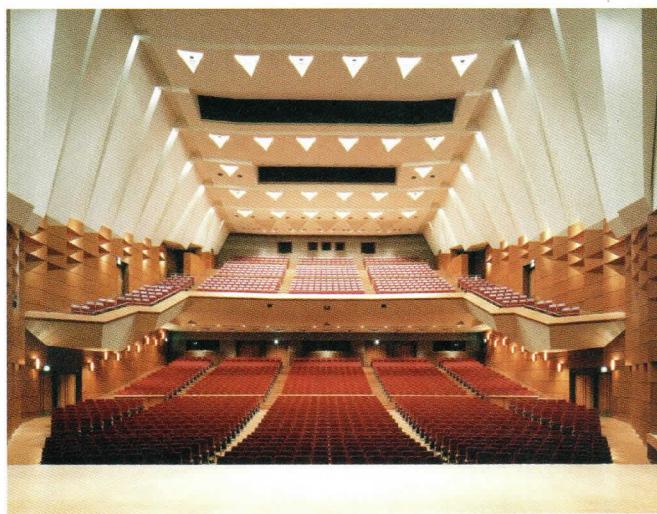
コンサートホールでの創意工夫

コンサートホールでは、天井は防振ゴムで吊り下げられ、壁もゴムで縁切られ、床は躯体の上に50mmのグラスウールを貼詰めた上に浮き床を打設しました。このグラスウールにコンクリートノロが浸込まないようにするのが創意工夫に満ちた技術で、その上に防振床を造りました。このようにして、防振・遮音・音響のより性能の高いものを造り上げました。

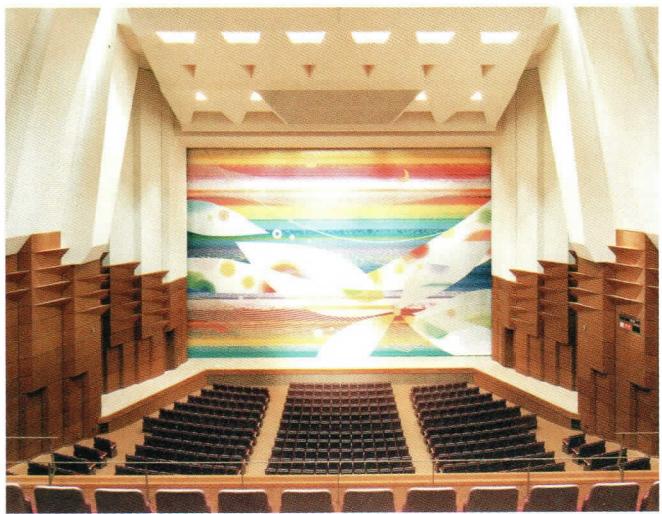
地下には大ホールのアクティングエリアと同じ広さの多目的室。オーケストラのリハーサルから、バレエの練習も出来るようにミラー付き壁面になっています。



コンサートホール



コンサートホール

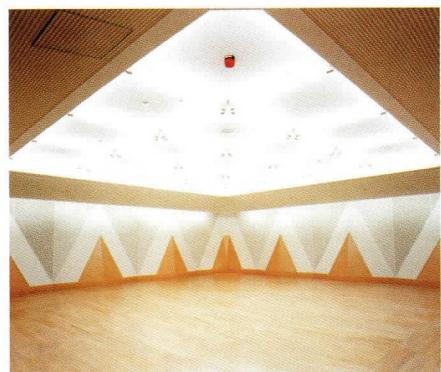


コンサートホール

建築家・芸術家との葛藤を超えて

自分も演奏家である、設計の清田文弘氏は、練習室にも奇抜な意匠で、内心は煮えたくるような気持ちを抑えて、芸術家たちが使うのだからとCADのオペや工事担当者から作業員までを宥めすかして創り上げていきました。でも出来あがってみればみんな大満足でした。

設計者・協力業者との見学会も、新国立劇場・横浜みなとみらいホール・静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ)・東京藝術大学の新奏楽堂と数多く行き、より良いものを創造する意識を高めました。



練習室-1



練習室-2



キッズルーム

関係者家族との慰労会開催!

建物はこうして皆の苦労を結集して出来上がり、引渡すことになります。

ただ今回はこの仕事に携わった職人達とその家族のかたがたが一堂に会しての慰労会を開催することができました。実はそれは舞台機構・舞台音響・舞台照明の人達にとって最後の確認試験・機能調整の場でもあったのです。

選ばれた何人かが奈落の底に待機し、前奏とともに迫りあがり照明を浴び、フットライトに照らされて、拍手喝采! 私も「海・その愛」を歌ったことを思い起こします。



調整室

同窓生を訪ねて

塚田良仁



塚田良仁 略歴

新潟県立十日町高等学校(公立)1976年卒業
工学院大学 建築学科 1980年卒業
宮澤研究室(構造系)
工学院大学大学院 修士課程建築学専攻
1982年修了 望月(洵)研究室(構造系)
tukada265@azusasekkei.co.jp
1982年 株式会社 梓設計入社 現在に至る
所属部署:構造部、役職:参与
資格:1級建築士、建築構造士、APECエンジニア、構造計算適合判定、構造設計1級建築士

代表作品

全日空 成田第1号格納庫
全日空 東京新第1号格納庫
空港施設株関西国際空港格納庫
バリ島 ウングラライ国際旅客ターミナルビル
羽田空港 新国際線旅客ターミナルビル他

全日空 東京新第2号格納庫

1. 建物概要

全日空東京新第2号格納庫は、2009年3月完成を目指し羽田空港新整備地区に現在建設中の建物である。

新整備地区には同一形状した格納庫(ハンガー)が既に4棟建っており、それらの最も南側の全日空東京新第1号格納庫の隣に位置する。

本建物は、鉄骨造平屋のハンガー棟とその内部の屋内屋4棟(S/Rデッキ1~4、鉄骨造、2~3階建)の計5棟から構成されている。ハンガー棟は大スパン構造で階高が高く、屋内屋4棟との構造特性が大きく異なるため、地上部分を分離して、独立して挙動できるように計画した。また、隣接する東京新第1号格納庫とも基礎から完全に分離して計画した。設計は(株)梓設計と清水建設(株)一級建築士事務所との共同設計で行った。

本建物は3機の航空機を同時に収納ができる、そのうち2機は重整備(飛行時間が3,000~4,000時間の整備点検)を行う専用ドックを持っている。専用ドックには、機体各部に整備士が寄りついて機体整備を行う作業スタンドやエンジン・フラップ等大型装備品の交換に使用する天井走行クレーンが天井から吊られている。

残りの1機は大型機のライン整備(飛行時間が300~400時間の整備点検)に対



写真1 既存格納庫(東京新第1号格納庫)

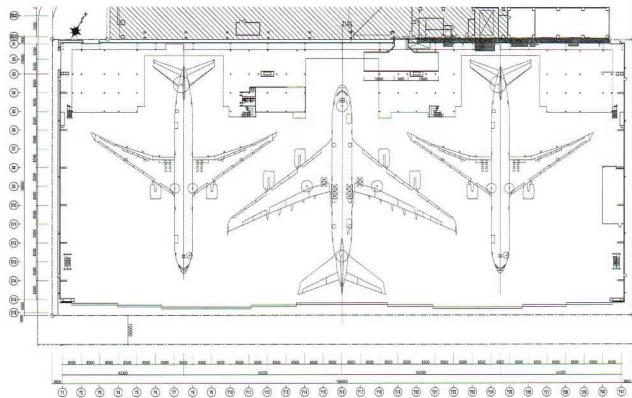


図1 平面図



写真2 作業スタンド(東京新第1号格納庫)

2. ハンガー棟の構造概要

ハンガー棟の架構形式は、下図のように種々考えられるが、顧客の要望事項（整備内容、対象機種、格納機体数など）や建物高さ制限（飛行場には転移表面、水平表面と言った、これ以上高く建ててはいけないという制限がある）などを考慮し、経済性、施工性、実績などを総合評価し、最適な形式を採用している。

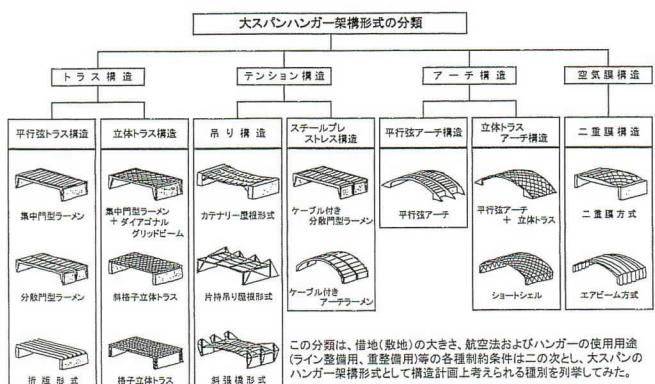


図4 架構形式の分類

本建物の架構形式は検討の結果、門型ラーメントラス構造と斜格子トラスを併用したものとした。

大屋根はトラス成（上下弦材芯々）9.25mで、格子トラスを45度方向にかけた斜格子トラスと4周の外周トラスから構成されている。

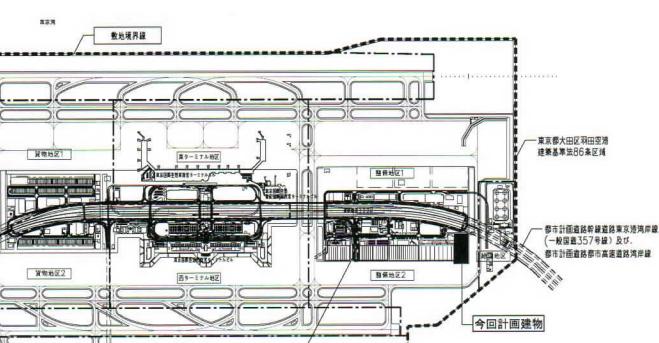


図3 配置案内図

応が可能となっている。ライン整備には作業スタンドは無いが、天井走行クレーンは吊られている。

今回、これら吊り式の作業用設備の総重量は約1,000トンとなっている。構造体にとっては非常に重く、厳しい条件であるが、狭い敷地の有効活用、大型・中型航空機を多数同時に収容可能のため採用している。

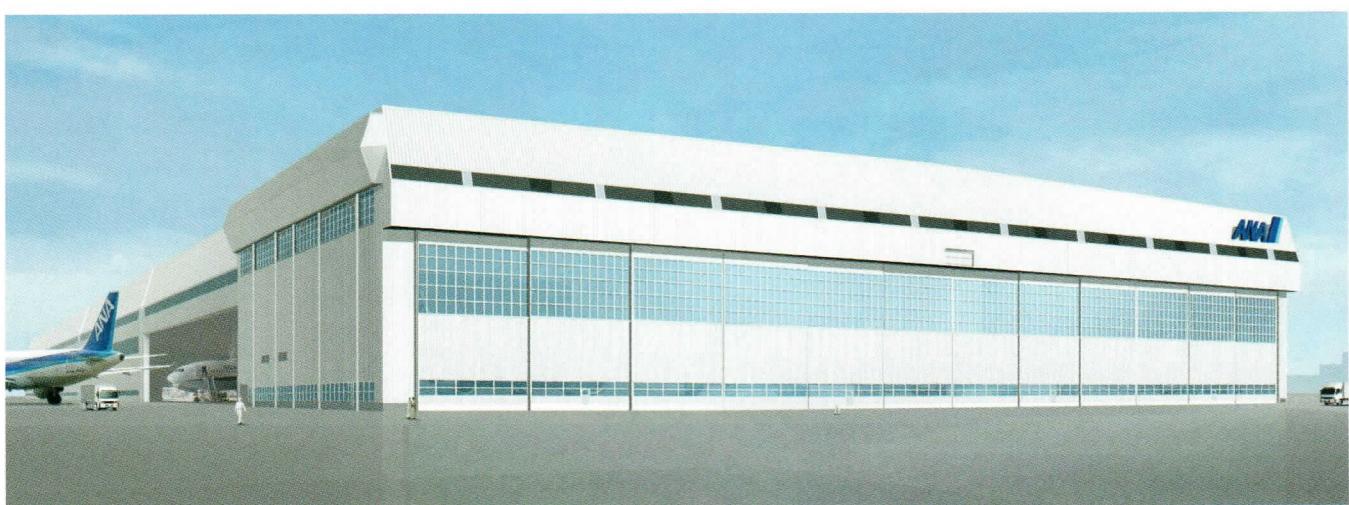


図5 建物完成パース

大屋根面の荷重は斜格子トラスと外周トラスを介し、4隅の柱と後方に用意した2本の柱（合計6本）で支えられている。

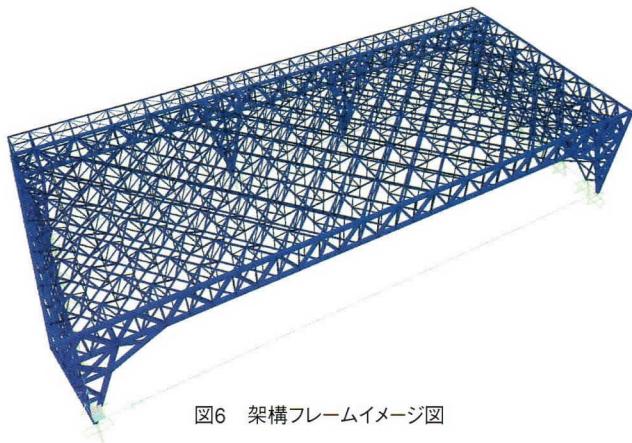


図6 架構フレームイメージ図

後面側の柱は、格納庫の奥行空間の有効性を考慮し後面外壁より10m内側に設置した。

屋根仕上げはダブル折板とし、外壁は折板（縦張）とした。

3. 構造計画

①上部構造

上部構造は間口195m、奥行88m、天井高28.65mの鉄骨造である。

前面架構はスパン195mの門型ラーメン構造、後面架構はスパン71.5～52mの3連門型ラーメン構造である。

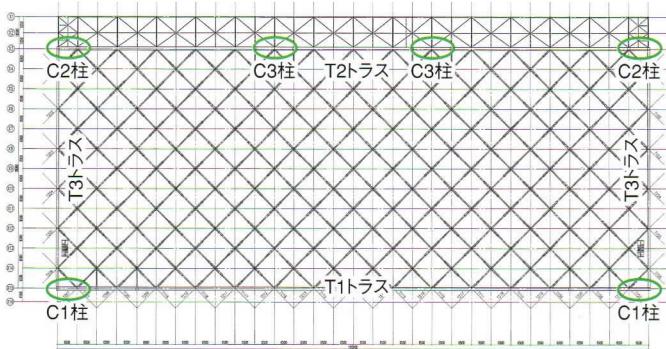


図7 屋根伏図

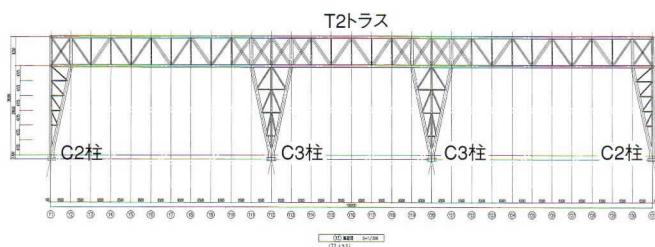


図8 軸組図-1

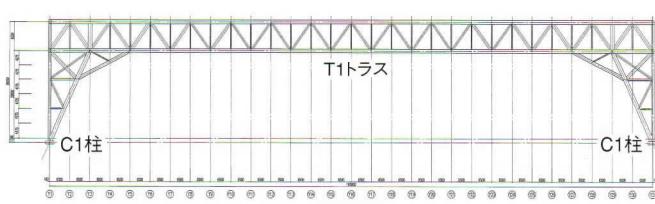


図9 軸組図-2

長手方向はトラス架構による門型のラーメン構造とし、短手方向はプレース構造である。

前面架構と後面架構の剛性を調整し、また短手方向のプレースにより架構全体のねじれ剛性を高めて、水平荷重時の架構の偏心が小さくなるように計画している。

主柱（前面C1、後面C2、C3）と外周トラスのうち、前面（T1）トラスと後面（T2）トラスは鋼板による組立箱型断面とし、側面（T3）トラスと斜格子トラスはH形鋼および鋼板による組立H型断面から構成している。

各主要部材同士の接合方法は工場接合、現場接合とともに溶接接合とした。2次部材および短手方向のプレースは高力ボルト接合とした。

使用材料は、主要部材（主柱・大トラス・斜格子トラス・プレース）はSN490B規格品とし（板厚が40mmを超える場合はTMCP鋼）、その他の間柱・耐風梁・小梁等はSN400、SS400規格品としている。

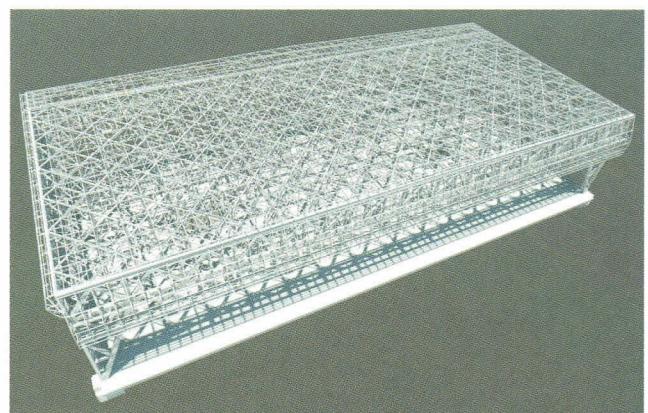


図10 構造パース-1

②基礎構造

当建設地は超軟弱地盤に埋め立てを行った場所であり、埋め立て開始から約37年経過し、相当量の地盤沈下が発生している。今後も約15cmの沈下が生じると予測して設計を行った。

ハンガー棟の柱直下は勿論であるが、広大な床部分も基礎

梁を配し杭基礎としている。

杭基礎はGL-約80m付近の砂礫層を支持層とし、鋼管杭800φの油圧ハンマー打撃工法とした。

地盤の圧密沈下により、杭に負の摩擦力が作用するため、圧密対象層の部分には杭周にスリップレイヤー(SL)によるネガティブフリクション低減工法を施した。

門型ラーメントラス構造の柱脚(C1)部の基礎梁には常にスラスト力が作用するため、ポストテンション方式によりプレストレスを導入し、RC梁にひび割れが生じないように計画した。

③設計荷重および外力

設計荷重は次の通りで、部材の設計用応力はそれらの荷重を組合せて部材設計を行った。組合せは18ケースとなった。

■固定荷重(DL): 鉄骨自重、キャットウォーク、設備荷重、仕上げ材重量など

■クレーン荷重(CL): 吊り式作業用設備重量(作業スタンド、天井走行クレーン)

■雪荷重(SL): 積雪深20cm

■温度荷重(TL): ±20°C

■風荷重(WL): 地表面粗度区分Ⅱ、基準風速38.0m/s

■地震荷重(EL): 1次設計時: $C_0=0.3$

2次設計時: $C_0=1.0, D_s=0.5$

④応力と変形

主架構であるT1トラスの長期鉛直荷重時(固定荷重とクレーン荷重の組合せ)の最大軸力は、トラス下弦端部で約18,000kNとなる。

T1トラス中央部の鉛直方向の変形(たわみ)は、長期鉛直時(固定荷重とクレーン荷重の組合せ)が434mm、風荷重時変動分が256mm、積雪荷重時変動分が57mmである。

C1柱の長期鉛直荷重時(固定荷重とクレーン荷重の組合せ)の最大反力は、鉛直方向約21,000kN、水平方向約15,000kNである。

地震時の長手方向の層間変形角は、1次設計時は1/202で、2次設計時は1/120である。

4. 施工

①工事工期

工事は17ヶ月の工期を要し、着工は2007年8月、竣工は2009年3月の予定である。

杭工事には4.5ヶ月、掘削・基礎工事には8.0ヶ月、鉄骨建方には7.0ヶ月、仕上げ(外装)工事には3.5ヶ月を要する。これらの工事は輻輳して行われている。

②鉄骨建方工法

鉄骨建方は東京新第1号格納庫と同じステージ工法を採用した。地組みした屋根トラスを50本の仮設(ベント)支柱頂部に設置したジャッキに乗せ、現場溶接接合が完了後、自動制御でジャッキのストロークを下げ、架構全体を自立させた。ジャッキダウンはH20.11.18計画通り無事終了した。



写真3 工事写真-1



写真4 工事写真-2



図11 構造パース-2

同窓生を訪ねて

草間 真



草間 真 略歴

1967年 私立城北高等学校 卒業
1971年 工学院大学
建築学科 山下研究室 卒業
1971年 株式会社 安井建築設計事務所
入社
1986年 株式会社 第一設計 入社
1996年 前田屋外美術株式会社 入社
2003年 黒沢建設株式会社 入社
現在に至る

知っていますか? PC圧着関節工法を!!



日产体育场

はじめに

建築設計事務所時代に意匠担当として、病院建築・博物館・スポーツセンターなどの特殊建築物を多く手がける中、構造担当者との構造検討でほとんど話題に上らなかった構造システムに、PC造があります。

今思うと不思議でならないのですが、PC造を狭義であれ、広義であれ知らなかつたと言うことが一番の理由です。これは、構造システムを専門家としてアドバイスすべき立場である構造担当者も含めての話ですが…。

それでは改めてお伺いしますが、皆さんはここ迄で“PC”という言葉から何を想像しますか?

建築意匠系である私は“PC”と言うと悲しいかな、カーテンウォールとして外装材に使用するプレキャスト・コンクリートを思い浮かべる程度で、建築躯体として優れたプレキャスト・プレストレスコンクリートには考えが及ばなかったと言うのが本音です。構造の方も建築系

であればあまり大差なく、先ずはプレキャスト・コンクリートを思い浮かべるのでは…?

何故ならば、学校で習う建築構造の“PC造”が、『引張に弱い性質のコンクリートにPC鋼材でプレストレスを導入してその弱点を補完する。大スパンが可能になり、耐荷重も増すことが出来る。』程度の、辞書に解説されているような内容説明に止まっている!…からではないでしょうか。(山下研究室は意匠系だったので、構造系の研究室では、プレキャスト・プレストレス コンクリートの計算まで教えていたのかは、実際のところ定かではありませんが…?)

またその辞書が曲者なんですね!!

例えば、皆さんのが良くご存知の建築大辞典を開くと、①PC→プレストレスコンクリート、②PC→プレキャスト・コンクリートという具合で、どちらも略称は“PC”となっています。建築専門誌『ディテール第154号』でPC造が特集されました。その際も『PCはプレキャスト・プレストレス コンクリートを、PCaはプレキャスト・

コンクリートを意味する。』と注釈が付けられました。『ディテール第156号』からは“PC造入門”というタイトルでPC造の連載もされましたが、やはり同様の注釈付でした。社会に出ると、PC=プレキャスト・コンクリートが意匠系と言うよりは、建築系の一般的な解釈のようです。

実際には性能が全く異なるものを、同じ略称“PC”で表現していますから、私でなくても建築系の方は、外装材のカーテンウォールとして身近なPCaをまずは思い浮かべますよね!!

そこで、PCを論ずるには、ディテールの注釈にあるように、しっかり使い分けをする必要があります。ここでは、ディテールと同様に下記のような使い分けを行います。

PC…プレキャスト・プレストレス コンクリート
PCa…プレキャスト・コンクリート
PS…プレストレス
改めて、ここでご紹介するPC圧着関節工法のPCとは、プレキャスト・プレストレス コンクリートのことです。

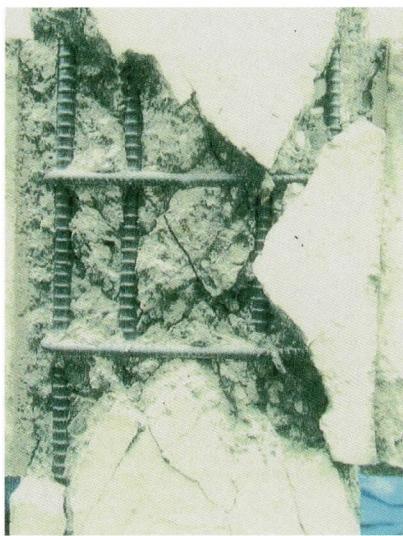
在来工法の耐震性

-PC圧着関節工法の紹介の前に…!!-

皆様がご存知のように、現在の建築基準法は最低基準を示しているに過ぎません。決して理想的(or 標準的)な目安を示している訳ではありません。これが顕著に現れるのが耐震性能です。建築基準法の耐震の考え方のベースになっているのは“罹災時の人命”ですから、その結果『建築構造は、大地震に遭遇した際の避難時間を確保出来れば足る!!』とすることで、エネルギーの吸収は躯体の損壊・損傷で行うことになります。言葉では分かり難いと思いますが、あえて表現すると、グズグズと鉄筋コンクリートが壊れている間に避難が出来れば良い。更に言い換えれば、“エネルギーを吸収するために如何に壊すか!?”を構造躯体に求めたのが在来工法の耐震性能と言えます。

在来工法である鉄筋コンクリート造を公開実験で検証した結果は、まさに正しくグズグズと壊れている様子を表しています。【公開実験映像一A参照】

…でもそれで良いのでしょうか?我々は、阪神大震災・新潟県中越地震などの大地震に遭遇し、人命は助けたものの震災後に建物が継続使用できないことによる二次災害的な諸問題の顕在化



【公開実験映像一A】一鉄筋コンクリート造の場合一震度6程度(変形角1/100)で損壊した鉄筋コンクリート(RC造)のパネルゾーン(柱・梁交差部)。

罹災後の継続使用は不可能

を経験しました。阪神大震災ではダイエーが、新潟中越地震では三洋電機が、それぞれ経営拠点・生産拠点の罹災により企業の存亡にかかわるほどの事態に陥りました。結局、形振り構わず球団を整理したり、人員を整理したりする事態が生じたことは皆様がご存知のとおりです。生活の拠点である住宅を失い、自家用車の生活でエコノミー症候群に陥り亡くなった方、避難場所でのストレスで、体調を崩して命を落とされた方などを見ると、罹災後の経済活動拠点及び生活拠点の確保を考えた耐震計画こそがいま必要なだと実感します。

病院建築などは、建物用途上の重要度係数での構造耐力の割増があるほど、災害時の最終拠点としての役割を求められるにもかかわらず、やはり“現在は最低基準しか示していない建築基準法の耐震基準”それに適合していれば、『どの構造システムも横並びの耐震性能。だから、コストありきで構造を決定している。』と言うのが現状ではありませんか?その勘違いが、神戸大地震で各處に見られたような惨事に繋がります。【インターネット画像】

政府が起こりうる大地震として発表している震度は“7”です。「東海地震の発生は、既にサッカーで言うところの“ロスタイム”と称される程の切迫度(『巨大災害があなたを襲う!』発行:株式会社 学習研究社より)」と言っている専門家も数多く居ます。そのような今、構造の耐震性能として求める最低基準は、“罹災後に構造躯体の継続使用を可



神戸大震災の病院被害(インターネット画像より)
中間階が押し潰されている

能とすること!!”ではないでしょうか!?それを可能とする構造システムが、これからご紹介する“PC圧着関節工法”です。

耐震／震度7の建築構造システム

-PC圧着関節工法-

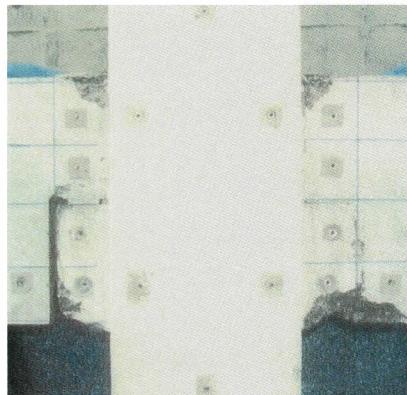
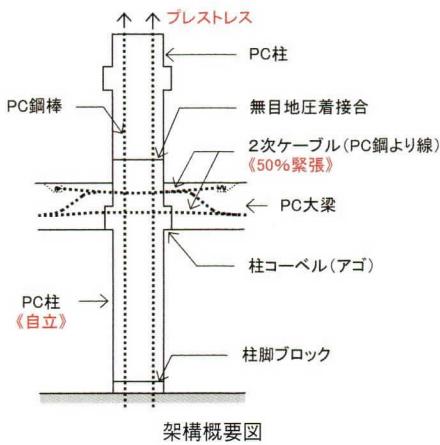
わが国では、土木の構造体として発展してきたPC造ですが、建築の構造体としてのPC造は、長いこと建築評定が必要な特殊構造として扱われてきました。現在は、建築基準法が仕様規定から性能規定に見直されると共に、在来工法と同じ確認申請の提出で良くなりました。…が、これらのことも建築構造体としてのPC造の発展・普及を遅れさせた一因です。コストも、どのような検討をしたか?…しないか?分かりませんが、現在も“馬鹿の一つ覚え”的に『高い!高い!』と繰り返すのみで、検討の土俵にも乗せない方もいらっしゃいます。もしかすると、本音は“PC造は解らない!”と言うところでしょうか?しかし実際は、物流倉庫から病院建築に至るまでの多様な建築物に、抜群の費用対効果を有するものとして採用されています。

PC造には、先に圧着工法という工法が存在しました。圧着とは、マージャンパイを積み上げるときに、パイの両端から圧力を掛けることで、パイを一体化(圧着)させて持ち上げますが、そのパイを一体化させる原理です。従来の圧着は柱に“あご”がありませんから、架設時には梁を支える支保工などの仮設資材が必要で、一体化するための鋼線(PC鋼より線)も規格降伏荷重の80~90%の余力のない緊張とする必要がありました。

PC圧着関節工法は、柱に梁受のコーベル(あご)を設け、梁の自重を受けさせ、鋼線の緊張力は、余力を持った一体化に必要な50%緊張としました。その余力のある50%緊張が、大地震に遭遇した際には、肩の関節のように

回転運動でエネルギーが吸収できる関節工法を可能としました。関節工法の由来はそこにあります。【架構概要図参照】

そして、PC圧着関節工法は、元建設省建築研究所所長の中野 清司先生を始めとする建築構造界では著名な諸先生方が、公開実験(平成14年、平成15年、於:東京工業大学)により“耐震／震度7”を検証しました。この検証実験で、PC圧着関節工法は、震度7と言う大地震に遭遇した場合でも、建築構造躯体として継続使用が可能性であることが実証されました。【公開実験映像一B参照】



【公開実験映像一B】—PC圧着関節工法の場合—震度7程度(変形角1/25)での回転運動後の状況。
りさいご
罹災後の継続使用が可能

300年耐久の構造躯体 —PC圧着関節工法—

国土交通省は、2007年11月に「住宅の長期利用に関する法律案」(仮称)の骨格を固めました。俗に言う『200年住宅』の促進です。今までのフロー消費型社会からストック型社会への転換

を図ろうとするものです。バブル崩壊の経済破綻からCO₂削減などの地球環境問題を考えると当然の帰結で、すでに遅過ぎる感は否めません。しかし、200年住宅の認定要件に、コンクリートの水セメント比を50%以下とすること、鉄筋に対するコンクリートの被り厚を30mm以上とすること、それに忘れてはならない構造躯体の耐震性が謳われていますが、建設コスト等への影響が大き過ぎるためか、ゼネコン各社の反応は冷ややかだそうです。

国土交通省の認定基準にも、大きな欠陥があります。コンクリートの中性化を考慮しコンクリートの水セメント比を現在の60%から50%に向上させたとしても、日照りの田んぼのように、乾燥収縮によるクラックは免れ得ませんから、沖縄などで顕著に見られる、クラックからの水の滲入による鉄筋サビが原因となる爆裂などの危険因子は排除出来れません。

そう!もう既に皆さんお気付きのように、コンクリートの中性化の進行速度以上に、クラックが鉄筋の深度に達する速度のほうが速いのです。200年住宅を実現するためには、コンクリートをノンクラックにして、初めて中性化の進行速度での200年耐久の予測が立ちます。

一方、PC圧着関節工法は、耐震／震度7を可能とする耐震性を満足すると共に、水セメント比35%、コンクリート強度F_c=50N/mm²以上で、且つプレストレスの導入によりノンクラックですから、既に現在の標準仕様で300年超の耐久性を持っています。

200年住宅への取組は、ゼネコン各社はコストアップ及び補助金の割にそれをもらう事前・事後の手間などが掛かる事を理由に消極的で、決して積極的とは言えない状況のようです。しかし現在、建築構造躯体として採用が加速しているPC圧着関節工法は、現在のままで既に200年住宅の要件を満足しています。また採用が加速してい

る要因は、昨今の建設資材の物価上昇で在来工法の高騰というコスト事情もありますが、一方で費用対効果は“安くこそあれ、決して高くない!”と言いうことが分かってきたことも大きな要因です。

建築構造躯体が、大地震と言われる震度7に遭遇しても健全であり、ノンクラックで長期に亘りメンテナンスフリーであれば、トータルコストは如何に優位か、皆様もお分かりになると思います。特に建て主(オーナー)がそのことに気付き始めています。

おわりに

意匠担当の建築設計事務所時代は、無意識的に『構造の選択は、構造屋さんに任せていれば良い!!』(そんなことはないつもりでしたか!?)…と言う感覚だったと思います。しかし、最低基準である建築基準法の耐震性能がどのようなものであるか、振動抑制が出来ない鉄骨造が直下型地震に遭遇した場合はどうなるか、…などを知るにつれ、意匠屋が全方位的な視野で、オーナーの立場に立ってデザイン(決定)しなければならない構造性能が数多くあることが判りました。

数値で計算できるのみが構造性能とは限りません。しかし、意匠屋は“見えざる重視”で構造屋は“力学重視(構造基準重視?)”ちょっと偏り過ぎだと思いませんか?

PC圧着関節工法は、耐震性能・耐久性能はご紹介したとおりですが、驚くほどの工期短縮・環境性能・トータルコストなど、在来工法に比較して数多くのメリットを有しています。コンクリート系でスパンが飛ばせますから免震装置との相性も抜群で、最近は免震+PC圧着関節工法の組合せも一般的になりました。罹災時の最終拠点としての存続を求められる病院建築・市庁舎・学校などでは勿論のこと、鉄骨造が当たり前であった物流倉庫もそれは例外では

ありません。プロロジス(採用事例参照)は、先陣を切ってPC圧着関節工法と免震装置との組合せを採用することで、いま物流業界の覇者と言えるほどの全国展開を続けています。それを可能とさせたのも“PC圧着関節工法”と言う最新構造システムです。

従来は建物形状・規模などで、採用に制約のあった圧着工法を改良したものですから、現在は皆さんが想像している以上にPC圧着関節工法の建築物は数多く存在します。是非調べてみて下さい。

あとがき

本学を卒業後、設計事務所に入社し33年ほどの長きに亘り意匠設計にたずさわりました。県立の博物館・上越新幹線の駅舎・銀行の厚生施設であるグラウンドとクラブハウス・ウイスキー工場の設計など、それぞれに特色のある建築設計を経験しました。

1973年に竣工した所沢の国立職業リハビリテーションセンターの設計にたずさわった後、なぜか?病院建築の設計を担当させられることが多くなりました。なぜか?と言う疑問符を付けたのは、通

称:職リハは、ハンディキャップ者を対象とした職業訓練施設であり、当時の労働省管轄で、決して病院建築ではありません。“リハビリ=病院”と言う思い込みが、結局その後に病院建築を設計するきっかけを与えてくれたと言うことです。職リハは、当時それなりにハンディキャップ者対応のディテールの最先端にある建築だったと思います。

病院建築は、その複雑な病院機能をどのように秩序立てて単純化していくか?…と言う全体計画の面白さと、特殊機能(例えば、放射線の防護室、クリーンルーム、電波シールド、無響室など)のディテール設計の面白さがありますが、やはり一番喜びを感じるのは、竣工した病院で出会う患者の笑顔でした。

…と、ここまで来ましたが、『構造は面白い』とはなりませんでした。私の意識の中では構造は任せる部分の範疇に入っていたからでしょう。

5年ほどは都市空間的な分野をデザインする事務所に籍を置き、さいたま新都心地区景観デザイン業務で、さいたま新都心の公共空間を設計するなど、土木的な設計の面白さも経験しました。土木の設計図はそのものが施工図・製作図ですが、建築は実施設計図をベ

ースに施工図・製作図を起こしますので、そのディテールのいい加減さと、ディテールを“3次元的に捉えて表現できない建築の設計者”的なことも実感しました。大体は『…だって、発注後にゼネコン(施工図屋)が書くでしょ!!』と言う感じです。

そのディテールと同様に誰かに任せることで大切な何かが浅薄な検討で終わっていますか?計算では決まらない構造の部分がそうではないかと思います。

例えば、安全で且つ安心できると言う条件は建築における必須条件ですが、最低基準を示す現在の建築基準法は、罹災時に人命の確保には安全(?)でも、罹災後の安心の確保に関しては、阪神大震災・新潟県中越地震などの大地震に遭遇した結果が示すとおりです。

同じ新耐震基準であっても、コンクリート系と鉄骨造の振動障害は比べ物になりません。耐震・耐久性能、構造材のエコロジーなどは、誰が検討・決定するの…?など、私の経験から、『そのところを意匠・構造が互いに任せ合わないで、特に全体をコーディネートする意匠屋がオーナーの立場に立って、積極的に検討して欲しい!』と思っています。

PC圧着関節工法採用事例



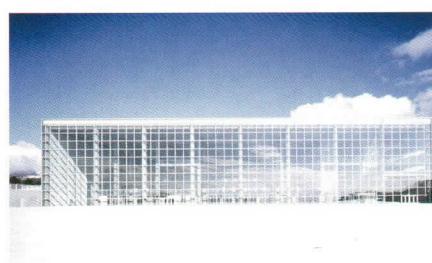
十和田市立病院



プロロジスパーク横浜



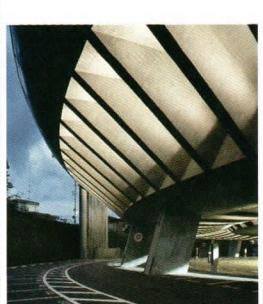
サンマリンスタジアム



公立はこだて未来大学



いわき平競輪場 新マコンセル曲線(3次元形状バンク)



My Favorite Time

押し花アート

押し花との出会い そして現在

私は押し花の出会いは、ふと立ち寄った書店にて押し花作品集を手にしたことに始まります。押し花というと色褪せた茶色の花という小学生時代の夏休み自由研究を想像しておりましたが、目の前に広がった世界は原色であり全くの別世界がありました。そもそも押し花は中世ヨーロッパでハーブの見本として生まれ、その後貴族の女性たちにもてはやされ広ましたが、現在は日本の技術革新により海外へ日本の新しい文化として発信されております。2001年には日本政府の公式行事「JAPAN 2001」として英国ロンドンにて国際公募展を兼ねて発表されました。私も初出品初受賞となり仲間と式典に参加し感激して帰って参りました。現在の国内愛好者は数十万人とも言われておりますが、女性がほとんどであり未だ手芸的評価の強い世界であります。私は押し花のアート性を追い求め、押し花のコンクールだけでなく絵画全般の公募美術展へ出品し、受賞を重ねられたことは一定の評価を得られてきたと自負しております。その実力が認められ2008年9月より(株)日本ヴォーグ社本社にて押し花インストラクターを対象にした講師として抜擢され活動を開始しました。今後の自身と押し花界の成長のためにも更なる努力を重ねたいと思っております。

花の姿を借りて(オリジナルアートへ)

建築(住まい)と人が一体であるように、花と人も同様だと思っております。人生の節目には必ずどこかに何も語らずただひたすらに咲く花が在り人は癒され、又自然から多くの事を学び形に変えていきます。私は花の姿を借りて己の心を表現するとともに自然の美しさを再認識し、伝えたいと思っております。そんな想いを込めた作品が徐々に姿を現していく過程は苦労もありますが、それにも勝る感動もあって作り手から見る側へと変わり、残(遺)せたと思える瞬間が至福の時であり、これらは建築と共にした喜びであります。そんな心の響きを具体的に伝える為、私はオリジナルの詩を添えた作品創りを続けております。油彩や水彩画とは又違った世界を、皆様方に観ていただける機会がありますよう願っております。



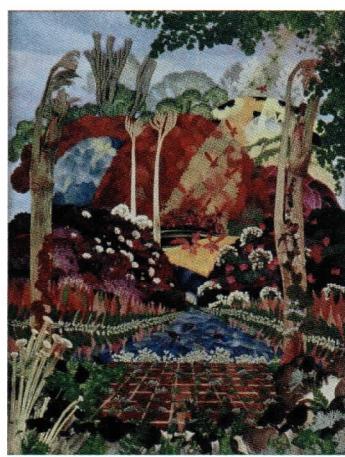
時空(素巣気)

54.3×72.5



人生路<ロード> (幼少・青・壮・老)

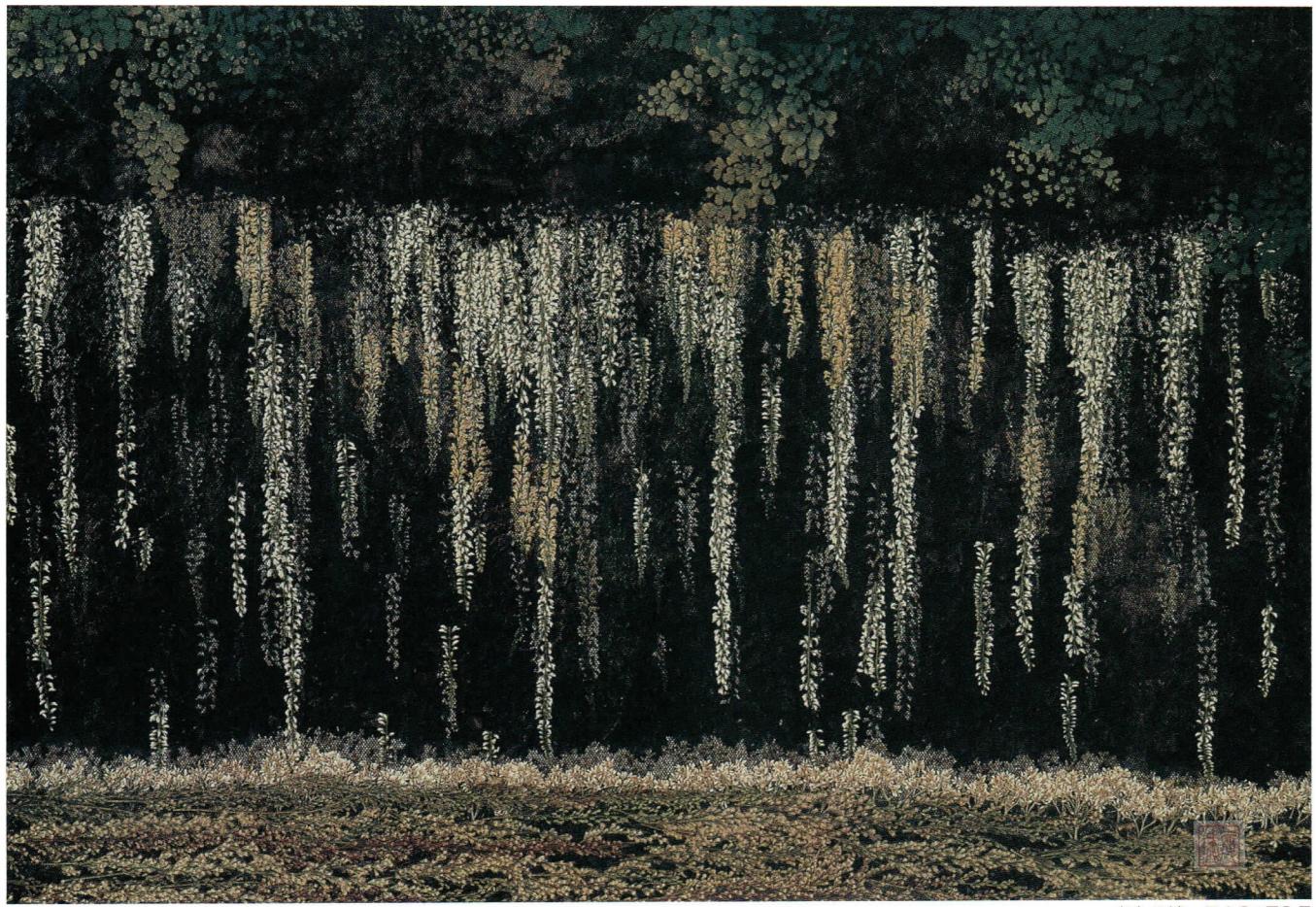
72.5×54.3×4連(左右端連続)



Only time in the Forest 48.4×39.4



秋の祈り 60.3×45.2



白糸の滝 54.3×72.5



オジロマサカズ
尾城雅一

1976年 埼玉県立越谷高校卒業

1980年 工学院大学建築学科(南迫研究室)卒業

現在、尾城建築設計(自営) ojir03@ec2.technowave.ne.jp

押し花作家(押し花教室開設)

世界押し花芸術協会会員

日揮会美術協会会員

主な押し花歴

2000年 押し花インストラクター取得

2001年 世界押し花絵画展(in London) 日本一の押し花の里賞
うつくしま未来博全国押し花絵画展 国土交通大臣賞

2003年 全国押し花コンクール(in新潟朱鷺メッセ) 審査員奨励賞×2

2004年 押し花アート作品集「My Heart's」出版 (新風舎刊)
私の花生活主催押し花NIPPON大賞 金賞

2005年 全国押し花コンクール(in広島) 佳作×3

押し花国際公募展(創造展) 入選

第30回日輝展(都美術館) 特別賞 以後各年連続入賞

2006年 第23回ニュークリエイティブ展(都美術館) デザイン賞 以後各年連続入賞
フィラデルフィア(米国) フラワー賞 銀賞

押し花コンテスト(inさいたまスーパーアリーナ) 銀賞

2007年 全国押し花コンクール(in大牟田) 特別賞

押し花国際公募展(創造展) 特選

第34回日象展(国立新美術館) 入選

2008年 私の花生活主催押し花NIPPON大賞(in宮島) 銀賞
韓国押し花大典(国際公募展) 優秀賞

私の花生活主催誌上コンクール 銅賞・審査員奨励賞

※私の花生活:隔月約10万部発行の全国押し花専門誌(日本ヴォーグ社刊)



酔花 48.4×29.4



歡喜 48.4×39.4



月の涙 84.8×39.3

ベトナム製の家具を用いた 高級中華レストランの設計

(越谷イオンレイクタウン「謝朋殿」)

大学を卒業してから、組織設計事務所のインテリア設計部にて、ホテル施設(ロビー、客室、レストラン等)のデザインに携わり、現在は、港区のデザイン事務所にて、主に飲食店やバー、住宅の設計に従事しております。大学では、建築学コースでしたが、在学中に2年程、イギリスのカレッジに留学してインテリアデザインを学んでからは、建築以外にもインテリアデザインの仕事に興味を持ち、その世界で経験を積んで参りました。

今回は、最近竣工したばかりで、私が担当した物件の中から、越谷イオンレイクタウン「謝朋殿」についてお話しさせて頂きます。

2階建てイメージの ファサードデザイン

私は現在、港区に所在する、株式会社omdo(オムド)というアトリエ系のデザイン事務所に勤めています。

2008年10月に、埼玉県の越谷レイクタウンという駅の近くに、大型複合商業施設(イオンモール)がオープンしました。建築は大林組の設計施工です。その施設のテナントの一つとして、中華レストラン「謝朋殿」をomdoで設計致しました。

出店する場所は、A街区のレストランフロアの中でも中庭に面した吹き抜け部分という好立地で、6メートルの高さを有するファサードが魅力的なところです。

当初からのデザインコンセプトは、中国の街の一角に外国人が居住する一軒



計画段階でのイメージCG

家のイメージとし、その高さをいかして、いかにも二階建てのようなファサードデザインを施しました。二階をバルコニー風にする突出部には400mmまでという制限がありましたが、その中で如何に立体的な表情を演出するかに苦心して、ライティング方法と二階軒天のオレンジ色のカラーにポイントを置きました。

プレゼンテーション資料としてのイメージパース、CGはいつも自分で作成します。そのためイメージ構築の段階から何枚も描くことになりますが、プレゼン用というだけでなく社内検討のシミュレーションとしても役立っています。このファサードのデザインの場合も同じでした。

アジアイメージと アールデコのインテリア

テナント設計条件として、デベロッパー側から内装材の2種以上にエコ素材を用いなければならず、素材セレクトに苦労しました。たくさんショールームを廻りましたが、大体に於いてリサイクル

商品は価格的に高価で、その効果を考えても使いにくいものでした。その結果一部の範囲に留めましたが、今後ため日頃から素材探しをしなければならないと感じました。

インテリアに於いても天井高さは4000mmを確保でき、コンセプトに沿って全体のベース照明は、天井にアールデコ調のアップライトの間接照明としました。壁面に施した発光面やコードペンドントの刺繡パターンは、コンソールや椅子、テーブルをベトナムの工場で制作した関係で、現地の伝統的な布地を調達したものです。中国における外国人邸宅の歓迎シーンというコンセプトのまま、アジアの広い範囲の調度品で生活感を醸し出そうということが狙いでいた。

それでも飲食店は、空調、給排水やガス等の設備に影響する厨房がそのスペース、位置づけ、容量など難しい事が多く、まだまだ勉強する事があると痛感します。



profile

略歴

インテリアプランナー登録番号08-00116

私立東邦大学付属東邦高等学校卒業

Walsall College of Arts and Technology (英国)

インテリアデザインコース修了

工学院大学建築学科建築学コース1998年卒業 木村研究室

株式会社アーネスト空間工房にて高級注文住宅の

企画デザイン室主任

2001年株式会社観光企画設計社インテリア設計部にて、

ホテルオーラ、介護老人保健施設 ケアテル猪苗代、羽田空港内

レストラン等設計担当

現在、2006年より株式会社omdo(オムド)にて

飲食店、バー、住宅等の企画デザイン設計に従事

株式会社omdo オムド

〒106-0032 東京都港区六本木7-21-17-403 東豊エステート

TEL 03(3479)4063

MAIL omdoinc@me.com

URL <http://www.omdoinc.jp/>



二川 みづ来

(旧姓 大橋)

Mizuki Futakawa

大田区における建築行政の推進と希望

特別区職員となって

私は現在大田区まちづくり推進部、建築審査課という部署で、建築主事として勤務しております。そこで区内の建築基準法に基づく建築確認申請、都市計画法などの許可及び都条例の認定申請の処理、これらに伴う中間検査、完了検査の処理を行っています。合わせて、補助金を使って区民のための耐震診断・耐震改修助成事業を行っています。

1972年に工学院大学建築学科を卒業した私は、東京の設計事務所に入りました。そこで官庁営繕の仕事をしてみて、自分も公共建築に携わりたいという希望を持つようになり、東京都の職員採用試験を受けました。幸い合格して大田区に配属され、以来、区内で様々な部署を歩きました。外に出たのは一度だけ(都の清掃局のあとにできた清掃一部事務組合)で、あとは一貫して大田区で建築技術職として働いてきました。

大田区のまちづくりと建築技術職の役割

大田区は23区の中でも面積、人口とも大変大きく、区内の地域特性、産業構造等も多岐にわたっています。山の手にある田園調布一帯は高級住宅街、大森、蒲田は商業地域、糀谷・羽田の工業地域、そして東京湾には巨大な埋立地と国際化の進む羽田空港があり、これらを合わせるとまさに東京の縮図のようです。区としては、ここに文化・観

光も含めた地域の魅力に根ざしたまちづくりを進めています。

区における建築に関わる技術職(建築・電気・機械)の役割は非常に大きく、分けるとおよそ3つあります。一つは、区立施設の建設・改修工事、いわゆる営繕です。二つ目は民間建築物の建築確認や指導・相談で、これが今私の従事しているものです。三つ目は、都市計画・再開発というまちづくりの分野です。

古くなった建物は補強したり転用したりして、できるだけ有効活用を図る、それも困難なら建替えもやむを得ないでしょう。官民ともにこれからは、既存のストックの活用と建替えをいかに効果的にバランスよく図っていくかということになると思います。それが地球環境を守ることにつながると思います。

民間建物の確認といえば、平成11年から民間開放されて急速にシェアを伸ばした民間の指定確認検査機関も、姉歯事件後の法改正で一時業績が大幅にダウン。しかし、現在は回復に向かい、官民比率では今後も民の拡大が続くでしょう。今後の行政の役割は、業務量が広がった民間の確認機関の指導・監督的立場を強めていくことになると 思います。

確認行為は羈足(きそく)行為といわれ、本来誰が見ても同じ判断が下らなければなりません。これがなかなか難しく、法解釈で判断のずれや地域性が出てしまうようです。地域住民と深く関わっている自治体は、住民の声に耳を傾けるのはやむを得ないことだと思いま



す。民間もスピードだけが魅力だった時代は終わり、いかに迅速かつ適正に処理するかに重きを置くようになったようです。

思い出深い耐震偽装事件

耐震偽装事件といえば、私自身平成17年当時、事件の渦中にあり、大変苦い思い出があります。行政の責任が厳しく問われ、事件が報道されてからはマスコミに追われ、夜中に帰っても自宅近くで記者に待ち伏せされるという有り様でした。それほどまでに多くの人を不幸のどん底に陥れた大事件であったということでしょう。

偽装のあったマンションは区の支援もあって早めに建て替えが完了しました。本年6月にあったその竣工式では、建替え組合の理事長から私の部下職員の働きに心からの謝意が多くのマスコミの前で述べられました。その言葉に私も胸を打たれ、何人かの職員は泣い

ていました。それは、今までの長い苦労を忘れさせてくれるできごとでした。

今回の事件から、国民の建築関係者に対する信頼回復までには、まだ相当の時間がかかると思います。行政、建築設計者、建設業者三者の建物の安全に対する息の長い努力が求められるでしょう。

後進育成への希望

団塊世代の私が学生だったころは、まさに政治の季節といわれ、学園紛争が各地で多発していました。若者が社会に目を向けていたし、仲間意識も強かったと思います。今の若者は情報に振り回され、自分を見失い、目的をしっかり持つことが難しくなっているようです。

私は自治体職員として区のまちづくりに35年間を費やしたことを、本当に誇りに思っています。そうした中で、このた

び母校から声を掛けていただき、同窓会誌への寄稿という形で、自分自身の人生を振り返る機会を与えられました。

最近になって、工学院大学校友会の東京支部にお世話になるようになりましたが、校友の先輩諸氏にお会いしてお話を伺い、大変楽しく光栄に感じております。余生は行政と離れても、今までの経験を生かして校友のお役に立てたらと考えています。合わせて大学の諸先生方には、以前にも経験がありますが、私からまた若い学生たちに、地方自治としての建築行政について話す機会を設けていただきたいと思っております。

また、建築関係でご用事がある方、ご興味のある方はご案内いたしますので、いつでも蒲田駅近くにある大田区役所にいらしてください。お待ちしております。

後輩に引き継ぎたい仕事

区役所は住民にとって一番身近な政府です。地方自治の仕事は困難も多々ありますが、そこで地域住民と交わる楽しさ、喜びも大きいものです。公務員の生活が安定しているといっても、仕事は楽ではありません。民間にも官庁にも楽な仕事などありません。

区役所はまち全体が職場といえるでしょう。時には厳しい批判も受けますが、やりがいを感じる仕事もたくさんあります。区の宣伝になりますが、ご子息、ご息女をお持ちの方、これから卒業される方、既に卒業された社会人で他の職場へ転職を希望されている方、是非、特別区23区も選択肢に入れておいてください。工学院魂を持ち、クリエイティブで積極的に立ち向かっていく人なら、必ずや活躍の場が与えられ、報われるものと信じております。

profile

略歴

1949年8月	東京都目黒区にて生まれる
1965年4月	工学院大学高等学校 普通科 入学
1968年3月	同高校 卒業
1968年4月	工学院大学建築学科 設備工学コース 入学
1972年3月	同大学 卒業
1972年4月	(株)河原設備計画研究所 入所
1973年9月	同研究所 退職
1973年10月	東京都入都 大田区建築公害部営繕課に配属
1985年4月	大田区 建築部 建築審査課 構造係主査
1996年4月	大田区 建築部 建築調整課 監察係長
1999年4月	大田区 総務部 檢査室係長
2001年4月	大田区 区民生活部 池上特別出張所長
2002年4月	大田区 まちづくり推進部 建築審査課副参事
2004年4月	大田区 まちづくり推進部 建築審査課長
2007年4月	東京23区清掃一部事務組合 多摩川清掃工場長
2008年4月	大田区 まちづくり推進部 建築審査課長(現職)

東京都

工学院大学高等学校(私立)1968年卒業
工学院大学建築系学科 設備工学コース
大学卒業1972年 中島康孝研究室
メールアドレス:qqcc2yr9@poem.ocn.ne.jp



津田 正明
Masaaki Tuda

構造による 美しさ



きた むら
北村 圭

出身高校 神奈川県立秦野高等学校
2004年卒業
大 学 工学院大学建築学科建築学コース
小野里研究室 2008年卒業
大学院 工学院大学大学院工学研究科建築学
専攻 小野里研究室 2010年卒業予定
メールアドレス good_bye_bye128@hotmail.com

はじめに

2008年11月4日～11月20日の15泊17日という日程で、スペインはビルバオ、マドリード、セビーリャ、バレンシア、バルセロナを、イタリアはローマ、ミラノの2カ国7都市を回りました。今回の旅の目的は、アントニ・ガウディやサンティアゴ・カラトラバといった建築家が設計した作品や、その他の西洋建築・現代建築を実際に目で見ることにより、構造による美しさやスケール、力の流れを自分の肌で感じることでした。

ガウディとカラトラバの共通点

二人の作品だけを見てしまうと「どこに共通点が?」と思われる方も多いと思います。実際、共通点があると思っているのは僕だけかもしれません。この二人の共通点とは作品に人や植物、骨など自然的?な要素を取り入れていること、それでいて構造としてもしっかりと計算されていることがあげられます。

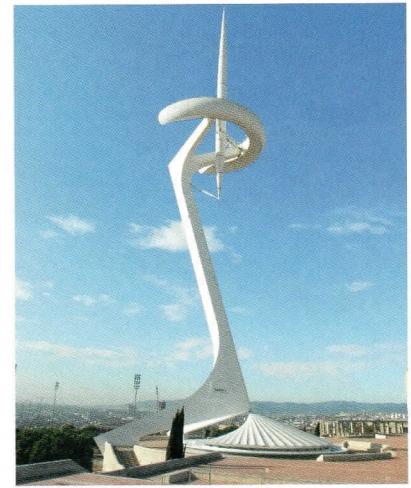
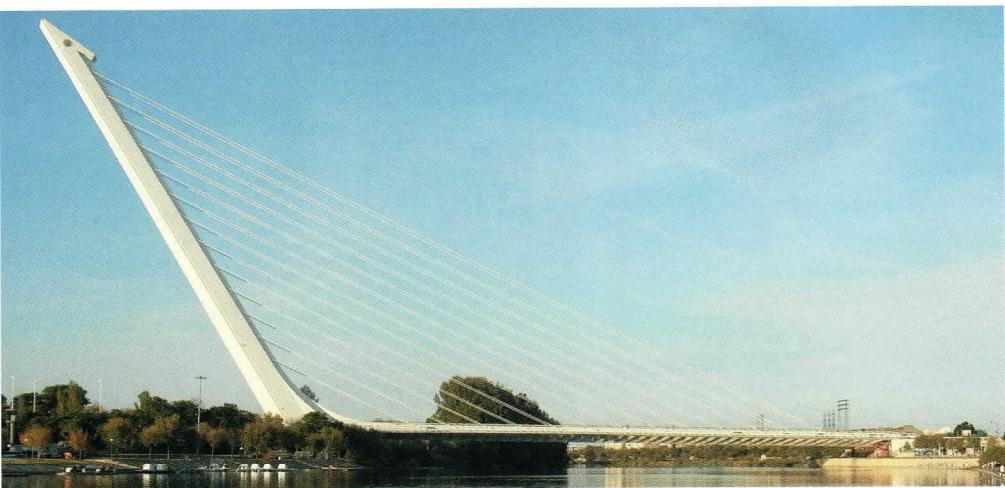
例えばガウディはサグラダ・ファミリアの柱を木に見たててデザインしたり、カサ・バトリョでは石柱が骨を想起させること

から「骨の家」というあだ名をつけられたりしました。また、構造に関しては網状の糸に重りを取り付け、その網の描く形態を上下反転したカテナリー曲線の構造など理にかなった構造形態をとりました。

これに対しカラトラバも人物のスケッチなどが作品のモチーフとなったり、白を基調とするファサードが骨や翼のようだとも言われたりしています。また、構造計算を駆使して作り上げられているため、力の流れが巧妙でかつ明快で、実際に見たアラミロ橋はダイナミックな斜張橋でした。



芸術科学都市



アラミロ橋

モンジュイックタワー



サグラダ・ファミリア



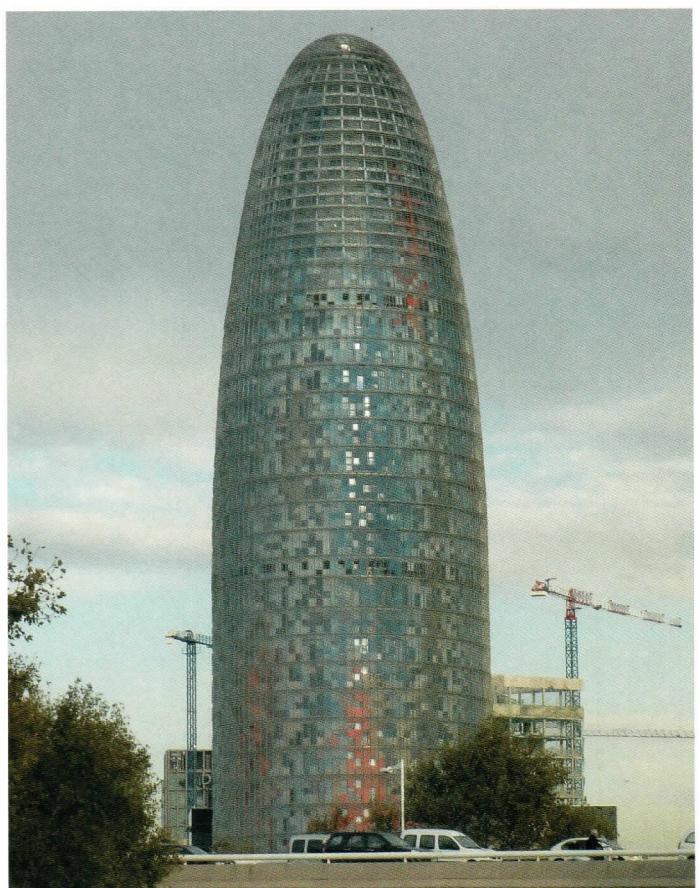
グッゲンハイム美術館



サグラダ・ファミリア 内部



フィエラ・ミラノ



トーレ・アグバル



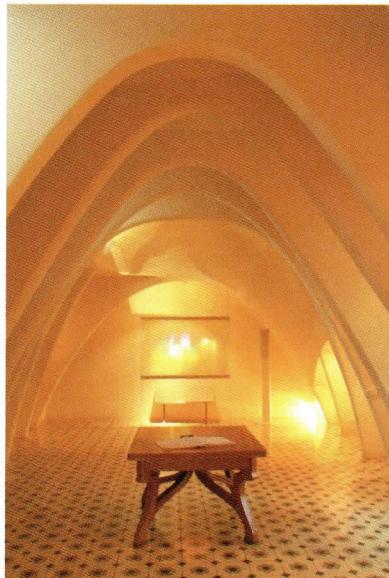
サン・ピエトロ大聖堂



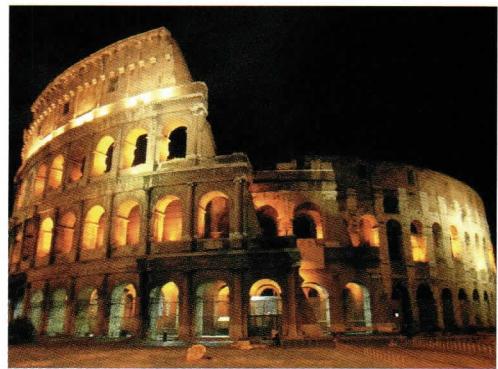
サン・ピエトロ大聖堂 内部



カサ・バトリョ



カサ・バトリョ 内部



コロッセオ



セビーリャで出会ったアダム



バルセロナで出会ったロメル

西洋建築と現代建築

今回の旅では西洋建築と現代建築という2種類の建築を味わうことができました。西洋建築では柱などに施される装飾、大聖堂などのドームによる大空間間に加え、多くの美術品も見ることができました。また、現代建築ではグッゲンハイム美術館、トーレ・アグバール、フィエラ・ミラノなどが印象に残っています。特にグッゲンハイム美術館は奇抜なファサードでありながら内部は様々な美術品が飾れるよう機能的なデザインやスケールになっていました。

おわりに

今回の旅で構造が意匠に関しても多大な影響を及ぼしていることを改めて感じるとともに、将来自分も構造設計者として、構造だけではなく他の分野にも深く関わりたいと思いました。また、この旅を通じて他国の人とコミュニケーションを取る機会が得られ、そのような中で新しい友人ができたことも良い出来事でした。

このような貴重な体験の機会を与えてくださった同窓会の方々、指導教員の小野里先生をはじめ、建築学科の先

生方に厚く御礼申し上げます。また、休暇外での渡航でありながら快く送り出してくださった講師の方々にも感謝申し上げます。

フランス・スイス 近現代を巡る旅

あじま ゆか
安島 裕香

茨城県私立常総学院高等学校
2004年卒業

工学院大学工学部建築学科建

築学コース

大学卒業 2008年 初田研究室

工学院大学大学院工学研究科

建築学専攻

大学院修了予定 2010年 初田研究室

dm08002@ns.kogakuin.ac.jp

1985年 茨城県生まれ。

2007年 東京商工会議所主催大学・地域の協働による

学生まちづくりプレゼンテーション大会inすみだ

東京商工会議所墨田支部会長賞受賞

2007年 杉コレクション2007コンペティション入賞



はじめに

2008年3月21日。私は生まれて初めて、一人だけで飛行機に乗り、一人だけで日本を離れました。海外旅行には過去に何度か行ったことがあったのですが、一人旅、しかも自ら旅程を計画する旅は初めてで、ドキドキとわくわくを胸に秘めてフランスとスイスへ向かいました。



ポン・マルシェ



サヴォア邸

サヴォア邸

フランス滞在3日目にル・コルビジエのサヴォア邸を見学しました。何回か写真では見たことのあるその建物は、実際に見ても写真のままでした。中にいると、迷路のように色んなところに部屋があって、通路があって。初めてコルビジエの住宅の中に入った私にとって、とても不思議な空間でした。公共的な大規模建物でなく、住宅という小さなスケールの建物は、色使いや空間構成の点で日本国内のそれと差が分かりやすく、3日目にしてやっと海外の建築物を見ているのだという実感が沸きました。



ポルト・ドーフィーヌ

ロンシャン礼拝堂

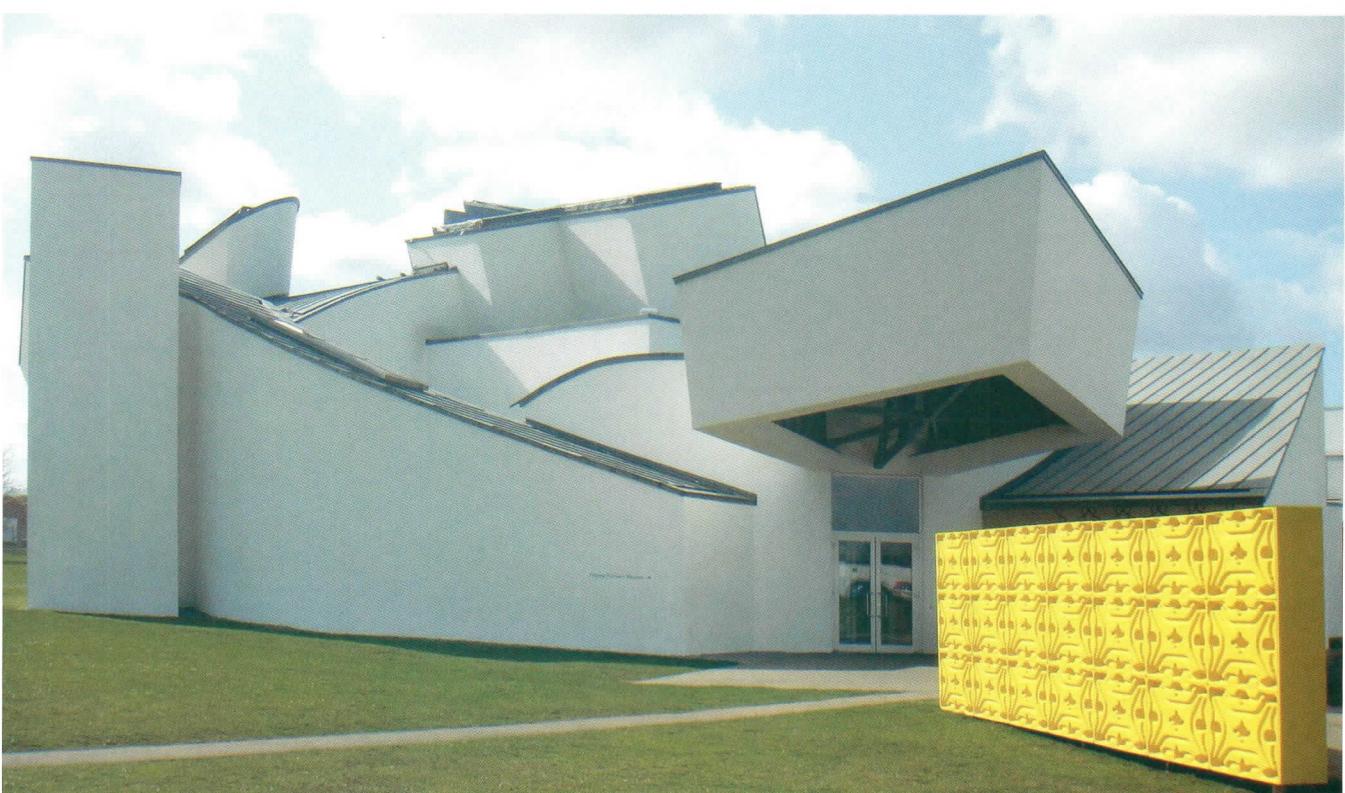


ロンシャン礼拝堂

フランス滞在 7 日目に、フランスからスイスへと移動しました。その移動の途中、ル・コルビジェのロンシャン礼拝堂を見学しました。ロンシャン礼拝堂は、フランスの中でもスイスとの国境近くにある、ロンシャンという本当に小さな町に建つ礼拝堂です。サヴォア邸と同じくコルビジェの設計ですが、フランス滞在 3 日目に見学したサヴォア邸とは大きく違い、とても彫像的な建物で、粘土で造られたような大きな屋根が特徴的でした。中に入ると、外観から創造するよりも狭い空間が広がっていました。小さい窓にはめられたステンドグラスが、自然光で光って見て、薄暗い教会の空間は、とても神聖な場所に感じられました。

ゲーテアヌム

スイス滞在 2 日目にルドルフ・シュタイナーのゲーテアヌムを見学しました。その日はとても天気が良く、青空が広がっていて、小さな丘の上に建つ白っぽい色のゲーテアヌムは、とても映えて見え



ヴィトラ家具美術館



ゲーテアヌム

ました。ゲーテアヌムの周りには、同じようにシュタイナーが設計した住宅や、それを模して造られたのであろう住宅がたくさん建っていました。粘土のかたまりから切り出して造られたようなその造形は、一般的な住宅のそれとは全く違う種類のもので、その街一帯が何かの民族のコロニーのように見えたのを覚えています。

おわりに

フランスとスイスに滞在している間、今まで写真でしか見たことの無かった多くの建物を、実際に自分の目で見て、

手で触ることが出来ました。ル・コルビジェなど、有名な建築家の建物は、私の中でとても遠い存在で、想像のものでしかありませんでした。しかし、今回

の渡航で実際に現地に行くことが出来、写真では伝わってこなかった、本当に建っているということを実感出来て、とても良い経験が出来ました。



アラブ世界研究所



バーセルの信号塔

“守る”デザイン —イギリスにおける 防犯デザインを学ぶ旅—

かわさき
川崎かおり
香織

出身高校 埼玉県私立開智高等学校 2003年卒業
 大学校 工学院大学工学部建築学科 環境建築コース
 大学卒業2007年 村上研究室
 大学院 工学院大学大学院工学研究科
 建築学専攻修士課程
 大学院修了2009年予定 村上研究室
 メールアドレス kaori_85_uvu_zzz@yahoo.co.jp

Design Out Crime

私の研究は、安心して暮らせる街をつくるために、建築のデザインという視点から防犯対策を考えることである。今回、この旅に出たきっかけは、具体的に事例が示された「デザイン・アウト・クライム」が出版されたことだった。“防犯デザイン”を確立したいと考えていた私にとって、この本をベースに実際に防犯環境設計によってデザインされた建築を見学することは自分の知識と視野を広げる大きなチャンスだと思った。



Glasgow, ブキャナン通り



London, Marques Rd.住宅



Edinburgh, Council Offices



G lasgow

ブキャナン通りは、青色街路灯を設置したことでの犯罪が減少したという報告がある。この因果関係は証明されていないため、確かにことではないが、実際この通りを歩いてみるとそうかもしれないと思わせる要因がある。それは、この通りに面する他の通りがほぼオレンジ照明であることだ。オレンジの光は物を見えにくくする色であり、防犯上好ましくないが、景観面からすると非常に好ましいと考えられるため、煉瓦や石を素材にした建築の多いイギリスでは数多く使われている。それらのオレンジで照らされる街路からこの通りに入つぐると、視界が広がるような印象を受けた。厳密には、ここの街路照明はブルーだけでなくブルーとホワイトが二つひと組になって設置されているため、特に好ましいとされるホワイトがそう感じさせるのかもしれない。実際、エジンバラでお会いしたFionaさんやマンチェスターでお会いしたJohnさんは、ブルーライトには

人間の血管を見えにくくする効果があるためブラックを取り締まる目的で使われることはあるが、犯罪を抑止する効果は証明されておらず、ドラッグ以外の防犯目的で使われることはないだろうということだった。いずれにせよ、このような空間は非常に珍しく興味深い。

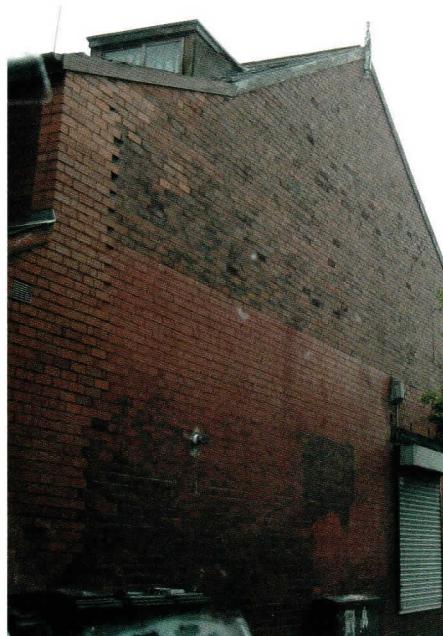
M anchester

マンチェスターはかつてコットン産業で栄えた街であり、今もその頃の建築が数多く残る。ここにある建物のほとんどはその頃の倉庫をコンバージョンしてきたものだ。築200年という建築がある一方で、テロによって破壊されてしまった地区では古い建築と新たな建築との融合が見事に調和されている。ここでは、建築監査を務めていらっしゃるJohnさんと彼の事務所の方々にお世話になり、案内していただいたのだが、中でもmoss-sideという地区は印象的だった。そこは、窓のない建物、その建物で構成される通り、人気がなく、散乱

したゴミと落書き、そしてそこにあった窓をふさいでできた壁、閉めきったシャッター…そこは私が目にしたことがない光景だった。この地区は非常に治安の悪い地域とされ、私と一緒に行ってくださったMarkさんは、ほとんど車から降りることなしに説明してくれた。私がこの旅において最も危険であると感じた地域のひとつだった。

おわりに

今回の旅では、イギリス各地を訪問し、地域ごとの防犯環境設計に対する事例を数多く見ることができました。また、エジンバラ、マンチェスター、ヨークでは地元警察やコンサルタントの方、また著者のIan先生にもお会いすることができ、その考え方や取り組みなどを伺い、大変貴重な経験となりました。編集の関係上、全て書ききれないのが非常に残念です。この機会を与えてくださった皆様に感謝するとともに、今後の励みにしていきたいと思います。ありがとうございました。



Manchester, Hulme地区の新築



コミュニティガーデン (Hulme)



Welwin, Garden City



York, Bret Gate



Humberside警察のBillさん(左)と
本の著者のIanさん(右)

都市の緑を感じる旅

あだち
足立
りさ
理紗



東京都 私立杉並学院高等学校 2005年卒業
工学院大学建築学科 環境建築コース
2009年卒業見込み 野部研究室
メールアドレス d305004@ns.kogakuin.ac.jp

高 層建築とアートの街シカゴ

アメリカ第2の経済・金融の拠点であるシカゴ。高層ビルが建ち並ぶオフィス街はループと呼ばれ、その名の通り電車がループ(輪)状に走っている。道路が東西・南北に規則正しく走り、左右のビルはまるで壁に思えるほど大きい。昼のループは働く人で賑わっており、ランチタイムになれば隣接するパークでベンチに座りランチをとる人の姿が見られる。夜は、9時にもなれば街を歩く人は見当たらなく、お店の明かりも少なく

なってしまう。

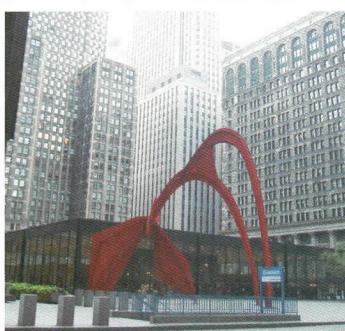
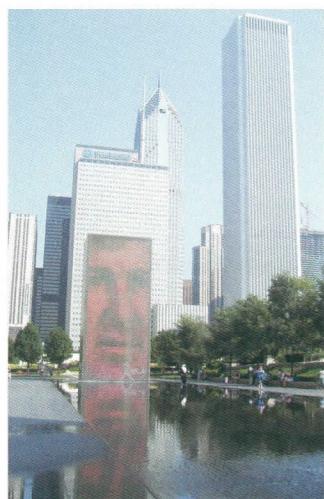
ここでは、街を歩くと様々なオブジェに遭遇することが出来た。オブジェは建物のエントランスや建物の間のちょっとした広場に飾られているのだが、周りの建物が壁となってしまうため、遠くから眺めることは出来ず、歩いていると突然目の前に現れることもしばしばあった。

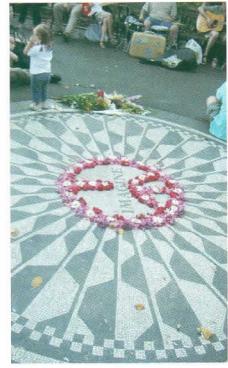
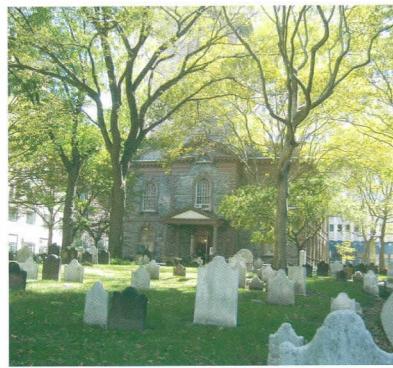
シ カゴの緑

ループと湖の間にはグラントパークやミレニアムパークなどの緑が広がる。

中心地から西へ16kmほどのオークパークやループの南に位置するハイドパークも“パーク”と名の付く地域であるが、これらは公園というよりは緑あふれる閑静な住宅街。

オークパークは、フランク・ロイド・ライトの作品が数多くあることで有名であるが、周辺の家についても個性を持ったものばかり。植えられる場所は全て緑で埋め尽くされているのではないかと思うほど木や花が多く、写真を撮ろうとすると、木が邪魔となり、家の全景が捉えられないほど緑にあふれていた。





眠らぬ街ニューヨーク

マンハッタン、ブルックリン、クイーンズ、ブロンクスの5区から成るニューヨーク州。今回私が訪れたのは、市の経済の中心で最大の市街地であるマンハッタン。南北に伸びた地下鉄は、市民の足として活用されており、今回の旅でも大いに利用した。

街の中心部のタイムズスクエアは、昼夜間わずひとで溢れ、眩しいほどのネオンが光り、正に眠らぬ街という印象であった。

マンハッタンの緑

街なかでは、側道や建物のちょっとしたスペースに木々の緑を見ることが出来た。歩道脇の木々は生い茂るように葉を広げ、強い日差しを軽減させる役割も果たしているようだった。

よく晴れた日曜日の午後、セントラルパークを訪れた。隣接する地下鉄は9駅もあり、広さは東西に800m、南北に4kmにもおよぶ広大な公園である。一歩足を踏み入れると、まるで外界から遮断されたかのように緑が広がっていた。休日ということもあり、パークのあちこちでは年齢を問わず休日を想い想いに過ごす人々の姿を見ることが出来た。

公園の中では夏の暑さも感じることなく、時間を忘れるほど居心地のいい空間だった。

今回訪れた2都市はともに世界の中心となるような経済都市であり、素晴らしい高層建築と出会うことが出来ました。そして、こうした都市だからこそ、憩いの空間が必要とされ、都市における緑の存在がとても重要であると改めて感じることが出来た旅となりました。

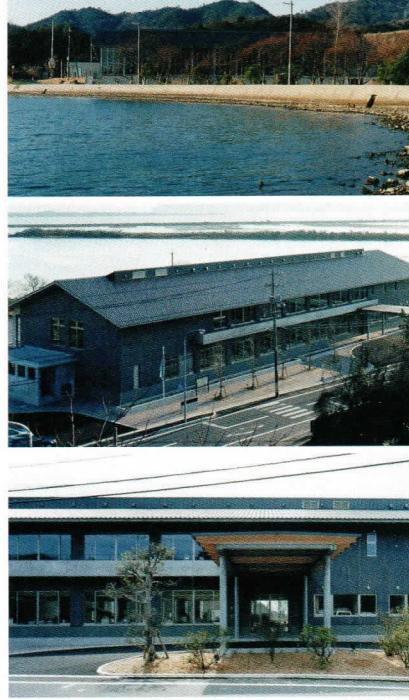
海外渡航の支援をして下さった皆様のおかげで、貴重な経験をすることが出来ました。本当にありがとうございました。

山根秀明

地域性を求めて、 美保関町役場庁舎

第16回しまね景観賞 優秀賞受賞





郷里の島根県にUターンしてから、はや15年が経過した。その間様々な出会いがあり様々な人に助けられながら現在に至っている。住宅を中心に、たまに公共建築を手がける機会にも恵まれ、細々ながらも何とか設計の仕事を続けることが出来ている。数年前に完成した建物が、今年度のしまね景観賞優秀賞をいただくことになった。ニッチ紙に出さないかという谷口先生のお説があり、ありがたく掲載して頂くことにした。

[美保関町役場庁舎設計主旨]

1. 立地、建設の経緯

美保関町(現在は合併して松江市)は島根半島の東端に位置する。人口約6,600人の過疎化が進む小さな町である。旧庁舎は老朽化が著しく、狭く、耐震性にも問題があり限界をすでに超していた。

長年新庁舎建設の検討、準備がなされ、新庁舎の建設地はかつて小学校(統合により廃校になった)が建っていた中海(汽水湖)を望む風光明媚な敷地が選定された。〈そんな矢先、にわかに市町村合併の波が押し寄せ、美保関町は庁舎建設後間もなく、周辺七市町村と合併し現在では松江市となっている。〉

2. 計画の前提

私たちは指名プロポーザルにより設計者として選定された。基本的には町役場の庁舎としての機能が求められるわけだが、市町村合併後には市役所の分庁舎となる前提での計画となった。必要とされたのは、住民サービスのための窓口、事務空間、そして会議空間であった。議場は合併後不要になるため固定的な議場を設げず、議会は大会議室で行う事となった。また災害時には地域の対策拠点となることも求められた。いずれにしても行政組織の変化の

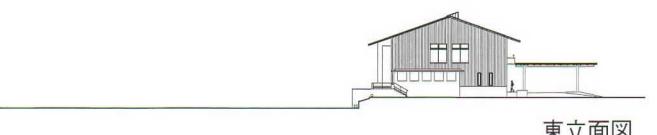
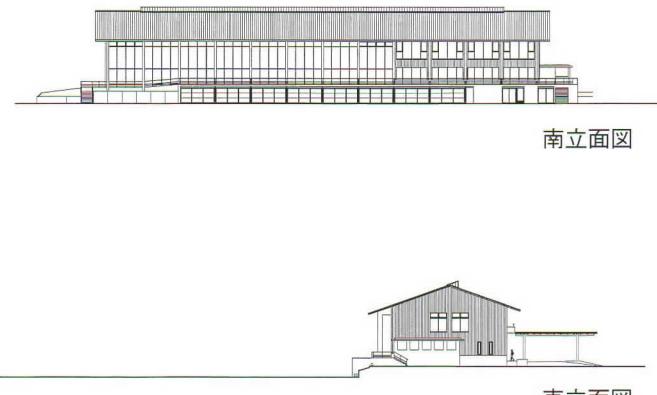
真っ只中にあり将来的には求められる機能もさらに変化していくことが予想された。

町民や、役場職員を対象にした計画づくりワークショップを開き様々な意見を聞くことにした。「暖かい雰囲気」「明るく透明感のある」「馴染み易い」「落ち着いた雰囲気」「多目的に使える」「空間にゆとり」「単純な動線」など町民、職員が新庁舎に求める期待が明らかになった。

3. 設計について

敷地に立つと中海の入り江に面した静かな風景が目に入ってくる。その風景を建物の中に取り入れ、そのゆったりとした空気感を生かした空間にしたいと考えた。そしてそこに町民の集える「大きな居間」のような場を創ろうと思った。今まで町内の公共空間でそのような場は無く、何処も訪れた人の居場所が無かった。目的がなくともふらっと立ち寄り、中海の湖面を見ながら、ゆったりと、そこで憩える場所にしたいと思った。

合併し、行政の枠組みが大きくなつたとしてもそこに住む住民や地域が消えて無くなるわけではない。希薄になっていく地域に対する意識をこの風景を大切にした空間で、もう一度呼び起したいという気持ちもあった。この地域ならではの建物となるよう、また永く親しまれ、寿命の長い建物となるよう単純で力強い形態、構造とし、開かれた建物であることも意識して透明感も持たせようと考えた。建物は東西に長い平面形状とし、町民ホールやロビー空間からは穏やかな中海の湖面を絶えず感じられるような配置とした。そして敷地に段差があることを生かし、視界の妨げとなる車庫はデッキテラスの下に、倉庫は屋根裏空間に収めることとした。デッキテラスと回廊は、季節の良いときは外に椅子を持ち出してくつろげるような「大きな縁側」のような空間とし、外部動線に回遊性を持たせた。列柱に支えられた大きな庇は夏場の直射日光は遮り、冬場には太陽光が吹き抜けの町民ホールに降り注ぐように深さを決定した。軒先はあえて樋を付けず、県内の江の川で採れるご





つごつしたごろた石を雨落ちに敷き詰めている。

省エネルギーにも気を使った。できるだけ大きな開口部を取り昼間は自然光だけでも十分明るさが確保できるようにした。ペアーガラスと外断熱を採用し躯体に蓄熱させ地場産材の瓦(石州瓦)、杉板材でカバーしている。瓦屋根と外壁の杉材は地場で馴染みのある組み合わせである。杉の暖かい素材感が、庁舎というボリュームのある建物の威圧感を少しでも和らげることが出来るのではないか、また時間がたっても味わいが深まってほしいと願ったからである。外気は地中に配管したパイプを通して取り入れ、地熱を利用するクールアンドヒートチューブ方式を採用した。素朴な手法ながら、効果的な省エネルギーが実現出来るよう意図した。



山根秀明

メールアドレスimu@imu-co.jp

1958年 島根県生まれ
1977年 島根県立松江北高等学校理数科卒業
1981年 工学院大学工学部建築学科卒業(波多江研究室)
1983年 工学院大学大学院建築工学研究科修士課程修了(波多江研究室)

●職歴

1983年 PALインターナショナル一級建築士事務所 勤務
1984~93年(株)小沢明建築研究室 勤務
1993~96年(有)NAK建築事務所 勤務
1996年(有)アイエムユウ建築設計事務所設立 現在に至る
1998年~ 島根県景観アドバイザー

●所属

日本建築家協会 会員
日本建築学会 会員
島根県建築士会 会員
NPO法人まつえ・まちづくり塾 副代表理事

●賞

建設省・新都市ハウジングシステム提案募集(担当) 優秀賞
第1回 横浜アーバンデザイン国際コンペ(共同) 最優秀賞
以上 小沢明建築研究室にて
第3回島根県景観賞(八束町庁舎)(担当) 優秀賞受賞
第4回島根県景観賞(羽須美中学校)(担当) 奨励賞受賞
第6回島根県景観賞(大田市図書館)(担当) 優秀賞受賞
以上 NAK建築事務所にて
鳥取住まいプロジェクト「環境共生住宅」提案募集(共同) 佳作入選
平成19年度しまね建築・住宅コンクール 優秀賞(設計提案部門)「しまねの木の家」
第1回しまね建築文化賞 優秀賞「美保関町役場庁舎」(一般建築部門)、
優秀賞「上乃木のアトリエ」(住宅部門)
第16回島根県景観賞(美保関町庁舎) 優秀賞受賞
○写真撮影 大竹静市郎



山村沢子

板壁の家

「自然素材の家」として
日本漆喰協会第3回作品賞を受賞





2F LDK

photograph: nobuaki nakagawa

[設計主旨]

◆敷地・環境などの条件

江戸川区西小岩の、18坪の角地がこの住宅の敷地となり、奥戸街道と蔵前橋通りに挟まれ、戦後宅地開発された密集住宅地の中にある。

北面と東面が接道し、南・西面は隣家が密接している典型的な都市型住宅の計画であり、加えて木造3階建ての準耐火建築物を満足する必要があった。

また建蔽率70%のため、建坪12坪のなかに計画することとなった。

◆建主の要望

夫婦二人住まいである建主の要望は、「自然素材で包まれた空間」、「明るく開放的だが、外部視線を極力少なくすること」であり、内部は開放的で広がりを感じる空間であるが、外からは閉じたいという両者は相反するものだった。

また、「江戸川花火が見える屋上」、「大きなオブジェ照明を吊るすスペース」、車一台分の駐車スペースと、ご主人の趣味であるバイクを格納するスペースも条件となった。

◆提案のポイント

全体：建坪12坪の中に、いかに生活スペースと駐車スペースを計画し、内に広がりをもつ「小さいけれど大きい家」

にするかがテーマでもあった。

建物構成は、1階はパブリック空間としての車庫スペース、2階は生活の中心となるセミパブリック空間としてのLDK、3階は寝室と水廻りのプライベートスペースという、シンプルで明確なものとした。

内観：木造3階建て準耐火建築物の場合、耐力壁の配置や耐火仕様の関係上、インテリアの方向性が画一的になりがちである。ここでは壁・天井・家具等を、階段室や小吹抜けを介し可能な限り連続させ、2階ワンルーム天井は音楽ホールのように滑らかな高低差をつけて、ダイナミックに組み立てた。そうすることで、視線の先に空間のつながりが生じ、より広く感じる効果が生まれ、結果として、光や風が流れる住環境にすることができた。

素材：内・外装材についても自然素材を使うことを心がけた。

床は、杉無垢のフローリングに天然成分の亜麻仁油ワックスで仕上げ、内壁・天井は、新しく開発した漆喰仕上とし、自然素材と共生の空間を構成した。

この住宅は、ガレージ・浴室部分を除き、全てを漆喰で仕上げている。生活の中心となるLDKの天井は波打つ大きな曲面で伸縮目地はない。また、この建物の大きな特徴は、全ての壁・天井の出入隅で、見切り縁・廻縁等を一切用いない連続面で仕上げたことである。漆喰による独特な光の拡散は、空



2F BED ROOM

photograph : nobuaki nakagawa



photograph : nobuaki nakagawa

1F GARAGE



2F STAIR CASE

photograph : nobuaki nakagawa



2F LDK

間を広く感じさせ、柔らかく包み込む雰囲気に導く。

新しく開発した既調合漆喰の特徴は、ドライミックスであり、左官用消石灰を用いた漆喰とは異なり、工業用消石灰を採用したことである。

外壁米杉板はタテ張りのため、通気胴縁を二重にし、加えて耐火下地の見込みに合うよう、外付けサッシで対応した。

外観：小住宅でありながら、天空率を用いて建物外観をシンプルなフォルムとした。

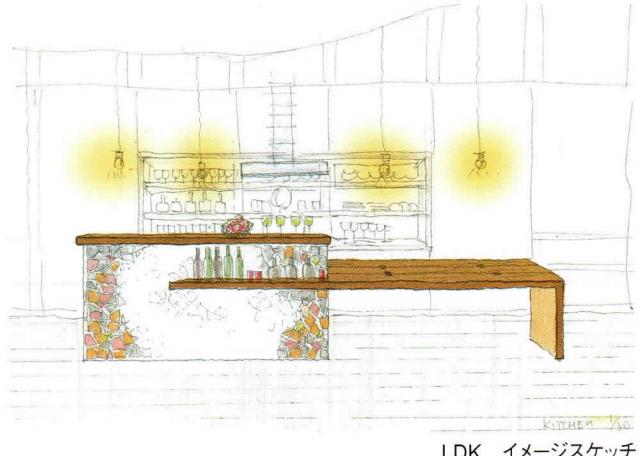
また架構を単純化させ、SE構法を採用することで、2階をワンルームに、階段室に全面トップライトを、1階駐車場や花火観賞のための屋上などを確保、そして耐震性能強化など、すべてを満足することが出来た。

また、東面のみ、耐火下地の上を全面米杉の板張りとすることで、他の立面とのコントラストを強調し、小さいながらも下町の景観の一角を担えるよう、心がけた。

[おわりに]

この住宅の内装仕上げの漆喰塗りは、ものづくり大学三原研究室に業務委託し実施したものです。

その計画において助言して下さった工学院大学難波蓮太郎 名誉教授に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。また実施して下さった、ものづくり大学 三原齊 准教授そして研究室のみなさま、そして全体の工事をまとめて下さった(株)伊藤工務店の方々に、深く感謝の意を表します。



LDK イメージスケッチ



山村沢子
Sawako Yamamura

アーキ コング
ARCHI-CONNGE
一級建築士事務所
<http://www.archiconnge.com>
archiconnge@aol.com

●略歴

- 1987年 静岡県立浜松西高等学校卒業
- 1992年 工学院大学工学部建築学科卒業（谷口研究室）
- 1994年 東京芸術大学美術学部建築科修士課程修了（六角研究室）
- 1994年 (株)六角鬼丈計画工房
- 2000年 **ARCHI-CONNGE**（アーキコング）一級建築士事務所設立
- 2004年 ものづくり大学非常勤講師

宮本圭

Kei Miyamoto

THE KAWABUN NAGOYA

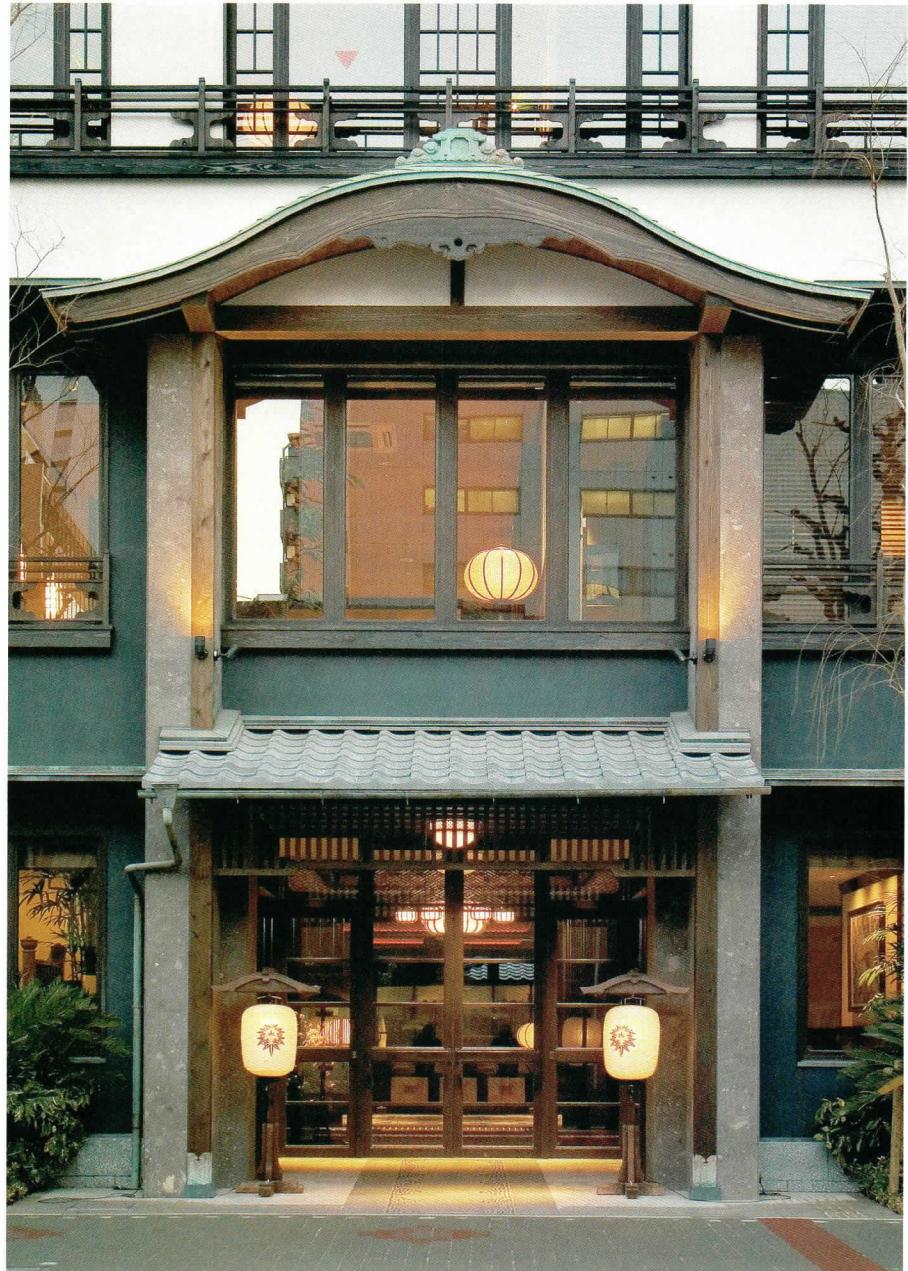
地域の風土や歴史に
照らしながら建築を考える
～「和」の心象風景を創るために～

[宮本忠長
建築設計事務所]

1996年に大学院（望月研究室）修了後、私は地元長野に戻り宮本忠長建築設計事務所に就職しました。（ちなみに苗字が同じですが血縁関係はありません。）私にとってUターン就職することが前提にあったというよりは、たまたま学びたい設計事務所が地元にあったことが理由でした。宮本事務所が理念として掲げる“日本の伝統的な建築空間をその地域の風土に照らしながら、如何に美しい「和」の心象風景として創出するか”というところに魅力を感じたのです。

[歴史ある建築を知ることが
新しい表現につながる]

事務所在籍中の10年間は、古い建物を相手にすることが多く地味な作業も多かったですが、自然と日本建築について多くの事を学ぶことができました。沢山の人との繋がりをつくることもでき、私の独立最初の仕事となった「THE KAWABUN NAGOYA」（以下TKN）も、そうした関係の中から繋がった仕事です。自分の地元、長野へ帰って仕事をする。しかも、学生時代はあまり触れる機会が少なかった日本の伝統的



THE KAWABUN NAGOYA／メインエントランス



THE KAWABUN NAGOYA／エントランスホール 写真：Nacasa & Partners Inc.

な建築空間について学ぶことが、何故か名古屋の老舗料亭に隣接する斬新なデザインコンセプトの商空間を設計することに繋がったのですから不思議です。

[老舗料亭河文と THE KAWABUN NAGOYA]

TKNのプロジェクトチーム内における私の役割は、基本設計、実施設計、現場監理担当として、ホールデザイン・杉山氏とのコラボレーションにより、いかにそのデザインコンセプトを共有し、独自の世界観を現実に落とし込むことができるか、さらにプライダル施設としての機能を充足させるかというものでした。

[古い建物と向き合う]

TKNは、名古屋城築城の直後から続く歴史ある料亭河文（有形登録文化財）に隣接して新築されるダイニング、バーを併設するプライダル施設で、鉄骨造4階建ての耐火建築物を現代の建築機能や防災その他の法規制を満たしながら、いかに料亭河文の面影を残しつつ木造の既存部分と調和した佇まいとしていくかが最大の課題でした。新しい建物でありながら、誰の目からも料亭河文の長い歴史を感じることのできる表現を模索したのです。その為、一部解体を避けられなかつた既存建物「那古野（なごや）の間」「河文旅館」について両棟の実測調査を行い、特に欄間や建具類は採寸・保存をして



THE KAWABUN NAGOYA／THE BAR
写真：Nacasa & Partners Inc.

新築建物に再利用しました。那古野の間の屋根に使われていた瓦も、TKNの回廊屋根に再利用し、新しく製作する建具は、実測調査資料をもとに既存建具の意匠を参考にデザインしています。

また、解体前の中庭の平面的な形状をそのままTKNの中庭の形として、隣接する水鏡の間（別敷地）との連続を意識しながら池を配しました。

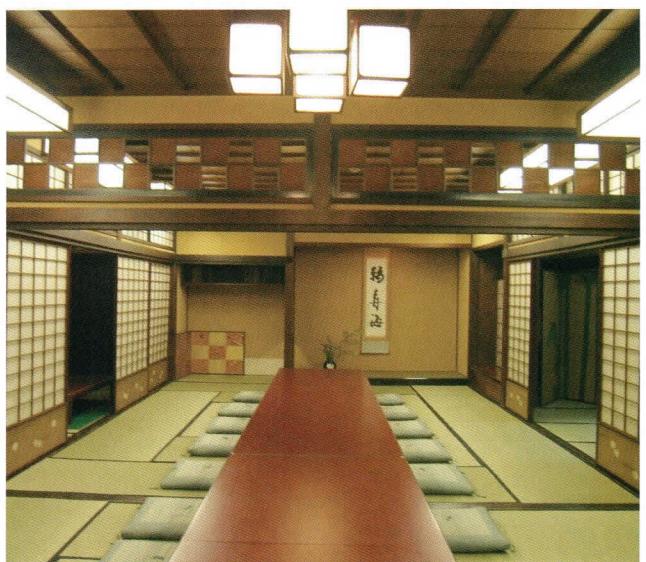
結果的に階数など以前の河文建物に比べてボリュームは増しましたが、解体前の建物配置と同じ配置計画をとることで、かつてあった河文中庭のスケール感をTKNでも引き継いでいます。限られた敷地の中で、増改築を繰り返された歴史ある木造建築の建物と庭、地と図の関係を継承する手法は、TKNの設計において非常に困難な作業でしたが、老舗料亭が持つ長い歴史の一部を感じることができる空間が実現しました。

[不易流行という考え方]

TKNはいわゆる商業施設ですが、流行のデザインで着飾るのではなく、昔からあるものを大事にして、いろいろな要素を新しい建物に取り入れています。そうすることで、初めて訪れる方はもちろん、かつての料亭河文を知っている方からも愛される場所にすることができました。

もし、名古屋を訪れることがあれば、是非立ち寄ってこの空間を体験してみてください。

現在は、住宅設計を中心に地元長野で活動をしていますが、全国どこにおいても、その地域の風土や歴史に照らしながら建築を考えることの重要性を大切にしています。微力ながら、美しい「和」の心象風景となるような空間を創出するべく努力を続けていきます。



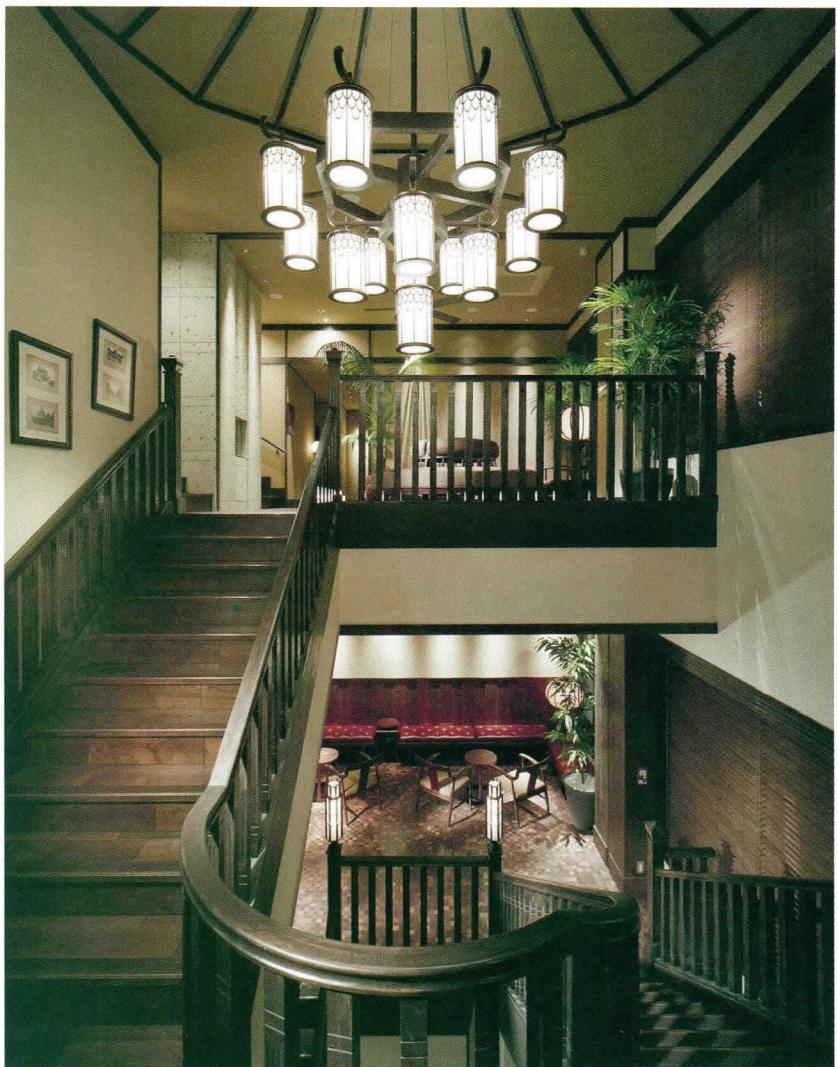
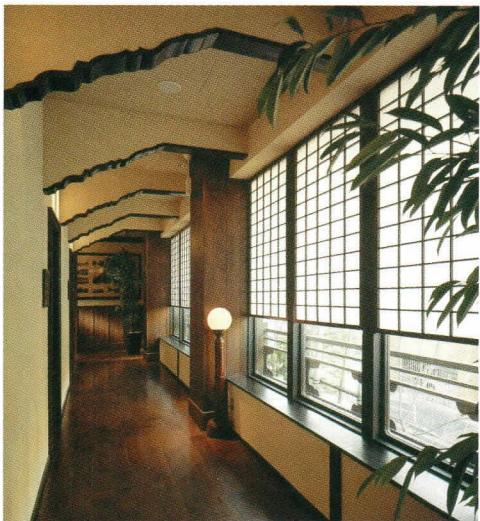
解体前 料亭河文那古野の間



THE KAWABUN NAGOYA／中庭



THE KAWABUN NAGOYA／外観



THE KAWABUN NAGOYA／メイン階段 写真:Nacasa & Partners Inc.



THE KAWABUN NAGOYA／SUSHI BAR CAWACHIYA 写真:Nacasa & Partners Inc.



宮本 圭

●シーンデザイン一級建築士事務所
長野県長野市浅川3-113-39
TEL 090-1435-0920 FAX 026-214-0031
●e-mail:scene_design@ktd.biglobe.ne.jp
●URL:<http://scenedesign.jp/>

●略歴

1994年 工学院大学建築学科卒
1996年 工学院大学大学院修士課程修了
望月大介研究室
株式会社 宮本忠長建築設計事務所 入社
2006年 シーンデザイン一級建築士事務所開設

森本伸輝

Nobuki Morimoto

さんあい
施設
児童養護

人と自然の
ゆるやかな絆

児童養護施設は小さな子どもから中学・高校生までが共同で生活を送る、家のような施設です。ここで暮らしている子供たちは、家族や家庭内での諸事情により家族と一緒に生活することができません。子供にとって多感で様々なことに興味を持ち学び、成長していく大切な時期を過ごす生活の場所として、児童養護施設はとても重要な役割を担っています。

近年では社会的な認識や子供を取り巻く環境の変化により、児童養護施設に求められる役割も大きく変わり、児童が社会に出るまでの期間を過ごす家庭のような存在から、親や子供の環境を整え、家庭に復帰する手助けを行い、その期間を安心して過ごせる生活の場へと、施設の役割が転化しています。



管理棟前の回廊

地域交流ホールとアプローチ





地域交流ホール

■住居ユニット



[言葉の建築]

「児童養護施設さんあい」では、新しい施設に移転する3年前より、どのような施設像を築くか、新しい運営を想定した体制づくりが進められていました。その時期から設計にかかわる機会に恵まれ、敷地の選定や建築計画に携わり、職員の方や児童のみなさんと十分話合うことができ、新しい施設への夢や希望、運営の在り方など沢山の言葉を伺うことができました。例えば「明るいお家がいい」、「自分のお部屋が欲しい」、「夕焼けのときの山並みがきれい」など、設計を進めていく中で、生まれてくる言葉を大切にし、少しづつ建築に溶け込ませていけるような作業を進め、具体的に機能や形態として表現していくことで、使いやすく、愛着を持ってもらえる建築をつくることができました。そして、木造の住棟で緑の中庭を囲い、小舎型の家庭的な雰囲気と大舎型の効率性、経済性を併せ持つ、新しい施設のカタチを創り出すことができました。

[木造の建築]

木造の建築はコンクリートや鉄骨でつくる建物では味わえない「居心地のよさ」や「柔らかみ」を感じることができます。設計の際に寄せられたたくさんの言葉もそのような雰囲気を形容したものが多く、木の温もりや光、風に満ちた暖かな生活の場が求められていることを強く感じました。そこには

子供たちが活発に遊び、職員の方々がリラックスして子供と接するゆとりを生むという重要な機能も隠されています。実際に完成後に何度か訪れてみると、以前に比べて子供たちが落ち着いたという声を伺いました。また、各住戸の庭をコレクションしたり、日除け代わりにへちまを植えたりと建物とうまく付き合っている雰囲気が感じられました。設計では子供たちが触れる部分やリビング、回廊など普段過ごす場所にはできるだけ無垢の木を使い、安全で親しみやすい生活の場となるよう心がけました。また木材を使用する部分は、材種の特性や仕上を考慮し、建物の耐久性、維持管理に支障となりにくい使い方を採用しました。

[環境との対話]

建築は周囲の自然環境とうまく付き合って、豊かな生活の場が生まれると思います。この地は周辺に畑や屋敷林が広がり、ゆったりとした時の流れを感じられる場所です。しかし、時折り土混じりの強風が吹き寄せるため、建物や住環境にはその対策が求められました。そのため、住棟で囲うように中庭を設け安定した外部環境を確保しました。また、住居と中庭の間には半外部的な空間として回廊を回し、内部と外部、隣接する住戸と住戸が生活の中でゆるやかにつながるよう配慮しています。そして、外壁は強風から建物を守るためにガリバリウム鋼板とし、生活の場となる中庭側は杉板を用いた温かみのある仕上げとされています。外観は無機的であり生活感

が感じられませんが、中に入ると子供が安心して遊べ、窓を開け放てる中庭が広がり、洗濯物や子供たちの声など生活感にあふれた空間が展開しています。また、建物の周囲には葉が落ちる木を植え、夏の日射や適度な湿気と通風が担保できるよう配慮し、建物をやわらかく包む微気候の形成を試みました。年月とともに少しづつ建物と外部環境が調和し、自然で快適な住環境が得られるよう計画しています。

[バウビオロギーを取り入れた設計]

あまり聞きなれない言葉ですが、人と自然と建築を生物学、生態学的な観点からつなぐ概念として、バウビオロギーという思想があります。1960年代よりドイツ、オーストリア周辺を中心として研究が進められているエコロジー建築の考え方で、敷地の磁場バランスや電磁波と健康の関係、宇宙的・地上的放射線の取り入れ方など、これまでの建築で見落とされている分野を含め各専門分野を包括し繋げていく研究活動です。今回の建築では健康で安全な生活環境を確保するため、微気候と建物の関係、断熱・蓄熱・放熱の関係、スキンとしての外壁の在り方、色彩・照明・自然採光のバランスなど、バウビオロギーの考え方に基づいて設計を行っています。たくさんのエネルギーを地球から授かる建設行為や人々の営みは、今後できるだけ自然環境への負荷を少なくし、快適で安全な生活空間を生み出すことが、建築設計において重要な課題の一つとなっていくと感じています。

児童養護施設 さんあい

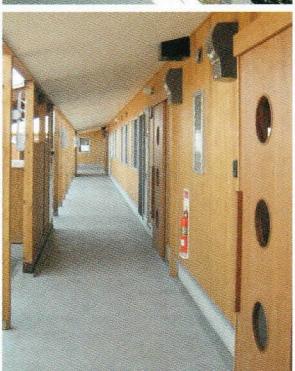
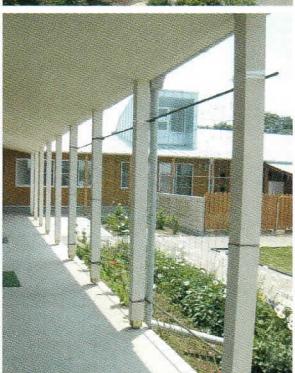
建築概要

所在地	埼玉県深谷市櫛挽15-2
主要用途	児童福祉施設
設計	モリモトアトリエ一級建築士事務所
施工	竹並建設株式会社
構造工法	木造軸組工法
規模	地上1階 一部ロフト
軒高	4.95m
最高高さ	7.20m
敷地面積	4982.29m ²
建築面積	1603.39m ²
延べ面積	1329.93m ²
外部仕様	
外壁	ガリバリウム鋼板 縦ハゼ葺き 一部杉本実加工 浸透性木材保護塗料
屋根	ガリバリウム鋼板 縦ハゼ葺き
窓	アルミサッシ 一部木製建具
内部仕様・その他	
床	フローリング
壁	無機質壁紙 一部スイス漆喰
天井	無機質壁紙
建具	木製フラッシュ 一部杉框戸





南外観 まだ成長していないが落葉樹と常緑樹が交互に植えられている



屋根の丸い開口はリビングへの採光のため設けられた。



ガリバリウムの外壁に夕日が遠方の山並を映し出す



森本伸輝

- 島根県立江津工業高等学校 1984年卒業
- 工学院大学 2部建築学科
初田研究室 2002年卒業
- メール:momoat@nifty.com

●略歴

建築家 中村弘道、高崎正治氏に師事し建築を学ぶ
1997年より医療福祉施設研究所勤務
2008年 モリモトアトリエ一級建築士事務所を設立

●主な統括作品

2001年 佐々木病院 精神科・デイケア施設
2006年 上野の家（日経アーキテクチュア070226掲載）
2007年 児童養護施設 さんあい

建築系学科 同窓会の総会開催

新宿キャンパス6階に同窓生が集まりました。午前11時に開会になり、まず田野邊幸裕同窓会会长の挨拶に引き続き議題が審議されました。議案1、第42期(2007年度)事業結果の報告(決算額633万円)、運営委員の改正、NICHEの発刊、H.P.の充実、資格支援事業など

について各担当者から報告がありました。議案2、第43期(2008年度)事業計画(736万円/案)の報告。前期と同様の活動内容の報告がありました。谷口先生から資格・支援の報告があり「一級建築士の試験制度が変わります。今年が今までの試験制度で受験できるラストチャンスです」。同窓会では、1~2級建築士、宅建講座のサポートを長年実施してきました。後日、同年12月17日発表の1級建築士合格者は工学院大学82名、大学別では全国の上位6番目。



田野邊幸裕会長



資格支援事業を説明する谷口宗彦教授

卒業生から「後輩はよく頑張っていますね」のメールが届きました。総会の最後に議案及び同窓会役員新規人事について、全員の拍手をもって承認されました。

(取材/NICHE編集部)

工学院大学建築系学科同窓会 2009年度 — 運営委員会名簿

●建築系学科同窓会 役員

顧問	北沢興一
会長	田野邊幸裕
副会長	H.P担当 鮎坂誠之 NICHE担当 大場光博 NICHE副担当 楠昭 資格支援担当 小野里憲一 イベント担当 後藤敏明
幹事 (会長補佐兼務)	高木雅行、初田亨、谷口宗彥
幹事	伊藤真人、三好薰、高橋昭彦、高城文一 関谷真一、斉藤敏博、田中正裕
会計	柴田卓次、佐々木秀史
会計監査	宮澤健二、大橋一正、南雲正博

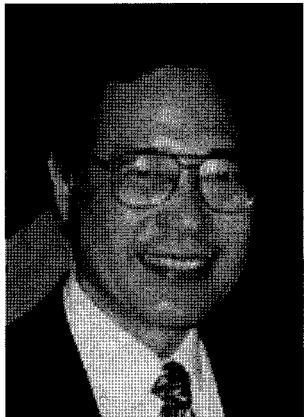
●校友会 役職者・評議員

副会長	田野邊幸裕
監事	楠昭
企画・広報部会	部長 田野邊幸裕 理事 大場光博
組織・事業部	副部長 加藤隆弘 理事 谷口宗彥
学園連携部	理事 後藤敏明
総務部	理事 北澤興一
財務部	理事 田中正裕
評議員	初田亨、斉藤敏博、高橋昭彦、小野里憲一 三好薰、伊藤真人、高城文一、関谷真一 柴田卓次、佐々木秀史、宮澤健二、大橋一正 南雲正博、神崎健、佐藤保廣、渡部莊児 望陀宣夫、板谷信、菅家幹、武田昌宏

●校友会 理事

政策諮問委員	北澤興一
常任理事	田野邊幸裕、加藤隆弘
理事	後藤敏明、田中正裕、大場光博、谷口宗彥、 初田亨
理事補欠	斉藤敏博、高橋昭彦

第1部建築学科の近況



長澤泰
建築学科主任教授

ですが、漢字では全く同じ姓名となるので、郵便物や来訪者・学生などに対する混乱を避けるため、新任の山下先生には通常は山下「てつろう」と名乗っていただくことになりました。「イチロー」のように「テツロー」先生がよいのではないかとの提案もありましたが、大学当局には認めてもらえず残念です。

■発災対応型防災訓練 第2弾

2007年に行われた新宿の超高層キャンパスでの大規模な地震対策訓練とその後に実施された新宿地域での滞留者安全確保のための地域防災訓練はNHKなどの報道でも取り上げられ、本学の存在を社会にアピールすることになりました。2008年にはその第二弾として10月22日に超高層キャンパスでの発災対応型防災訓練と滞留者安全確保の地域防災訓練とを同時に実施しました。特に今回はお隣の東京医科大学救急部門の全面的な協力を得て、学生有志にムラージュ(骨折や出血の化粧)を施し、実際のDMT(救急医療チーム)に出動してもらって、新宿校舎の一階アトリウムにおいてトリアージュ(重軽傷者の一次選別)と救急処置を実施しました。このように近い将来に首都圏で予想されている大規模地震発生時の被害軽減に対して本格的な取り組みを行っています。

■外部資金導入の2大プロジェクト

本学が力を入れている大災害時の地域的被害軽減のプロジェクトに関連して、2件の研究助成を獲得しました。ひとつは文部科学省補助金で学生GP(グッド・プラクティス)と称するものです。学生が災害救助の技術を体得し、街に出て地域の被害マップを作成して、有効な対策を考えるプロジェクトです。もうひとつは、私立学校振興・共済事業団からのもので、「直下型地震などの震災に備える施設管理者・技術者への減災対策および復旧復興マネジメント教育プログラム」です。新宿のような超高層が林立する都心部では、各ビルの大震災時のハードとソフトの対応の差が被害の大小に大きく影響します。そのためのファシリティーマネージャー(FMr)の養成が焦眉の課題です。折しも消防法改正で、これまでの防火管理者が防災管理者になるための研修が始まることになりました。この研修カリキュラムの作成や実施を本学が担う可能性が出ています。この両研究プログラムは本学の実務者養成の基本的姿勢に沿ったもので、多くの期待が寄せられています。

さて、着任1年後に主任教授に選ばれ、右も左もわからないままに務めきました。どうにか大過なく過ごせたのも、野澤主任教授の緻密な舵取りと、ベテランの赤木・小野里両幹事のサポートのお陰です。2009年4月からは、小生がはからずも、副学長・工学部長に指名されたため、主任として大橋、後藤両教授、幹事として小野里、山下(哲)両准教授にお願いして、学科運営をいたします。どうぞよろしくご協力お願い申し上げます。

■建築学科初のコース分け

2007年度4月から、1年次・2年次は建築の基礎を学ぶ時期と位置づけて、建築学コースと建築環境コースとの選択を入学前には行わず、入学生を受け入れましたが、2008年の秋には初めて3年次に進みたい自分のコースの配属希望を2年生に出してもらいました。何回もこの趣旨を学生に伝えたためか、結果としては、各コースの最大許容人数に対して、若干の調整をすることで、配属を決定できました。これまで少しづつカリキュラムの共通化などを建築都市デザイン学科とも調整して、建築系学科としての基礎教育を進めてきましたが、この教育の仕組みの改革が、新宿キャンパスでの3年次・4年次の教育成果として現れることを期待しています。

■新任の教員

2008年4月から、山下てつろう(哲郎)先生が、名古屋大学から本学建築学科の専任教授として赴任されました。ご専門は建築計画ですが、設計の実務経験もありますので、学生の計画・設計教育や研究指導に活躍されています。実は、建築学科には2007年4月から着任された構造系准教授の山下哲郎先生がおられて、読み方は山下「てつお」ですので異なりま

建築都市デザイン 学科の近況



野澤 康
建築都市デザイン学科
主任教授

■新しい仲間を迎えて

2008年の4月から2名の先生が、新しく私たちの仲間に加わりました。

おひとりは、西森陸雄准教授。ご専門は建築デザインです。商業建築や住宅など幅広く手がけていらっしゃる、本学の建築デザインの教員スタッフの専門分野を補完して余りある方です。もうひとりは、田村雅紀准教授。ご専門は材料施工です。弱冠35歳の今後の発展が期待できる若手研究者です。

このお二方を加えて、今年度は10人体制で学科運営してきました。

とはいっても、実態としては建築学科と建築都市デザイン学科は建築系学科として一体運営されており、下記の各点は建築系学科としての主催行事や対応・戦略のご報告です。

■高校生を対象としたコンペの開催

(建築フレッシュ・アイデア・コンペ)

2008年度初めて実施したこのコンペは、大学の社会貢献という意味と、高校生に工学院大学の建築系学科を知つてもらうための新しいチャンネルという位置づけがあります。

新しい企画であり、木下庸子教授(絵の部門審査委員長・建築学科)、後藤治教授(文の部門審査委員長・建築都市デザイン学科)が中心となって、多くの先生方の知恵をお借りしながら、手探り状態で2008年2月頃から実質的な準備を始めました。募集要項の公表を5月に行い、9月初めの夏休み明けに締切を設定しました。どのくらいの応募があるか心配されましたが、何とか審査が成立するくらいの応募があり、一同ほっとしました。審査結果を9月末日に公表し、11/15のオープン・キャンパスにおいて高校生対象「建築フレッシュ・アイデア・コンペ」表彰式・トークイベントの様子



三浦学長にもご臨席いただき、表彰式とプレゼンテーション・講評会を開催しました。

こうした企画は是非これからも大切に育てていただきたいと考えております。2009年度以降も引き続き実施する予定ですので、応募資格のある方が身近にいらっしゃれば大いに宣伝して下さい。

■建築士法改正への対応

在学生・卒業生には、建築士法改正がどのようにご自身に影響するかをご心配の方もいらっしゃることと思います。今回の建築士法改正による建築士受験要件の変更の対象となるのは、2009年度入学者からとなりますので、既に卒業された方、既に入学されている学生には関係ありません。

今年1年私たちが対応に追われたのは、2009年度入学生的カリキュラムや履修規程をいかにこの法改正に対応させるかという問題でした。申請までの経緯や詳細を説明する紙幅は用意されていませんし、それによってむしろ混乱を招くことも考えられますので、結果のみお知らせいたします。

第1部の2学科については、いずれも卒業要件を満たせば、建築士受験要件の学部での履修単位数の総数及び分野別要件の単位数を満たすことになります。したがって、第1部の学部に関しては、これまでと見かけ上の違いではなく、卒業を目指して学習していくべきことになります。

■広報戦略・入試戦略

既出の高校生コンペも、広報戦略・入試戦略の一環と位置づけることができます。

その他に、今年度は以下の2つの取り組みを行ってきました。ひとつは、建築系学科広報委員会を設置したことです。これまで、種々の広報活動は主任・幹事がその都度、対応していただけの教員にお願いする形で行なっていましたが、近年、広報関係の行事や発行物がかなり増えてきたことに伴い、これに一貫性を付与して全体を仕切る役割が必要となりました。大橋一正教授(建築学科)に委員長をお願いして、今年度の広報行事・発行物に対応してきました。

もうひとつは、入試戦略として入試方法の改善があげられます。これまで、第1部建築系学科では、建築学科2コース、建築都市デザイン学科の3つに分かれて入試を実施していました。これを第一弾として2007年度入試から建築学科はコースに分けずに入試を実施し、2009年度入試からは、さらに学科にも分けずに募集し、入試を実施することにしました。本稿執筆時点では、それが成功かどうかを評価することはできません(本誌が発行される頃には評価可能ですが)。しかし、受験生の増減はともかく、建築系学科に入った学生が最初に学ぶ基礎的な部分は、将来どんな専門分野に進もうとも共通であることを具現化したことで、高校生にもわかりやすく、選びやすい仕組みとなったと考えています。これが定着して、世間で評価されることを期待したいです。

さて、2年間にわたって主任教授を務めてきた私も、2009年3月でその任を解かれます。大学運営が非常に難しい時代に学科運営という大役を仰せつかり、どれだけうまく舵取りができるか、どれだけ成果を認められたかわかりません。至らない部分も多々あったかと思いますが、ご指導・ご協力いただいた皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

社会的役割と今後の展開 第2部建築学科の近況



大橋一正
建築学科教授

建築学科の第2部は、1部と同様に長い歴史の中で優秀な卒業生を社会に送り出してきました。今日も随所で卒業生の活躍を見聞きし、大変誇らしくなります。

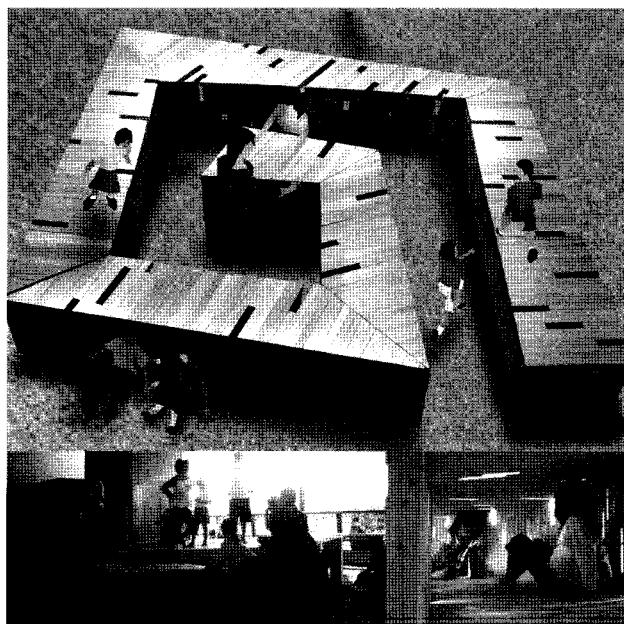
さて、18歳人口の減少から大学全入時代の到来が現実となり、大変厳しい状況です。2部を今後どのように展開し、社会的責任を果たしていくか、苦慮しています。

10年ほど前から志願者数が激減しています。平成18年度において入学定員(90人)割れとなり、平成20年度は志願者70人、入学者42人となっています。このような状況となった原因は、大学の基本方針や教員の努力不足もありますが18歳人口の減少が大きいと考えられます。その他に経済状況、若年層の意識など、いくつかの社会問題が複雑に絡んでいるように思います。

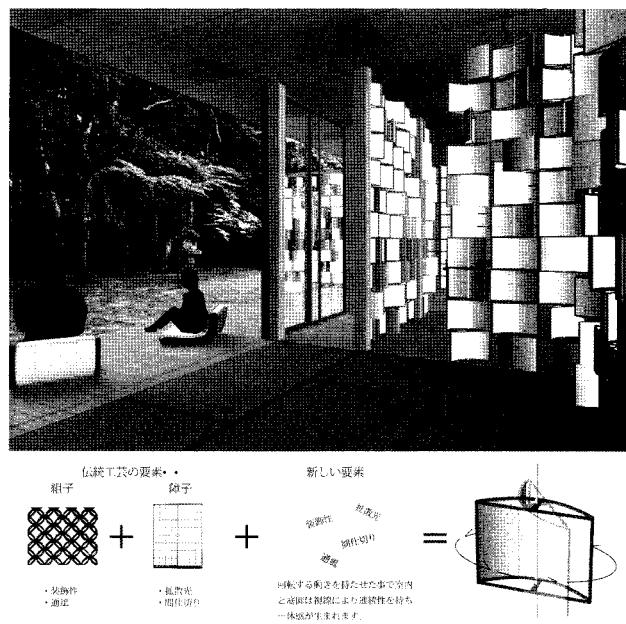
18歳人口の大きな増加は今後あり得ませんので、ひとつの選択肢としては、社会的役割は終えたと考え、新しい変革の時期にきたと考えられます。一方、新宿校舎の利便性から、働きながら学びたい学生や一級建築士取得を目指し、短大、4年制大学の卒業生が編入生として2、3年次に入学希望する学生がかなり居ますので、単純に閉店とはいきません。

下記のように、1部の1・2年生では、なかなか難しいコンペ入選をはたす学生がいるのも、本学2部学生の頼もしい伝統です。

今後とも、継続し発展するには社会人に特化し昼夜開講や大学院まで繋げるなど、大改革をする必要がありますので多くの方々のご意見、アイデアをお寄せ下さい。



杉コレクション2008 in 日向—杉でつくる幸せ空間—
グランプリ受賞作品「ココでなにする?」
加藤 直樹(2部建築学科2年)
杉本 龍彦(2部建築学科1年)



九州温泉旅館客室コンペティション2008 in 大川
入選作品「風の招待場」
加藤 直樹(2部建築学科2年)
杉本 龍彦(2部建築学科1年)

大学院建築学専攻の近況



谷口宗彦
建築都市デザイン学科教授
大学院運営委員

れます。建築学専攻の指導には29名の修士課程指導教員と、19名の博士後期課程指導教授により構成され、さらにそれ以外に修士科目担当に2名の特別専任教授と17名の非常勤講師が携わっています。

大学院では教育・研究の質的向上を求めて、自己評価運営委員会やFD(教育改善)委員会で活発に議論し、教育・研究環境の改善に取り組んでいます。最近の技術革新は特にめざましく、幅広い視野が求められるため、全学部生及び社会人対象としてMOT(Management of Technology)を中心とする「システムデザイン専攻」(仮称)が2010年4月開講目標で準備されています。建築学専攻では教育評価のグローバル化を目指し、一昨年からデザイン系を中心としたUIA対応の大学院JABEEの検討を始めておりましたが、建築士法改正に絡むカリキュラム問題で一時中断しています。

本年度の話題は、なんと言ってもその「1級建築士試験」の受験資格変更です。2008年9月国土交通省の新しく公布した告示を受けて、建築教育普及センターが同年10月に「大学院における実務経験の審査基準」として運用の詳細をまとめました。法施行後に入学(2009年4月)する院生は、1級建築士試験の受験資格となる実務経験を得るには、在学中に実務を体験する「インターンシップ」と、それに「関連して必要となる科目」の単位取得が必須です。従来認められた通常の「建築に関する研究」は、実務経験として認められなくなりました。

告示とおりの改正に従いますと、これまでより大きな負担が課せられ、各大学ともカリキュラム上の大きな変革が求められています。この原稿を書いている1月、正に科目認定の二次審査を受ける準備中です。2月末までに、ぎりぎりではありますが審査結果が出るものと思われます。

本学では多数の専任指導資格教員と非常勤講師を要しています。それに都心であるため実務経験を得やすい好立地から、計画系は30単位(2年の実務経験)の科目を用意できそうです。しかし、技術系は多くの他大学同様15単位が限度(実務経験1年)かと考えています。

本学大学院は、戦後の新制大学の中では最も早い時期にあたる1964年に修士課程(博士前期課程)、2年後に博士後期課程が開設されました。2009年度で開設以来45年の歴史となります。

現在下表のように5つの専攻があり、各々修士課程と博士課程から成り立っています。現在では大学院全体で540名を超える在籍者がおり、特に建築学専攻の博士後期課程では12名が在籍し他専攻の3倍程も多く、研究層の厚みを感じら

■入学定員と在籍者数 ()は女子内数

2008年(平成20)4月1日現在

専攻名	区分		入学定員	課程・学年別在学状況							
	修士	博士後期		修士			博士後期				
				1年	2年	計	1年	2年	3年	計	
機械工学専攻	40	3	72(4)	74(1)	146(5)	1(0)	0(0)	3(0)	4(0)		
化学応用学専攻	40	3	37(5)	44(9)	81(14)	1(0)	1(0)	2(0)	4(0)		
電気・電子工学専攻	40	3	38(1)	53(0)	91(1)	0(0)	2(0)	1(0)	3(0)		
情報学専攻	30	3	24(2)	27(5)	51(7)	0(0)	2(0)	2(0)	4(0)		
建築学専攻	40	3	74(15)	71(23)	145(38)	5(1)	3(1)	4(1)	12(1)		
合計	190	15	245(27)	269(38)	514(65)	7(1)	8(0)	12(1)	27(2)		

新しい風に聞く



建築学科教授

やました てつろう
山下 哲郎

熊本県 県立熊本高等学校 1975年卒業
東京都立大学 工学部建築工学科卒業 長倉康彦研究室
メールアドレス:dt13207@ns.kogakuin.ac.jp

略歴

1975年3月31日 熊本県立熊本高等学校 卒業
1981年3月25日 東京都立大学工学部建築工学科 卒業
1983年3月25日 同 工学研究科修士課程建築学専攻 修了
1986年3月31日 同 工学研究科博士課程建築学専攻 単位取得退学
1986年4月1日 ~1991年3月31日 東京都立大学非常勤講師(工学部)
1989年4月1日 ~1991年6月30日 (株)共同建築設計事務所所属
1991年7月1日 ~1996年3月31日 東京大学大学院助手(工学系研究科)
1996年4月1日 ~2008年3月31日 名古屋大学大学院工学研究科准教授
2008年4月1日 ~工学院大学工学部建築学科教授 現在に至る

新任の挨拶

様々な地域や職場を転々と移り住んできました。生まれは福岡県の柳川市、その後、熊本市で小中高と過ごし、大学は花の東京へ。そのまま東京都立大学で博士課程を満期中退の後、母校等々の非常勤講師を務めながら株式会社共同建築設計事務所で修行をさせていただきました。研究室に戻ることになつてからは、東京大学にて助手を、また名古屋大学で助教授を務めて参りました。そしてこの度、本学に席を与えて頂いた次第です。

大学・大学院時代には、長倉康彦先生と上野淳先生から、学校建築の設計と研究のいろはを教えて頂き、その後、長澤泰先生とお会いしてからは、病院建築設計の手解きを受け、同時に研究の視野も広げて頂きました。共同建築設計事務

所では、当時の大場則夫社長と田辺峰雄専務から病院建築設計の実務をたたき込んで頂きました。

最近は、過疎地の生活環境に興味を持っています。勿論、その地での生活の継続を目的としてのことですが、東京あるいは新宿という大都会での生活と対比的に描き出したいと思っています。加えて今の関心事は、本学で受け持っている大学院の前・後期2コマの講義を組み立て上げること、です。つまり、大学院の講義こそ、研究者が対象とする研究フィールドの理論とその背景を構築・整理する場だと考えているからです。が、いざ臨んでみると、これは結構大変な作業で、挫折寸前、不充分極まりない状況、というのが正直な所です。

心許ない有様ですが、これからどうぞ、よろしくお願い致します。

東京都 私立開成高校 1980年卒業
早稲田大学 理工学部建築学科卒業 穂積信夫研究室
メールアドレス:nishimoriku@nishimori-aa.jp

略歴

1961年東京生まれ
1986年早稲田大学大学院修了後、AUR建築都市研究コンサルタント勤務。
1991年よりローマのMassimiliano Fuksas事務所に在籍。1992年
からは文化庁芸術家在外派遣員。93年に帰国後独立。早稲田大学、
関東学院大学、横浜国立大学などで非常勤講師を務め、現在工学院
大学准教授。大宮市景観賞、函館市景観賞、INAXデザイン賞、
蒙賞等受賞。

新任の挨拶

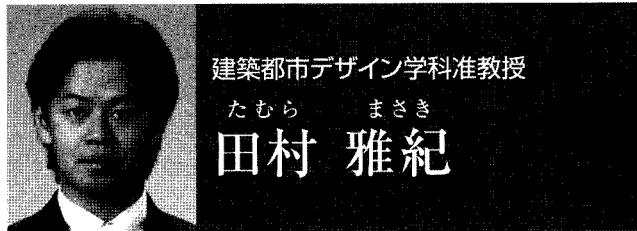
工学院大学に今年から設計系の常勤教員として着任することになりました。振り返ってみると出身大学は違いますが、自分の回りには多くの工学院卒業生や関係者がおりました。職場の先輩や若手建築家の仲間、そして独立してからの所属にも。それぞれの個性は違いますが、その卒業生達から受け
る共通の印象は「きちんと仕事ができる設計者」という印象で

す。8年前に非常勤講師として工学院で、学生諸君の作品を指導するようになって、その印象はさらに強くなりました。こうい
うまじめな学生には、指導する教員も「まじめ」に対応しなければなりません。彼らは僕達の言葉や行動を「まじめ」に観察し
ているからです。

建築のデザインというのはとかく頭で考えて生み出す「難解

なデザイン」と思われるがちですが、これから時代に求められる建築デザインを考えると、必ずしも難解なコンセプトである必要はなく、むしろ理想と現実をバランス良く採り込んだ「アリティ」をもったデザインであるべきではないかと考えています。学生達の「仕事ぶり」を見てきて思うのは、工学院の長い建築

教育の歴史において、実はそのようなことが脈々と受け継がれて来ているのではないかということです。僕がやるべきことは、その流れを更に次の時代に引き継いでいくことであろう考えています。かつ現実の指導テーマにおいては常に時代に即した新しい方法を探り込むことにも挑戦していきます。



建築都市デザイン学科准教授
たむら まさき
田村 雅紀

岐阜県立可児高等学校、1991年卒業
名古屋大学 工学部建築学科 卒業
メールアドレス:masaki-t@cc.kogakuin.ac.jp
八王子校舎・11号館201室(内線・3546)
新宿校舎・2575室(内線・2737)

略歴

博士(工学、東京大学2003年)
1973年 岐阜県生まれ
1996年 名古屋大学 工学部建築学科 卒業
1998年 東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻 修了
1999年 東京都立大学大学院 工学研究科建築学専攻・助手
2000年 セメント協会論文賞
2004年 前田工学賞
2006年 ACF Best Concrete Technology Paper Award
2006年 日本建築士上学会学会賞

2007年 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科建築学専攻・助教
2007年 リーディングサイエンティスト賞・首都大学東京
2008年 工学院大学 工学部建築都市デザイン学科・准教授
著書に、
鉄筋コンクリート造建築物の環境配慮施工指針(案)・同解説(日本建築学会、2008年)
マテリアル・デザイン2008(彰国社、2008年)
Environmental Design Guideline, State-of-Art report of fib bulletin 31(fib、2007年)
コンクリート建物改修辞典、(産業調査会、2005年)ほか

新任の挨拶

2008年4月より建築都市デザイン学科、生産系の准教授として着任しました田村雅紀です。環境材料学を専門としており、主な講義は材料・施工に関わる科目と担当しています。工学院大学には、これまでに兼任講師として八王子実験室(材料実験)で勤務する機会をいただいていたことや、前職が首都大学東京(南大沢)で、同じく八王子で多くの時間を過ごしてきたことなどにより、新宿校舎と八王子校舎をあわせた本大学への愛着というのも既に沸きつつある状況であり、教職員および学生とともに日々研究教育活動に力を注いでいます。

これまで、コンクリート・仕上げ材料などの建築材料を対象に、その基礎的物性、資源循環性および社会・環境影響に関わる材料研究を行ってきました。特に、環境影響に関わる研究については、はじめに地理的環境や地域性などの空間的尺度と状態の影響を考慮することが必要となることから、自身が生活をしている都市圏における問題に着目しようと考へ、コンクリートのリサイクルに関する研究、建築外装の美観評価の研究などに重点をおいて研究を行ってきました。これらの問題は、人間の生活の利便性と密接に関係する問題であるため、今後も重要な課題であり続けるのではないかと考えています。

研究室は、この2008年4月に産声をあげたばかりですので、これから研究チームとしてのアイデンティティを育んでいくわけですが、基本的な活動の方針としては、まず人に生涯があるように、建築も一連の生涯(構想-設計-製造施工-供用-解体・再資源化・廃棄段階など)があることを再認識した上で、そのライフステージの節目ごとに「建築材料」が建築とどのような形で関係しているのかという視点に立って物事を考えていくべきだと思います。そして、人を介して育まれる建築の生涯をより豊かで多様な彩りのあるものとするために必要な技術・手法を具体化できればと考えています。学生諸君には、研究を通じて、問題意識の発掘・解決策を検討してもらい、最終的には「環境材料の達人」になることを目指してほしいですね。

人生3回チェンジする、という言葉をどこかで聞いたことを覚えています。私にとって、工学院大学で多くの先生や学生と知り合い、ともに過ごしていく時間というものは、非常に大きなステップになるでしょうし、次なる大きなチェンジを築いていく時期であると考えています。新たな気持ちで今後も自己の研鑽に努め、地道に教育研究活動に努めていきたいと思います。

2007年度 卒業設計・卒業研究題目

赤木研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	安藤 善章	探索歩行実験に基づく都市空間の認知特性
1部 建築都市デ	辻 貴司	探索歩行実験に基づく都市空間の認知特性
1部 建築コース	加藤 直樹	遊具に対する子どもと大人の認識の差異
1部 建築コース	北村 隆行	遊具に対する子どもと大人の認識の差異
1部 建築コース	高橋 理奈	遊具に対する子どもと大人の認識の差異
1部 建築コース	志賀 刚	書誌学的調査に基づく認知症高齢者の施設環境整備条件の抽出とその効果
1部 建築コース	三森 雅矢	書誌学的調査に基づく認知症高齢者の施設環境整備条件の抽出とその効果
1部 建築コース	千葉 匠乃	間間にに対する印象評価 ~老後住みたい住宅のイメージ像に関する研究~
1部 環境コース	南 圭祐	特別養護老人ホームの共用空間における利用者の会話行為と環境との関係性
1部 建築コース	宿波 紗耶	認知症高齢者グループホームにおける利用者の外出欲求と施設環境との関係性
1部 環境コース	寺尾 春菜	認知症高齢者グループホームの外出プログラムが利用者に与える影響
2部 建築学科	瀧谷 有紗	高齢者のための身鍛錬集合住宅

阿部研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	橘田 勇平	アルカリ骨材反応による劣化状況の評価方法に関する検討
1部 建築コース	築地 健	フライアッシュを用いたコンクリートの長期性状に関する実験(その2.中性化)
1部 建築コース	古川 雄太	ペースト膜厚理論を応用した各種細骨材を用いたモルタルの流動性の予測
1部 環境コース	岡野 智哉	フライアッシュを用いたコンクリートの長期性状に関する実験(その1.長期強度)

安原研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	山田 勝也	住宅データの統計的研究 -核家族の戸建住宅における平面構成の基礎的研究-
1部 建築コース	荒井 純介	住宅データの統計的研究 -核家族の戸建住宅における平面構成の基礎的研究-
1部 建築コース	尾門 智志	住宅データの統計的研究 -核家族の戸建住宅における平面構成の基礎的研究-
1部 建築都市デ	小野沢雄介	住宅データの統計的研究 -核家族の戸建住宅における平面構成の基礎的研究-
1部 建築都市デ	福田 篤	住宅データの統計的研究 -核家族の戸建住宅における平面構成の基礎的研究-
1部 建築コース	井上 訓	都市型低層集合住宅の共用部分における視覚的要素の基礎的研究
1部 建築コース	山田 将寛	都市型低層集合住宅の共用部分における視覚的要素の基礎的研究2
1部 建築コース	小杉 拓也	外部空間CGにおける空間認知の差の研究
1部 建築都市デ	大塚 順裕	外部空間CGにおける空間認知の差の研究
1部 建築都市デ	鈴木 康弘	外部空間CGにおける空間認知の差の研究
1部 建築都市デ	山本 真司	外部空間CGにおける空間認知の差の研究

塩田研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	内田 匠	壁面緑化の音響性状に関する調査研究
1部 建築コース	矢巻 克敏	壁面緑化の音響性状に関する調査研究
1部 建築コース	植村 純洋	吸音タイルの音響性能に関する実験的研究
1部 環境コース	堺 通高	吸音タイルの音響性能に関する実験的研究
1部 環境コース	新福 竜太	吸音タイルの音響性能に関する実験的研究
1部 建築コース	小林 歩	八王子キャンパス周辺の環境騒音に関する調査研究
1部 建築コース	田島 和雅	八王子キャンパス周辺の環境騒音に関する調査研究
1部 環境コース	柳 淳泰樹	音響施設における音響性能の歴史的変遷に関する調査研究

高研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	橋本 勲一	コンクリートの初期強度に及ぼすセメントの種類と養生温度の影響

村上研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	荒川 俊	様々な防犯対策による犯罪低減効果に関する研究
1部 建築コース	高橋 勇也	様々な防犯対策による犯罪低減効果に関する研究
1部 建築コース	濱野 航平	都心高層キャンバスの地震防災対策に関する研究(その1:緊急時対応体制の構築)
1部 建築コース	三浦 佑太	都心高層キャンバスの地震防災対策に関する研究(その2:発災対応型防災訓練の実施)
1部 環境コース	載 崇行	都心高層キャンバスの地震防災対策に関する研究(その3:発災対応型防災訓練の実施)
1部 建築コース	河合 良之	都心高層キャンバスの地震防災対策に関する研究(その4:団上演習訓練の実施)
1部 環境コース	石戸 友章	割れ意理論に基づく地域環境と犯罪発生の関連に関する研究
1部 環境コース	大森 陽介	割れ意理論に基づく地域環境と犯罪発生の関連に関する研究
1部 環境コース	下大庭真一	欧州における既存不適格等建築物の安全管理に関する調査研究
1部 環境コース	藤井 大剛	住民意識調査に基づいた持続可能な離島のあり方に関する研究
1部 環境コース	蛭子井後一	都心高層キャンバスの地震防災対策に関する研究(その4:都・区・地域等との連携体制の構築)

野部研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	石田かなえ	パーソナル空調システムの環境変更トライガーに関する研究
1部 建築コース	田中光太郎	プローブ挿入法によるGHPのオンサイト長期性能評価
1部 建築コース	中田 高志	自然換気システムを導入した大規模建物の実態調査
1部 建築コース	久名木俊宏	個別分散空調システムとクールチェア併用時の環境調整行動に関する研究
1部 建築コース	渡辺 愛太	多数の中小オフィスビルにおける温熱環境の実態調査
1部 環境コース	伊藤 泽香	個別分散空調機の部分負荷運転時における快適性評価
1部 環境コース	笹沼 純	静穏環境を創出する空調システムに関する研究
1部 環境コース	久田 真介	BEMSデータの多角的活用に関する研究
1部 環境コース	藤脇 啓太	温熱環境に係わるクレーム発生とその対応状況に関する調査研究

後藤研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	野村 渉	杉並区・K学園並苑に関する調査・研究
1部 環境コース	船久保隼人	埼玉県朝霞市旧高橋家住宅の構成部材に関する調査・研究
1部 環境コース	上原 和也	栃木県大田原市大雄寺経蔵に関する調査・研究
1部 環境コース	渡辺 順子	山口県山口市龍福寺本堂における構成部材についての調査・研究
1部 建築コース	鶴野由美子	東京都杉並区・高千穂学園武道場に関する調査・研究
1部 建築コース	林 愛	岐阜県郡上八幡町・南町地区の町家に関する調査・研究
1部 環境コース	井上 智香	神奈川県・旧東京海上火災保険株式会社横浜支所ビルに関する調査・研究
1部 建築コース	小石澤 恵	東京都町田市萩原邸に関する調査・研究
1部 建築都市デ	小島 淑恵	東京都練馬区内田家住宅の変遷に関する調査・研究
1部 建築都市デ	柳原奈穂子	東京都中野区・哲学堂公園の建築に関する調査・研究
1部 建築都市デ	稻垣 俊輔	東京都品川区旧田中邸の保存修復作業における調査・研究

長澤研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 環境コース	奥村 拡大	精神障害者の社会生活環境に関する研究
1部 建築コース	山戸 良祐	中島(智)研究室
1部 建築コース	秋山沙英子	自然形態が人間の心理に影響を及ぼすことによるデザインクロードニコラ・ルドーの実作と計画案の比較を通じてみたその建築思想
1部 建築コース	川添允由和	マルティン・ハイデガーの言説をめぐる建築・芸術思潮
1部 建築コース	三枝 広幹	サン・ピエトロ使徒座聖堂の絵画・彫刻の主題とチエザレ・リバ
1部 建築コース	田嶋 淳	イングランド社会の変容と都市の変化
1部 建築コース	名塩 知恵	ビザンツ帝国からみた教会建築のモザイク画
1部 建築コース	桜井 圭	アントニ・ガウディの建築にみるジュゼッペ・マリア・ジュジョールの色彩
1部 建築コース	鈴木 真也	マルク=アントワーヌ・ロージエと同時代の建築家・建築理論家の比較からみた新古典主義の諸相
1部 建築コース	阿部 和也	イタリア式様式の出現とその世界への影響
1部 建築コース	武田 啓	大砲出現による地中海世界の城壁の変化
1部 環境コース	新美 宏樹	ヨハネス・イッテンの教育思想が日本に及ぼした影響
1部 環境コース	井上賀津也	西ヨーロッパの中世都市における修道院
1部 建築都市デ	國近 真広	ライン河の水運と徵税がもたらしたドイツの街並み

初田研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	安島 裕香	交通機関からみた業平・押上および浅草地区における都市の歴史的変遷
1部 建築コース	石山 良平	工業からみた墨田区の都市における歴史的変遷
1部 建築コース	岡崎 佳奈	歌舞伎町と新宿五丁目における商店・事業所の建築機能分布からみた都市の歴史的変遷
1部 建築コース	古坊 威人	橋梁と土地利用からみた隅田川沿岸における都市の歴史的変遷
1部 建築コース	間瀬 裕介	池袋における鉄道と都市の関係からみた歴史的変遷
1部 建築コース	山路裕一郎	ル・コムビュジェの労働者向け住居にみる思想と設計手法
1部 建築コース	渡邊 祐介	河川・堀川周辺の土地利用からみた墨田区における都市の歴史的変遷
1部 建築コース	大数見知子	浅草における興行施設からみた繁華街の歴史的変遷
1部 建築コース	車田 寛	三鷹市本山有三記念館と建築家岡田信一郎
1部 建築コース	柴森 崇之	葛飾区における近代和風建築
1部 建築コース	千場 勇輝	千代田区における近代和風建築
1部 建築コース	土屋 裕子	武蔵野市・三鷹市における近代和風建築
1部 建築コース	吉川 実徳	渋谷駅周辺における商店街からみた建築機能分布の変遷
1部 建築コース	前澤 勇太	新宿駅東口周辺における興行施設からみた都市の歴史的変遷
1部 環境コース	七木田尚司	北区における近代和風建築
1部 環境コース	中村加奈子	銀座における興行施設からみた繁華街の歴史的変遷
2部 建築学科	高松 敬	モバイルするメン
2部 建築学科	岡部 直子	reflectinwater霧島と新川の水の記憶

近藤研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	下前 智英	RC造柱梁接合部の応力状態に関する解析的研究
1部 建築コース	朝比奈裕貴	地方自治体におけるコンテンツ共有に関する研究
1部 環境コース	西村 亜希	緊急地震速報を活用した超高層建築の地震防災対策に関する研究
1部 環境コース	増本 鑑志	首都直下地震を対象とした建築への入力地震動震定に関する研究
1部 環境コース	吉永 俊一	中間階免震レトロフィットの仮受け工法に関する研究

小野里研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	北村 圭	1方向ガイドスラブに関する研究
1部 建築コース	藤川 佳孝	角形鋼管の面外力で伝えるガセットプレートの接合耐力に関する研究(その2)
1部 建築都市デ	比嘉 雄大	木造住宅の基礎に用いるせん断補強筋の端部形状に関する研究
1部 建築都市デ	官野 領	SRC造単独耐震壁の壁筋の定着に関する研究
1部 建築都市デ	島村 賢太	RC造耐震壁の破壊メカニズムと最大耐力に関する研究
1部 建築都市デ	滝澤英理香	球の充填方法から形成される構造フレームの構造性能の有効性に関する研究
1部 建築コース	高野 勝吉	

吉田研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	安藤 隆雄	建築評価に関する研究 ～現在の固定資産評価基準における設備評価項目の適正化～
1部 建築コース	桑原 達矢	建築評価に関する研究 ～現在の固定資産評価基準における設備評価項目の適正化～
1部 建築コース	後田 純	建築のライフサイクルに関する研究 ～教育施設の改修工事における工事費の推移の実態～
1部 建築コース	栗井 桂一	建築のライフサイクルに関する研究 ～教育施設の改修工事における工事費の推移の実態～
1部 建築コース	永野 貴士	建築の資源循環特性に関する研究 ～各種建築資材のマテリアルフローモデルの作成～
1部 環境コース	関 修三	建築の資源循環特性に関する研究 ～各種建築資材のマテリアルフローモデルの作成～
1部 環境コース	平井 良次	建築評価に関する研究 ～建築取壊し理由の調査に基づく建築の資産価値の研究～
1部 環境コース	貞田 祥子	建築評価に関する研究 ～建築取壊し理由の調査に基づく建築の資産価値の研究～

宮澤研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	阿久津孝将	伝統木構造の耐力・変形性能に関する研究
1部 建築コース	魚落 弘子	接着パネル工法実大静力加力実験に関する研究
1部 建築コース	下沢 詩織	面材軸組耐力壁の復元力特性に関する研究 -損傷経験および繰り返し加力の影響-
1部 建築コース	緑川 直樹	多層耐力壁構面の簡易応力算定法に関する研究
1部 建築コース	吉岡 圭介	既存木造住宅の耐力性能に関する研究

大塚研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	加我 智史	透明塗膜(繊維入りアクリル樹脂)によるタイル剥落防止工法の開発

大橋研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	石井 翔	大規模建築におけるごみ集積所の計画手法に関する研究
1部 環境コース	小垣 喬	大規模建築におけるごみ集積所の計画手法に関する研究
1部 建築コース	渡来 誠士	大規模物流施設における省エネルギーシステムの導入効果に関する研究
1部 建築都市デ	齊藤 寛徳	大規模物流施設における省エネルギーシステムの導入効果に関する研究

宇田川研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	竹沢 範見	KTC環境実験室を用いた室内環境の実測とシミュレーションによる比較と検証
1部 建築コース	三木 興	KTC環境実験室を用いたVAV方式の比較と検証
1部 建築コース	梅崎 崇	高層ビルの空調負荷削減方法の検討
1部 建築コース	川崎 誠冬	高層ビルの空調負荷削減方法の検討
1部 環境コース	萱野 鉄平	住宅用太陽光発電システムの運転実績と今後の展望
1部 環境コース	飛田 昌則	KTC環境実験室を用いたCAV方式の比較と検証

遠藤研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	石井 敦士	柱型、梁型のないRC造軸体工事の生産性に関する調査研究
1部 建築コース	菅原 大樹	柱型、梁型のないRC造軸体工事の生産性に関する調査研究
1部 建築コース	小原 扉也	提出見積書と支払台帳の比較によるゼネコンの原価管理に関する実態調査
1部 環境コース	小野寺章仁	提出見積書と支払台帳の比較によるゼネコンの原価管理に関する実態調査
1部 建築コース	納 章太	J-REIT投資法人の公表資料に基づく保有建物の経済性評価 -物件の売買によるポートフォリオ組替の実態について-
1部 建築コース	関口 浩太	J-REIT投資法人の公表資料に基づく保有建物の経済性評価 -物件の売買によるポートフォリオ組替の実態について-
1部 建築コース	関田 光孝	国土交通省発注の工事における入札結果の分析 -時系列でみた競争性の推移を中心に-
1部 建築コース	野崎 聖史	国土交通省発注の工事における入札結果の分析 -時系列でみた競争性の推移を中心に-
1部 環境コース	渡辺まゆみ	木質系住宅の生産供給システムの構造変化に関する研究 -大工・工務店の機能、位置づけの変化を中心に-

中島(裕)研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	木村 梨絵	折板屋根用遮熱シートによる室内外の熱環境改善に関する研究
1部 建築コース	鈴木美佐子	関東地方の戸建住宅におけるエネルギー消費特性と住まい方に関する研究
1部 環境コース	庄子 友幸	関東地方の戸建住宅におけるエネルギー消費特性と住まい方に関する研究
1部 環境コース	新井裕一郎	廃蛍光灯の分別・処理・再資源化に関する実態調査
1部 建築都市デ	小原 茂樹	環境モニタリングシステムの環境教育・環境啓発への活用に関する研究
1部 建築都市デ	佐藤光太郎	ハッピング行動を取り入れたライフスタイルによる省エネルギー効果に関する研究
1部 建築都市デ	関口 直樹	高反射率塗料による室内外の熱環境改善効果に関する研究
1部 建築都市デ	中村 仁子	NHL(天然水硬性石灰)を放熱面に利用した輻射冷暖房システムの性能評価に関する研究
1部 建築都市デ	林下 昇	NHL(天然水硬性石灰)の環境性能調査と用途開発に関する研究
1部 建築都市デ	綿貫 博文	NHL(天然水硬性石灰)の環境性能調査と用途開発に関する研究
1部 建築都市デ	松島 寛	保水砂を活用した保水性人工芝の環境性能調査
1部 建築都市デ	渡邊 純子	NHL(天然水硬性石灰)を利用した保水性ルーバーの開発に関する研究

倉田研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	関口 幸佑	横浜の歩行者空間の魅力について
1部 建築都市デ	阿部 早苗	公共交通を中心としたまちづくりによる都市ユニバーサルデザイン化を考える
1部 建築都市デ	加藤 慎一	風土における空間文化と建築形式
1部 建築都市デ	菅沼 瞬	西新宿にみるオープンスペースの使われ方に関する研究 ～三井ビル公開地55広場を事例として～
1部 建築都市デ	平岡真由子	銀座旧木挽町地区における都市の歴史的変遷と地区将来像の検討
1部 建築都市デ	降幡 宗一	町づくりの資源となる暗渠化した川についての研究
1部 建築都市デ	三好 量平	集合体としての建築における形成のプロセス ～CollectiveFormのアプローチによる形成要素とパラメータの抽出～
1部 建築都市デ	深山 真秀	都市空間・中間領域における緑化に関する研究
1部 建築都市デ	高橋 光枝	時代小説の情景描写から見た橋のイメージに関する研究
院	渡部 良平	環境との親和性を導く設計手法に関する研究

野澤研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	石井 佑司	豊島区における震災時の公園及びその周辺地区の活用と可能性についての研究
1部 建築コース	鈴木 裕介	農地保全による市街地の緑化に関する研究
1部 建築都市デ	佐々木智一	東京都調布市を対象として～
1部 建築都市デ	杉原 良章	港湾工業地域における景観の可能性に関する研究 ～千葉港(千葉中央・千葉南部地区)を対象として～
1部 建築都市デ	鈴木真砂人	自治体による大型店を対象とした地域貢献活動ガイドラインの研究 ～宮城県を対象として～
1部 建築都市デ	竹内 進	オムニバスタウン事業による地方都市のバス交通活性化に関する研究 ～静岡市の事例を中心として～
1部 建築都市デ	南館 稔	行政と民間団体の間での災害協定締結後の実態に関する研究
1部 建築都市デ	和井田 韶平	地区計画における壁面の位置の制限のあり方に関する研究 ～東京23区の既成市街地を対象として～
1部 建築都市デ	山田 肇人	区域整理事業地区における地区計画導入の効果に関する研究 ～埼玉県3市(三郷、草加、八潮)を事例として～

窪田研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	麻生 洋平	江戸城外濠の調査・研究
1部 建築コース	小岩 葛樹	再開発による地域特性の活かし方についての研究 ～新宿駅周辺～
1部 建築コース	谷口 葵士	都市型キャンパス工学院大学新宿校舎の問題を探る
1部 建築コース	日浦 真奈	公園における「人にやさしい」デザインとは
1部 建築コース	安松 良朗	海の建築～海辺、ウォーターフロントの新たな可能性～
1部 建築コース	渡辺 靖晃	都市の境界と多様性に関する研究 ～新宿駅周辺地区を対象として～
1部 建築都市デ	島田 和行	歴史的まちなみにおける商店街の在り方
1部 建築都市デ	宮崎 郁恵	～折木市を対象として～
1部 建築都市デ	永井 裕輔	光が丘地区における少子高齢社会の研究 ～小学校統廃合の跡地利用計画について～
1部 建築都市デ	柿本 拓哉	中心市街地での地域福祉の実態 ～千葉県香取市を対象として～
1部 建築都市デ	山内 健太	代官山の路地における特有性についての研究
1部 建築都市デ	福田 大輔	代官山の路地における特有性についての研究
1部 建築都市デ	守屋 幸奈	情報化が都市や社会、建築に与える影響について
2部 建築学科	武井 侑渡	東京都国分寺市のマスター・プランと地区計画の相互性 GINZA middle & excursion

藤木研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	小掠 直浩	芸術が自殺志願者を救う
1部 建築コース	落合 謙太	生態的環境建築適応論 ～環境に適応する生物機能を建築へ応用する～
1部 環境コース	酒井 有紀	地球環境に配慮した建築素材についての研究
1部 環境コース	高橋奈津子	デザインのヒントは自然界から
1部 環境コース	土屋 智美	自然の形態から学ぶデザインについて
1部 環境コース	張本 京	高次元图形を見る4次元建築論
1部 建築都市デ	草薙 岳仁	距離感について
1部 建築都市デ	棚橋 哉仁	主体的環境論とRe:について
1部 建築都市デ	中村 一太	教育の問題と環境の問題から考えるこれから学校建築の在り方 -学校Biotopeと学校建築の融合-
2部 建築学科	江戸 雄作	hosokunokuyakusyo
2部 建築学科	森島 健太	GroundLine Architecture

望月研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	泉 秀幸	緑化建築の現状と今後～住空間と緑の関係～
1部 建築コース	遠藤 匠	木造建築の有効性と可能性
1部 建築コース	黒木 勇佑	ヴァナキューラー建築の形態に関する研究 ～建築形態と気候の関係性～
1部 建築コース	鈴木 賢	日本・アジアにおけるGUESTHOUSEの実態と比較
1部 建築コース	竹田 久利	美術館における壁が及ぼす影響
1部 建築コース	橋本ひとみ	音楽とその環境デザイン調査・研究～音に包まれる都市～
1部 建築コース	山本 千愛	新しい住まいづくりとしてのコーポラティブハウス
1部 建築コース	柴田 麻衣	新しいニーズに対応したリブート開発計画
1部 建築都市デ	上野 裕貴	長野県佐久市における公開天文台の展望と可能性
1部 建築都市デ	加藤 拓	認知症高齢者グループホームの研究と改修
1部 建築都市デ	斎藤 彰吾	小学校における教育と建築の関係性 ～子どもを育む環境づくり～
2部 建築学科	栗山 鞠太	ちよくら散歩
2部 建築学科	小山 美香	新宿×ART
2部 建築学科	清水亜希子	properDistance ～適切な距離が生む快適な住環境～

谷口研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	池谷 高浩	Valuable Voidにみる可能性①② ～人口減少社会における住環境について～
1部 建築都市デ	田邊 哲也	Valuable Voidにみる可能性①② ～人口減少社会における住環境について～
1部 建築コース	古橋 尚弥	移り変わる空間 -バルコニー-にみる緩衝帯機能の再考-
1部 建築都市デ	岩本 学	移り変わる空間 -バルコニー-にみる緩衝帯機能の再考-
1部 建築コース	與那城健多	インフォーマルスペースを用いたオフィス環境の構築手法に関する研究part1part2
1部 建築都市デ	阿部 典之	インフォーマルスペースを用いたオフィス環境の構築手法に関する研究part1part2
1部 建築都市デ	住田 真司	インフォーマルスペースを用いたオフィス環境の構築手法に関する研究part1part2
1部 建築都市デ	勝原 敏貴	生活駅における「駅とまちづくり」の考察①② ～永福町駅周辺におけるケーススタディ～
1部 建築都市デ	杉山 隆太	生活駅における「駅とまちづくり」の考察①② ～永福町駅周辺におけるケーススタディ～
2部 建築学科	河原 恵	Move on ～中野版リバースモゲージを用いた移り住むための提点～
院 院	五十嵐理人 石井 真	可能態建築～ワークプレイスの構築手法に関する研究～ 増値減築 ～既存閉地減築によるHornic Architectureの提案～

木下研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	忍足 知彦	渋谷ロヂ白書
1部 建築コース	徳野由美子	TOKYOUNDERGROUND LIFE 生活空間としての都市空間利用の可能性を問う～東京・新橋汐留地区におけるケーススタディ～
1部 建築コース	鷺山 泰喜	近代建築における階段のデザインとその分析
1部 建築コース	高田麻衣子	子どものための都市
1部 建築コース	糠野 博志	高層・超高層集合住宅における住環境の問題点について ～欧米の学びを通して～
1部 建築都市デ	川島 貴洋	住戸が社会に開かれるケーススタディ
1部 建築都市デ	窓田 剛	人口減少に伴う移民受け入れの必要性と整備
2部 建築学科	鈴木 宏	SIBUYASTYLECOMPLEX
院 院	高倉 潤	隣地間研究
院 院	荒井 希	建築空間における光の研究

東研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	小松 春奈	「直島・家プロジェクト」にみるコミュニケイティブ・ワークの展開
1部 建築コース	今駒 佑介	学校建築から高校生が受ける心理的影響についての研究
1部 建築コース	澤田 基弘	夜の公園空間におけるこれからの光づくりについての研究
1部 建築コース	鈴木 麻予	羽生市「葵々地蔵通り商店街」の振興に関する研究
1部 建築コース	竹内 大輔	「葉鳥」「地蔵通り商店街」に学ぶ古い街並み演出の提案～葉鳥の形成プロセスからみるイメージの再構築
1部 建築コース	三浦 拓	用途転用による地域活性化拠点の創出に関する研究 ～横浜市馬車道地区での適用調査～
1部 建築コース	宮崎 貴徳	高密度都市居住における隣接間隔と空隙機能の関係性
1部 環境コース	佐々木慶太	美術館建築における非展示利用者空間の変化と今後の展望～主として休憩空間と教育普及空間の展開～
1部 環境コース	出井 伸広	固有性を持つ「道の駅」によって生まれる地域活性化の可能性
1部 環境コース	中野 敬介	隅田川花火大会によって浮かび上がる街空間の意外性について
1部 環境コース	松田 有可	超高層建築大学における心地良い環境と緑の空間の可能性
1部 環境コース	森田 充洋	地下街の広場における滞留空間としての利用に関する研究

澤岡研究室

学部学科名	氏名	卒業研究・卒業設計題目
1部 建築コース	小林 勇魚	東京論・論
1部 建築都市デ	花澤 亜衣	東京論・論
1部 環境コース	北脇由莉佳	60年代における「カウンターカルチャー」と「未来への視線」に関する研究
1部 建築都市デ	村口 勇太	60年代における「カウンターカルチャー」と「未来への視線」に関する研究
1部 建築都市デ	荒川 朗	新しいプログラミングにおける可能性
1部 建築都市デ	原 布慈子	新しいプログラミングにおける可能性
1部 建築都市デ	今村 祐介	新しいイスの座り方 -環境と自己との関係性を探る-
1部 建築都市デ	館 佐智子	新しいイスの座り方 -環境と自己との関係性を探る-
1部 建築都市デ	岩崎 溪太	芸術空間論 -絵画における空間的思考-
1部 建築都市デ	小栗 秀章	芸術空間論 -絵画における空間的思考-
1部 建築都市デ	越田三奈未	透視する演劇空間 -日常と非日常の距離-
2部 建築学科	小島 勉	Speedoftheicity
2部 建築学科	小柳 寛恵	Corridorsofdream
院 院	梅中 美緒	最小限空間における時間的変容の多様性
院 院	渡邊 吉晃	トゥーゲント・ハト邸にみる空間誘導性の研究
院 院	林 孝行	「足元論」建築と大地との接点における関係性のデザインに関する研究

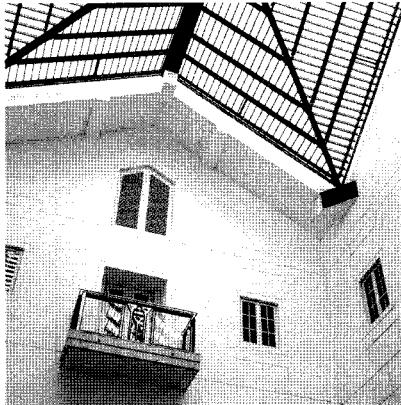
幸せや楽しみを演出できる。そんな明かりを考えています。

人と文化を結ぶ絆、電気。
私達は確実に結びます。

東光電気工事株式会社

東京都千代田区西神田1-4-5 TEL.(03)3292-2111

〒101-8350 <http://www.tokodenko.co.jp/>



宣言！ 新建築土試験 完全対応

*Catch your dream,
get the future!* 建築士・宅建

平成20年度 1級建築士 学科試験

**当学院教室開講都道府県
合格者
占有率**

46.6%

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者は、記載されていません。

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、

■開講講座

1 級建築士

2 級建築士

宅地建物取引主任者

1 級建築施工管理技士

教育訓練給付制度対象講座あり 詳細は高松校まで
お気軽にお問合せください。

Web いますぐ！
ウェブ検索 総合資格 | 検索 
ホームページでも
新規登録情報登記 www.shikaku.co.jp

資格指導のエキスパート



綜合資格學院

株式会社 総合資格
(社)日本建築学会会員
(社)全鋼産業人能力開発免団体会員会員
監理技術者講習会実施機関 登録番号: 2 第0009号
宝塚会館講習会実施登録番号: 2 第0009号
宝津建業室講習会実施登録番号: 2 第0009号
宝津建業室講習会実施登録番号: 2 第0009号

旭川校 TEL.0166-99-4511
札幌校 TEL.011-219-3511
仙台校 TEL.022-217-8421
山形校 TEL.023-615-2911
水戸校 TEL.029-300-4721
つくば校 TEL.029-860-3771
宇都宮校 TEL.028-614-4881
前橋校 TEL.027-290-2311
新潟校 TEL.025-242-2811
富山校 TEL.076-439-1011
金沢校 TEL.076-237-6811
さいたま校 TEL.048-642-9811
越谷校 TEL.048-990-6971

所沢校 TEL 04-2997-2400
川越校 TEL 049-291-5211
熊谷校 TEL 048-599-3531
船橋校 TEL 047-425-8941
千葉校 TEL 043-290-7341
松戸校 TEL 047-369-3821
柏校 TEL 04-7168-9111
新宿校 TEL 03-3366-2181
上野校 TEL 03-3832-7201
池袋校 TEL 03-3982-8211
五反田校 TEL 03-3495-8671
吉祥寺校 TEL 0422-23-6011
立川校 TEL 042-524-7841

町田校 TEL.042-724-3061
川崎校 TEL.044-850-3411
横浜校 TEL.045-316-6811
厚木校 TEL.046-297-0511
藤沢校 TEL.0466-55-2611
沼津校 TEL.055-954-2611
静岡校 TEL.054-275-3311
浜松校 TEL.053-456-2211
岐阜校 TEL.058-277-3701
名古屋校 TEL.052-202-1751
小牧校 TEL.0568-42-1211
岡崎校 TEL.0564-57-8161
豊橋校 TEL.0532-57-0311

津 校 TEL.059-238-071
四日市校 TEL.059-359-071
草津校 TEL.077-566-691
京都都校 TEL.075-352-301
梅田校 TEL.06-6374-141
新大阪校 TEL.06-6101-191
京橋校 TEL.06-6882-821
なんば校 TEL.06-6648-551
堺 校 TEL.072-222-931
神戸校 TEL.078-241-171
姫路校 TEL.079-224-141
尼崎校 TEL.06-6430-681
奈良校 TEL.0742-30-151

岡山校 TEL.086-235-5901
福山校 TEL.084-991-3811
広島校 TEL.082-542-3811
高松校 TEL.087-811-2011
山口校 TEL.083-974-4011
天神校 TEL.092-716-2081
小倉校 TEL.093-522-7511
久留米校 TEL.0942-36-7141
熊本校 TEL.096-212-6811
鹿児島校 TEL.099-239-5711

周南校 New Open

※平成20年12月現在
新規契約は当社HPをご覧ください。

無料 法人向資格取得支援サービス 実施中 お気軽にお問合せください

MUTOH

教えるのも、教わるのも、
MUTOHなら安心です。

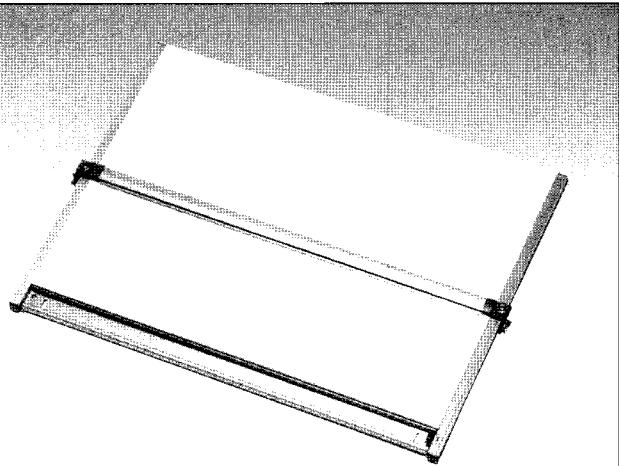
設計現場の即戦力となる人材育成には、優れた教材を使用したい。
そんな声に応えるのは、やっぱりMUTOHです。
あらゆる設計現場で、高い信頼性と
納入実績を誇るMUTOHの設計製図ツールは、
教育の現場でも活躍してくれます。

LINER BOARD UM-09NK

■ 塩ビシート圧着鋼板製図板使用 ■

工学院
特別仕様

場所を選ばず高い精度と操作性が得られる
コンパクトな平行定規、ライナーボード。
耐久性に優れ快適な操作性を提供する
シンクロベルト方式を採用した本格派。
A1サイズまでの作図に対応。図面への
固定は、付属のマグネットプレートで
ワンタッチ。しかも軽量・コンパクトで
す。簡単に持ち運びできますので、思い
ついたらそこがワークスペース。アイ
ディアを生み出す頼もしい片腕です。



株式会社 ムトー エンジニアリング 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-21-1第5TOCビル2階 TEL(03)5740-8211 FAX(03)5740-8219

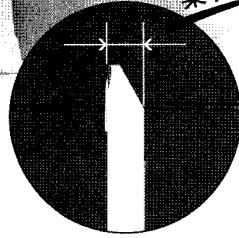
2007-2008 グッドデザイン賞受賞



第9回インターホン・オブ・ザ・イヤー システム部門「最優秀賞」受賞

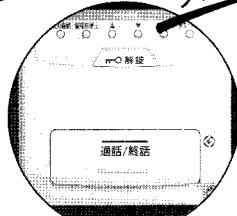
安全・安心も、
インテリアとの調和を考える時代です。

業界最薄*



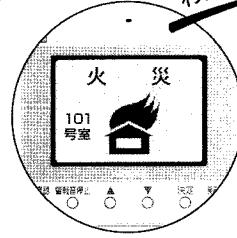
露出高さ11mm

シンプル



目立たないスピーカ孔

わかりやすい



出火住戸番号表示

カラーモニタ付住宅情報盤
QUASTY
Hi-Quality & Stylish
— クオスティ —

*平成20年10月現在(平成17年総務省令第40号対応機器)

●クオスティは能美防災株式会社の登録商標です。

NOHMI 能美防災株式会社

本社/東京都千代田区九段南4-7-3 ☎ 03-3265-0211(代) <http://www.nohmi.co.jp/>

建設系職業紹介・人材派遣のエキスパート

あなたの物語と一緒に事業のこと一緒に考えます。

<http://nikkencs.co.jp>

日建学院グループ / 建設系総合人材バンク

株式会社 ニッケン・キャリア・ステーション

□ 0120-810-298 / info@nikkencs.co.jp

■本社/東京都豊島区池袋2-14-4 池袋西口駅ビル2F
■横浜支店 ■大阪支店 ■名古屋支店 ■福岡支店



株式会社リード設備

所在地: 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-4-10

TEL: 03-3822-0220

FAX: 03-3822-1172

E-MAIL: info@lead-s.co.jp

<http://www.lead-s.co.jp>

営業許可

特定建設業 東京都知事許可 特-18 第84258号 管工事業

一般建設業 東京都知事許可 般-18 第84258号

大工工事業 電気工事業 塗装工事業 防水工事業 内装仕上工事業

ガラス工事業 建具工事業 消防施設工事業 タイル・レンガ・ブロック工事業

東京都指定給水装置工事事業者 第5436号

熱と空気の省エネルギー技術でCO₂削減に貢献します。

エアから、エコ。

Takasago
Green Air®

工学院大学建築系学科同窓会ホームページ **NICHE WEB**

- 建築系学科同窓生のホットな話題をお届け！
- 卒業生も現役学生も必見の情報満載！
- ホームページ作成に興味のある卒業生募集中！

同窓会では、研究室・同窓生・関係パートナーからのホームページLINKを隨時募集しています。
詳しくは下記HPアドレスからご連絡ください。

資格支援WEB講座のお知らせも！

NICHE TOPICS EVENT LECTURE MAGAZINE ABOUT LINE 889

NICHE 表紙デザインコンペ 結果速報！

同窓会はNICHE Vol.30「表紙デザインコンペ」の審査が10月2日に行われ、審正なる審査の結果、下記のように大賞いたしました。応募総数18名の作品でした。ご協力いただきました皆様に、厚くお礼申し上げます。

最優秀賞(1名、賞金3万円)
高橋宏精(大学院修士2年(研究室))

優秀賞(2名、賞金1万円)
池谷高浩(研究生(総合研究室))
加藤学(学部2年生(総合研究室))

おめでとうございました！

○ NICHEの最新記事

「新しいお酒コノヘCCO」発表会... 10月3日
「新しい若狭芋イチゴコンペ」審査会... 09月11日
NICHE Vol.30 表紙コンペ... 09月8日

CALENDAR

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

00042379

工学院大学建築系学科同窓会
ホームページ NICHE on WWW
<詳細>

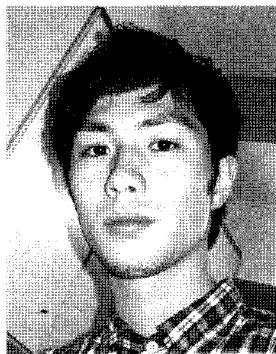
お問い合わせ

10月3日(火) 20時30分
2013年度 第1回定期会議
開催

DIGITAL

NICHE

<http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku/>



表紙デザインのコンセプト 高橋 宏精

□作品タイトル：ヒカリノイロ（光の色）

環境問題や資本主義経済への疑問、建築への不信など暗いことばかりが目に見える現代です。しかし、ロンシャン教会（ル・コンビジェ作）に行った時、こんなにもやさしい光が溢れる幸せな空間もありました。光には上から降ってくるものだけではなく、表紙の真ん中下にあるろうそくのように、自らが光を放つものだってあります。

この表紙がみなさんに、一年間がんばった人たち（ろうそく）が天から祝福されているように感じてもらえたうれしいです。

高橋 宏精（たかはし こうせい）プロフィール

1983年 熊本県生まれ

2007年 九州産業大学工学部建築学科卒業

2009年 工学院大学大学院工学研究科建築学専攻 修了見込み、初田研究室

2009年 日立建設設計

NICHE 広告出稿のお願い

工学院大学建築系学科同窓会 会長 田野邊 幸裕

工学院大学建築系学科同窓会誌 NICHE 2010 Vol.33 の誌面へ、「広告出稿」のご協力をお願い致します。

ご出稿の要領につきましては、下記の通りです。 敬具

出稿要領

1. 掲載 工学院大学建築系学科同窓会誌
NICHE 2010 Vol.33

2. 発行日、発行部数 2010年3月中旬（予定） 20,000部

3. 広告掲載料（カラー頁へのご掲載を、お勧め致します）

カラー版

(1) A4版（表紙裏面頁）1頁【12万円】 サイズ 縦265mm×横181mm

(2) A4版（内部の頁） 1頁【10万円】 サイズ 縦265mm×横181mm

白黒版

(3) A4版（内部の頁） 1頁【8万円】 サイズ 縦265mm×横181mm

(4) A4版（内部の頁） 1/2頁【4万円】 サイズ 縦130mm×横181mm

4. 第一次 申し込み期日（2009年8月3日締切）、及び版下入稿（同年9月7日締切）

申し込み書が必要な方は、次のメールアドレスまでご連絡下さい。

E-Mail: miu@tkg.att.ne.jp

5. 広告担当連絡先

大学事務局：工学院大学建築系学科 谷口研究室

担当：大場光博（谷口宗彦教授）

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

Tel 03-3340-3529 Fax 03-3340-0588

広告担当者：工学院大学 建築系学科同窓会

NICHE編集担当 大場光博

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-48-7-302

携帯 090-4200-6532 Tel 03-3981-0229

喜びと感謝で満たされます！

編集後記

海外へ飛び出したNICHE PASSPORTの7名の顔写真は、みんな活き々した表情をしています。積極的な貴重な体験は、これから的人生に必ずプラスになります。後輩の皆様も今からじっくり時間をかけて企画し、毎年10月頃、建築系学科の海外渡航募集を待ちにして下さい。

2008年5月28日、建築史家（皇室建築史）浅羽英男さんと初対面。建設省に長年勤められ昭和60年から宮内庁に出向。学究的な方で各種調査し研究を深めています。今回はご専門の皇室建築と工学校卒業生の活躍を執筆。7月31日、国立台北大学蔡龍保先生が工学院大学に来訪。植民地時代の臺灣交通史・土木史が研究テーマで、日本語、英語に堪能な若手研究者。工学校土木科出身飯田豊治技師の記事をお願いしました。

お二人は共に工学院大学客員研究員となられ、「学校法人工学院大学創立125周年特別企画」の記事としてタイムリーに掲載できました。

NICHEを手にしてバラバラと頁をめくって下さい。何かあたたかくてさわやかな風を感じませんか？これは執筆した方々の母校への気持ちと、それをサポートされてこられた各研究室の真摯な行いが、実を結び花開いたからだと思います。NICHEを受け取ったあなたが、身近な仲間の活躍に刺激を受けて、前向きに何事にも挑戦する。そして『いい仕事してますね』といわれる。編集に携わった私達の苦労も報われ、喜びと感謝で満たされます。

今年度から編集スタッフを増員強化しました。そして、多くの方々のご協力を戴きました。執筆ご協力戴いた卒業生、在校生、教職員をはじめ広告出稿されました各企業や印刷会社のスタッフの方々、そして数多くの関係者の皆様、厚くお礼申し上げます。NICHEを中心としている諸先輩から『母校を誇りに思う』の一言を目指して、編集スタッフ一同、努力を惜しまず作業しました。NICHEの誌面に関してご意見がございましたら、下記のメールアドレス迄、ご連絡をお願い致します。

敬具

NICHE編集長 大場光博
E-Mail:miu@tkg.att.ne.jp

思い描くビジョンをさまざまな人々とともに形にする歓びがある。

やがてそこで暮らす人や働く人の笑顔を目にする歓びがある。

合格の向こうにある、そんな歓びをともにするために、

私たちは学ぶ人の「今」と「これから」を全力でサポートします。



夢を建てる 歓びを。

■取扱資格講座一覧

■建設関連

建築士 構造設計一級建築士 建築施工管理技士
建築設備士 土木施工管理技士 鋼構施工管理技術者 管工事施工管理技士

造園施工管理技士 コンクリート技士 コンクリート主任技士

給水装置工事主任技術者 測量士補

技術士補(建設部門) エクステリアプランナー

電気工事士 電気工事施工管理技士

■不動産関連

宅地建物取引主任者 土地家屋調査士

マンション管理士 管理業務主任者

■会計・経営・労務関連

ファイナンシャルプランナー 社会保険労務士 日商簿記

■福祉・IT・その他

福祉住環境コーディネーター ITパスポート

CAD利用技術者 秘書検定 eco検定

■実務関連

建築構造計算 木造(2階建)構造設計 確認申請

Auto-CAD JW-CAD ISO14001内部監査員

■法定講習

建築士定期講習* 監理技術者講習 宅建登録講習*

宅建実務講習* マンション管理士法定講習*

*(株)日建学院実施



日建学院

URL <http://www.ksknet.co.jp/nikken/>

E-mail nikken@to.ksknet.co.jp

お問い合わせ／資料請求／試験情報

日建学院コールセンター

0120-243-229

受付／AM10:00～PM5:00(土・日・祝祭日は除きます)

株式会社 建築資料研究社 東京都豊島区西池袋 1-15-7

NICHE

niche(nich),n.{Fr.niche,form Lnidus a nest}

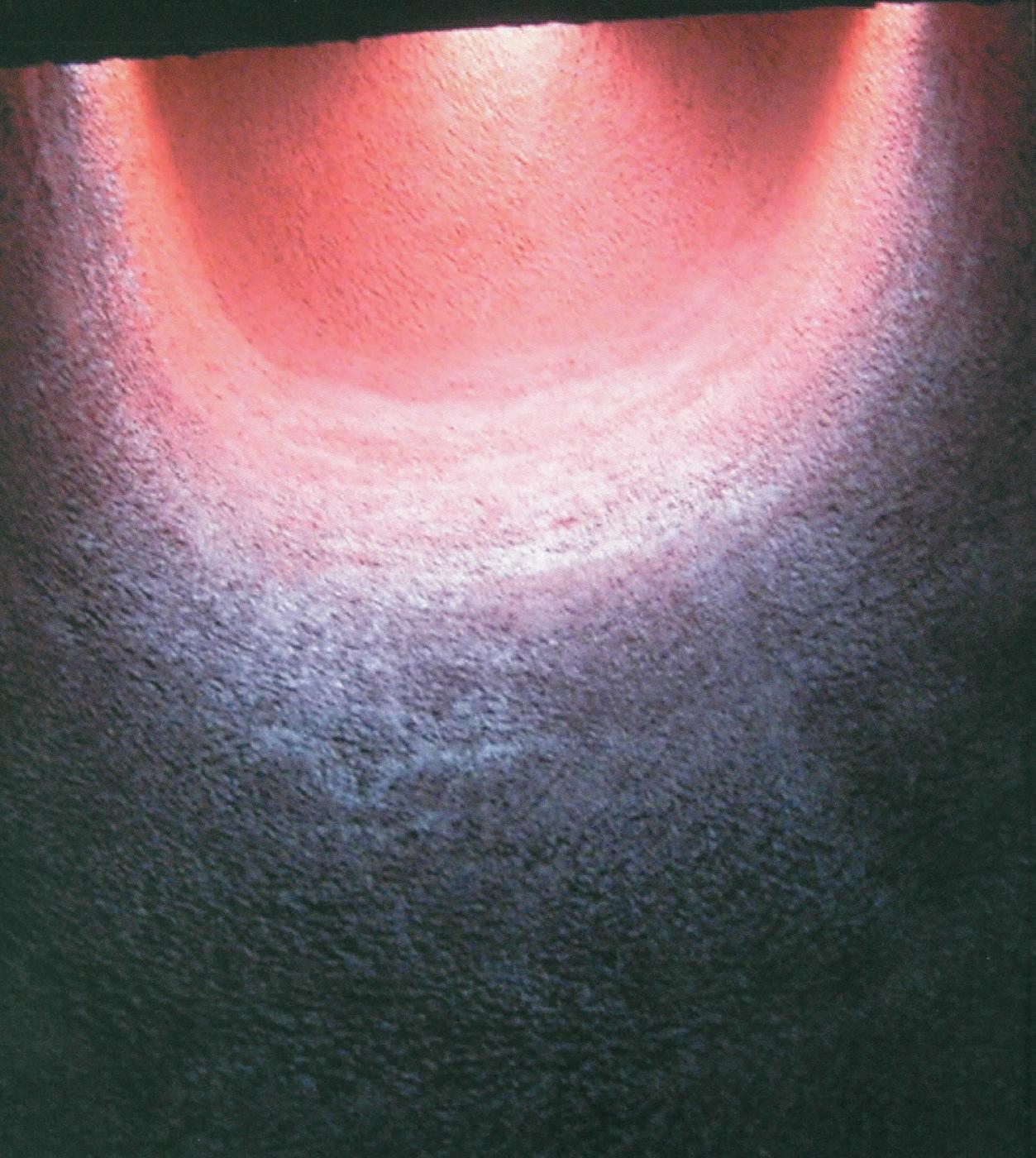
1.a recess or hollow in a wall usually intended for a statue,bust or vase.

2.a place or position particulary suitable for the person or thing in it.

-webster's New Twentieth Century Dictionary-

校名の愛称「Tokyo Urban Tech」について

工学院大学ではグローバル化の一環に、校名の愛称「Tokyo Urban Tech」を商標登録として申請中です。



NICHE PASSPORT

構造による 美しさ



きた むら けい
北村 圭

出身高校 神奈川県立秦野高等学校
2004年卒業
大 学 工学院大学建築学科建築学コース
小野里研究室 2008年卒業
大 学院 工学院大学大学院工学研究科建築学
専攻 小野里研究室 2010年卒業予定
メールアドレス good_bye_128@hotmail.com

はじめに

2008年11月4日～11月20日の15泊17日という日程で、スペインはビルバオ、マドリード、セビーリャ、バレンシア、バルセロナを、イタリアはローマ、ミラノの2カ

ガウディとカラトラバの共通点

二人の作品だけを見てしまうと「どこに共通点が?」と思われる方も多いと思います。実際、共通点があると思っているのは僕だけかもしれません。この二

から「骨の家」というあだ名をつけられたりしました。また、構造に関しては網状の糸に重りを取り付け、その網の描く形態を上下反転したカテナリー曲線の構造など理にかなった構造形態をとりました。

これに対しカラトラバも人物のスケッ

ていました。それは、今までの長い苦労を忘れさせてくれるできごとでした。

今回の事件から、国民の建築関係者に対する信頼回復までには、まだ相当の時間がかかると思います。行政、建築設計者、建設業者三者の建物の安全に対する息の長い努力が求められるでしょう。

後進育成への希望

団塊世代の私が学生だったころは、まさに政治の季節といわれ、学園紛争が各地で多発していました。若者が社会に目を向けていたし、仲間意識も強かったと思います。今の若者は情報に振り回され、自分を見失い、目的をしつかり持つことが難しくなっているようです。

私は自治体職員として区のまちづくりに35年間を費やしたことを、本当に誇りに思っています。そうした中で、このた

び母校から声を掛けていただき、同窓会誌への寄稿という形で、自分自身の人生を振り返る機会を与えられました。

最近になって、工学院大学校友会の東京支部にお世話になるようになりましたが、校友の先輩諸氏にお会いしてお話を伺い、大変楽しく光栄に感じております。余生は行政と離れても、今までの経験を生かして校友のお役に立てたらと考えています。合わせて大学の諸先生方には、以前にも経験がありますが、私からまた若い学生たちに、地方自治としての建築行政について話す機会を設けていただきたいと思っております。

また、建築関係でご用事がある方、ご興味のある方はご案内いたしますので、いつでも蒲田駅近くにある大田区役所にいらしてください。お待ちしております。

後輩に引き継ぎたい仕事

区役所は住民にとって一番身近な政府です。地方自治の仕事は困難も多々ありますが、そこで地域住民と交わる楽しさ、喜びも大きいものです。公務員の生活が安定しているといっても、仕事は楽ではありません。民間にも官庁にも楽な仕事などありません。

区役所はまち全体が職場といえるでしょう。時には厳しい批判も受けますが、やりがいを感じる仕事もたくさんあります。区の宣伝になりますが、ご子息、ご息女をお持ちの方、これから卒業される方、既に卒業された社会人で他の職場へ転職を希望されている方、是非、特別区23区も選択肢に入れておいてください。工学院魂を持ち、クリエイティブで積極的に立ち向かっていく人なら、必ずや活躍の場が与えられ、報われるもの信じております。